[凡例]

データ入力に当たっては、左記のごとく底本の表記等について若干の手を加えた。

- 一、明らかに誤植と思われるものは、特に断らずに改めた。
- 一、漢字の旧字体は新字体(通行字体)に改めた。一、新たに句読点、清濁を適当に付した。
- 一、二行書きは、 ① に記した。例:無是旨申候〔正徳六年三月一日上書〕

最良の本文を使用したわけではない。また入力されたテクストも、一とおりのチェックは済ませ トによって確認、 たが、厳密な校訂を施したわけではない。よって利用の際には、必ず底本または、最良のテクス 最後に、以下のデータはあくまでも研究の便宜を図るためのものであって、底本には必ずしも あるいは修訂を加えたうえで使用していただきたい。

- タル 寛延二年己巳東役ス。 平子彬云ケルト也。 所、 イク処モ有トテ、処々ニ付紙ヲセラレテ、春台ニ見セラレ 徂徠見テ、 メヨトテ見セラレタリ。 (割注) 弥右衛門ガ読書カヤウニテ精細ナルト思フヤ。 松崎君修日、 子彬、 俗称三浦平太夫、初峡侯吉保ニ仕へリ。」 春台、 徂徠四家雋ヲ作リテ、 即 点発ナド ノ誤リタ 弥右衛門ハ ル所、 タル 処々 弥右衛門ガ見ヲト ヨク書ヲ精細ニ ト、君修物語ニテ、 ・ニ付紙 ヲシテ戻 見
- 春台云、経済 ヲスベシトテ、 ヌ時ヲシリテ、 ノサマバ 兼々云ハレシガ、 老子ノ一道ヲ説出セル也。 一云ドモ、 畢竟老子ナドハ礼楽ヲ捨タルニアラズ。礼楽ニテ治 老子ノ注十八九章出来シ比、 サレ バ吾モ詩経解ヲヲハリテ後ニ、 物故セラレシ、 ト君修 老子ノ注 メラ
- モ本書

 パ見ラ 神祖遺事 ル ベキガ、 如何オボツカナシ。 ハ 安澹 備ト レザルヤ、 泊 ・ハ云ハ ノ著述ナリ。 序ハ鳩巣ノ書レタ レマジト云コト、 遺事ノ中ニ首実検ト云フ 深ク秘スルニヤ。 岡田彦右衛門ガ物語聞タリシト ルト、 南郭語ラレ コトヲ備」首級ニト書 泊 ハ大ニ博識 ケル ノ学者ナリ。 レ ・タリ。 也。 然レド サ レ バ モ文 南 ハ云
- ラレザ 徠翁ノ政談 献ゼラレ ルヤ、 タ ハ ル書ナリ。 〔割注〕自筆ノ稿、 サホド気ニ入ラヌヤウニテ過ラレタリト也。 春台モ見ラレザル由ナリ。君修ノ説ニ、徠翁モ春台ヲバ 今ハ京師ノ或商家ニ蔵ム。」稿ヲ焚レ· (稿以下ハ字 タルナリ。 シ 有徳廟 カト
- 寿門松ノ文章ハ、 ノ人ナリ。 ノ字ノ中ニ木ノ字アリ。 故アリテ春台ハ交ヲタ 小宮山埜之進 江 (割注) ノ字ノ中ニエノ字アリ。 レタ 幕下士。」書レテ、 ル トナリ。 晋ハ進ノ声 李江晋ト作者ノ名ヲセラレ ヲカリ *タ*リ。 甚器用 タ
- ユヘア 覚タリ、 ト春台云へリ。 ガ唐音ヲ自分ニハ官音ト云ヘドモ、声ハ時々違フヨシ、 官音ニテナキワケハ、 商人口ニ通ズルハ、結句官音ハリツパ サ レドモ俗語ガ随分ヨク 過ル
- 土準夫一、 具足ヲ包 ノ病中ニモ日夜ツキソヒ居タマヒ、 \mathcal{L} 字ハ勘解由、 ヤウニシタ ル 号曲 ヲモ、 江 準夫ノ孺 禄千石、 棺槨 人ニ縫セラレ ノ世話アリテ、 御書院番ナリ。 タ 小斂ナド 名節ノ極メ 大フ テ高キ人ナ 口 シキ ・シェク、 J.
- 列 国全志ト ア 云俗語ノ書二帙、 春秋戦] 国 事略 乾隆中ニ著セル、 ヲ ツ V" リ集メタ 書林 ル 者ナリ。 ノ前川携来レ IJ° 国志演義 如

君修ガ与島太夫書トアルハ、島助次郎ト云人ナリ。 修ガ一世ノ力ニテモ、 (割注) 高惟馨、 島氏ニハ追ト、キガタキト也。 字子式、 十七失明、 徠家門生。」 詩ハ極メテ器用ナル 家老ユヘイソガシク今 人ナリ。 ハ廃学セリ 子式 モ

水戸ノ 見ラレシト語ラレケリ。 大日本史 ハ、 神后ヲ后妃伝ニ下シ、 大友皇子ヲ帝紀ニ立タ 7 フト。 南 郭 目 録 ヲ バ

春台ノ徂徠ニ与テ予侯ヲシカリ レタ ルト タル 論ノ書ハ、 イ マダ徠翁 方ニユカヌ 内 徠翁物故セ ラ

ハ解スベ 徠翁其外モ林希逸ガ老荘ノ解 ニモ非ジト云ヘリ。 ヲ君修語レ シト思ヘル、 リ。君修モ云、希逸ガ解、 君修二、予、 ト君修モ云ヘリ。 ハアシ 希逸ガ解サ ` 議論ヲ ŀ 云~ ノミアシカラジト云シ時、 ノケテ文字ヲバ り。 金華独ガ密ニサ、 ヨク解シタ ヤキテ、 右ノ J. 必希逸ガ悪 希逸ニテ老荘 如ク金華

松崎子允 〜海ヲ望メル景色ハ、 割 君修 唐ノ景ナルベシトナリ。 ノ父、 俗称左吉。」 ノ説ニ、 琵琶湖 景 ハ H 本ノ 景ナ Ű, 薩埵 嶺 \exists

密ニ心ヲ用ル 南郭云、 南郭云、育方ニアマリセハヤキタルハアシカル 必見セナラハ シテヨカルベ ベテ西京ニモ 極メテ于鱗ニ似 長門 シト 精密ナル学問ナシ。 ノ 詩 スベキ書ナリ。〔割注〕 其中ニ豪気ナル人アラバ、引立テヨリ教ベシ ナリ。 ハ極メテソ 也。君修云ヘルハ、文章規範 タ IJ. 大内忠太夫ガ文ハ、熊耳山人云 于鱗流 マツナリ。 軽浮ナル土地ナル故ナリ。吾社中ノ今ノ才子皆極メテ ノ文ニ、 長門ハ一風アリト覚ユ。 于鱗ガ法ヲ力ヲ極メ、 忠太夫ホド李ニ似タ べ ハ極メテヨ シ。 ア ル マ ク撰タル書ナリ。 ` ニ精 ル 思ヲクル 精密ナル学問ハ ハ少シトナリ。 出サセテ独進 シメテ悟得タ 初学 ナシ。 ノ士ニハ } ム ヤ ゥ ス _ ル

君修云、 前漢ニテ高祖 人ハ武事ヲシラズ。 ヨリ後ノ ル ハ左伝 太史公ガ書ヲ見ルニ、軍ノコト、 ル故 史、 ノミ也。 カト云リ、 ノ世ヲ去ルコトヨキホド遠キ故、 実録ニ日本ノ軍物語ノ如キコトカツテ見エズ。 又武功ヲバソマ 左丘明ハ其時分文武 面白キ説 ツノコト 切タリハ イ マ ダワ 思へ キツタリハ ツタリト云コト精ク見エズ、 カレヌ内ユへ、 ル 、故ニヤ。 ツタリノコト キツタリ 是ハイカナル故ニヤ。 直ニ車ニ乗リテ軍ニモ ハツタリノ業ノ見 詳ニ知ラザル也。 司

君修云、 人ガ 士ニ ラ カクニ 丰 武芸ニ精ヲ出サスベ ス ク 、 ナシ。 学者ハ 大カタ 丰 ナ Ű, ハ 人柄悪シキ。 ヒ 口 ク世 学問 人ヲ スル 見ル = 人ノ 中ニ偏屈 武芸ヲ好

今日言行 専ラトス 人ハ迂遠ニナリ。 程朱ノ学ヲ貶斥セヌガヨ 人柄 致、 ユへ、 修身斉家ノ道ヲ学ブナリ。 ハ学問シタ 放蕩無頼 オ気ア ル ル ノ 人ヨリハ大カタハヨキ也ト云へリ。 モノ多シ。 人ハ放蕩ニシテ、 ロシ。 宋学ヲ尊奉スル 護門ノ学士ハ経学ハ訓詁ノミニテ、 文人無行ト云ヤウニナル。 儒者ハ其弊尠シ。 武芸ヲ学ブヨ タメゾ。 ノミ クナ IJ

才ナリ。 徂徠 カバ、徂徠色ヲ変ジテ、左様ナルコトヲ云ソ。 ヲ見テ悦バ ガ何ノ妨 ハ才ヲ愛スル 大事 也。 ル、 (割注) ニナルベキ。 ノ物ナレバトテ、 コト甚シ。 コト甚シキ人ナリ。 水瓶立号屛山、 此見識ノ勝レタル、 竹渓ガユキケレ 其文ヲトリ出シ見セラレ 肥一熊本之儒臣。」 水足平之進ガ十六歳ニテ書牘ヲ徠 バ、 顛倒ナド 誰カ立及 水足ガ ハ タル コト ベキトテ、 年ユカヌユヘア = ヲ云出シテ、 文字ニモ顛倒アリト云シ クリカへ 翁ニ んハヅ サテモ珍ラシキ シ 贈 ル コト也。 ホメラ ソ

文ヲカキタリ。 鑑ナド抄書シタ (割注) 名其仲字子和、 人ニ対テモ吾学問ハ ルヲ少シバカリモチタリ。 俗称平野源右衛門、 コレ ノミナリト云へリ。 外ニ書 守山侯紀室。」 ハ一巻モナシ。 常ニ右 ハ 左伝、 抄出 檀弓、 書ヲ見テ 涌

覚ユ、 宋儒已来書物 古書ヲ能読テ古書ニモ手ヲ下 闕疑ナド云コト ヨマズシテ、 、説也。 ヲ注スルニ、 ヲ云置レ 古書ヲバミゴト タ 是非トモニスマス料簡ナリ。 J_° シタリ。二程ナド 実躰ナル翁ナリ、 サバクト心得ラレタルユ *>*> 曾テ古書ノサバキナシ。 ト春台云レタルト君修語レリ。 其中ニ朱子 ^ 学問大ニヲト ハ然ラズ。 朱子ノ門人ヨ 口 又朱子 ^ タル 又 1]

ミク 博識 君修云、春台ハ博識ナレド モヒ ユ 力 ダクコ へ論語徴ニ古書ヲ引レ ハ大ニ春台ニ超タ ズ。 コ スキニテ、 後世 ノリト覚 ノ書ヲバサノミ見ラレ 戚南塘ガ書武備志、 モ、 タレド ユ。 古書ニキ モ、 徠翁ハ博識ナレドモ、 後世ノ書ノ説 ハメテ精密ナリ。 明律ナド、 ヌ故ナリ。 ノ自分ノ見ト合タル 人ノ中々得読 只ムヅカシクヨミニクキ書ヲ、 後世ノ書 東涯 ハ 古書ニハ ハサ マヌモノヲト ノ モ、 ミ精シカラズ、 精密ナラネド ア 7 タ カレ アレ モ 彐 ソ タ

修云 マ 思 デ コ じセラル ル ニテ、 文 ・ナシ。 又春台 コトナシ。 西京 常ニ西京 カク王充ガ論衡、 ハ ユ 奏議上書ナドヤウナル 古文辞家ニハ へ撃節シ 多クハ ノ文ヲ至極ヨ 夜六 テ立 又ハ潜夫論ナド云ヤウナル体ニ 套語ヲ多ク y ツ比ヨリ四ツ比マデノ内ニ、 シト ヤ ウナル 云 文ヲヨシト云レ 用 面白キ事ハナシ。 タ ル ル 故、 云 後漢ノ文ノ ハ ル タリ。 ۴ テ、 只アリノ ソレ モ、 一篇ヲ書テ 一テイ 李ガ ク 故文ヲ書 、ナラレ 7 サノミ直サ ニテ理ヲ云 二云 ル カト ベタ 君 レ 1

- 南郭 ビ文ヲカキテ、徠翁ニ従ヒタマ ハ モト歌 人ナリ。歌ト画 ノ芸ヲ以テ、 ~ IJ。 ソレユへ和書ハヨクヨミタル人也 故甲斐侯吉保ニ仕ヘラレタリ。 ソ 彐 IJ 詩 ヲ学
- 修聞 軍ヲ バ 大カタナミノ タ ノ方へ藪久左衛門 ノリト語 如何シタシテ ナラヌコ マ (割注) フベキト ト也ト云テ、其次ニ足下ハ西海ニソダチタル 細川侯 問 ハレタルト也。 八臣。」ユ カレ 晚年 タル時、 ハ徠翁如 初テ相見シテ、 」此軍法スカレタルト、 人ナリ。 ソ ナ 先ヅ舟 タノ
- 外イ 南郭 ソガシクナリテ、 芸 子謙 ノ春秋世 系ハ、 打込テヲキタルトテ成就セズト 色々今アル譜牒ヲ合セテ考タル ナリ。 モ ナリ。 其中 $\dot{=}$ 子 謙 モ 1
- 白石 (割注) 新井筑後守。」 ノ著セル東音譜ハ、 国字ノ音ヲ訳言シテ音ヲ ツケ タ ル モ 1 ナ
- 孔安国 ヤラン心得ガタキヤウナリ、 ド ル [ガ書経 ` ナリ。 モ、 家語ナド ブ注 ハ、 イ ノ 内 口 ニニモ、 君修モ云ヘリ。又君修云、 説モアリテ、 キツト -慥二孔門 安国ニテハ ノ後ニ附 ア 春台ハ古書ノ 会ニヤ ル マジト云。 ٢, ヲ 分ハナニニテモ ボ イ ユ 力 ル サ 処モ 7 = ア モ 何 卜
- 書ヲ会読スルト云事、 学問ハ多ク産アリテスル。 ヌ勢モアル ナリ。 又会読ニテ書ノ見ヤウ格別精ク 中華ニテハ決テナシ、 日本ノ今ノ学者ハ舌耕シテ産 ト井子叔 ノナルベ *>* イヘ トスルユ シト y_° 也。 ^ 君修ノ云シ 会読ナドセネ バ ナラ
- 于鱗ガ文ハ 読于鱗文ハキコへヌコトナリ、 如何ヨキ文ナル ベキヤ、 ト君修ノ論ナリ。 **١** カクニ面白 クナキ文ナリ、 ト君修 ノ論ナ 又春台
- 春台ノ春秋三家異同ハ、 ノ注出来ルツ 伐国 内ノコトナドヲ 例 又ハ弑君例 モリナリト見へタリ、 ヒキタ 唯三伝ノ文字異同ヲ校シタ 題目ヲアゲテ注疏ナドヲ引タ ル物アリ。 ト君修語レリ。 春秋暦ナド ヲトリ合セテ一書ニシタテ ル モ ル モ 也。 也。 少 ニ春秋擬釈例 /シ出来 カ 上云 `, モ ノ T
- 君修云、 シ。 厳廟ノ ノ大臣 国初 嵵 ブ治、 ノ議論モ全ク無 ハ礼制セラル 東照宮 ノ御遺訓ヲ見ルニ、 ベキ時ナル 為 ノ道ナリ。 ベキニ、学才アル大臣ナクテヲシキ 戦国一タビ治リテ太平ナ 全ク老子ノ無為ノ道ニ近シ。 ル比 ナレ 台德、 バ、サ 大猷 É ア ル
- 此位 君修云、春台 セラ ノ会釈ニスベキ 又ハ人ノ見セ ハ物ヲキハ ユ 捲ツ 人ト云格ヲ定メヲカ ヲキ 力 ムル ル タ コ ル詩文ヲヨミ、 コ トスキ ・ナシ。 也。 夜 人ヲ会釈ニモ、 、類ナリ。 又校正ノ書ヲナ 必 四 ッ 時 ニ寝ラレ 書ヲ読 シ、 カクチョト逢時ヨリ、 ル 又会業ノ下 、ニ ル ト也。 ハ朝起テ先国字ノ 其言行· ミナド + ・ヲシ、 ハ X 書 テ

- 及テ、 ヲリ ツメテ実儀ナル カク小学ノ嘉言善行ニ入ベキ人ノヤウニ覚ユルトナリ。 コト、 北宋ノ人物司馬温公、范文正公ナドニ 似 タ ル 也。
- 行儀カタクナリタ キ戦 、ク リト覚ユト也。 ノ士ハ風流ナルモアレドモ、 国ニテ、 日本今ノ士ノ行儀カタク、 ナナナ ルコトアリ。 神祖 ルト覚ユ。 ノ御世ニナリテモ、 今ノ世ハ中々左様ニハナシ。 サレ 淫奔ナドノ類サマバ 紀律ノリツパニナリタルハ、昔ヨ バ戦国ノ士ヨリモ士ノ風俗ハ、 人ノ 気遣ヒ物ニ気ヲ付、 \、盛衰記、 コレ ハ戦国ノ時信玄ナド 負ジ劣ラジト 格別今ハ リ大ニマ 太平記ナドニ見 サ ッ ス ハパニナ -ヨリ打 ル エタ 3
- ニ出ア 君修云、于鱗ガ古文序記ナドニハ 甚韓退之ニオ 不ツリ合ナルコトヲモ書テ、 ハヌユヘ 時ノ好尚ト トリタルナル カ、 町 ハ云ナガラ、 人百姓 べ 何 ト ノ碑伝ヲ書タルユヘカ。存ノ外面白キ事跡ナキ歟ト云ヘリ。 シ。 又韓ナドノ碑文、多クハ大臣官人ノ事跡ナリ。于鱗ハ人 李ノ文ヲ韓ノ文ト比シタ \exists ヤラン実事モウソト覚ユルナリ。 力 ル ベシ。 碑誌伝ノ類、古辞ヲ ルハ余リノ月鼈ナリ。 然レドモ カリエ今事ヲ云ユ 碑志 ジノ類ハ、
- 君修云、 、テヨカ 六経 ルベシト也。 ハ何トモ手ヲ下スベキ様ナシ。 コレ レモ至極 ノ確論ナリ。 コ レ ハ先漢儒専一ノ学 如 ク、 六経 ヲ中ニ覚
- 紀効新書ハ、 ラレタル時、 徂徠ノ跡ニモ書ナシト荻生七之丞云へ ト クト見ラレ タルト也。 但シ武備志ニ出タ IJ. 、ルニテ、 此書ハ公儀ヨリ徂徠ニ校合ヲ命 戚南塘ガ法ノ 大意見ユベ
- 明律ヲ読テ、 ノ評ナリ オカス人曾テナシ。 大ニ日本 サレ ハ中華ト風俗 バ中華人ハ ジ異ナル 日本ヨリ見レ ヲ知 レ バ、 IJ. 律ニアル チトダヾ 所 クサナルト ノ罪 ヲ、 日本 · 覚ユ、 人ナド ト君修
- 浮腫ヲ煩テ死去ナリ。 春台 ハ 隔症ナ Ű, 南 郭 ハ 大 八二養生 ノ 彐 丰 人也、 君修云
- ヲ 尋 ラト見タルニ、上ニ書込アリ。 ハ ルヨシニト云ヘリ、 殊ノ外ニ字音ヲタ ト君修ノ話 1 サレ 正字通ヲ専ラ引レ タ J. ナリ。元禎云、 字彙、 玉篇、 . タリ。 徠翁 韻会ヲ以テセ ・モタ レ ラレ タ ル 四部稿 タ 其内字彙 ノ内、 _ 冊 ハ字 チ
- 天理人欲 君修云、朱子ハ意地ノワルキオヤヂノヤウニ見ユレドモ、 ノ古学ノ古書ヲ証ニシテ、 〜ツク ジノ沙汰 テ、 人ヲ コソ止ムマジケレ。 ア ŕ \mathcal{L} 論ズルト云コトヲ聞セマシタラバ、 ク 生レ カニモ自分モ古書ヲトリテ論ア 見エズ。 ソノ 処ハ 情コ 徠翁ヨ カニモ心服セ クアリツメラ ク朱子ニ似ラレ ル ベシ。 ラル ムリニカザ メド ベキ也。 モ、

- 墨子城制ノ キハ 擬作ナルベ 擬作ナルベキカ。左伝ヨリ文ガ 処ハ シト思 春台ニモヨメズシテ、 ハル 也 フワ付タル 付紙ヲシテ置レケル ト覚ユ。 左伝ョリモ又古キ筈ナルニ、左ナ 上也。 君修云、 管子 ハ戦国
- 三似タリ、 ノ比ノ大臣本多正信ナド云類、 ト君修 ノ評ナリ ノ諸将ダチヲ中 菌 人ニクラブル 西 漢 初比
- リテ、 人物ヲ論ズルニ、三代 厳廟ハ垂拱無為ノ君ニテ、 又大ニ変ゼリ。又明ノ季ニイロノ 云。上使ヲ以テ屍ヲ撿セント云トキ、 廟即位ニテ越後ノ騒動ヲ決断アリテ、 テモ只四六ノ用立ルコト 六朝ハ人品オトリ、又学問モムダト四六計リ書キチラシ、カド、経書ナド 学問アル人アリ。 ノ人物ニ又一変セリ。元ハ云ニタラズ。 人物ナド 一風アリテ理屈ヲ云ヒハリ、ヲリツメタルト云ヤウナルニテ、北宋ノ諸君子、一体南 病死無」疑。両人ガ身上ニカケテ偽アラズト云レシユヱ、 君修ノ話ナリ。 ハ 学問ナキ人モ用ニタツ人多シ。 又東漢ノ中比ナドハ学者ト ハ云ニ及バ 此雅楽頭殿甚不尤ナル人ナリト云へリ。 ノヤウニナリ、 下馬将軍ト ズ。 雅楽頭殿ノ聟藤堂和泉守殿ト松平紀伊守殿ト云ヒ ノ学者出タリ。 春秋 雅楽頭殿職ヲ削ラレテ死去ナリ。 云レタル酒井雅楽頭殿ニ何モカモ任セラレ 明モ中頃空同古文ヲ唱へ、陽明、 隋唐ヨリ科挙オコリ、 1 東漢 用ニ立ツ人ト、ニハ 人物 ハ少シ学問ハヤリテ、 品 古今ノ学変如」此、 ナリ。 戦 学問モ人物モー変セリ。 国 別条ナキ屍ヲ検セズスミ カニ分カ 二十 実自殺セラレ ト君修ノ論ナリ。 道学ヲ云テ学問 レ 品 ハ見ズ。 タルヤ 八将 ナリ。 ノ中ニ タリ。 見ルト ・ウナリ。 西京
- 色々ノ事ヲ云出シタリ。 君修云、孔門ノ諸子皆々自分ノ生レツキニテ、存寄ヲ一カマヘくへ コレニテワザヲ思フヤウニセント云志ナリ。 後世ノ学流トハ大ニ異ナリ。 ソレユヱ孔子ノ諸子ノ志ヲ問タマヒシ時 ・ニテ、 人ニカ ハラズ、
- 子式 ノ詩ハ万ニ及ベシ。 但諸体不」具、 古楽府ナド ハ 何モナキ也。
- ミツメタルコトハ及ガタキ程ナリ。イカニモ徂徠ノ学問、聖人ノ道ニハ叶 君修云、 セシメタラバ、恐ハ朱子ノ門人黄勉斎等ニハ及マジ、ワケハ朱学ノ理屈ダケキ面々 ク心得タラバ、 県次公、 バツトシテ蹈へ処モナクナルベキニト也。 (割注) 俗称 山県少助、 名孝儒、 長門侯儒臣。」 滕東壁ナド云才子ニ守城 ベケレド ハ モ、 ア フ
- 南郭己巳ノ春気色快クナラレテ後、某ガ見廻テ題壁ノ詩ヲ作リタ 寒尽還蘇病後身、 江東花鳥逐三青春二、 誰知張翰杯無」恙、 転自二生前 湿 ルヲ和 セラレ 酒
- 赤穂四· 六士 赤穂侯ノ死ハ タマ 佐藤五郎左衛門直方評判 毒ヲ ハヾ 食テ死シタ カタモ有べ マ ト云リ。 如キ類也。 仇ヲ報ズル 長沢純平 ヲ相手ニ コトヲ ・モ議論 セ スベ ズシテ居ル料簡ナ ヤ

京師

ナリ。三四

マ

正木ノカツラト 云人ノ作ナリ 云和歌 事ヲ論ゼシ ハ 莊内 人酒井左衛門尉殿ノ 家 人 久米五郎兵衛

夫ヲ太平ナレバ ニモ及バヌコトナルベシト云レシ、ト君修 楽ヲツクリ給へ ノ料簡 入ラヌコト、 } カ モ、 ク治道モ老子 治平ニナレント思召タル ハイカヾ。」 ノ流シカ ノ話ナリ。 ル べ ユヘ シ ・ ト 思 也。 〔朱書〕 礼楽ハ太平ヲスル 然 ル 、ニヤ。 ルニ今太平ナレ 或時 語リテ云、 バ、 モ ノ具ナリ。 先王 ハヤ礼楽

徂徠ノ学則ノ第一則ハ、 流ノ古文ナリト云レキ。 郭ニハ及ガタキ事也。文ハ真ノ古文ト云モノ南郭集ニ少々アルベシ。 詩ハ海内ニ又比類アルベカラズ。子式ガ詩ノ絶技ナルモ、 アラズ。」 モ学則ノ第一則 時ハヤ如」此ナリ。 ハ鵜殿主膳ノ文、 〔朱書〕 鵜士寧、 学則ノ第一、又ハ南郭集ノ中ニ少シアルベシ。三稿ニ見エタル長門侯ノ関東川浚 真ノ古文ナルベシ。南郭ノ文モ不」李不」王別ニ古文ノ一体面白ク書ナセリ。 ハ、真ノ古文ナルベシト云レタリトナリ。 真ノ古文辞ト云ベシ、 熊耳ナドノ文ハ、 ソレヲ段々ニ字ヲ直サレタリ。 〔内閣本云〕又南郭士寧子綽ノ三子ハ于鱗流ノ古文也ト云ハレヌ。 徂徠ノ著シテ書付テ額ニシテハリツケテ有リ。 キリツギノ勦襲文ト云ベシ。 ト君修ノ話ナリ。南郭モ士寧子綽ノ二子ハ、于鱗 後ノ数則 日東ノ独歩ト称ス 又君修云、 ハ 一 中古文ナド云ベキモノニ 同二出来タルト也。 近比ニナリテ熊耳又 日本ニテ真ノ古文ト 春台ナド 、レドモ、 又南

詩書古伝 浄写セシトナリ。 後漢ノ書ハトラズ。 ハ三十四巻アリ。 春台モ甚古伝ニハ骨ヲ折ラレ 西京マデノ書三十四 部 タ \exists Ŋ, ル 書トナリ。 詩書ヲヒキタ 十八巻已下ハ大幸伴十郎 ル 所ヲ ヌ キ出 セ

汪伯玉ガ文ハ、トカク 心得ガタキ コトナリ、 ハ面白ナシ、 ト君修ノ評ナリ。 ソレヲ元美ナド、 メツタニホ メタ ル ハ 如 何 ナ ル コ 1

ヨリ程ナク乱レ、 日本ノ今ノ コ ノ海内ヲ治メ玉へ モ、 治平 ハ、大ニ夏周ニ勝レル体ナリト 唐ヲ擬セラレ 殷ハ未」詳、 蜀へ幸シ、 ル治平百年、 徳宗 周ハ文武成康トツギタレド タル物ユ ノ奉天 コレハ三代ニモ 幸シ 叡 恵ハ タ Щ マ 勝ル ル フ 御幸アリテ、 マ ベキナリ。 ネノ モ、 君修ノ論ナリ。 ヤウニ覚ユト 昭王南遷シテ帰リ玉 乱ヲ避タ 夏ハ禹王ノ御 ナリ。 マフ 又日 ト云ヤウ 本ノ公家 子啓ソレ ハズ。

唐ノマネヲナシタ バナリ。 ルニハアラネドモ、 我平安ノ地勢、 唐 都卜 オナジク、 居守シガ タキ地

大高 坂清斎ハ、松浦肥前守殿招シ所ノ臣ナリ。此人適従録ヲ著ス。仁斎ヲ誹レルタカサカ 日本ノ古ノ日本紀ナド 上戸ナリ。 ト子式ノ評ナリ。 ハ謝安ニ似タル人ナリ。喜怒色ニアラハサズ。人ニカマ 浅見重次郎モ上戸ナリ。 君修云、日本近来ノ学者皆酒量アリ。仁斎ハ其中下戸ナリ。 ハ 編年ノ体ニモアラズ、 徂徠 八下戸、 史ノ躰ニモアラズ。 南郭、 ズ我物ズキヲ立ラレ 春台モ上戸ナリト 実録ノ体ユヘ きナリ。 面白

明律ニ、瑣言、小言ナド云注サマぐ~ タル物ニテ、オビタょシク冊数アリ、 クキ也、ト君修ノ説ナリ。 アリ。 ト春台云レタルト也。 釈筌ト云モノカナガキノ如ク、クハシク解 会典ヨメガタキ故、 律スミニ

コトナシ。

水戸

ノ日本史ハ近頃出来タリ。

コレハ本紀志列伝ヲ分ケラレタルト也。

テ安民 仁者心之徳、 セラルレドモ、何ノ用モナキコトナル ノ論ナリ。 ノ道ニ叶ベ 愛之理ト云ヤウナル シ。 然レ バ経術ト云テ、 コト ベシ。 ヲ、徂徠モ仁斎モトヤカク云テ、 メツタニ骨折モ、 神祖ノ御遺訓ニ下ヲ治ル 隙ニマカセテ云コトナルベシ、 ハ、 ハリアヒセリ。 慈悲ト云一言ニ

武家ノ今ノ治メト云ハ、 韓非子ノ教ニ似タリ。又制度ヲキツトサダメラレヌハ、老子ノ道ニ似タル所モアリ、 ニモ及シタルナリ。 其頃ノ僧徒ノ少シク学術アルモノハ、我教法ノ近キヨリ老韓ノ書ヲ好ミシ故ニ、自然民治 修ノ論ナリ。 ギ付テ下ヨリトカクヲ云ハセズ、上ヨリ云出スコトアレバ、請サスルト云ヤウナルコトハ 〔朱書〕創業功臣本多正信、板倉勝重ナドモ、ミナ緇徒ノ教ニ出シモ 且文事ト云ハ、兌長老天海ナドノ説ヲモ用ヒラレ 韓非ガ、 リノコト多シ。 尤刑罰ノ刻薄ナルニハアラネドモ、 タル故ナラメ。 ノニテ、 ト君 ヒシ

本多佐渡守正信ナドハ、 モナキ人ナレドモ、 モアリト見ユ。但シ人ノ服セヌ人ナリ。 天子ノ及タマ コト得テノ人ナレドモ、真実ニハアルマジキ様ナリ。 トヲ御ト モノ、 同ジ開国ノ君ナレド リ成レタル モ、 兄ヲ殺シ内行モスグレ ヤラン人品ヨキヤウナリ。 力 ヌ クカヤウ コトナリ。 人ノ服シタル人也。 唐ノ太祖ホドノコトナルベシ。漢高祖、 陳平、張良ナドノユキカタ也。 イラヌ (朱書) モ、 高祖、 \Box タマハズ、 神祖 ヲタ 芸祖尤ヲトリ玉ヘル歟。 ソレハ其人ノ器量ニヨレ 光武尤勝レタル人ナリ。 酒井雅楽頭殿忠世ナドモ、正信ト同ク、 ヲ唐 ノ大祖ニ比ス、 神祖已来ノ列君皆三綱甚正シ、 ユ 後漢、光武ナドハ諫ヲコバミ怒リ玉 人ニモ疾レ 本佐録ト云物一巻アリ。 勿体モナキコト 世ニモ捨ラ 又太宗ノ英武ハ大ニスグ 後漢光武、唐太宗、 其中太宗ナドハ、 ルナルベシ。 又神祖ノ天 ・ナリ。 コ 武功ハ何 少シ学問 力

子允ノ論ニ、 ナリト 立 風俗ヲ害スルモノ ハ、 豊後節、 浄瑠 璃、 学者ヲ害スル モ 世説 風流

ラズ、 淫心ヲ動カスモノ セラレ セラレタル、又大ニオトレ タル、殊ニ面白キコト也。桂山義樹ソ オカシキ物ナリ。 蟋蟀夜寒揚子宅、 **へ**、 カナシミ 然ルヲ白石変化シ来リテ、 IJ_。 芙蓉秋老習家池、 声 又桂山ハ ヨリ引動ス物 モト白石ノ詩ヲシタヘリ、 レヲニセテ、葡萄酒満青金帳、菡萏披白板橋 ナリ、 菡萏花嬌西子宅、 云詩、 其キ 春台 둜 レ 鷓鴣声 ス揚子 シ 电 ガ宅ニ 怨越王城、

左伝ノ文ニ、 春秋ノ例ト云コ ハ アルマ ジキコ ト也、 ト君修ノ語ナリ。

ル句ニ、 キユへ、 君修云、今ノ世上ノ詩ハ皆蘭亭流ナリ。 其通リニ用ラレシトナリ。 モツヾ 時マデノ格ヲ ク覚エテヲラレ キテ平字也。 子式ノ ○平 一生守ルトナリ。 明詩ノ風、 タリ。 南郭ハイクラモ古人 又唐詩明詩ナド、 世ニ行ハルトナリ。又子式ハ是非トモニ、 第二字平 ソレユへ ·) 時、 カタハシニクリテ見ラレタルニ、 随分リツパニ句法ヲ立タルト也。 南郭流ニハアラズ。南郭ノ詩ハ手ガカリナリニク ()詩ニ、 第一字仄ナル 第一字仄字ナル コト ハ絶テナキ アリトテ、 于鱗ガ順徳大守タル 又五言律ノ韻 自分ノ詩ニモ カクニニ字 子式 \exists T

ラヘテ、 校尉ト云コト、 名ヲツケタル心ナリ 組頭ニ君修用タ IJ_。 南 郭 ハ 副 帥 然 ル べ キト云レ タ IJ。 コ レ ハ 字ヲ新 二 コ シ

中ニア 律詩ヲ作ルモ 若使 晩唐 江紅顔偏抜」」冕ト云ハ、 句ヲ、 瀛奎律髄必見ル 染カヘ セルナリ。 ベキコトナリ。 公道世間 其外多シト子式ノ説ナリ、 唯白髮、 宋元ハ晩唐ノ詩ヲ、 貴人頭-上不 一曾饒 于鱗ハ 染直 ト云三体 話也 シテ 詩 出 セ

ラント 君修云、 鄭玄ハ文ハ下手ナルベシ。 ソレユへ諸注ヲナセル ハ、 却テ奇ナルヤウ見エ タ ル ナ

初名 ハ世上ニサノミ聞ズ。蘐園随筆刊行已後、世上ニ名ヲ広ク称セラ

通雅ハ其 抄出セラ マ レ ハ タリ。 甚ダ希ニテ、 写本世ニ出テ大ニ価ヲ減ゼリ、 金三十両バカリ ノ価ナリ。 } 君修ノ話ナリ 某ノ 所蔵ヲ春台モ借リ読ミテ、

力 家語ヲ刊 バ 力 ヨリ ス 一十巻アリ ル コス 時分八十両入タル ベキ筈ナリ シ ナン。 シニ、 卜也。 詩書古伝 物故 紫芝園稿刊 セラレ 此次ニ刻 テ半分バ ス ルニ金百両入用 スト カリ来 ナリ。 ナリ。 水明卿三十

- 徐中行天目集ハ甚少シ、 也。 子式持居ラレテ、 唐本一冊アリ。 イヅレヤラン諸侯へ進ジタルトナリ。 青蘿館詩集ヨリ少シ多キ位ナリ。 極テ精 選シ タ
- 于鱗ガ少方: 若」有」神、 作リカネテセン方ナク、 大ニ月 伯月 ノ詩三首、 ノコトニ深切ナラズ。 其第一首至テオモシロシ、 作リタラメ、 句モ面白クナシ。 ト君修ノ話也。 第三番目ノ詩ノ イ カナル コトヤラン合点ユカ 結句ナド、 搦華玄経
- ナリ 同ジヤウナレド ノ詩ヲ比視スルニ、 也。 レ艦登臨落日 愁、 モ、 1 格別 _ ツクレ 登楼ト云一ノ字ウレシカラズ。 ノ上手下手無ク。 ッ。 王ガ詩、 使君盃酒一 李ガ郡城楼ニ上リタ 登楼、 蕭条ノ字、 倚 レ艦蕭条落 ル 跡ヨリ 詩 ニ、 ツケタ 木愁、 使 君盃 酒郡 ル ヤウ
- 朱子 ト君修ノ話ナリ。 ノ太極ノ論モ、 、同時ニテ張南軒、 象 山 呂東莱ナド、 ノ云分甚尤ニ覚ユ。 皆朱子ニ屈服セラレ 朱子モ陸象山 ヲ勁敵ト思 タ ル =, 陸 象 ハ レ Щ タ ヒ ル 卜 リ服 ヤウナリ、 セ ズ。
- 古人ハ多ク時分ノ レバ、 夫ニハ 子皆李徒ニアラズ。 ト云フコトヲ、 天下ヲ定メ、 ソレヲ修メタリ。 シテ業ヲナサズト云ド 才博ニ過テ、小シ見識定ラヌ J. 廬 べ 学問風ヲ捉ム。 非ジ。 一一、中二、 ブ通、 スベシト云。 ルト覚ユ。 白石両· 南郭ナド カク経術ヲ治ムベキト云見識ヲ胸中ニ貯ヘテ、 二ハ律学、 玄徳ニ顧 武侯ノ天下三分ノ シナスベ 工夫シテ居タル 打フシテヲラ 人ニ志ヲ順菴問レシニ、二人口ヲソロ ソレ モ徂徠ニ学ビカ 孔門 が対ヲ、 ッカモ 然ルニ同 又元美ガ変化自 白 コ、ノ所早ク見識ヲ定ムベシ。 故先見識ヲ定メテ、 キ程ヲツモラヌト見へ モ、 ヲ受ン時ニ三分ノ儀ヲ立シナル ノ諸賢者皆其通リ 是ホド ゙ヲ定メテ、 上疏 ハ日本 レタル内、 調ノ詩ヲ作ルコト、 / ナラメ。 /コトヲ、 ユ ノ 内ニ書タ コト へ、色々変ジタ 典故ニ明ナル学問ヲセラレ リタ 由ノ文ヲカ、ント、 ハ IJ 先主ニ云タマ 今乱世ナレ ル時ヨリ、 ソレヨリ已後大カタ理屈バ ナ ナ 力 是程ノコトヲナシヲホ ル IJ ス ベキ事 程 タリ。 ラレ フコ · 覚 ユ。 皆云合セラレ ルヤウ也。 古文ト詩ニテ著述不朽 バ、 1 ŀ 〔朱書〕草廬中ニ臥竜セ ヘテ天下有用ノ学問ヲ 又于鱗ナドモ我ハ古文ノヨメヌ、 ヘル其言 ハナスベ ソレ ベシ。」 云 互ニ云合 何ヲスルモ皆経術ノ為ニセ モシ出タラバ天下ヲ三分ニスベキ コ · 覚ユ、 ヨリ已後漢 1 又木下順菴門下 ヲ定メ置 近ク今ニ在リテ云フ春台ナ タル キ也。 タ ノ如クナシタリ。 IJ. セ スベキト、 カリ云テ、 コソシツラメ。 -覚ユ。 ノ賈誼 テ、 ノ話ナリ。 ガ高祖 名ヲナ ナス 其中ニ元美ナ 云積リヲセザ シ 時 ナド、 ノ人ニ 自分ノ材 力 武侯モ平 べ \exists ニトキテ 又七才 **、サント、** リノエ ルナリ 不 幸 モ、 コト テ ヲ ヲ

注

ア

シキ

勿論ナリ。

全集ニ集注ト云ガアリ。

和刻ニアリ。

注ニ故事ヲ

- 又云、 長谷川如 ルナリ。養朴ナドハ宗対馬守殿ニタヨリテ、朝鮮筆ヲ求テ、ソレヲミタキテ画筆ニユヒタ ニテ拵ヘレバ 又今ノ狩野家ニカク竹 ソレヲ過テ老年ノ 秋月ハ雪舟弟子ノ内ニテ至極ノ イヨノ ソレ 竜ニハ大ニカネアヒアルモノ也。又土佐家ニハ絵ノ具ノ拵へ別ナリ。 辰 ヨワキ画ナ 〔割注〕備前画工。」云。 ユヘ筆ニケシヤウラシキコト曾テナシ。今ノ世ハ皆ヨワク書テウスキ画ナリ。 出来レド 一下手ニナリタリ。 ・モ、 画 八、 大ニ手間ノ入ルコト也。又唐画ハ筆ヨシ、 雪舟已前 ハ、 唯シヤレタル 皆東坡流ナリト云ヘリ。 又狩野家ニ画ノ伝授アリ。 ノ画ハ皆唐画ヲカキタリ。 主馬ガ画至テ上手ナリ。 上手ナリ。 バ カリニテ、 探幽画モ探幽斎ト書タル時ノ 大ニアシ、。 其伝授ヲシ 雪舟ナド 然ド モ少シ格チガ ソレ 今ハ皆其ア ハ至テス ユヘ レ バ 画 細 今ノ狩野家 何ニテモ書 シキ処ヲ ルド 画ナド書 イ ヲ書 -ク 実 タ
- 手ナリ。 住吉内記ガ絵土佐流ナリ。 タルト覚ユ。 今東都ニテ追ツク人カツテナシ、 上手ナリ。 八幡殿ヲ書タルヲ見ルニ、至テウ 如辰モ大ニ賞ス。又相良侯ノ ト如辰語 レリ。 臣ノ絵師素朴弟子ナリ、 ル ハシキ甲冑、 キハ メテギ 至テ上 ン
- ハ漢魏叢書ノ三十余部アルト、 又永徳堂ノ十三経ヲモタ レ タ Ű, 元鱗云へリ。
- ヲ害ス 徂徠 子ヲ取立ルコト徂徠ノ如クニハナキ也。 ハ殊ノ外ニ人ノ ルナリト テ、 一向ニホメラレザリシ、ト君修ノ話ナリ。 才ヲ誉タツル 人ナリ。春台、 又春台、 人ノ才アリテ学問ヲ 南郭ハ中々 人ヲ ホメラレズ。 、スルヲ、 ソ 朩 ムル レユ へ弟 ハ 人
- モ大山 同家中 う 人、 ノ如クニテ、 仁斎ニアヒタリシ人ノ云シハ、仁斎ハ何ト 中々動カシガタキ人ト思ハル、 也 ナ 所 ニ居リタキ 人ナリ。
- 仁斎ヲ紀州ヨリ千石ニテ召サレ 多小ニヨラズ、 セラレシト也。 大志可 少シノコトナリト ,」観也。 ケル時、 モ、 国政ヲ御相談成サレ候 辞シテユカズ。 中 々外 ハ 1 ^ 参ル 奉公 べ ハ シト、 仕ラジ。 紀州侯 但シ禄 ^
- ガタシ。 天門上人ハ、春台モ詩ヲ上手ト 成島道筑位ナ ル ベキ歟、 ホメ、 ト君修ノ評ナリ。 徂徠オ作者ト 云レ シ由、 然レドモア マリ上手トモ云
- 徂徠ハ庫一ツニ書物ノ払 ヲ売払ヒテカ 于鱗集、 名山 レシトナリ。 蔵甔甀洞稿、 イ アリタルヲ、 誠ニ豪傑 天目集、 金六十両ニテカハ ノシワザナリ。 李本寧集ナド、 レ 明ノ書夥シクアリ タリ。 其中種 々 ・ノ書物 シト也。
- 藤五郎 コ 古書ヲク 論語古訓 三次郎 ハシク見ル。 ノ名例ヲ度々往復セリ。 与力 パナリ。 中ニモ、 君修墓誌ヲ作レ 十三経ノ註疏 三次郎 7 ハ己巳春廿三歳ニテ卒ス。 デ 語 チ、 悉句 ヲキ リテ置タ ル

- 刺孟篇 心得 ガタシ、 (割注) 王充。」 ト君修ノ説ナリ。 疑孟 (割注) 温公。」 タ ハヒモナキ論ナル ヲ、 台翁尤ナリト云レ シ
- 君修云ヘリ レヨリ見一ヲシリ、 ハ笛ノ曲七十計リモ覚ラレタリ。 八月十五日夜ニ、家来ノ塵劫記ヲ見居タルヲ、 其後、 大本ノ塵劫記ヲカリテ見テ、 至テ細工 コヨケレ バ 数学ニ忽通ジタリト語ラレ 笛ヲモ自ヒラカ 側ヨリ見テ八算ヲ合点シ、 レ タ ル 也。 又
- 公穀二伝ハトクト読ズバ アル べ カラズ、 ト君修ノ説ナリ。 井文学モ同 説ナリ。
- 二十一史ハ経済 史ハナレバナレル物、 ニ志アル者、 ヨホド十五六史モアリタルト也。 ヨマネバナラヌ物ナルベシ、 ト君修モ云ヘリ。 徂徠ハ二十
- 荻生七之丞 モノ如クニ思テ、 〔割注〕幕下士。」 二先生ノ方へモヤラレズ、 ハ怜悧ナル人ナレドモ、 ソレユへ学問ス 春台、 南郭ニモ年マサ マズトナリ。 ユ 子
- 殷ノ世ニヒタト都ヲ遷サレタルハ、尤ノ事ナリト説アリ。 只其風俗ヲ改革センニハ心得アルベシ。 殷ノ都ウツシハ水害ヲ避ケテナリ。 北魏ノ孝文ナド 夫ニテサへ民心ハ喜ザリシ。 即遷都論ヲ春台作ラレタ ノ 事、 思ヒ合スベシ。」 故ナ クシテ ナ
- 鱗ガ事業ハ、 ヲタヾサレ ハ殊ノ外ニ。 タリ。 七百張ニスギズト云レタリ。 韻字ハ殊ニクワカリシト也。 字彙ヲ嗜好アリテ、何モ字彙ニテ正サレ 又于鱗集七百張少余アリ。春台カゾヘテ干 タリ。 ヒタト字彙ヲ出シテ、
- 白石 ノ采覧異言ハ、 殊ノ外ニヨク書レタルト、 春台大方ナラズ誉ラレ タ 君修ノ話 ナ
- 儀礼ハ木偶ヲ作リテ、 周礼ヲ全部ヲ 礼ヲ紫芝園ニテ会アリケル時、 レ 進退シテミタラバ済ベキト、 初三十人ミヘタリ、 後ニハ君修ト今一人ト二人ニナリテ、 南郭ノ説ナリシ。 鄙見ト符同ス。
- 庸ハ全部セザル書ト云ヘルハ、 アラジ。仁斎ノ古楽経ノ脱簡ト 割 注 幕下士。」 朝鮮人ニヤラレタル五論 甚尤ナル説ナリト。 ウタガハレタルモ尤モナリト論アリ。 ノ中 ニ、 中庸ハ 首尾貫キタル書ニハ 君修モ、 此深蔵 ノ中
- 四大家文範ノ点ヲ、 ヲ見タルト誉ラレ タルト也。 大内忠太夫付タルヲ、 南郭見ラレテ始テ驚テ、 サテく ヨク于鱗ガ文
- 春台ハ王充ガ論衡ヲ、殊ノ外ニ面白シト云レタリ。 春秋繁露ナドヲモ面白 . ガリ / テ読レ タ ル
- 国策ヲ春台 力 ノ方ニテ会アリシ時、 口ニテ云テ見タル 甚ダヨミニクキ物ユへ、 ガヨキトテ、 会読ニメ コ レ ハ游 本文ノ 説 通ヲ、 ノ 云 7 今日 タ \Box コ

- 春台ハ、 社中ノ詩ヲ少々集メラレ 同社中ノ詩ヲ集メカ、 タルト也。 レタ ル ハ、 皆火災ニ焼レタリ。 其後、 又興観集ト 一云テ、 同
- 元麟云、春台ハ杜林合注 テ書ヲヨ マ レタ ルト也。 ノ左伝ヲ、 至極ヨク字ヲ改ラレ タリ。 常二筆ヲトリ テ、 几ニョ IJ
- 一唐流ノ博識ハ東涯ナリ、ト君修ノ説ナリ。
- 中華ノ詩人詩集ノ中、 コト也、 ト君修ノ説ナリ。 贈答 ハ 一円ニナキ コ } 也。 日本 ノ詩人ニ殊ノ外多シ。 イ ル
- ナリ。 南郭ニハ理論ナシ。 人ノ物ズキ、 コレハ于鱗ガ流 ト君修云へリ。 ナ ル べ シ。 元美ニハ少々論ア IJ_° 欧蘇 ハ叙事 ノ文モ論
- 中華 ユヘ虚景多シ。 人ノ詩集ノ、 題ヲ設テ作リタ ル ハ 一首モナシ。 日本ノ名家ニハ多ク題ヲ設ラレ タ
- テ、 壺 書トリタル注ユへ、 シカト 南郭云、毛伝又ハ周礼 ウナキト也。又礼記鄭注ナド、礼記ノ本文ノ奥ニアルコトナドヲ、 心得タル · タリ。 サラマ ヲ、 所謂児戯ナリ。」 ワザユ シ ス ンタラバ カヤウナルコトナレ 樽ナドニシテ、 デモトリソ ハ、三礼ヲシカト見ヌ マズ、疏ヲツケテヲカネバスマズ。 云ガタキト也。 ^ 、儀礼ヲカミクダキ、 スマヌナリ。是ハ階ナド、 注ノ奇ナル物トシテヲキタリ。注バカリニテ、三礼ガ何トス 口 ノ鄭注ヲ ^ シヤウギノ駒ヲ人形ニシテ、楫譲サセ拝スル時 〔朱書〕 楫譲拝起ノコトニ精クナラントテ、 テ儀礼ヲ会得シタリトモ、 バ、中々スマヌナリ。○儀礼ハ古人モ読ニクキコトトシタリ。 ハユへ也。 刻布 ス スマシタルト云ベキナリ。三礼ヲトクトスマサネバ ル 鄭玄ハ元来文章不得手ユへ、 ハ、 少シノ木形ヲコシラヘテ、 然ルヲ疏ヲハナシテ、 甚ヨカラヌ 何ノ益ニモタ、 事 也。 其ワ 鄭注 口ニ其儘出シテ注シヲ ケハ 如此ニ将棋ヲナラへ、 ヲカ ヌヒマツブシ仕事ニ ツボナドノヤウナル 疏 バカ ハ、 シク小短ク簡 ヲ 将棋 リニテス ノ駒ヲ伏 ムベキヤ 1 テ モ
- 南郭云、 博物典彙ハ殊ノ外ニ重宝ニ、 東涯 ノ制度通コ レニ似タリ。 歴代 ノ制度ノ沿革ヲ出セリ。 ヲシツラヌキテ見セ タ
- 杜氏通典、 東涯ノ学問ハ仁斎ニ倍セリ。 処、殊ノ外ニ心ヲ用タル物ナリ。中 カリニテハ 明 会典ナド 、ナラヌ コト也、 ヲ能ヨミテ、 名物六帖ナド、 南郭語リタ 々及難キアツキ学問ナリ。 クト呑込テ仕立 只ヌキ書ト 7 ヒ タ ル物ナリ。 ミ心得ベカラ 制度通ナド、 大抵ニ書ヲ精密ニ見 ヹ 随分文献通考、 訳ヲツケタル
- 南郭云、 左伝 文ノ妙ナ ル コ ٢, 杜注 トリ 7 ハ シ至極ヨ シ。 但シ少シ事足ラヌ ヤウナ

- -思シニ、 モ 林ハ文勢文法 後トクト熟覧スルニ、大ニ林注ノ句アシ 林堯叟ハ日本 ヲ一向知ラズシテ注シタ ノ句解 ノ類ナリ。若キ時林堯叟モ読ミタ ル ユ ヘアシキナリ。 ` 0 其子細 ハ 杜 注 、ルニ、林ガ句読ヲヨ ハ文勢ヲ呑込テ注
- 平記ヲスグニ真 ノ定サセタマ ノ大日本史新田義興伝ヲ、 フト 文字ニ直 シタ 守山侯ヨリ南郭ニ借セラレシユ ルホドノ文ニテ、 ナカく、ヨキ文ニテハナシ。 $\hat{\ }$ 見ラレ タ ル 義例ハ義 話ナリ。
- 白石 何トヤラン、 極ヨキナリ。 ド尤ナレドモ、文雅ニ過レバアシキカ。 書トリタルモ ノ方ガ強キコ ハ、詩バ 北朝 実ニツイテ云へバ、文雅ナルコトハ実ノウスクナルモノ故、 ノ 也、 トニテ実ナリ。六朝ニテモ南朝 ハ人品モヨク見ユ ヤ ト南郭云 ウニ 人 ムハレケル。 ハ 云ド ールナリ。 モ文章モヨ 其ワ 但シ白石ハ文雅ニコトヲスベキト思ハ ケハ物ノ文事ナルハ、実ニツ 南郭ノ説ナリ。 ハ文雅スギタル シ。 蝦夷志、 書ニク ユへ、浮華ニナリテヨ 丰 コ 卜 趙ノ ヲ イテ論ズル / 武霊ノ ル。 ナル Ξ ハ ガ至 シ。 胡 三
- レリ、 残書タル処、 南郭云、 段ヅ 諸文皆其通リ也 王元美文ハ古文辞ナレドモ、 自由自在妙ヲ得タ ヲチテ見 ユ ル 也。 J_° 七発ヲ書タル 然ドモ専門ニヲサ 実ハ韓ヲ学テ韓ノ伎倆ヲ 時、 サテモヨシト見レドモ、 X タル文ニアラザル 得 タ ル物ナリ。 枚乗ヨ ユへ、 其手本 リハ 体ヲ不 ヲト \exists
- テ 南郭云、六朝 レニテ気運ニカ、 トリニナリテ、アシクナリケルヲ、 スベテ詩ハ気運ニカ ヲコセリ。 以ノ外ニヲト 末ニ平安ノ文ノ ス ル也。 東都ノ詩盛ナル ノ文昭明ノ選ヤウ、至極ノ上手ナリ。 ル レリ。監識マコトニ勝レ 東都ニ 処ヲシル ` ル也。文章バカリ気運ニカ、 及ヌレバ、 モ、 ベシト也。 興国ノ気象ア 唐ニテ大ニ興シタリ。 地方ニョツテ盛衰アルヤウニ言ナシタ 〔朱書〕 タルモノナリ。 ル 奎運世ノ盛衰ニ関 ユへ也。 外ノ書ニ文選ニヲサメヌ ル非ズ。 又六朝 平安ニハ詩 五代宋元トヲト 其ワケ ノ末ホド詩 ハ 漢 ハ ハ 左モ ナキナリト ij 六朝 ア ガ有 ハア ル タ ル ハ、 ル ヲ、 べ シ ル ケレド ・段々ヲ 前言 也。 ヲ見 コ
- ラズ。 荘子ノ注ノコト、 ヤウナル 云コ 同ニテ書 ハリ荘子ヲツカマヘテ清言スル コトハナラヌ アリ。 南 シカ ル 郭 モノユへ、 レ 云 コ バ、 卜也。 郭象 列国ニ文不同国ア 又荘子ハ、 ハ中々コレニテ句 ノ書ニテヒキ 心ナリ。 ワ t ク ルト見ヘタリ。 合セ ソ Ŧ ゴトニ解 ノユ テ、 レ ユ へ色々 へ郭象注ニテ、 スルト云ヤウ ス ル ソレ ノコ コ トナ ヨワヤクニ トヲ書タリ。 ラヌナリ。 荘子ヲス ナル下 7 力 7 ノ 心 ス テ、 ニア
- 云ヤウ 挙オ ル コ コ リテ後ノ学問、 ニテナシ。 官人ニナリテ、 唯其場、 間 ヺ 律ヲヨミ覚テオ ス ル為 バ 力 グリニシ バ モ コ ムユ ハ ヤ学問 云 二文ヲ書 コ

甚文盲、 イラヌ コ 沙汰 ト 也。 ノカギリナル ソレ ユ へ及第シタルト モ こノナリ。 テ、 文ヲヨ ク書 コ ナスコ トニテ ハ 決 シテ

- セタル処 ヲキタル キナリ ソ レユ ト見テヨキナリ、 首ヨリ尾マデノコラズ、丘明ガ潤色ナリ。 へ文体一 国語ニ諸国ノ 事ノ異同アルヲ人々不審ス ユ へ左伝ト事跡 様ナラ コトヲ聞書ニシテ、 ズ、 ト南郭云レ 丘明ガ筆ニテカザリ ノクヒチガイタル タ レド 左伝 モ、 コ コト ノ羽翼ニシ タル レ Ė ハ ニテ アル 手筆ニナリ 丘 朝ヲ ア、 ハ タ ナシ。 ル書ユ シ ラ 7 タ Ź 、考ノ 諸方ノ聞書ヲア \sim ル 故 ユ ナ Ű, $\hat{\ }$ 為ニシタル 7 文体全ク
- ハ成ホド 七子ノ詩、 徐禎卿ガ古躰ヨ カシキコトヲシ ヨハキ詩ナリ。 , 瀛奎律髄 汗血馬ナリ。才ニマカセテ作レルユへ、 于鱗ハ論ゼ ノヤウナル詩ガ出来タルナリ。 明 シ。 ル ベシ。李王ガ心易キ許殿卿ナドガ詩ヲミレバ、 ホド詩ノ盛ナル世モ、 古楽府ナド甚ヨキ也。 ズ。 徐モヨシ。呉モヨシ。 ス クナケ 王元美ハ才ニマカセテ 手本ニハナラヌ事ナリ 体格 手本ニハナラズ。梁ハ 、レドモ、 ... ノ ダ 七子ニテ尽 1 ク 、サニナ 以テノ外ニヲチタリ。 ツク レ タ 丰 南郭 揃ヒタレド ル ルユ ハ謝 ユ へ、詩 ナリ。 へ、七言律 モ少シ
- 南郭云、 于鱗ガ五律上手ナ ト覚ユト レド モ、 ア 7 リニリツパ 過タル ヤウ 也。 何大復ハ 五律一 目 ダ ケ
- 南郭云、 通り也。 が新新行、 之モ ア マ リリ ッパ 、二作リ タ ル 故、 ソ レ ヲ難ニス べ シ。 五絶ナド モ 其
- 安ヨ 五言古ト七律 ト南郭 シテ、其格ヲハヅ 詞 リ上へハ出 ル上手モ叶 アステ ノ論也 ` ٢, マ也。 ガ タシ。 サヌヤウニシ イ ノ詞ニテ作リタテ、、 11/11 コ レ 古詩十九首 ガ ` ノ所ヲ ムヅ タ カシキト云ガタ ルユ ヨク合点スベシ。 ラ 詞 ^, ノ外 ナル 古詩十九首ノ /詞ヲト ホド臨摹帖ト シ。 又文選ニアル晋人ヨ 于鱗ガ五 ij テ、 如ク作リナサン 随分古ク作リテミ モ云ベキナリ。 言 ハ、古詩十九首ヲ リ格調 トス サテ古詩十九 ル 大ニ下レ rテ コ フ モ、 7
- 五臣注 入タルユ 文選章句 ハ小トリ 一向 文勢ガ見へヌトテ、 ニラチモナキア Ź ハ シニシタリ。 シキ注ナリ、 一段々々二文勢ヲミセヲキテ、 李善注ヲキリチヾ 南郭云レ ・メタリ。 ケル。 李善注 注ヲ小 ハ キリ 旬 j ア メ バニ入タ ハ ヒ ^ 注 ヲ
- ヲ立テ引合セ ト云フハ ナキ ・ハヅ也。 バ、 アヒモ 徂徠ノ説ノ如ク、 スベケ レ ド モ、 通鑑ニ目録ア ソ レ ハ孔 子ノ本意ニ非 ル ガ 如 丰 ズ、 云 レ 南 シサ 郭云レケ バキ尤
- 南郭云、 朱学者 中 -々朱子 集注 ノ文義ス 7 ヹ。 ア レ ニテ朱学ヲ シ タ ル 云 オ

南郭云、

皆徠翁ニ開眼セラレテ目アキタ

Ű,

コウ至極ト覚テ、久シク来リタル処ヲ、

サレバ朱学ヲスル

ホド

-ナレバ、

或問ヲ併テトクト見ザレバ、

日本ノ朱学ニテハ、

ヨク呑込タリ

外ノ謝氏ナドノ説ニ書付テ、人ニユヅリテヲキタリ。

トリテ、本文ノ趣ノ外ナルコトノ主意ヲ、

一ツ自分ニ立テ云タキ時ハ、

自分ノ説

ラ云ズ、

オウチャク千万ナル仕方ナリ。

サテ

オウチヤクナルシカタ也、

サマ

朱子ノ書ノ解ヤウ、字ヲタシテ、

中へ

ハ至ルマジキカ。

李于鱗ノ文ハ極メテ読ニクキ物ナリ。 古書ヲ腹中ニノコラズ入レテヲカネバ、 ヲトリ出シテカキタルユへ又読ニクシ、 左伝ナドノ文字ヲバ出サズシテ、 夫某ノ女、 ナルコト也。 侯 ノ梅ヲウ 玉蘭ト ト出シタル所ハ、 ヘテ、諸侯ノ詩ヲアツメラレシニ十人トナシ。 云シ孺人ノ詩トテ見セラレシニ、 何ノコトモナシ。 文ノ転換シテユク処ヲニセ 然ドモワケアリ。 ト南郭云レケル。 李ノ文ハ読メヌ也。 右ノ通文勢ヲ学ビ 禎読ムニ、 文法ヲトクト呑込バヨメルナリ。 サテ明 歌行律体悉具リ、 タ タ ノ典故ニ、 ル ル物ナリ。 官名 ト -古名 ユヘ

朝鮮人ハ一種ノ風習アリテ、詩モ文モサング~ナリ。就中去年来聘 馳走ニナリテウヤマフユへ、今ハ日本ハ、シタデニナリテ見ユル キコト也。 君修相手ニモ足ラヌト云ヘリ。 上ニ至極ノ 人数二百万トアリ。 ナリ。古キ国史ヲ見ルニ、 ノ語ラレシニ、 ル ハ苦々シキコト /貧乏ノ 豊王ヨリ已来ハ、 、国ナリ。 雨森芳洲ニ聞シニ、朝鮮ハ日本ノ九州ホドアリト、 /説ナリ。 也。 奥州仙台侯ノ人数百万ホドアリ。 サテ日本ノ富タルヲ自慢心ニテ、サマぐ 唯少シ日本ヨリ文アル国ユへ、 猶々附庸同前 鮮ノ日本ニ従タル体、 南郭モ予ガ社中ハ云合テ、一人モ出合ズト云レ 1 コトナルニ、 トカク日本ヲウシ 然レ ソレヲ以テオシ 執政タチ学問ナキユへ、 バ奥州ホドモナシト見ユ。 、ナリ。 ノ韓人イ 王氏三韓ヲ合セ 文盲ノ是 物ヲ見スル ロ楯ニトリタルト タ ル \exists ハ是非モナ ケ 非ナキコ トテ、 · ワルシ。 又南

元人ニ博物家アリ。 コ 皆物ズキ T と博 中年マ 物家ナリ。 明ニモ大ニ博物家アリ。 デ コ 書ヲヨ 明季ノ方以智ナドモ其通リ ヲ古書ノ中 ム度ニ、 $\dot{\exists}$ リ見出シテ、 揚升 珍シキ 菴、 陳晦 コ **ノナリ**。 ・ヲ見出 自慢ニスル也。 甫 焦弱侯、 詩文ハ拙クテナラズ、 古来ノ 博物家ノ 博 ラ

列祖成

畢竟無益ノ争博ト云バ

カリノ

ノト云説ヲ、

ノセヲキタル

元瑞モ博物家ナリ。

ハ

タレ

コ

也ト

コト

ハアラズ。

書タマ

ヒタリキ。

章ニハ

アラズ、ト

南郭語ラレ

字書ト云モノ、 後世ノ 合点ス モン 試ニ論ズ 字ヲ重ネアヒ、 ノ説ニテ、 クルシメル ヌガチノコ ナリ。 ノアルヲ引合セテ訓ヲツケタリ。 **〜スマズ。** ハセヨ レ ル バ、何書モヨメ =, ユへ、 上也。 外ニ寤生ト云コトナケレバ、 コク考レバ スマヌコ 蒼梧ガ作リヲキテ、 コレニテ合点スベシ。 一二三ト云ヨリ読安キ字ナシ。 結合セテ義ヲナス処、 其子ヲニクミタ 鄭公ノ寤生ノコト、 トナド スムナリ。 ルト云ハ、ヲカシキコトナリ。中華ニモ字学家ハ愚ナル -アルヲ、 古書ニハ引合シテミル書スクナキ故、 ルナラント推量シテ極メ置ヨリ外 字訓ヲ許慎へ直伝授シタルニテモナシ。 中々 一字一字ノ訓ウヲヨク知リタリトモ、 ソレヲ字学家ト云モノ 何トヲチツカスベキヤウナシ。 ムヅ 然二老子二、一生」二二生」三ト云コト、 カシキユへ、 ヨメカヌルコ ガ愚ナル者ニテ、点画ヲヨク アナシ、 トニカクニ何トカ ト也、 文ト云モノ 南郭ノ説ナリ。 モノナリ。 ア

竟学問自慢ダテノ 南郭云、 ニアラズ。 ハ決シテ経済 老子ノ知者不言ト云シハ \Box 熊沢了 ニマ 唯後世ニカ 力 セテ云時 介 コトヲ云ズ、 コ 書ヲ読 - ナリ。 其上経済ヲツヨク云ヘバ、 ヤウナルコトヲ ハ バ 、尤ナリ。 云レヌコ ト 南 政 ヲト 郭ノ論ナ 知タ ソレ ル 地ヲ ハ リト云コ ナケレドモ、 ユヘ中華ニモ経済ヲ云人、 フミタ トヲ、人ニ見セ ル 人ユヘ 朝廷ヲ玩ブ心モアリ 経済ニカケテハ、 議論格別 ン為バ 皆其位ヲフミタル チリ。 カリ也。 サ 其位 タル ハ ナラ ユへ、 ヲ 然バ ヌ フ コ マ 予 ズ

東涯ノ学問 如キア ツキハ、 決シテ此已後モア ル べ カラズ ٢, 南郭クリカ ^ シテ賞セラ レ

志村三左衛門 通雅ニアリ モ博識ナリ。 ト三左衛門云へ 晋書ニ点ヲ付ル ٦ ق 通雅 ハ 時、 松平美濃守殿ニアリ 杜予伝 ト云コ シ ٢, ナ Ű, 知トテ考 南郭其後韻会

- 忍海上人ハ、 南郭語ラレキ 即海雲上人ノコ ۲, 学問モヨホドアリ、 詩モアリ、 文ハ跋位 ノ コ ナル
- 石仲縁ハ、 少シ ベキオナリ、 ブラカスコトヲス モ大坂甚シ。 テ相見ス。 ノ学問モナキ人多シ。 若気一 人ガラモ今 大坂ニテ ト南郭ナゲキ玉フ。 通リ ルユ ^` ノコト ハ予ハ徠翁門人、 ハ直リタル 何トモスベ 学問ノ浮過ナル上ニ、無頼ヲ加味シタリ、 故、 、トナリ。 近頃 スベテ洛畿ノ間ノ学問、 キヤウナシ。 人々 予ハ南郭門人ナド云タテ、ソ 板美仲 色々願 ハ ケ 今ニ無頼直ラズ、 ソレユへ社中ハ ル ユ 大ニ軽率浮過ナル 交ヲ絶テヲキ ネ出シ置 レニテ口ヲキ、テ、 其上ニト 南郭モ嘆息シ玉へ コト也。 タ ル J. 力 ヲ、 ク人ヲタ ヲシム ユ 中二 ル
- トカク人ヲヒキタテ、、 来ノ如シ。 南郭云ヘリ 予 ハ ヒキコミ思案ユヘ、 学問ヲサスルト云ヤウナル先生モアリ。 才ヲ育スル コトヲモ得セズ。 ソレ アレ ハ マ 衆生ヲ済度スル 二置コト 也、 如 }
- 南郭云、 読メルナリ。 国策パ 又ヲ ヨミニクキ書ナレド トシ咄ニシカケテ、 モ、 人ヲタラス 游説 ノ手ア F, -心得レ ツモ同ジダ バ、 合点ユキ易シ マシ 力 ・ナリ。 心 バ
- 春秋ノ時分ノ、 外ニ重キモノ也。 ニテ聖人治メタ 力 ニ、中華ニハ ノ説ナリ セ配分シテ、 卿大夫ト云モノ、 マ 聖人、 ソレユへ弑」君テモ、国人モトカクナシニ済タルト覚ユ。 ~ IJ。 サテ卿ト云モノヲ立タル処、 天子ニハ宗廟ト云モノヲアタマニ立、 日本ハ礼楽ナシニ治マ 今ノ大名ノ家老ト云者ヨリ比べ見レバ、昔ノ家老ハ殊 ル 人柄ノ甚ワルキ国ト覚ユ。 ヲ見レバ、 華人ヨリハ人柄ヨキナリ、 諸侯ハ天子ト云モノヲ、イ 又ソレニテ考 ソレユへ礼 1
- ツキ、 也。 先王礼楽ニテ国 辞命ニテセリア 『ヲ維持 ヒタルニ心服シタル ス ル 、ト云ハ、 左伝ニ見ヘタ ヲ見レバ IJ. 子産ガ コレ礼楽維持ノカナリ、 小 国 ノ家老ニテ、 ト南郭 大国ニタテ ノ説
- 堀正超 侯儒臣。」 返シ 此三人マデナ 南郭論ゼ 南湖ハ (割注) 〔割注〕称正蔵。」文ヨクカケリ。 ラレ 堀七太夫、 平安ノ近処ハ皆浮過ニテ、 ケル 安芸侯臣。」 王元美ガ文ニ其 学問リチギニナキユへ、 光ヲツ、 マ ミタル ` ナリ。 学者ナリ。 堀景 Ш ヨキ (割注) 平安ニハ東 人出ズ、 安芸
- 蘐園随筆 二筆三筆モ段々 力 クツモリ ナリ シガ、 出来ズ シテミヤ ヌ、 南 郭 ,語ラレ ケ

辞ニハ リキ。 説ナリ。 徠翁門下ニ、古文辞ヲ書トテ、古書ノ詞ヲキリツギニツカネカケテ、古文辞ナリト云モア ユヘコ、 ソ アラズ。キリツギテ転換スル処、 レハイマダ至ラヌ才ナリ。文勢ノ転換スル処六カシキコト也。 処大事ノコト也。近頃士寧ナドノ古文辞、 古ノ文ニ似ザレバ、真ノ古文辞ニハ コ ` ノ処ニ気ヲ付ラル 切付バカリガ古文 、アラズ。 `, ト南郭ノ ソレ

南郭云、 六朝ト ナリ。 古文ニ入タ 偶ノ文トハ、 · 同 ジ。 ソコノキリツギ 汪道昆 ルト自 ソレユヘキリツギヨリ、 大チガヒ也。 ハ初テ古文ニ入ル 分ニ書置タリ。 ノ処ヲ合点シテ、文ノスガタ ト クト見レバ合点ユクコトナリ。 時、 今チョト聞テハ合点ユカズ。 文ハ 左伝ヲ学ブコト十年入コトヲ得ズシテ、 入タル ト云事ナリ、 ハ変化シテ作リタレドモ、 六朝ノ文ハ全クキリツギノ文 汪ガ文ト、 南郭ノ説ナリ。 文選ノ四六ノ対 キリ 文選ヲ学テ ツギ

于鱗 ソレユヘア 人皆多ク左ヤウニ云タリ。 ユへ胡元瑞ナド ハ人柄高キ人ニテ、 ノ如クスサマジク。 モ、李ヲバ握髪吐哺ノ風スクナシナド云テ、 最初古文ヲ書出シ 王元美ハ人ガタノメバ、誰ニテモ文ヲ書テヤリタ 夥シク文ガ出来タ タル時、 ルナルベシ、 大テイノ人ヲバケツケタルト見ユ。ソ コナシロヲ云タリ。 南郭ノ説也。 卜 見ユ。 同時代

日本ノ シキコトナリ。 一昔ノ詩、 経国、 詩ハ近来五六十年ニ出来タリ、 懐風等 中ヨリヱラミ出サントスルトモ、 ト南郭ノ説ナリ。 口 クナル詩ナシ。 外聞 T

蟬痴朱註〉

正珪曲直瀬氏、 恵助号灊水 松崎才蔵号観海、 同 子和 平野源右衛門号金華、 春門 穉明 稲垣長章、 練門 子彬 子式 三浦平太夫、 高蘭亭、 徠 練門 子廸 君瑞 宇佐美 越

運ヲ開クカブラ箭ナリ。 註疏マデ見ザレバ、 [ヲ見出 シテ、 カノ体ヲ作ラレタリ。 唐詩ヲトナへ出セル 経学ハナラズト云タル由、 スベテ錦里先生ハ詩文ハ拙ケレ ハ錦里先生ナリ。 コレ古学ノカブラヤナリ、 錦里 ハトカク十三経ヲ 1, モ、 ハ文

ル人ニ、 芙蓉万公 詩風ヲ変ジタリ。 ライナサレ、 シ中ニ、徠翁過ユキテ対面ナ 徠ノ詩ヲミセラル 人ノ五人ガケモナリタリ。 南郭又云、 七絶ノアシキ 割 儒官ニ成サレ 注 万公ノ詩モ律ト歌行ト至テヨシ、 故、イ 其後岡仲錫 東都芝東禅寺住 ・ガアル 3/ 学問モ丈夫ナリ。 ンコトアリ パコト也。 シ。 (割注) 詩ノ格調ノ工夫ヲセラレケル由、 ソレ故南郭トヨリアヒテ、詩ノ知己ナリトテ悦バ 僧。」 ノシカド 俗称郡太夫、 アマリニ過テ風標ガ少シ次ニナルナリ。 モ、 幼少ノ時文珠小僧ト云シナリ。 モ、 初宋元ノ体ヲ作 師 七絶少シ次ナリ。 匠辞シケルトナリ。 高松候紀室。」 レ ル 徂徠ヲ一相見セントナリ コ 其ワケハ必学問丈夫ナ 東禅寺ノ旦那ニテ、 } ハ 後白石ノ詩ヲミテ 水戸義公御 由自在ナリ。 レシナ 徂

話ハ三 ルニモ、 レバ唐 モ知 ソレ故世語書タル キマデモ、 又王元美ガ刪去タ 合点ユカズ。詞ノタラヌヤウナルコトアリト見ヘテ、 ノ詞ニ似テ 刪去リタ 南郭語ラレケル。 レ、又ハシカリタ コトハ勿論ナリ。 ノ頃ノ詩ノタチ一種アリ。 ルヤラン、 ノ初ニテ、 日本 自然似タル ル故ナリ。 アトヲ見レ 談、 昔 処 シカ ブ詞 ハヤ少シスミニクキト見ユ。 ル世説ノ残リアリ。 訓抄、 尤少ヅ 詞ノ ルトモ知ラル、コト リタ 古辞ヲカラズニ多ク書タルト、 ホメ ハアヂナコトナリ。 バ、 ルヤラン知ラズト同ジコト タ タチバニテ時代カラノコトナリ。 一向ニ合点ユカズ。 今昔、 ルヤラ 、字ヲタシテ面白ク書タ タトへ 宇治拾遺、 Ź, バ令韻ナド云ヤウナコトナリ。 今モ古世説トテ、 シカリタルヤランシレズ。チヨトニカキタルニ、 和漢同ジ。 カシコ茲ツギ合セテ見レバ、 ツレ 然レ 面白クナクスマヌコ (〜草ナド バ今日ニテハ、スミニクキモ尤ナリ。 ソコノアンバ 字ヲタシテ晋書ニ書タリ。 古辞ヲカリテ書ケバ、 ナリ。 ル処モアリ。 臨川王ノ選ノ計リノ本アリ。 ソレユへ此度大東世語ヲ書タ 時代カラノ似タ 中ヨリ抜出シタルナリ、 イヲ世語ニ書タルト也 トドモナリ。王 晋書 是ハ 了出来タ 日本 ホメタ ル ユ ソレ モ 也ト ス 王 · ヲ 見 頃 ガ マ Ŧ

政事 クニナサバ、 ラ行コト リニナキ才也、 -至極ヨ 畢竟今ノ江 丰 南郭 コト 戸 ナレド 説 ノ公方モ、 。ナリ。 モ、 其国 室町家ノ 風 俗ヲ改過レ 如 クニナル バ ~ アシキ キ歟。 但 コト シ白石 ニナ ル

- 大事ニ仕 御断ヲ申 不在 「ヲコ ノ語ラレシニ、 ル ノ時ユヘウケトリモアリ。数年ヘテ和ナキユヘ、 スト永々ト謝詞ヲ書テ、 ト、其アトニ書テヤリタリト語ラレ ĺ 京洛ノ 人軽浮ナリ。 成島へ返答ヲ遣シ、 サテ堂上方ニハ和歌ヲ大切ニナサル 小倉中将南郭ニ寄詩ヲ、 御作遣サレ辱奉」存候。 ケル。 成島道筑へ中 但和 ・将殿ヨリ 町 电 人ニ頼越サレ 私方ニモ詩 コ 和ノ ハ決而 コト ヲ シ
- 左伝ヲ見ルニモ、古文 古文ヲ解スル六カシキ コトコ ノ転換スル勢ヲヨク合点セザレバ、 、ニアリ、 ト南郭 ノ説ナリ。 力 ミクダキ タル 1 ハ 굸 7 ジ。
- ミツカ 書ヲヨ テ、ト スマ ナリト ヌ クトヨミ付紙ナドシテ、サテ又本文ヲ打カヘシ再覧シテアリ。 、カタハシヨリスムベキモノニ非ズ。 ク コト多シ。 ヌト云処ハ、 アイモンワリフノアフ処ハスマセトモ、 ヨムト 論ゼラレ ・云類モ、 其スマ スマセズ置ヨリ外ナシ。 タ 大カタ予ガ若キ時 ヌ処曾テ気ヅカザリキ。 ノ如クナルベシ、 畢竟注家ニ色々云フコト、皆スイ 南郭老師モ若キ頃、 然レバ今時ウデマクリシテ、 其外ハ推量ニテ、 ト南郭語ラレケル。ソレユへ 漢書ナドヲ コノ外ニハ料簡モサ 其後ヨク見レバ、 本文注 リヤウ 客気ニテ古 中々 力 ケ
- 白楽天ノ詩 風ヲウ 南郭云、 ラハサズ、 記事本末ハイカニモヨク事ヲツヾ 小督詞楽天ニ擬シテ見テ、 ケテ作レリ。 清人ノ詩文二三冊ホド ヨク明白ニシテ、 ノアシキコ 但博学 誰モ云コトナレド ハヤ 初テ楽天ノ及ガタキコトヲ知リタリ、 シカモ情ヲ失ズニ作レ ハリ明季ノ博学ヲツギタリト見ユ。清ニハ詩文ナシ。 'y' リ集メタ アル、 二十部モ書林持来リテ見セタ ルユへ、 モ、 長恨歌ナド ル 明ノ事ヲ見ルニハ、大ニ益アリト ハ、千秋ノ絶伎、 - ノ如キ、 ト南郭語ラレケル 古事ヲ用ヒテ上 元瑞モホメタ J. 明末ノアシキ 明史 ヘア ナリ。
- 見ツベ 国初ニ文章ノナキハ云ニ及バズ、 其中ニ扶桑隠逸伝ハ、 徂徠興ラル、 少シマサリタ マデノ ル ヤウニ覚ルナリ、 内 文ハ クラヤミナリ。 南郭 げる話ナリ。 羅山 ナド
- クト二書ヲヨク見タル人ノ点ナリ。 ·南郭 白文ノ刊本久シクアリ。 が話ナリ。 コ アシキ処スコシアリ。是ハ羅山ノナホサレタル レハ点ヲヨクツケタル 、モノ也。 古代ノ人ノ点ト覚ユ。 ト思
- 韻トヒシトアフヤウニシタリ。 モノナリト也 清人ノ作ニ古今通韻ト云フモ 珍ラシキモノナリ。 ノ ア Ű, 古韻 シノコト クト ヲト セ ン ・ギスレ クト セ バ、 ン ギ スマヌモノモ、 ツメ テ、 古今ノ
- ス ル ラ中ニ、 人ア 文ニ至極ノ六ケシキモ ソ ハ詩 ノ六ケシキ ア ン バ 詩 1 ヲ ハ 知ラザ ナ グリ易 シト云テ、 ル故ナリト、 文ヲ専門ニシテ、 返

- 南郭云、今ノ諸侯方ノ詩ヲ作ラル ヲカシキコトナリ語ラレケル 貧窮 ユ へ外ニ大ナル奢侈ナラデ、 学問 \sim 奔 ij タ 7
- 中二、 芸 詩文ノ上手沢山ニナキニテ知べ 日本ノ学者、 見ヌサキ 中華ヲメツタ ^` マケテカ (二文物] ` ル シト語ラレ ハロヲシ 国 卜 覚 ケル コトナリ。 ^ y_。 中華 ノ 人 中々左ニテハ ハタ レ モ ナシ。 スサ マ 唐ノ人 ・ジキ学問
- 水ヲレムル石アリ、 東海寺ニ遊テ服愿卿 墓盤ト ホリ ´タリ、 墓ヲミル ト子叔語レ Ξ, 表ニ隷字、 Ĭ, 陰ニ南郭老師 文ヲ エ IJ タ Ű, 前
- 菅道伯語ラレケリ。 仁斎ノ実徳ト、熊沢 ノオト、 予ガ学問ヲ合テ、 聖人ガ出来スベ シ、 1 ·徠翁 ノ 云 レ タ ル
- 供シタル人ニテタヾケヲ云タルト也。 此記有 |山生 |、猶是八戒黒旋風邪八戒……ト云ハ 〔割注〕名換図、 俗称安藤仁右衛門、 東都人。」 人ノ名、 ノ游相紀 事ノウラニ、 玄奘ガ天竺ニ游ビタ 徂徠 ル時、 書レル
- 芥子園画伝六冊、 至極ノ好本ナリ。 サイシキ仕方花鳥モアリ。 唐絵手本此 上ナク見 ^ 侍
- 句ナド、 之又云、 ノ撰タル ナリ。 淡ノ処ヲ学ベバ ニツイテ学ブニシカズ。其ノワケハ盛唐ハ、 元美ハ大ニヲトリタル 詞ヲカラズシテ、 今ミレバ作リ習ノ詩 テタル故、 カタナルベシ。七才子 ゼメニシテ、 テナシ。明一代ノ上手何大復ガ五律ト云フト 云ハ南郭一人ナリ。〔朱書〕標榜尊奉甚可咲。」又五言律、 ノ自然ノ処ニ至 (割注) 歌行ノ上手唐三百年ニアレドモ、 ズ 一片征鴻海上過ト云ハ、 李ガ文面白ケ ノコリニ比ベラレテモ、 唐詩 ネリツメタル詩ユへ、 名羽亨氏、 翼之ノ論サン `` 格調 古メキタル色ナリ。 日本人ノ IJ ノヤウ也。 ド 人也。 トハ ノ中ニモ、 タル 東都 モ、 ガ多シ。 自殊ナルベ 分ニテハ、メ 柳子厚ヨリ入レ ジ ****ナリ。 ○文ノコト、 外ノ六子ハ皆手ヅ 大復ガヲト 唐詩ニチ ヤ 式 ソレユへ于鱗ヲ目アテニシテ、唐詩ヲ学ブガ至極 ク ソレニト シ。 ハ ハデナルコト 七言歌行 イナ 色々ヱラベバ ツタニヨハキ詩ニナリテスム也。 元美ガ文変化 又明ニハ グトモ 自然ノ気運ニヨリテ出来タル詩ナリ。 リツキテ学ビタル ル 韓退之ヲ、 ・モ、 ル ル ナル ヤ べ 随分ニエラミタ ハ風逸ノ才ニテナケレ シ。 ウ ヲトラヌ 歌行スクナシ。空同ヲ上手ト云ドモ、 ナキガウラミナリ、 マヲキカ べ サテ又盛唐ヲ学ブトナラバ 少々ナラデハナシ。 自在ナ シ。 コ ドウミテモ古テナル文ナリ。 盛唐ノヤウナル 李 也。 ァ セ、 Ų ル 又七律 ガヨシ。 クラベ コ 巧ヲハ 金華 ル。 何 ガタシ ノ内ニモ、 ハ奇ヲ好 タラカセテ作リタ サテ于鱗ガ詩 ト翼之云へリ。 カ五律ヲ唐ノ五 古今和漢 于鱗ガ詩 ハコレヨリ後 彐 ト云。 メドモ 必于鱗 ソノ平 上手 ハ 古文 学問 ノシ ヌ

平淡ナ ヲ第一等ト存ゼシ也。 ハ皆其体ナリ。下手ナガラ其体ニテ、 メキテ出来タル 欧 ク ハ 万 ヨク似タリ。 随分ニ出来タル 何トヤラン古メキタリ。 ハ珍ヲ味ズシテ、 蘇ノ文ノ精華ヲ咀嚼シ得ザルユヘ、明末亡子ノ文ヨリ上手ハ無ト覚タル ル ナキ文ニテ下手ナリ。 、甚尤ナ 菴ノ擬作、 ハ史記 記ノ文ニテ、 説ナリ。 也。 于鱗ニ擬シタ ○中華前後漢ノ文人ノ文ヨキト云ドモ、 又元美ガ詩 ハ梁有誉位ニナ 藜藿ヲコ ソレ 唐詩モ史記ト同ジ 才ハ敵 ソ デ人ノナミダヲ落スヤウニ、 ル ノ上モナキ美味トヲボヘシ田舎人ニヒト レ ハ文ヨリヨシ ユヘ序事ノ スベカラズ。 カチヲ取タルモノナル 丰 ル ツ べ シ。 似 コトニテ、 躰ナド、 タリト 又云、 上云。 金華ノ詩モ下手也。 此論、 モ思ハ 金華ノ文ノ 何 ト 古詩ヲカラズシテ書レ 感ズル ベシ。 植末 三心服 一二篇ニスギズ。 レ モナキ処感情アツ ズ。 中ニテハ 〔朱書〕 此頃 孟浩然ナドニ擬セラレ ハ史記ナリト云。 何ト云フコ 翼之又云、 シ。 書牘上手ナリ サ ナリ。 後世ノ文人 タルニ、古 ノ諸先生、 又南 バ 子式 南 可憐

火災ニカ 東涯 上野君則 内守殿用人モ尤ナリト云シトゾ。 ソレユへ楽ノ 尋有レ之度旨、 予ハ楽人ニ非ズトテ出ズ、三日 遺書ヲ観シニ、胡伝ヲ駁セル書ナド ` (割注) レ IJ, コト 上河内殿 名傚一、 トナン語ラレケル。 ハ得不山申上山候。 (割注) 字千蔵、 君則ハ春台ニ従学スルコト三年ナリシト語レリ。 于時寺社奉行職。」 ヲ経テ河 文学ノ 秋元但馬守殿家臣。」 モ入テアリタリト コ 内守殿ノ邸ニ至リテ、 御尋成サレ候ハ 御指紙ヲ以テ、 語ケル ゾ。易学通解 バ 可 ハ、 声 春台琴 春台ヲ召サ ハ楽人ニテ候ハズ、 上 |候トナリ。 ハ 写置タルヲ、 コ 又云、 =

受タリ。 頤斎 ハ深見玄岱ノ二男ナリ。 玄岱 い明 ノ独立禅師 飲中八仙歌ヲ石刻ス。 ノ弟子ナリト 跋ニ見ユ。 如 ボキ墨帖 ナリ。 父玄岱 ヲ

朱子ナドノ手ヲ、 面目ヲ免レズ。 ノ手ハアシキヤウニ拙 ナキニ、 広沢 和人ノ面目 [割注] 初テ草行ヲ書出シ レ タル 書家者流ニ悪筆ト云トモ、 故ナル アリ。 俗称 (割注) ケレドモ、 細井二郎太夫、 小楷極テ見事ナリ。 べ シ。 源内。 中華 タル上手ナレバ、 春台ハ 人ノ古人ト見ユ。 平林モ和人ヲ免レズトナリ。 唐流ナレドモ、 官与力。」 今見レ 鳥石山人ハ東都 バ及ガタキ。 和習アリト云ド ノ書 豪傑ノ故ナ カタマ 開国 何 ト リタ ノ 第 ル モ名筆ナ 已来楷法 ル ヤランヨキ手 ベ 手ナ ト云ト シ。 ノリ、南郭 ル ハ ・モ、 べ ア シ。 ト見ル ハ巧

説ニ、 ヤ。 有徳廟ノ 上米ヲ命 ゴ トゾ。 何 ゴ 海内 ゼラレ ・ゾヤ。 タル時、 封国皆国家 聞 ヌ コ 耻辱ヲステ、 ノ命ナリ。 ナ IJ 云レ 御用ア 仰出サ 电 ラ ル バ 何 ア IJ トテアゲヨ 語リケル。 ケ ルヲ 大ニ譏

ケリ、 胡乱ニ書ツケ候ユへ清書仕指上可 加納遠江守殿、書林須原屋新兵衛ヲ以テ、 ベキヨシ 其故 ・ノ意ナリ。 ト君修ノ語ラレケル ハ決テ内官ヨリ物ヲ指上ルコトハ ヲ云越サレ 加納氏 タリ。 ハ紀伊侯 春台ノ答ニハ、鄙人ノ著述上覧ニ備フ ノ卿大夫ナリシカバ、 ¬申候へドモ、 春台へ セマジキト也。 経済録ヲ一覧アリ度ヨ 老衰其儀難」仕ヨシ御断申 有徳廟扈従セラレテ諸侯ト 執政 ノ内ヨ コト難」有候。 IJ 仰下 -サレナ 上ラレ 実ハ が出 ナラ タ ス

二似セテ似ルト云コトヨキコ 君修云、 ハ、書法計ニカギラズ、 関思恭ノ書ハ広沢ト 文モ詩モ学問モ皆同ジコトニテ、 其儘ナリ。 トナレドモ、自分ノ持分ニー家ヲナスベキニ、 是ハ 口ヲシキコト 也。 師匠 広沢ノ奴ト云ベキナ ノ奴ト云ベキ也。 似セ物ニ ij ル

モノニテ、 仁斎ノ大学弁、柳子厚封建論 仁斎先生ハ 日本ニ乾柳流 学ビタル 人ニナルベキト ユヘノコトナル 面 ヨク欧陽永叔ニ似タル 白キコトナリ、 ノ文章ナシ。 · テ、 東都ニ来リシニ、 ベキ歟。 コ ト君修語レリ。 ハ甚無理ナル文ナレドモ、 レハ徂徠不二勃興」已前ハ文章ナキ故、 ガ、 野村新五左衛門ハ彦根ノ人、 春台死ナレタリ。 大学弁、私擬策問ナド 文 ノ 一 此子賤ノ文少シ韓柳 ハ 体 ヨク出来タル 名公台、 ラ理屈 徂徠已後ハ皆王李ヲ 字子賤、 ハヨク書ト ハ宋文ナリ。 ガカリ也。 春台ノ門 リタ

南郭云、周南病中ニ、 周南病気快復ノ頃、 ハ此稿門人集タリ、 南 ハ南郭ヨリ四ツ年ヲトル 其書牘ヲ見出シテ、 モシ世ニ伝ベキ詩文モアラバ、刪リテ節集シテ伝へテクレラレ 詩文稿ノコトヲ服子へ云越ル状ヲ書テ、 也。 南郭ヘヲコス。 イマダ全集ハ来ラズト語ラレ 褥 ノ下ニ入テアリ。 其趣意 ヨト也。

君修云、 アリ。 朝鮮退渓ガ集ニ、 其説自省録 天下古今難」処ハ ニノ 事難、処コトハ第二等ニツキテナリト セタリト也。 宋高宗ナル べ シ。 趙苞徐 庶 ハ モ、 モ ハ 早ク決 ヤ ア ノ 通 断シ = タ テ ル \exists ガヨキト云 力 ル べ シ。 又

君修云、今ノ内官ノ勢 モ賄賂ヲイレタマウト ツヨクア 7 ズ。 其 余 ル べ シト ハ殊ニ多シ。 ハ、有徳廟ノ時ヨリ甚盛ナリ。 思ハル、 也。 水野壱岐守殿、 御譜代 ノ諸侯モ皆然ナリトナリ。 本多伊予守殿両人ハ、 高井兵部少輔 ハ 御側職 禎云、 老人ユヘ左ノミ賄 後漢 ナ リシガ、

ハ春台見ラ ル べ コ ァ 語 タ ル 君修ノ説ナ 君修嗟嘆シテ大ニヨカル IJ_。 禎 べ 叙事ヲアツメ シト云 テ、 異同 ヲ セ タ

君修云、 文ニ紀事 体ナ シ。 紀事 体ヲ作 ホド ナ バ 書ヲ著 ス 皃 タ

南郭ハ至テヨク文選ヲ暗誦シタマ クヨク書ヲ著ス。 日本人ニハ書ヲ著ス人少シ。 ^ ルナリ、 君修 ノ話ナリ。 君修又云、 中 華 力

ヘケルモ、

ズ。

- ニ及ビケルト也。 云、 弁道書刊ニ出テ後、 巫祝 ノ徒、 板本ヲ打 破リ度ヨ シ、 寺社奉行松平 ·紀伊 守 ^
- 元鱗云、春台ノ漢書ヲ見レバ、 処ヲヌリケシ、悉ク直シ、 字ヲ改メ、考ヲ書込、 五色ニソメタ ル 小紋 評 ノ入用ニナキ処、 如クニ見ユ。 ゴ 朱ニテ塗抹 フンニテ点 シタルト 1 ア シ 丰
- 子式 シカト目当モアラズ。若キ時杜子美ヲスキテ見タルユヘ、ド 云レタルトナリ。 割 注 高野蘭亭、 (朱書) 東都盲人也。」 自負誇詡 ノ甚シト云ベシ。 或時南郭ニ、詩 ハ何ヲ目当トシタマ 夫ヲ信ゼシ コヤラ似タルコトモア ハ愚ノ至ナリ。」 フ哉 ト問 シニ、 ル ベキ、
- 池秋平、 人トナリ画ヲモ学ベリ。 南郭ニモ相見シ、 字ハ 柳沢下野 公敏、 (割注) 号九霞、 松平大隅守殿ノ大夫、 平安ノ 人ナリ。 元ハ大商人ナリシ。 少シ学問モアリ画ヲ能ス。」 東都ニ游覧シテ
- 鵜士寧 送三帰船 重応」問 〔割注〕 幕下土、 三勝游一。 一、雲鎖三朱門 鵜殿主膳。」 隔」江連二墨水一浮、 聴潮 館船帰賦奉」寄口主人源公 狂歌乗二独夜一、 酔臥易鳴流、 使君灘上一雨 且喜往来便
- 顔氏家訓ハ、 春台甚好レタリト也。 物ズキ似 タ ル ユ ヘナ ル べ シ、 ト君修ノ話ナリ。
- 春台云、 甚ヨメニクシト云レタリ、 中華古人ノ叙事 ハ甚ヨメ易ク、 知言ナリ。 理論甚 ヨメ ガタシ。 後世ノ文ハ理論甚ヨメヤ スク、
- ガヒタリ。 春台日、 御当家ノ末ハ、 明ノ世ニ引付テノ論ナルベシ。」 大カタ盗賊ノ乱世ニナル ベシト云レタリ。 〔朱書〕 大キニ量簡 チ
- 宋ノ詩アシ 復 来ズ 歌行七律五律ヨシ、李ハ絶句ヨシト品ヲ定メタリ、 ラ べ キハ論未定ナリ、 数百年衰タルハ論未定気味アリ。 力 リス説ナリ。 ンナリ。 □ (東晋カ) 〔朱書〕古ニ復セバ腐爛物トナルベキヲ、 ヨリ盛唐ヲヨキト見付、 此後、 詩ノ論ノ如ク、 其後空同、 高廷礼ニナリテ、 大復出テ、 段々人出来テハ古ニ 幸二其様ナル人 于鱗、 杜 元美出
- ハ談議僧ナリ。 南郭詩· 文ノ 往復アリ。 本多越中守殿初相見ア ル べ シ T IJ ヲ、

- 春台乱族伝ト云文ヲ書ルベシトテ、 ヲ乱族ト云トナリ、 ト君修語レリ。 志不」果没セラレシ。 コレハ異姓ノ子ヲ養テ 嗣 ス ル
- 春台ハ至テ精力ノ キシテアリシトナリ。 従容トシテ居ラレ 処ヲヌリケシ、 タルト也。何ゾ物ヲ見ルトテモ、 ツヨキ人ユへ、 厳密ニ整斉ナリシトナリ。 君修語リケル。 明日 ノ コトヲ今日 史記ナドモ元鱗ガ云シ如ク、 必唐本表紙ヲ和表紙ニカ シ マ ヒ置 ル、 モ 也。 五色ニサイシ ^ ユ イ ´ツキ ツモ
- 君修云、 欧蘇文必ミツベシ。古文辞家ニ非ズトモ熟覧スベ キ也
- 子式、 南郭ニ僧へ詩ノ 、往復ニアヒシラヒ、 インギン過ギタルハ如何 問レシニ、 何 ト カ方

外ノ交ユへ、 ヨクアヒシラヒテ、 チトインギンニ

- スルト、云レ シト ナリ。
- 文廟ハ憲廟ノ政ニ相ソムキ、 有徳廟ハ御自分ノ御物ズキヲ立タマフ故、 有徳廟 ハ文廟 チト内宮ノ権威起ルナリ。 ノ政ヲツト メテ破リタマヒ、 憲廟ヲシ タヒ
- 公族大夫ト云ヲ、 ト云 同姓 ノ大夫ト云コトニ南郭ハ用ラレタリ。 春台ハ公族大夫ハ 役々儀ギ ノ名 ナ
- 甚功ア 爽鳩氏ハ鷹見三郎兵衛也。 ル人ナリ、 四十有余ニテ短命ナリ。 原田 侯 (割注) 春台屢賞セラレシ人ナリト也。 三宅氏。」 ノ大夫ニテ、 政事ニ殊 ノ外心ヲ労
- 春台日、唐已前出家ノ宗門ト云コトシカト立ズ。達磨已後大二禅ハヤリタリ。 謂二之内教一卜云論、 多クアリシカバ、 明 一代ニハ律ノ出家多シ。 発微録ニ出タリ。 此仏書甚面白キモノ也ト云レ ソレユへ明ノ世ハ詩僧伝ナシ。 シ、 ト君修話也 城中ニ治
- 東野モチト放蕩セル人ナリ、 シカバ ノ咄シニ、 始テ驚タルト也。 天文ハ知ラズ、 宵 金華モラチナキ人柄ナリ。 ノ明星ハヨク覚ケルト云シカバ、 然ドモ春台ト甚懇意ナリシ。 春台隠伏アルコトヲ語ラレ 金華
- 弁名、 弁道ハ、春台ト南郭ト立アヒテノ、 校正ナリシトナリ。
- 春台ハ入門ノ弟子ヲトラル ` 時、 殊ノ外六ツカシキコトナリ。 其故ハ無行 ノ人ヲ、 門人ノ
- トモナキユヘナリ、 ト君則 〔割注〕芸州儒臣。」 詳ニ語リケル。

上路ト云コト、南郭ハタヒノ

コトト云レシ由、

子式ハ御路ナリト云レ

- 老子ノ注ハ韓非ガ解老ニモトヅキ、 荘子ヲ引合テ注スベキ由ノ物ズキ也ト語ラレシ
- ノ話ナリ。
- 元鱗日、 直ニ其日 ノ会ノ書ノ字ノ違ヲ直シ、 ノ方ニ会有リテ、 毎七ツ半頃ニス 又ハ考フ ル ム。 所ヲ、 人散ジテ後、 書込ナド 春台ハ -セラレ カマヲヌガズシテ、 タ ル

国雪フ 諸侯ノ参勤月ノ制定ラレシ時、大ニセ 三月御参府御暇、 ユ ノ長キヨキ頃ナリ。 六月二定ラレシ由、 ル国ニ道路ナラズ。 国主外様ノ諸侯四月ト定ラル。三四月ハ御馳走ノ心ナリ。 御譜代ノ諸侯ハ六月交代ト定ラル。 八月九月ハ西海秋風ノ起ルナレバ、 春台ノ語ラ ンギアリシ レシ、 ト君修ノ話也。 コ 也ト云リ。 十月ヨリ冬中正月二月マデ、 筑紫大名 尾張殿、 紀伊 ノ参勤ナラズ。 殿、 不以寒不以暑 水 ソ

観海楼ニ過ル 不」宜。 今ノ 甚不自由ナリ。 メテ見ラレ 智慧ヲ出スト害アリ。 、ハ利口、 何レ タリ。書物ヲト ノコトニモ其道筋ト術トアリ。 ナル 序ニ、三田ノ長松寺ニ於テ徠翁ノ墓ヲ拝ス。 春台翁ノ墓碑石金一枚ニテ、 ユへ、 ソレユへ市町ヲ過ルトテモ、 何ゴトモ其道ヲ不」学シテ、自分ノ智慧ニテナス ヂル類ノコトモ得手ナリシ、 ソレヲ学ベバ骨折ラズシテナル 購得ラレタルト也。 何ニテモスルコトヲ、 ト春台語ラレ 君修語リ シ虫、 シハ、 ユ 君則ノ話ナリ。 コト 東都ニ墓碑石 ヨク気ヲト 也。 結句其術 自分

ラレテ ハ諸国 反古ナドニ、 、咄サレ、其外色々ノコ 春台モ又其通リナリ。 ノ咄シ色々 サマ コト、 ートヲ、 タトヘバ国除レ ノ咄ヲ広間ナドニテ聞タルトテ、 人ノ語ルヲ随分心ヲト ヨク覚へ居ラレタルト也。 タル侯家、 メ聞レ タレソ シト 書付置レ レト指ヲヲリテ、 君修語ラレケル。 也。 歿後箱ノ中 タル ヲ尋出シタル 上光状 力 ゾヘ 7/. ゥ

徂徠ハ算用ナラズ、 ニ少シ違有ルヨシ也。 怜悧不」可」当コト、 唯紙 春台クワシク改メテ、 コレニテ知ルベシ。 ノハシナドニ書付テ、 唯八算マデ覚ヘラレタル由、 字ヲ直サレタリ、 数ヲトリナド シテミテ、 ト君修語リケル 度量考ヲセラレ シレユ 度量考

良殿 長沢純平処士タル時、 ヲヒザニイダ ツカ セリ。 タリトモ、 コトアリテ、 + キコ アノヤウノ大石ガ徒ノ不義ヲバナスマジキト云 字ヲ教へ、 ヘヌ論ナリ、 大石父子、 赤穂ノ内匠頭殿へ呼出サルベキ相談アリケレドモ事ナラズ。 学者ニシタテタル男ナリ 吉良ヲ殺セリ。 ト君修語リケル。 純平日、予赤穂ニ 純平後二高田 一侯ニ仕タ ツカ ^ ヘザリシ ٦ ° 純平 J. ハ 二子喪明セ ハ大石ヲ以テ 大幸ナリ。 サテ吉

ア 也。 コ レハ県官ヨリ命ゼラレ、 タ ル

一子亮日、公穀二伝ハ、ヨコミチノ理屈ヲ云タルモノナリ。

子シテ 紫芝園稿 書タテ 希汲 彫ラセタル (割注) 植村孫四郎。」 ・ナリ。 ト子亮〔割注〕 名明、 宮田 氏 奥小泉侯臣

無器用 拍子キカズ、 勉強精力ヲ尽シ テ、 楽ヲ学バ レ タ ル

舞楽ヲ セラレ タリ。 辻氏ヨ リ免許状 ヲ モラ ハ レ タリ。 諸子集ノ 诗 舞ヲ二曲 7

ボス内 鉄槌何 ツマデヲキテ、 ル 卜也。 ル シタ ガ四五冊 五. 力 誤写ス } ノ ル 六ツ過ニヲキテ、 リアツメ、 滄溟集モ書写本ヲモタレ 日 日 ロヲ定メテ、 シ、 ヘツクヘヲ片付テ、 書ヲ見ラレタルトナリ。 ルトテ倦メ アリ。 元麟語リ 簡意ニ注ヲシタルガ、 外ニ唐詩選ノ 在宿シテ客待タリ。 バ必外ノ書ヲ見ラレテ、 Ź ツクヘヲ羽箒ニテハ 小ツクヘヲ出シテ、夜 タルニ、 如キ、 抄書ハヨホドアリ。 小 月二三八十ナド 全部出来ダチタルニ、是モ火災ニカ、リタル 火災ニ焼レ 本ニドヂタ ライ、 誤写ナカリシト ル抄 サテ書物ヲ読レ ハ小 タ ル 群書雑抄 博 ツク 出 九度ノ会アリテ、 書アリ。 又徒 ^ ナリ 也。 然草ヲ嗜好テ、 /シト也。 秋頃ヨリ冬ハ夜四 名ヅケテ、 タ コ レ ハ 秘 写物ヲス 燈ヲト セラレ ル ラ

トナシ。 画ガ書 秘事ナレドモ伝授スト語レリ。 ノ至極 ルガアルガ、 二重書キ 其上ニテ墨ヲイ 花鳥ト得手 日本 範囲 其小細ハ E 皆確論ナ ノアシキ処 ル 探 其最初筆法 ューへ、 ノ悪流ノ俗 ヲ出ヌ画 ベキヤ。 幽ヨリ席絵ト云 古人ノ真筆ニテ丁寧至極、 ラ書テ ヤキ筆ヲアテ、、 ユビノ衣紋ナド レテ本ノ画ヲカクナリ。 二重画ヲ書ト云コト、 ハ へ陥リタリト云へ 1 用ニ立ヌナリ。 ヲキタリ。 ・画法ト コトナ コト J_° ヲ学ビテ書テミテ、 ヲレ ソ -始リテ、 ・チガ 又牧渓ノ竜 ŀ レヲハ 又専門ニ唐人ハス カクニ画ヲ見ワケテ ハ IJ. フタ 人物書ニナラント云テ、 又囲ヲヌケヨト云コトヲ、父ノ養辰朝タニ云ヘリ。 狩野家ノ者今ノ人夢ニモ知ラヌコ 精神ヲ労ス ガアル。 ソレ リツケテヨク沈思、 画 ハ、 ス タ ユヘ唐画 本ノ竜ト云物ナルベシ。 レ 二重ニ墨ノイ ソ タ y_° ル シテ其所長ヲ合点シテ、 ア見ル モ、 ルト云ニモ、 席絵 クル 日 本ノ古人ノ画モニ重書キ也。 サテウス墨ニテ下画 ト云コト 、人ナキユ べ シカ シ。 ーリタル ナリタ 先細工書ヲス カク アル ガ見 ^ 竜ニ火焰ヲ ベキ ル ヘテ、 今ノ世 或ハ ハ ・ナリ。 ク ナ コ シト 心ニテ席 ルト云コ ヲカキ、 大事 ハ俗 力 = ク アラ コ

ガ下 アス リハ、 ・ヲ掌ニ握 モ五斗カ ナ レ カリ ノ岩ホトナリ 太閤豊王ノ寵セラレシ人ナリシガ、 ケルト IJ タ ト ル ヲ、 狂歌セシヲ、 太閤 ガト云タル ムスマデ、 太閣聞召シ、 ガニク ト云タル 太閤ガ一石米ヲカイ 丰 ソロリヲ召 - 云レタ 天子ヲ君ガト申セ ! テ、 ル 時、 此狂歌尤ナレド 君 ガ世 カネテケフモ五斗カ シト云シカバ、 千世ニヤ モ、 千世ニ ワレ 天 イ

一徂徠ノ和歌、一世ニニ首ヨマレシニ、

吾門の五もと柳枝たれて長日にあかぬ鶯のなく

実業卿関東下向ノ時ヨミタマヒシ、

足からの関路の鳥の夜深きに朝日をうはふふしの白雲

- 徠ハ此人タノミテ弟子ニセラレタリ。完翁ハ春台ヲ殊ノ外ニホメラレタルト也。 継善、 字完翁、楷書ハヨク書レタリ。春台モ子允東野モ此人ノ弟子ナリ。 ヲ
- 周礼 ノ会春台ニテアリシ時、 和刊ノ白文ノ点ヨシト、 春台モ云レシト也。
- 墨子 ハ茅鹿門ノ序ノアル本マヅヨシト 字彙ニモナキ字多シトナリ。 ナリ、 城制ノ所ニハ春台モ句豆ヲセ ズシテ置レ タ
- ラレ ニナリテハ長門候ノミノ普請ノヤウニ見ユルニヤト云リ。 関東ニテ川除普請 タル コトヲ聞、 サテ 時、 藤堂和泉守殿ノ有司 **〜口惜キコト哉、** 人二先ヲ越サレシトテナゲキタル 某ト云ル ハ 仁斎ノ 菛 人ナリ。 長門候 卜也。 ノ ヲ 銉
- 君修ノ話ナリ。 元禎ガモチタル本ハ文徴明ノ手本ナリト云本ナリ。 ノ本色々アリ。 今ノカン ノ目録ハ本書ト ハ違アリ。 徂徠 同ジ本ヲ子才所持セラレタリ、 ノ方ニアリシ本至テヨシト ナ
- 中院殿 地尋。 帝ノ 鵜士寧送 三人帰 三賞北越 一。 殿云レシ時、 臣ナリ、 ヨリ京人ニシラスナト、アルコトヲ承リタランニハ 知セナリカシト問ル、ヲ、 伝三越客吟 キヨリ事起ル アリシ故、 関東へ仰ラルベキ事ノ、 御譲位 子式モ此詩ヨカラズ、 ノ人ヲバ、 〔割注〕通村。」関東ニ久シクトメラレ 関東ノ臣ニ非ズト云 知ラセタマハズトナリ。 ハ関東ト御不和ナリ。 通村卿、 ト也。 蓬鬢全侵言霜雪色了、 皆押 :留ヲカ 勅命ヲ背キテ君臣ノ礼ヲ敗シ、 御知セナリカシ故、板倉伊賀守殿、通村卿ヲ招キ、イカヾ 知ラズト答ラル。オシテナジリ問ル 摇落天涯秋正深、 レシ故、 好無」恙ノ三字キコへ シ故、 大坂ノ一乱ヲ和平ニト勅命アリシヲ、 菜衣兼製 然バ内々ニテソト 通村卿モ 板倉殿詞ナカリキ。 三薜蘿心一、 故園風樹自簫森、 タル 久シク江戸 ` ズト云へ ナドカモラセラル 人ニ内応スル者ヤアル。 知ラセラル 後水尾帝御譲位ノ事ニ付、 高堂親存好無」恙、 二逗留 ソ レニョ IJ. Щ ` ニ、 中空抱三荊 ベキコトナルヲト、 第六句 アリタ リテ公家衆関 勅命ニテナ泄シソト 台徳院殿御許容ナ ハト也。 べき。 モ スマ 人璧一、 重逐二飛鴻一此 吾ハ天子ノ 足下ニ関東 ヌ句ナリ。 又後水尾 東へ下ラ 前カド シテ御
- リシ由、 伝ニ ハ薩摩へ 所ト唱へテ薩摩ニアリ。 子允ノ話ナリ。 落行レタル 云コト、 秀頼子孫 子允ノ若キ時仕ハ ツタハリテ有リ。 レタ 但シ其御所ト云地 ル 奴僕ガ薩摩人ナリ ハ知ラズト語 ガ、 IJ
- 浅見安正 シ 関東ノ地ヲフ 云テ、 靖献遺言ヲ作リシナリ。 7 ズ、 諸侯ニ仕 ^ ズ 誓へ り。 モ シ時 ヲ得 バ 義兵ヲアゲテ、 王
- 刑 律 ヲ吟味セラ ル コ トヲ不尤ナリトテ、 春台ヨリ書ヲヤラ レ タ ル 申 徠翁返書

- 一定家卿ノ手悪筆ナル由、アマノモクヅニ見ヘタリ。
- 山崎闇斎ノ文会筆録ハ、大ニ用ニタツナリ、ト君修モ云リ。
- 元麟ナドモ徠翁ニ化セラレタ ハ至誠ヲ積タ ル 人ユ ^, 家人ヲ化シ リト也。 タルコト奇妙ナリ。皆聖人 ク思
- 後ハ、 足ヌ トナラヌヲ知リテ書ヲ作レ | ノ諸子ハ ハ、此ワケナルベ ノ童子問、 一見識ヲ聞クコトナラズ。 ノ一生ノ学術見 ワザニカケントセラル、 語孟字義ニテー ユル シ、 ト君修 IJ. ナリ。 然レド 生ノ学問見ユル ソレユへ人ノ論ヲヌスミテ書ヲ著セリ。後世書ノミルニ アノ通リ書ヲ作リ置度コト ノ説ナリ。 故書ヲ著サズ。 モー見識ヲ開キタル 也。 徂徠 戦国 答問書、 モノ故、 ノ諸子ハ、 ナリ、 皆一家ヲナセリ。 弁道、 君修ノ論ナリ。 トテモワザ ニ施スコ 又云、
- 元麟云、 サレ 僕ト云シモノハ、心剛ナルモノナリシ ラレシニ、 ルト云レケルニ、 ルコト不」及」論、 バイ 大二迷惑シタマヒ、 力 ク 春台、 ツマデモ待ンコトハ ソマツナル御会釈ハ、 皆クサレタ 本多中務大輔殿 有司モ大ニ驚キ、 サ レド ルイリコ也。 色々ト謝シタマセテ、 モ聖人ノ道ヲ質問ナサレン為ニ、 不、苦ト云ケレバ、 聖人ノ道ヲ軽ジ玉フトモ云ベキカ、 (割注) 何分是ヨリ答申サン、 本多殿有司へ書簡ヲ以テイリコヲ返サレ、 ガ、主人ノ申附ケル 執政忠良。」 新ニイリコ 有司モセ 3 リイ 使ハ帰レトアリシニ、 ハ、御返書ヲ取帰ルベシトナリ。 ヲ贈ラレケルトナリ。 ンカタナク、 カク御会釈ナサレケルコトナ IJ コ _ 箱賜リシ ソレ 中務殿ニ言上スレ ユヘ奉二返上一ケ ヲ、 不佞鄙人ナ 元麟語
- 元麟云、 ヲ忍ブ体ナリ。 ヲ士ハ云ヌ物 人極メテ才気 ークナル 芝居ヲ見ニ行テ、 タマズト愈答ラル。 白 カ、 石 並ニナラズト云レタル アリ。 1 ト覚タル 吾ニモ痛ト 父 ハ 廱ヲ煩レテ医者来テ見ルニ疼マ 初ヨリ終マデー々ニ記憶シテ帰ラレシト ナル 土屋民部少輔方ニ足軽ノ 白石 べ ハ云ズト云。 シ。 ノ母出テ医者ニ向テ、 ツヨク痛ムト見エテ、 ルトナリ。 医者然バ療治ナルトテ治セリト 小頭ニテア ・ズト云。 吾夫ナル人ハ、 其節ハ壁ニ向 IJ 医者イタ シガ、 ナリ。 大目付 _ マ 此児アシクナル テ眉ヲヒ 生イ ヌ マデ昇進 療治 又白 ・タムト ソメテ、痛 ナラズ 石七歳ノ 云コト ス。 カ、
- 子綽云、劉鳳ガ李于鱗ヲコナシタル、唯 カスニナリタ 処ハ ニョリ 用ヒ ズ。于鱗ガ才ニテ陳言ヲ ニ、 ミダリ 一通リニコ ニソ シ ル ナシ サ ウニ ル ハ タル テ、 **''** ニ非ズ、 也。 実ハ 然ルニ左モナキ 朩 メ 韓退之ノ才ニテ、 云コナ
- 子綽云、 長崎 遊学シ華音ヲ モ聞タリ。 十有余年已前 コ ・ナリ。 訳者ド モ出合 タ ル

り。 華ハ幼少 モ三平気ニ入ズ。 江戸ニ帰リ、 文章用ニ立ズト、 トノ評ナリ ベキヤト、 〜天狗ノスガタヲアリ ハ天縦ナリ。 サテ見掛リテヨ 宇野三平モ李文ニ点ヲツケタル由、 又云、 コト 甚尤ナリ、 アノ格ナシ。 ア サテ文章ヲ見テ古人ト予機軸ノ合ヤ否ヲ知 コトアリ。 ノ如クニテ用ニタツコト非ズ。華人ノ詩モ下手多シ。華音ト訳学ト知リ ヲ聞、 子綽ニ語ラ 士寧ト君修ハ東都ノ文人ナリ。 時逢タリ。 今ノ 文ノ面白 中々トリツカ ト子綽語レ シ、 但シ 岡崎 文章ヲ見ルニ先題ヲ見テ、 其頃ヨリ看破セリト也。 ソレユへ南郭モ、 又首段ハイカヤウニ書ダスヤ、次ハ如何、 韓非子ニ 二十年前江戸へ来リ、舌耕ナドシテ秋本喜内ニ近付ニナリ、古学古 侯ニ仕へタリ。 レシ ノマ サア IJ_。 + マリ卓見ニ過タルヤウ也。 ` 也。 レ ニ書アラハシタリ、妙ナルモ 又袁中郎ナド ヨリタル処多シト思 ヌコトト思平安へ遊学シ、長崎へモ遊学シテ、 又子綽云、 三平ハ情ノ 四先生文範ハ平安ニヲリシ時点ヲツケタルト 南郭ソレヲ処々直サレタル所ヲ不用、 榊慶右衛門トテ訳者少文モ成タリ。 \mathbb{H} 吾ナレ 予ハ奥州三春 - ガ如ク、 天心 コハ べう。 (割注) バイカヤウニ書ベキト云コ キ男ノ 天狗 書ハ何ホドモ書 ル。 コレ文章ヲ見ル 此ノ 由云レ ノ 也。 ノ人ナリ。 ノ説ヲ東涯見ラレテ、 上田平蔵。」 其次ハ如何ト、 コ シト也。 徂徠ナラデカ、 ハ 弇州 金華ト同 ル ハ社中、 ノ法ナ べ シ。 モ左云へ 子綽又云、 『郷ナリ。 又徠 何郭ノ序文 リト云タ 十五六年前 皆腹稿シテ ト腹稿シテ、 タリトテ、 ノ文人ナリ サテモ ル文ナル 人ノ一言 ル 翁 金 材

穉明 外記モ書レタリ。 徂徠手ヅタヒ (割注) 姓稲垣、 アリテ、春台モカ、ラレタリ。ソレユへ内々ノ 名長章、 土井能登守下太夫。」云、 三王外記ハ、 コトモ能ク知レ 憲廟実録 タルユへ、

穉明云、春台沼田侯 憲廟実録ノ 竹マ ソレニテイカフ手間 クコトモ自分ニセラレタアリ 出来タ ル ノ領地ニ大同二年ノ竹アリ。 トリ タル 布衣以上ノ御役人ノ名乗入ラレタ 电 春台ノ語ラ 随分精力ノ厚キ レシトナリ。 ソ 人ナリ。 レヲモチイテ笛ニセラレ IJ。 楽大皷モヨク覚ラレ 御用ト テ書出サセラレ タ IJ。 タリ。 笛 タリ。

子綽云、安澹泊策問三首書テ、人ニ対策ヲカ、セラレタリ。 ・デノ事 子綽モ書レ タ IJ. 中 IJ

穉明云、 周易反正繋辞以下 注 コ トサラニ能出来タル } 語 レ

奥羽軍記ヲ一覧ス。 内 カラズ。 コト、見ヘタ 大カ 新羅三郎殿奥州へ下ラレシ歳月詳シカラズ。 IJ_。 其子細 見テ然ル ハ三郎殿対面 べ 後ノ文、 春夏ト 前後 云コ 文面ヲ考ルニ、 ミヘタリ。 其間

徂徠今 大御 所 (割注) 有徳公。」 紀州 ヨリ入ラセラレ シ御時云レ ケ ル ハ 中 (此時

間部越前守ニ腹切ラセ、 云如ク成サラレ 目ヲ新ニ成サラレズバ バス。サテ 次第々々ニ衰へ行 国初功臣ノ諸王侯 中興気象ナシトナゲキテ、 クベシト云レ ノ衰タルニ、 御加恩成サレ御取立侯テ、 春台ニ語レ タリ。 其後一年アマ ル 也 リスギテ、 民ノ 吾 耳

- タリ 九月十二日、 ホリツ ケ、 其側ニ太宰太公ノ墓アリ。 裏ニ南郭 東叡王へ使ノ序、 ノ碣銘ア Ű, 天眼寺ニ至テ春台ノ墓ニ謁ス。 末ニ友人平安服元喬撰 裏ニ徂徠先生ノ 文ヲホリ、 東都葛辰書、 孝子純立トホリ 春台太宰先生墓ト篆字ニテ 孝子定保立ト 朩
- アリ、 子亮ノ方ニテ、 7 ・デ直シ、 春台ノ製セラレ 青墨ニテ人名ニーヲナシ、朱ニテ句読、 春台所持ノ杜林合注ヲ見ル。至極念入テ直サレ タル青墨也。 見事ナリ。 注ハ青墨ニテ、 タリ。 ゴ 句上ニ墨ニテ書込 フ ン Ξ テー
- 子亮日、春台詩書古伝ナドニハ、 浄写一日ニ廿七八張カ、 レ タ ル
- ン合点ユカズト云ハレ 九月望、 出ズシテ、 深川へ御代香ノ時、 外ノ人名ヲカリ タリ 子式ニ過訪、 テ詩ヲヱラミ、元美ガ序ヲツケタル歟、 古今詩刪 ノハナシアリ。于鱗ガ エラミ 工 ラミ ヤウ何ト タ ル ヤ ラ
- 子式云、 マシナル 白石 べ シト云リ。 ハ日本開 已来詩 ノ上手ナリ。 去年 朝 鮮 人 1 リワケ下手 也。 正徳 聘 使 東
- アリテ、 子式云、君修十三歳ノ時東都ニ来リテ、 君子ニナラレタル ノミ可 人ニナルベキヤ、 古書ハヨクヨミテ、 キ人ニア 人ヲ排撃シテ甚才ニ誇レリ。誠ニ神童ナレ ヲト レ申トアリシユへ、 気量ノ大サ、 ナシキコトナリ。 ヒ タ ル ユ ٢, 大方ハアシキ人ニナルベシト思タルニ、 ヘカ、 大学致知格物 子式クリカへ 格別違タル 今ニ至テ才気ヨキ位ニナリ、 尤然ル 是春台ノ手柄ト ベシト云テ、春台ノ門人ニナラレタルガ、 、モノ ノ説ナドモ議論アリテ、 シ 也卜 ホメラレタリ。 先ヅ子式ニ謁ス。 -見ユ。 -云〜リ。 F, モ、 ア 徂徠ハ ノ才気増長セバ 子式又云、 見事 南郭、 経義ハ 春台トハ ノ人物 其時十三経ナド 春台ヲウミ出 春台 にニナリ。 中 子允兼テ心易キ故、 自負ニ過テ、イ 々人ニユヅラズト、 人ハ才モ不才モ イカニモ人品 周覧シ、 シタル 春台ノキビ 人ホド カナ 大抵 ル
- 君修云、 衣服ヲ新ニコシラヘテ着テ行レタリ。 ヌヤウニト云シ時、 コ 守居、 仁斎ヲ松平紀伊守殿招キ購書ヲキ、タマフ時、 力 ニアラズト、 ヤ シト 城ニテ、ソナタ 類 徠翁カラ · 亮又曰、 先例 高声ニヒ ナ 徠翁御 v. ・ト笑テ、 高声ニ物云タマフ。 然ド キワタリテ云レタ - モ徂徠 徂徠ヲ東都ニテ大御所御目見仰付ラレ 六十マデ高声ニ云ツケタル物イ コ ||| 見仰| 色々先例 IJ. 付ラ 戦パ格別 京都 ア 御吟味アレドモ、 ル シキコト 所司代公方ノ御名代 コ ノ処ナリ、 ヲ云タルトテ、 ハ、 学問 ۲, 陪臣 物イヒ高カラ シ時、 スル者ノ 俄ニヒキク 大夫ナド ナリトテ 美濃守

- ミニナルベシトテ、 先例ヲ破リテ御目見、檜木ノ間御代官ノ席ニテアリシト也。
- 春台初テ徠翁ニ対面シテ、 経学ヲ修シ タ 7 へト云レタリ。 詩文ヲ出シテ見セラレタル時、足下ハ詩文既ニ一 一見シテ其人ノ長ヲ知ルコ ト徠翁ノ長ナリ、 家ヲナセリ、 ト君修カタレ
- 士寧 詩ヲ産業トス。 トナルニ、 ヘラレ ハ 京師ニテ、 先生 タリト 詩ヲ人ニ見セザレ ハ ヨククタへ玉フト、 ・ナリ。 明霞稿ノ序ノ作者石川正恒ニ学バ 子式ニ語リテ、 バ 餓死スト、 大二嘲ロウアリシカバ、 詩ヲ知ヌ人ニヨク詩ヲ見セタマ アラ、 く カニ答タルト也。 後ニ子式ニ詩ヲ学ビ、 子式足下 フ、 ハ世禄ナリ、 タ 後 ガタキ (二南郭 予ハ コ
- 老子ニ、無名万物之母ト云出タルヲ、 名クト活字ニスヘシ、 ト春台云レタルト也。 林希逸見チガヘタリ。 無名二万物之母」トヨミテ \exists
- 春台モ、東涯ハ五朝小説、 シニクリテ見ラレ タルナラメ博学ナリ、 百川学海、 説郛ノ類ヲトビノ〜ニ見ラレタ トホメタル也。 君修語レリ。 ハミエズ、 上
- 君修云、子路ノ死ナレタル 如何心得ガタシ。 ノ云ブン甚ソマツナル コト、 コ ` 左伝ノ外見ツベキ物ナシ、左伝アソコ 覚ユ。 日本ノ武士ノ徒死ヨリモ、 又空シキ死様ナル ノ所殊ニ簡ナリ。 コト
- トナリ。 春台ハ京ニ浪人シテ居ラレ タ ル 時、 少 間医ニナラレ タ ル ユ \sim 医理ヲバ ト ヨシラレ タ ル
- 春台、三平ニ名ヲ恒有ト付ラレ 修語ケル。 覚ソコナヒト君修モ思テ、 韓文ヲ見ルニ恒有トアリ。 タリ。 獲麟解ニヨレリ。 初テ春台ノ読書精密ヲ知レ 文章軌範ナドニハ不常有 Ĭ, ア ト 君
- ニ符同 仁斎日札ノ ス、 中二、 君修云リ 好」仁者范文正公司君実トアリ。 悪三不仁」者伊川朱子トアリ。 翁 説
- カタムケ呑マ 酒キラ Ĺ, 曲江ハ酒ズキ也。 春台、 曲 江 ノ処ニテハ 酒 ラノ マズ、 君延ヲミテハ

- 翁へノ忠臣ナリト、 汲用ヒズシテ、希汲点ツケテ出シタルト也。点ノ誤ナド君則書出シテ改ラレヨ。 文論ニ点ツケタ ル コト、 希汲ニ告ラルレド 太宰翁ノ書ニ点ツケテ刊出シタル モ、希汲シカト用ラレズ、ト君則云へ ハナシ、 ト子才云ケレ コ モ、
- 君則 云 経邦礼典少シ手ガ モアルベキヤ、 聞テミルベシト云リ
- ヤラレタリト語レリ。 云、 君修、 朱氏文集ヲ反覆シテ見テ、 今ハ朱子語類ヲ読トテ、 人見友節ノ方 力
- 柱国、 顔魯公法帖一冊、 ナシト云。 贈秘書少監国子祭酒太子少保顔君廟碑銘ナリ。 誠ニ然リ。 宝暦三年癸酉新刊ス。 シカレドモ魯公ノ法ヲミツベキハ、 外題ニ顔真公墨妙トアリ。 井子叔云、 和刻コノ本ナリ。 此榻本大ニ刻アシク神采 唐政通議大夫行薛王友
- ラレタリ。 成島道筑撰ナリ。有徳廟ノ喪ノ中 ノコトヲ国字ニ書タリ。井子叔カシアタ
- 観喜寰家ト云小説二帙、子叔カハレタリ。
- 一学山録六冊刊本、君則カサレタリ。中村深蔵ノ作ナリ。
- 子叔、 シ語レリ (割注) 号蘭台、 俗称井上嘉膳、 備藩儒臣。」有徳廟 世 ノ コ トヲ書カケラレ タ ル \exists
- 子叔云、紫芝園稿寔ニ一家ノ言ヲナスト云ベ 生ニ属スベシト、 ナラバ、尤トモ云ベキコトナ 及ガタカルベシ。義臣論ナド目ノサメタル論ナリ。 選ノ体ナリ。 トナルニ、 知ル人ナキコト口惜キコトナリ。 妓王妓女仏御前ノ紀事、 賞嘆大方ナラズ。 Ű, 世 ノ毀誉ヲカヘリミズ、 面白キコト シ。 赤穂四十六士ノ論モ、ナルホド 鎌倉ノ賦 ノ至極ナリ。 カナ書ニシテ世上ノ人ニシラセタキコ 人ノ耳目ヲ驚ス奇論、 ハ古賦也。 一体此先生ノ気概、 字ノキ 春秋ノサバキ リヤウ 皆コノ先 全ク文
- □ (変換不能) 囈録写本、 ヲ論ジ、三教一致ニミタ ル処多シ。 君則カシ アタヘラレ 仏経ニハヨク通ジタル人ト見エタリ。 タリ。 長崎蘆草拙著ストア ĬJ. 仏経 コ 卜
- 酔翁帖墨本一 モノナリ。 ₩, 酔翁亭ノ記ヲ広沢 ノ書タルモノ也。 寛延二年己巳ノ板行ナリ。 見事ナ ル
- 見事ナ コレモ・ ル 広沢韓文公ノ高閑上人ヲ送ル序ヲ書タル モノナリ。 ヲ、 墨本ニシタル也。 広沢ノ行
- 子叔云、 東涯 ノ古今学変殊ニ面白シ。 委細ニ書ヲサバ キタ ル モノナリ ト賞美ナリ。
- 五月十三日、 ノ書子允 ノ訃来ル。 十二日夜長逝ト ナリ。 子允去冬少便閑ヲ煩、 春ニ至

塩梅ヲ贈リ 四月末ヨリ食量減、 タ ル処、 計書其中ニ附シ来ル、 面体手足トモ浮腫有」之ヨシ、 十四日弔 ,使遣ス。 前書ニ告来 今日使 ラ遣シ、

- 子允書写ノ難波戦記六冊借用ス。 ト云モ ノ書付テアリ。 其元和記ト云モノ、予方ノ大坂軍記 常通用ノ難波戦記ナリ。 _ 段サゲテ子允 コトナリ。 ノ考ニ、
- 五月十九日、芙蕖館へ行ク、朱注論語ノ講説数章ヲ聞ケリ。
- 南郭云、 二十巻ニ ス 山侯 ル ノ論語徴集覧大カタ出来、 刊力、 リテ出来ヨリ タ ル ŀ · テ 出 シテ見セラ ル
- 水滸 ガル ナリ 卜也。 ナリ。 伝 ノコト、 元ノ ト南郭ノ語リ 西遊記 時ニ出来タ ヨリモ中 タマ ルモノナ ^ ッ。 華ニテモテハ 、レドモ、 明朝ニテトリ ヤ シ、 殊 外 こ賞美 ハヤスコト シ、 ナリ。 力 タ 1) 児女マ テ聞 ス デ面 ル コ 白
- ニヲサ 南郭云、子ドモヲ教タテ、 ラセタ 何ノ益ニモナラズ、大ニ倦心ヲ生ズル 自然ト字ヲ覚サスガヨキト 7 セ ヒ マ タ シ ケ、 ルト ナリ。 慰ニ御覧ナサル 子漢 学問ヲサ ノ孫ヲ教 也。 有徳廟 Ź ヘラル ゾ、 ルニ、 ` ヤ ウニ成 訓蒙図彙ナドヲワタシテ、 ノ御物ズキニテ字ヲ印ニホリテ、 素読ナド ` コ 1 サ ヲ レ ヲ タレ 咄 IJ シ **ツパニ** バ、 タ 今ノ大納言 バ サ ヨキシ ス ナグサミモ ル ハ 公学問 ア 力 タ シ キ 大納言 テ語ラ ズキニ コ ニサ ナ ナ 公 セ
- 南郭ノ聯ニ、詩有 ム腸日聴 | 黄鳥 | 、心無 ム事時看 | 白雲 | 。
- 西洋ニテモ天文暦数ナド 朩 ウ発明者ニテ、 セ ર્ગું ે 覚ルナリ。 メタ モ、 中国人ハ 其中ニ船ヲ乗リマ 、ルナリ。 船下 日本モ外国 中国へ来リ巧ナル器物ナド 南郭 手ユへ驚キタルト ハ、大ニ精微ナリ。 ワ タ シ、 ユ 7 ヘカヤ ^ 色々 り。 ウ ノ所ヲ回リタルコトヲ云タル -覚ユ。 ノ細工ナド 外 国 ヲミセテ、 遵生八牋ニ、日本 ユヘ専門 ノ芸 学問ヲモ ハ、]ニ芸ヲ攻 中 国 -ノ硯箱 ヨリ シ ハ、 タ ル É ル ユ スグレ ノ細工 信ジ ユ \sim ^ ナ ガ ル ハタキコ ノ 中国大ニ尊 タ べ 、コトヲ大 ル シ。 コ トナ IJ X
- ニ向テ作リ コト、 バ 何 タ 今ドウモ合点ユキ ルト見ユ。 モ合点ユカ カヤウ ズ。 · ガタシ。 此類 ノコト 1 罫ヲモリタル コ タ 卜 卜 勝テ計フベ ^ バ 卿 ヤウニハナ 大夫士ナド 、カラズ、 IJ 家ツク ガタキコトナ 南郭云へリ IJ É, 皆 ル 南ヲ正 べ シ。 今 面
- 中国 大名 マ フ 理屈 ガ ス 立ヤウ、 モ、 別ニコ ハ聞 ル コ 今日 世界 ヘヌ ア ヲクミ直スシカタトモ有ル ル コ ノ組ヤウ、 ノ学者ヒキウツシテ、 ナリ ナ ゾ、 又古 天地開テヨリコ 南郭 封建 ノ時ノコ 7 ベ カ ノカ \云ドモ皆アタラヌコ ラズ。 ター色ノ ヲ モ ソ ヒ キテ シカタナリ。 ヲ後世 モ、 郡 :県ノ時 周 公、

- 運ス 云心ナリ。 リツパナル ル マ 時ハスナ 、荘子ヲフマヘテ清言スルナリ。希逸ガ解ハ字ニトリツイテ釈ス。海運則ナド云ヲ、 ア チト 左伝ノ字法ナリ。 モ、 雖」然ト云心ニ用タルナリ。 希逸ハ見タル也。 古書ノ中ニ、 則ト云字ナド、 ア 老荘ナド ノ如クリツパ 荘子ノ用カタ ハ字ノ用ヒヤウ一段チガヒタ ナル ハ然ラズ。海運而 ハナキ也、 ト南郭語
- サマグ テ十三家ヲ立テ、 南郭云、 キ本ナリト也。 存ノ 外ノソレガヨカリキト也。 今ノ杜注左伝 ヤ カマ 又史記 ・シクア 注ヲ除テ白文ヲ見ル ノ注 シ、、 宋本ヲ活字板ニシ ノナキ白 注ヲ削去テ白文同前ニシテ、 史記モ注ガ散々ナレバ、注ヲ削去タラバ 文ノ ト一云コ 本中 トノ 国ニ タ ル ニ、 ハ アリ。 ヤ ーリタル 点ツケテ 戦 本ヲコシラヘタテ、 国策ナド 時出 朩 IJ 来タ モア タ ル ル Ű, ニヤ。 モ 1 ヨカルベシト コ ユ 又国策 会読シタレ ノ注
- 南郭云、 \exists レニテハ人ノアト -覚ルト ク初唐ニ似タリ。 明末ニサマ 然レ タツ バ 于鱗ヲ譏ル学者出来タリ。 コ 中郎モ才ハアリテ、 トヲキラヒテ、 品 唐詩 カハ 袁中郎ガ歌行、 リタル物ズキヲシテ、 ノ体ヲモ見事ニ作ルコ 初唐体ヲ作 李王ヲ -ナレド レ 打 ル 破 モ、 ル ソ
- シタ 俗語ニヨクロヲ通ズ 先生モ俗語ヨホド覚ヘタマ ノ方ニテ、俗語ノ書ヲ見ルト、通事口ヲ稽古スルトハ格別ノコトナリ、ト クニナリテ、 ル 人ナレド 咄シニナラズ。 モ、字ハ何ト書ヤラン不」知、 峯ニツキテヲリタル僧ニヒタト出合タルナリ。 ヒテ、 カワリタルモノナリト語リタマ 俗語ニテハナシヲコシラヘテ咄シテ見タマフニ、 字ヲバ時ニ問尋ラレタルナリ。 ヘリ 南郭語リタマフ。 ヲモ バ学者 日 ク
- 日本今 ノ世界 ノアリサマニテ、 古代ノコトヲ聞ハケシカラヌコト多シ。
- 中国 バ , 堯舜ヨ ノ買物ヲ成サレ 中国ニ比べ視 リ已前 ナ ルニ、 タル カモ知レヌト思ハ 古キ書ニアリ。 コ ヨリ後ニ聖人ト云物ガ出来ル 今ノ士大夫モ、 ル、 ト南郭 カヤウ タマ コト ^ ノ IJ_。 コト モ 知レ ス ズ。 コ 日本ノ今 トナキコ
- 程子 /) 学問 コ 、埒ノア カヌコ 伊川ナド <u>۱</u> 思ハ ノ学問ハー向 ル ` ナリ。 ノコトナリ、 朱子モ実ハ程子ノ学問ヲ見ク -南郭ノタマヘリ。 ダ シ タ ル ラ
- 南郭云、近頃 目録ヲ改出シタリ。 で、任奸猾 南留別志ハ ノ書生蘐園何トカ云フモノヲ作リテ、 万葉カナナルベシ。 物語 = コトナリト セ物シテ出ス。 タマ ソ レ ユ 沭
- 古キ書ニ松浦佐用 ス コ 玉造小町ナ モナラズ、 古楽府ニシ !郭語リ 7 タキ コ 兼々思シニ、 今パ精: 力ウス ク
- 五言古詩、 、 語 ヲ、 爽鳩ノ 詩筌ノ 如 ニシ タ ル ハ 如何 ア ラン 問ニ、 先生云ク、

自然ニ詩家ノ語、詩家 唐ノ近体ノ詩 ノ体ヲ必得 リ合セ ベキトモ思ハレ 詩家ノ語一種別 タル ノ字ヲ覚ユルナリ。 所ニテ詩ニナル ズ、 ト南郭語リタマへ ノ物ナルユ ユへ、キリテ詩ヲ書置タルトテモ、 漢ノ五言ノ古詩ノ字ハ、 へ、成ホド詩筌ノ 如ク 文章ノ字トカハリナシ、 シタルヲ用イ覚レバ ソ レニテハ古詩

甚丈夫ナル ノ会読ニ、注疏ノ字ノアシキヲ、 メンミツニ コトナリ。 ーセラレ アマリニ入用ニハアル タリ、 南郭語リタ 朱子ノ経伝通解ニテ マジト思ハ マ ~ IJ。 ル 直シ 二、 タ 礼ノコトマデ朱子 ル処多 シ。 朱子 学問 ハ セ

美叔下 レ獄テ死タリ。 兄ハ流罪セラル。 美仲ハ 今舌講シテ居 ル、 -南郭語: ij タ マ ^ 1)

説郛ニ、 カナル 前カド見シニハ全書アリシニ、今ノ本ハ少バカリトリア コトニテ、 陶宗儀ガトリアツメタル、ワヅカ二十張又少計アルモア カクナリタ ル ヤ、 皆ガ全書ニ非ズ、 ŀ ツメタルナリト云へ 南郭語リタマ J. 胡元瑞 ガ云 y 。 シニハ イ

南郭云、 モ 詩経説約ナド 叶韻 覚テヨキコ ノコト、 = 詩経ノ時分ノ韻ハ、甚大なマカ サマ 説ヲ云ヘドモ心得ラ レズ。 ノコトナリ。 ヤ ハ リ詩経 後世ニ朱子ナド フ古韻 ハ、 大マ 吟味 カ シ

南郭云、 論語ニ擬シタ 楊子雲大玄経ヲカシキ J. 王莽ガ似セ物ズキト同ジ 物 ナ Ű, ス \mathcal{L} コ べ } キ物 ナリ 1 モ思ハ ナリ。 ズ、 ニセ 物 ズキニテ 清 言 ヲ

嗣子サ ラン、 水戸ノ史局モ学者今ハ寥々タ ト老師語リタ ノコトヲシテ改易セ 7 へ リ。 IJ. 名護屋十蔵総裁タ ラレ、 澹泊隠居シテ物故ス。 IJ. 中々ヨキ学問ニアラズ。 ソレ故遺文モ散落シ 安澹泊 タル ナ

ユ 長崎 中国 封使モ マ ノ外ヨリ 冊封 アキナヒ船ニ乗リテ行 ヲウケル 唐物沢 コ 山 ŀ 二日本へ渡 ヺ、 薩摩へ深ク忌ナリ。 ク、 琉球ハ中継ヲシテ、 ル ハ、 皆琉球 ヨリ薩摩へ 近頃中山 薩摩 取次ヲ ヘスグ 伝信録ヲ見ル スル故 ニ送ルコト = 中国 也。 ル、 ソ \exists

二沢 滄溟尺牘ノ ナドハ見ヲト Щ ニツクレリ。 又于 汲雪ノ字 鱗モ学問ハ シテオリタ 一日ニー首ヅ、書テモ、 ハ、 カキアヤ セ ル ハト覚ユ、 マ ・カルベ マリ シ、 カ合点ユカズト也。 ト南郭語リタマ 古書バ 中々ア カリホジリテ後世 レヨリハ ~ リ。 南郭云リ。 少カル ベシ。 1 書ハ 又元美台王ガ 。合点ノ 見クダシテ、 / ユカヌ アマ コ IJ

違多カ :リタラバ、 鄭玄ガト 周礼ハ会業ノ時、 べ シ。 サラ ソ ァ ク ツ と違と ゙メテ、 ス 考工記ヲト ム ア ベキ 見へ ノ如ク注 ヌヤウ 崽 クト見タリ。 ヲ ル = シ シタ テ置キタリ。 也。 ル コレ ガ鄭玄ナリ。 ハ細工 /解少ノ 人ニ言ツケ、 ヨキ説モ見へズトナリ。 残欠ノ ツキ 遺文ニテ今ハ ス 割ヲ 古礼ノク シテ車 如何 ヲ

トモナシガタキコトナリ、ト南郭語リタマヘリ。

南郭云、 又其俗語ヲ注シテ 俗語ハ次第ニウツ リ替リユキテ、 丰 コ ユ ル也。 ヨク知レ 前ノ俗語ハ多クスタ ル俗語ナラバ、 ル 注 ハ ソ レ故 イ ル 宋儒 マ ジキ筈ナリ 1 注

一先生モ鬼谷子ハイマダ見ズトナリ。

南郭云リ。 物ズキ出テ、 人主ノ学問モ 結句文学ナキ ア マリ \exists リ悪キモ ヨカラヌコトナリ。 アル 1 ゾ、 語ラレ ワ ル ク ケリ。 スレ 文華ニ過ギ、 又 色々

南郭云、 史記ハ未定ノ書ナリ。 注サング〜ニ悪シ、 前後クヒ違ヒ ノ処多シ

才詩ニ出タルヨリ外ヨキ詩ハ 南郭云、 へ七才詩ニアル外ヲヱラミ出シテ見タ ヨリエリ出 諏訪侯詩ヲ好タマヒ、 シ処、百ノ少シ上モアルベキ ナキトナリ。 四部稿ノ七律 ルニ、 カト トカク七才詩ニアル ノ所ヲ、 ・ナリ。 宗子相ナド本集ヲ撰ミ見タルニ、 南郭ニヱラミタマへト ガ宜ク覚タリ。 ・アリ。 兀 レ ユ

賦 南郭云、 ハ弁へガ ヲト アタキコ 賈生鵬鳥賦 リ合シテ、 ト也ト (割注) 贋テ作リタル物ナリト -語ラレ ケル。 鵬、 恐鵬。」 文選ノ注鶡冠子ヲヒク、 云へ IJ_。 然レ バ 古書ニ 贋作 或説ニ鶡冠子 ノ多キ、 今ニテ ハ 鵬鳥

井子叔、七才詩解七巻著シタルトテ見セラレケリ。

説文長箋、六書精蘊バカナルコト也、ト老師云レケル。

子亮来訪、 ハ得仕ラジ。 返答セラレタ ハリヲ云テ、 義山律師ヲ春台セリ 但シ答書稿成リ 春台ノ書牘ヲ除テモラヒ度由ナリ。 ルト タリト ツケラル ナリ。 、コト、 然バ其答書ヲ刊行ニ出サレヨ、 義山其後春台ノ遺文刊 **穉明返答ニ、先師** 行 ノ遺文ヲ刪去ル ノ前 少モ苦シカ 穉明 コ

あまのも -起タリ。 スグレ くづ三冊 タ 其前 ル悪筆ト云コ 一覧ス。 ナキコトナリト見エタリ。 多クハ トアリ。又、 書冊ナド 鳥羽帝ヨリ装束 ノ法式、 ナリ。 恵明 コ ハ 院僧 クナリタ 正 ノ著述ナリ。 ル 故、 衣文ヲツクル 八内定家

霊雲寺覚彦ハ名高キ僧ナリ。其次某モ名高キ僧ナリ。 子亮云、 リテ書牘ヲヤラレ 霊雲寺某、 東都湯島 タルト也。 (頭注) 市川海老蔵ト三人也。 本郷金介町ニ有。 其次ノ義山貨殖ヲ事トセラル 湯島ニハアラズ。 春台云、 父ニマサ イガン島ナル ` レル子甚少シ。 ユヘ、春台シ ベシ。 力

ヌリ ノ庭ニハ ナリ。 モアリ、 ツタト、 何 モヤウ 竹 ツ ´モナシ。 モ植テアリ。 バキヲ多ク植ラル。 屏風 小 ニ色々 キ硯箱ニマ 絵ヲ モ ア Ű, 丰 ヱ IJ ノアル 桜モ マ ゼ ア テ ニ青墨入 Ĭ, ハ IJ テア J. テア モ Ű, ア

- 絵モキリテハリテアリ。 ノ石刻ノ屛風アリ。庭ノモヤウ云カタナキ風雅ナリ。 ツクヱハ小キツクヱ也。 書院床ノ 左右ニハ聯カケテア Ű, 文徴明
- リタルヲ、 半田三平 生産ノ計外ニシカタナキ故、 ハ小普請へ入ラレタリ。 (割注) 上州ニアル三平兄無頼ニテ、 春台ノ家僕。」 御書院番辞セラレケル、 ハ医者ニナリタリ。三平ノ父、 武田長春院ノ弟子ニナリテ、 ソレヲ皆ツイヤシケルユヘ、 ト子亮語リキ 近藤峰安ト名ヲ改ケル。 山 [林田地黄· 三平モ母モ養フタメ 金モ大 分ユ vy"
- ナリト云リ。 ナリト云リ。 梅村惣五郎ト云書肆来ル。 ソレトモニ本少シトテ殊ニ貴重スト也。 京師 ノ本店ニ文選ノ李善注バ 四部稿ヲ携来ル善本ナリ。 カリ ノ本アリ。 帙ニテ価十五 価二十金
- 子叔七才詩ノ注解七冊、絶句解ニ倣テ注セリ。首ニ明 大明一統志ヲ此注ヲスル為ニ購タルト語レ ノ十三省地図アリ。 地名詳ニ注セリ。
- 芙蕖館 スベリヲシキタリ。 ノ講堂 ハ、ワラブキニテ、 夥多人ノアツマルコトナリ。 凡タ、ミ数ニテ云バ、 屋敷ノ裏ノ方ニアリ。 四五十畳モシ 力 ル べ ゥ
- 史記ヲ出シタレバ、ヨク行レタルトナリ。夫ヨリノチイ 宜シカルベシト云シニ、 南郭云、二十有余年已前ニ京師ノ書肆来リテ、 オカシキモノナリト語リタマ ·タルモノモナシ。 史記ノ点付タルガ三通リアリ。 夫ヲ用ヒズ。其後外ノ書肆、 ¬ IJ。 何ゾ書物刊行シタキト云シ時、 其中一通リ点ヲ刪テ、 コノ話ヲ聞伝ヘタルカ、 無点ノ本出来タル也。 白文ト 点ヲ刪去テ サ -シタラバ シテ思 世ハ
- テアリ。十三経ノ汲古閣ノ本モアリ。 南郭老師モ、 南郭老師咄ケル。 近頃二十一史ヲ見タマフト見ヘテ、 注ニ句読ヲシカケテアリ。 床 ノ上ニ宋書ノ 唐本アリ。 又西游記モ百回アリ、 句 豆ヲシカ ケ
- 南郭云、 人ノ流義ニテ誠 広沢已前 ハ 勝 国ヨリ カラヤウニハ 以 来 楷書モ草書モ書手ナシ。 アラザルヲ、 広沢 カラ流ヲ書出 タ 7 「セリ。 玄竜ナド ァ
- 処ガ 如辰、 中華ニ似タル 百 川ノ絵ヲ評シテ、 コト ノミヲシリテ、ツヨキコトヲ似セズ。ソレユヘヨハキ絵ナリ 筆意イ カニモ中華ニ似 シタリ。 唯ウラムラクハ、 スラ シ 語 タル
- 鶴楼遺編三冊 東郭跋アリ、 卒業、 南郭先生ハ伝ハミヘズ。 白石先生詩 ヨリ一段格 調下リ、 中 晚 ノ体ナリ。 室詩礼 / 序アリ。 朝
- 瓶梅二帙百 モ有」之ナリ。 回 鳳州門· 梅村携 、へ来ル、 手ニナリタ 口二巻ニ画アリ、 ル モ 굸 又弇州ガ作ナ 水滸伝 ラ画 1 如 ・モ云ヨ シ。 ーシ 序 図 三見ユ。 ア IJ,

如辰云、 見ユ ニュル 山 ル 補之ガ 一水ナド 也 梅ナド 皆アテ推量 絶テ見 ノ コト タ ・ナリ。 ル コ 宋 ナ シ。 徽宗 王摩詰ガ絵モ上手ト云バ ノ絵モ、 木下 肥後守殿ニア カリ ル ニテ、 鳩 絵正 筀

リニテ、 梁楷 ツケテ、 又云。 ナリ。 又云、 タヾ ルナ 出タ 肩衝 レド -ニ非ズ。 ・ニテ、 ・ニテ、 タ 兆殿司 シ ナリ。 コ ル 旦 ル モ、 ル ノ桑ノ図 雪村 ん絵ナリ。 秋月 ナラズ。 -サレ候 ヲ、 ベシ。 、此器不祥 茶入ヲ五十両ニ求メ悦 レハ手跡ノ コ 今ニ持伝 彩色モ落テ色 又今 ソ 実養朴流ニ引 御老中ヨリ ノ上意ニテ、 〇 主 又養辰ニハ 大ニ埒モナ 元但馬守殿ニ 鮅 ハ ハ レ 京 ト云コト、 雪舟 弟子ニイヅレ勝レ ナル [ガ 始 今ハ ハ 都 [モ探 筆意ヲ 馬ハ 世 求 ア \sim 所司 日ト ノ器 ムベ カニ ツ メ ホド雪舟ノ弟子ナリ。 ノ弟子ニアラズ。 能書ナルユ 此画大カタ外へ払タル 幽家ニアリ。 京都へ云遣 ケル が仰ヲ伝 早 キ論 ナ 力 十三ヨ 探幽 諸侯 世ナ J. 日ヲ定メ シ。 カヘテ ク竹 モ至極見事ナリ。 Щ 1 } 代見タマ ナル 「水ナド、 分 ア コ ル Ű, y_° 古代 ヨリ 也。 ソレ 力 コ ル ^ ニナリ ^` べ 力 コ シ、 ツテ不」知。 シ 又今 始レリ。 廿四 唐子 栄川 -極メ シ。 ヲセ ユキ 全 ク トナ ラ法 F, 流ヲ ケ物 タル絵ノアツテ殿司ニ似タリ。 =, 狩野栄川ニ如辰ツキ添テ、 鮅 イ 探幽又五十 画モ重宝ス ノ子探信、 是ハ聞 雪村ハ奥州三春 ンサク 火災ノ カニモ 書出 テ影 丹芝瑞ニアラズ、 シ。 センサク テ 本多伊予守殿 タ 1 マ ソウタ デ 扇子ニテ蝶ヲヲサユ 中二、 難キ 如ク書テ、 IJ. ウ 絹 兆殿司タクサ ア ッ シ セ カト 、ス墨ノ 又 ٦̈̈́ モ大ニ痛タ セ 1 時 キソヒテ居リタ 古法眼ニ似 ク絵ヲ見タリ。 コ ノ筆意ノ如クア /ツナド 、レドモ、 式 金ヲ出 バ IJ 盗 上手 ノ目 ハヨシニシ玉 其子探船、 ナリ。 盗賊 タ ソレ ナ 賊盗ミトリ 浮 ル肩ツキ 席絵 クマニテ書キ Ű, 利 ノ \sim カラ絵 ベアラハル 世又兵衛 ユへ養朴 御 ハ 1 「セリ。 又文徴明 我儘流ナ J_° 人ナリ。 明画之中ニテ第一 又人物 別 心安シ、 コ ンニ絵アレド タ 其子今 書 ル 物 ク ル \exists ソ 諸大名中 アラバ ッ ル ^ 也 タ ハ モ ル ト云テ、 ク書ケバ ツテ都カへ J. レ ナ ハ ハ 义 卜 流 } \Box べ 狩野友松 古法 ý, ナル ソレ - テ、探· Ű, シキ ケシテヲキテ ユ 也。 ノ探常マデ持チ伝 シ。 也。 ナ コ 伝 画 法ナド Ű, 其肩ツキ京都 \sim ハ 生ウツ ・筆意ナド ハ気象 又養辰 |眼同 ーニア ホド モ, ユヘ定メテ写 ・ヲ廻レ 上 至テ上手 大ニ異ナリ 覧ニ入 唯 則又五十両 器物ニテ死罪 幽ニ知ラセ Ш 正筆 ·雪舟 トス IJ 目 時 ヨキ ラ タ ハ 何ニテモ ハ 代二 ズ。 一風 シ 1 利ヨ IJ_。 ノ高キ絵 面 養朴 } 中 ソ ヲ 其茶 ズ。 ベキニアラズ レ 7 ハ テ、 又李竜! 絶テ 朩 Ű, 云 々見へ ト云名 ニテ 久シ 力 7 \exists 見事ナ 入ニ名 ラ出 ネア 筆意ヲ タマ マ ッ セ シ 「ナリ。 テ進 ニカ ス ケル ウ = タ ク T ナ ク っ。 ル 人出 ル 眠 シテ 力 ル IJ 丰 コ 力 ク タ ヲ タ ル コ ガ コ

ツクア コト、 極メ タ 至極ニ大切 力 セ ツシテ半分ホドニテ止ルユ ヲ書セ法ヲ イ ヤウ ヤウ ケテ ヘテナシト云。 リ。如辰云、似セモノ也。人々其故ヲ問フニヨリ、一々ニ其似セ ・云テ勝な 近頃モ養朴、 ニナ 直シ クナ ノ筆意ナシ。アマリニ能似セタルト見レド 拠ト云ハ、 ウニ書テアルナリ。 ・法アリ。 画 タリ ルナリ。 習ス ニス ル也。 レド ル 至極ニ上手ニ似セタル物ナレド 如川、 其外数十条云テ、養朴クライ 遠樹無枝ト云フト セ 1 / 咄ナリ。 大カタ イノ 年モ専門ニカ モ、 ソレヲ倦心ナ ヒトツ人物ヲ其法ノ合点ノ 随川、三人シテ書ケル松竹梅ノ巻物ヲ、何レモ 法ヲモ又融化シテ書クコ 高サ首ノ六ツ半ト云フコ コ ^ ハヒトツ人物ヲ、 手クセ レラ必法ニカ 吾物ニナラズ。 ` モ、 IJ ハ クカキツケテ、 上手ニモアリ、 テヲラネバ、 モ ヨウニヨリ遠樹ニ枝ヲカクコ ` 日数カ ワラヌト見へタリ。 ソレ ノ絵ヲ出シテクラベ見ヨ。 ・モ、 トアル也。 モ、 ユク場マデニ、 吾物ニナレ ユ ` ナレドモ、 其手クセヲ能知ル タクミ過ギタ 筆意タガ へ上手ニ出 リテ同ジコトヲ書 ノ合点モユ コ 中 バ ` \sim 法ニカ り。 モノナルコトヲ云ヒ、 華ノ官女ノ 来ヌナリ。 ノ処大事ナリ。 カズト語ケル。 其外 十日モ廿日 ル筆意ア 何ホド コト ヨク出来タリト つ 故、 ` カ 、 ハ Ŧ ル時 Ű, ニモ養朴ニ アル 大ニタ 乙目利 モ準テ書 モ、 要ノコ 養朴ニ 人物ナ 也。法 ハ又ケ ヒキ

南郭云、 ガヨ 句、 ン /声ナラバ トヨマ キ也 読書ニ和音ノ 字ヲ叶音ユヘ、 格別 ヌア ル ノコト ヲシラヌ 声ノ違タルアリ。 ・ナリ。 ヒ ン ハ ト今 日本ノヨミニテ風ト云字ヲヒント覚ヘテ、 如何ナリ。 人ニヨマスル以テ タトヘバ 叶 音 ハ イツ 日本ニテハ本音 ノ外ア タル 7.彼晨風 シキコ ハ ノ通リニヨミテ置ヌ 卜也。 存□鬱北林□ナド云詩 外ノ所ニテモ ソレハ 中華 · ノ 読

川越ニ林祭酒 人 ア J_° 算用 上手ナリ。 度考ヲ見テト 力 ク云フベ 丰 P · ウナシ。

孝ニ

ハ誤アリ

駁シ

タル

書ヲ著シタリト

穉明云 云、紫芝園国字書ニ出サヌ書ハ、 ^ 、リト也。 然ド モ実ニ焚キタ ルニハ非ズト也。 南郭ト問答ノ 書牘 P IJ 也。 春台 封 ハ 焚ヌ ル

徂徠病中ニ南郭見廻テ、論語 ハ 面白 シ 定説ニス ベシトテ、 ノ彼哉彼哉ト云コト、佩觹集ノ説見出 即徴ニカキ入サセラレタ ル、 ト南郭語ラ シタ ル レ 咄 シト君修云リ。 T IJ ケレ バ

徂徠 年風立テ、 書物悉土蔵 ^ 入置レタル冬ノコトナル ニ, 軍書少バ 力 リ出シテ見

ラレタル時ニ出来ダチタルト也。

弁ナド ハ 徂徠ニ相見ナキ内ニ出来 タ ル \exists シ。 子允語ラレ シ、 君 修 ナ

校閲 史記 本注ヲ 削 去テ、 字モアザ t 力 ナ ル ヲ (変換不能) 卿持 ル ١,

- 大学解ノ口 ルホド此間 ・ナリ゜ 2吟味シ考存寄モ出来タリトテ、 ノ 一段ハ、徂徠、 水野明卿 ノ方へ行レシ時、 金華ニ云テ、 筆ヲ金華ニトラセテ一晩ニ出来タ 明卿大学ノコトヲ問ハレ シニ、ナ
- 朱子大学ノ 仁斎ノ 按ズルニ、 ニ覚ルトナリ ルベシト思 大学ノ論、 序、 ハル 漢ヨリ已後、 朱子一生得意ノ文ナリト春台モ称セラレ、 也。 邪説暴行 又中庸 韓ガ原道、 ノ対策ハ、無理ハ至極ノ無理ナレドモ、文ハ生テハタラクヤウ ノ 序、 大学ノ序ニ次グ、 柳ガ封建論、 朱子大学ノ序、 ト春台モ云レ 徠翁モ称美ナリ。 此等理論ノ至極 タ ルトナリ。 又君修云、 ツラノ
- 君修云、 殊ノ外ニ博ナラズトナリ。 徂徠ハ韓魏叢書ナド 大カタ見ラレヌヤウニ思ハ ル ` } ナリ。 徠 翁 ハ 後世 1 書
- 子允ノ詩文集十巻アリ、 同拾遺一巻アリ。 巻国初ヨリノ咄シ漢文ナリ。正言二巻モ出来タリ。 ヒズトナリ。 五論ト云フモノアリ、得意ノ文ノ由、 詩六巻アリ、 最要録ト云フモノ子ヲ教ル書国字ナリ。 治国論ナド 乾坤 小説ナド云易ノ説アリ。 コレ アリ。 窓ノ スサミ三巻、 レ ハ用
- 大疑録ハ、春台ノ方ニ少バ 三人ガキラヒナルトナリ。 力 リ抄書シ タル ガア ル ト 也。 君修云、 春台ハ孟子、 朱子、 于鱗
- 叙事ノ文、春台、 ニテモナキ送序ナドハ、 南郭、二人ノ外、 一円面白カラズ、 日本ニハアル ト君修云リ。 ベカラズ。 春台 ハ 理論ニテモナク、
- 墨子ハ徂徠ノ校正セラレタル本アリ、ト君修云リ。
- 元鱗ナド語レリ。 シキニタユルコト得手ナリ。 ハ元来性 書レタリ。 ノ急ナル スベテソノ如クニテー生ノ間、 人ナレドモ、 ソレユへ会業ナドノ日、 学問ニテネリツメテ、 ウロ 外ヨリ来ル タヘタル 従容トシテヲル コトヲ見スル 状ナドヲ書 コト コ コトナシ、 ヲ習テ、 随分ユ
- 徂徠ハ芝ニ舌耕シテ居ラレ ノカスバカリクラハ 二人扶持 ヤラレ タル レ タ ルト也。 也。 タ ル時、 大二豆腐屋ノ主人世話ヤキタル 至極貧ニテ豆腐屋ニカ リ宅シテヲラ ユ ^` 徂 レ 徠録エラレ タ ル ユ 豆腐 タル
- 君修云、徂徠ノ墓誌ヲ春台ノ書カレ 徂徠モ又、 ノ書タルヤ ゥナ 文ノ論アル ヨリ 一人ナリ ベキコ ートナリ。 タ 自 ル、 分ニモヒソ 今少シアル 周南、 カニ云 徂徠ヲ評シテ、 ベキコトナ レ タ ルトナリ。 J. 洙泗以来 韓文公ノ碑ヲ、 ノ 人ナリト、
- 城天皇ト 春台ノ 書 タル コ 如 何ア ル ベキヤ、 春台ハ、 天朝ヲバ、 力 ク 勝国 アシラ

ヒニセラレ タ コト、キ タ 一異ナリ Ű, 南郭トハ大ニ異ナリ。 コエヌコトナリト云、 君修モ此論尤ナリ。 元禎云、 徂徠、 ノ日本国夷人物茂卿、 徂徠モ少日本ヲオトス心ナリ。 ト孔子ノ賛ニ

ヌ説ナリ、 ク聞ユ。 徂徠 ト云意心得ガタシ。 ル所修身慎 説 サレ ト君修ノ説 徳 バ スベテ仁ハ愛」民コトナリ。 類、 顔子ノ四勿ナド、 随分詳ニ見エテアリ。 然バ下ニノゾム民ヲ治ム ナリ。 俄ニ民ヲ治ムル為ニ孔子ノ教タマ 然ラバ修身ハ下ヲ信ズル為ニスルト 修」身コトハ下ニノゾムニヨリテ、 ル人ニナケレ バ 修レ身コ ヘル トハ ヤ、 イラ 書経 云コト 有 タ物 コ 見エタ ハ 聞 ナ 如 IJ

南郭云、 シテナシト覚ルト也。又云、 徽宗ノ鷹ト云モノ、世上ニ大分アリ。 徽宗ノ絵ニハ蔡京 皆偽物ナリ。 $\square_{\hat{\mathbb{Y}}}^{\widehat{\chi}}$ ガ賛多クアルモノ也。 見ルニタラズ。 真ナ ル ハ 決

ナセリ。 君修云、トカク詩文ハ面白クスベシ。聖人ノ定タマヒタル 君修云、 君修云、絵ノ賛ニ中華人ハ多ク自分ニ作リタルヲ書キ、 ノ中ヲ 術等、 ドウモ外 クバ、人ト 不朽タル アトニ立 聞へ ヌ ルコトニ非ズ。 是モモチ合テ一家ヲナスベシ。 聖人ノ定タマヒタル 八、 コト 簡ナリ。 南郭ナドモ題跋ナドノ類ハ、サラニ面白カラズ。 ハ徂徠、 徂徠ノ理論ハ、 べ ヌコトナリ。 抜ニシ カラズ。ワ 人ノ得作ラヌコトヲヨク作リタ リ上テ見モセジ、近体ト平淡ナルバ カク聖人 ソレヲ盛唐ト 又于鱗ガ叙事 南郭、 タル トカク面白シテ後世ニ伝ベシ。 于鱗ヲコス上手ハ 迄ノ レト ノ定メタマフアトヲサヘフ 仁斎、春台ナルベシ。 天道福善禍淫論、五行論、 コトハ、少モソレニタガヒテハナラズ。詩文ハ聖人ノ定メタマ ヤウニ見ユ 一家ヲナス 同ジヤウニナキユへ、 ハ、 外 此諸君子ノ外、 (ノ)文章 ベシ。 ル也。 アル J. 韓柳欧蘇ヲ始メ皆一家ヲナシテ、 ハヲトレリ。 ベカラズ。 春台ハ詩文ナド カリニテ面白クナシ。 又叙事至テ上手ナリ。 7 アシキト云 シカルヲ李于鱗ヲ春台ノシカラル バ、 東野、 鬼神対策ナド 古詩ヲ書タルハ絶テスク ソ 盛唐ノ詩ニ及ズト云ハ、気運ニテ サレドモ大文ニナリテスグレタ 五中丞伝ノ叙事モ、 レ コトニ非ズ。 周南、 ニテ事足ル · 八 ハ ル、 ・ナリ。 学問ア 金華次」之ベシト云リ。 然ルニ歌行ナドニ、 コト モチ合テー 人倫ノ教命礼楽治 べ 学則次」之、 シ。 ハ心得ガタシ。 ノ通ニ丈夫ニナ 元美ガ行 人ノアトニ 詩文ハ人ノ 家ノ文ヲ ナ サテ

コトヲ後世 、説起レ コトナリ ル ナル 発明 ベシ。 ス ル ト云ハ、大カタハ古人ノ云ハ 聞へヌコ 也。 カク聖人ノ定メタ ザ ル コ マヒタルニチガ ヲ云タキト云心ヨ ハ ヌヨ Ŋ, ゥ

水文集ニ、 土佐侯 伝右衛門三年 ノ礼法ヲ定メタ 喪ヲ行フ ル コ 君修語 云コ レ 見ヘタリ。 Ĭ, 今二土佐侯 制 度 人 教

- 子允儒学伝ヲ著ス、 一冊アリ。 イマダ草稿ナラズ、 ト君修語レ IJ.
- 池田 、御家ニアル唐画子昭ノ仙 〈マチ眼仙人〉 今時世上ニ書ク竹トハ、大ニ異ナル 人、有徳院殿ノ御覧ニモ モノ也、 入 如辰云へリ。 御賞美ノ由、
- 楽ノ クル後 コト、 君修ノ論ナリ 日本古ハ淫声ナカリシニユへ、 此淫声 ノ制禁ズトモ、 又替リタル淫声ヲコリテ、 雅楽国内へ行ハレテアリシナル 雅楽行ヒガタカ べ シ。 今淫声 ル ベシナ ヲ
- 孔子 ノ諸侯 国ノコトハ左伝ノ官名ニ本ヅクベシ、 ノ説ナ ハ 大司寇ニナリタ ノ国 ノ官名ヲ華文ニカ ノ家老ノ役義ナクレ、 マヒタ クニ、 ルハ、今ノ世ノ仕置家老ニ似タリ。 新ニコシラへ 唯家老ト云テ職掌ノナキト ト禎ガ論ナリ。 ズ バ ナリ 君修云、 **ノガタカ** 一同ジ 魯 ル べ ノ三卿ニ 三卿ノ官 コトナルベキヤ、 シ、 君修 ハ ラ名 官 ナキ ナ へズ。
- キト見へ 卿大臣ニ政 ヲクツガヘスニ至ラズ。 ニ長ジタ ベキヤト、君修ノ論ナリ。 ハ執政 此ナルニヤ、 タ マフ故カ、 IJ. Ź 秦檜ナド云人、 人一人アリテ、 サ 徂徠モ、 ス ル 又春秋衰乱ノ世ニナリテ、 御老中ヲ多ク立テ、 コ ٢, 春台モ、 然ドモ弇州ガ論 ヲ多ク立テ、 何モカモ一人ニテキ 人二政ヲ 又春秋列国ノ時、 月番切ノコトヲ甚叱リソシラレタレドモ、 月番キリ務サセタマ サスル時 『ノ通リ、 周 如 如」此ナル 家老一人ニテスル政アリ、 疎」於」求」治者也、 ハ天下滅亡スベシ。 ク六卿ア リモリスルユへ、 ヤ、 ル フ故、 コ 権 ` ノ 任レ賢時 ヲ独ニト 神祖ハ 人不肖者アリテモ国 コト考 カク乱ヲ防グニヨ 此コト 乱ヲ禦 ガタキ コレ ラセ ハ甚ヨケレド ヌ為 ハ コト グ 如何 ノ謀 カ、
- 身ニテ中 松平紀伊 ント云 ノ大父モリニナリテ (割注) デ F ツニナゲ ~ 時、 守殿 敢 ノ大父ハ、 中々質樸ナル 々生成シタマフベキニ非ズ。 モ、 ノ末ナリ (割注) 宮参セラレ 入レバ 何モナシトテ、キ 朩 其又翌日 俸米ニテ召出サレ 世話ヤキ、 コトナリシトナ 後御老中ヲ勤ヌ、 彼士驚テサテ 彐 殊ノ外ニ東都奢侈ニナリタ ナリ。 IJ タ ルニ、 不言相替 殊ノ外骨折テ成長シ、兄ノ跡ヲ継テ紀伊守ニナリタマ 又子允白 ンチヤクヨリ銭ヲ出シテ子允ニアタへ、子允イタ 薩摩ノ タル Ű, 其上ニケガシテ、 一会読セラレ 世ニ名高キ人。 此紀伊守殿ハ ・モ士哉、 Ш 士二人撫」之テ、 御殿 段々ニト ノ下ニ居ラ タルト 幼 ルコト ツョリ リタテラレタル 先ノ セムシニナリタマヒタルヲ、 京都所司 サテモ美シキ児哉、 紀伊 ヲ嘆ゼラレ ス ソ グ タ 守 レ ヲ見廻ニ撝謙先生人ヲ 殿 代 時。 タ ル 火災ニカ ト也。 時、 タ 末子ニテ、 ル ト也。 東都 我等恥辱ヲ キテ 進ゼゼ フト 君修 -リテ

物ヨ ナル 君修云、朱子文集ヲミレ 人卜 コシテ聞テ、大ニホメテ状ヲヲコサレ ベシ。 カリキト也 ハ見へズ。今ハ学問 .崎 気違ノヤウナル ス バ、朱子ノ人柄 ル人ノ朱子ノ 人ナリト云伝へタリ。 タル 人柄ノ偏クツナル 知ル、ナリ。 ヲ、 子允感状ノ 今云、朱子ノキウクツナル ○三宅丹治尚斎ト云人、 ハ、 如クニ持テ愛セラレ 大カタ山崎闇斎ヨ リ始レル コ ヤ ケ ウナル ル ハ人 }

- キ 君修云、 = 常ノ人 決シテ左 ハ、 タ ヤ \sim ウニ バ 書物十冊ア ナカ リシ ト語レ ルモ ノヲ 九 一冊ミレ バ、 残 IJ 冊早ク見テ シ マ ヒ タ
- 君則云、春台ハ輟耕録マデ白スミノ塗沫シテアリ。 カヤウニシタマフハ、愚ナルニ近キコトナリト、 シヲ仕替へ、 点ヲ直シ、 字ヲ改、 厳密精正及ブベキヤウナシトナリ。 ヒ ソカニ云アヘリト 所蔵 1 本 ハ 悉皆然リ。 ナリ。 スベテヒヤウ 人云、 七
- 殿ノ世 厳有院殿已前 ヨリ、 徳川家ノコトヲ書テ板行スルヲ、 ハ、 国初又徳川家ノ コトヲ書タルヲ、 殊ノ外忌キラヒタマヒ、 板行ニシテモ少モカ 絶板ナド仰付ラレ マヒ ナ 常憲院
- 朱子祝融峯 ナリ 濁酒三杯豪気発、 朗吟飛下祝融峯。 割 注 此詩文集五ニアリ。」 此詩宗人ニアラズ、 我来万里駕三長風 朱子 ノ傑作ト、 絶壑層雲許 春台モ云 タル
- 君修云、魏呉蜀三国正統 起ル 天子ヲ纂ヲ悪トセラル。 ナリ。 正統トハナシガタキト云コトナルベシ。 朱子ハモトヨリ下心湯武ヲ貶スル 勿論其道理ナレドモ、 ノ論、ドウモ未決ノコ } ト ソレヲ -見ヘタ ナ ル べ ル ツヨク云立レ シ。 ユ 朱子ナド ^ 天子 う劉 バ、 ハ劉氏ヲタツル 湯武ヲ薄スル論モ ヲ奪タル曹操ナレ 心
- 白石先生本朝通鑑ヲ見テ、 是ハ史ノ体ニアラズ。 日 本世説ナド 芸べ キ物ナリ 上云 レ タ ル 由
- 子允) コト ヲ論ゼラレタル、 レ馬諫 ハ ナキ筈 ト君修 フコ ノ話 } ナ デナリ リト云明 人ノ説ニ従テ、 春台ニ答ラレ タ ル 書ニモ、
- 明全集ハ太函集ホドアリ、ト子允ノ 、陽明学ヲセラレ タ ル 時、 借リ見ラレ タ ル
- 淳化法帖至極ノ本ナリ。 但首巻ニアル ハ如」此 アルベキ、 ト子叔 ノ評ナリ。
- ガ ズ アキタ 陽明ナドノ文ノ多キハ、大カタ書牘ニテ門 留 コ モ ナキ 見 思ヨリニテ其ワケヲ立テ、書ヤラレ · 覚ユ。 ト 見 へテ、 是中華人 朱子ノ門人ニ答ラレタ 八モ師 、学問ニテ、 三問ニ、 日本 疑シキコ 人ノ ル 人ノ問ニ答 書 タルト見へタリ。 学問 フ、 前 ヲ バ ノ書翰 書翰ニテ シ ヘタ カタ ル也。 力 ソレ 異ナ 間 丰 サ ユ テ下書モナク、 ル ル メナキユ へ文多シ。 ナリ、 ユ シカ

君修云、中華人ノ詩ハ、人ノ目ヲ驚ス作、 後世ノ詩人、 意ノ詩アリ、 水|作ハ、成ホド中華人ノ得意ノ詩ナリ。其外ハナシ。明人ノ詩ハ学問セズニシタルユへ、 タク真似モナラザルアリ。 ヒタルト覚ユルトナリ。 日本今ノ詩人歌人ナドハ左ナシ。 日本ノ歌人モ、古ヘノ歌人ハ一世ノ中ニ、 ソレユへ数百首ノ中ヨリエラミ出セバ、二首カ三首カ絶唱ノ得 肺腑ノ中ヨリ流 南郭語ホド詩ノ上手ナケレドモ、 得意ノ和歌千載ニ伝ル レ出タル如ク、後世ノ人ノ及ガ アリ。

已下九月十八日、君修来話テ、夜四ツ頃マデ談ス。

- 南郭、高雄山ノ移文ハ名文也、ト春台ノ評ナリ。
- 徂徠 クラレタルニ、アマリヨカラズ。 ノ料簡ヲツケラル。イツモ諸子ヨリハ勝タリトナリ。 ノ方ニ会アリシ時、 諸子疑ヲ質ス時、 大カタハアトヨリ直シ、 ワレハ如何トアリテ未決ノコナドアルニ、 又南郭ハ即席 又ハ作リカヘラレタリト也。 ノ 詩、 殊ノ外案ジテ 南 ッ 郭
- 一春秋ノコト、易ト二経トテモ中々スムマジキコトナリ。
- 徂徠文集ノ 序散々アシキト予ガ評判、 又大東世語 ノ序散々 アシキト 予評 判 君修 にて尤ナ IJ
- 徂徠ノ 明善東役シ、 ニサシ上ラレタルトナリ。 ミセラル。 政談 此書金百両ニテ某氏求シト、 ハ御小姓衆ノモトニアリシヲ、 宇子廸ノ方ニ至リケレバ、子廸門人本田章三京師ヨリ借ヨセテウツシケルヲ 夫ユへ草稿モナキカトナリ。 本田氏語レリ。」 赤星子蘭チヨト見タリ 〔割注〕今此草稿京師某氏ニアリ ナリ。 徂徠ノ手 ョリ直
- 朱子語類百四十巻、 大ヤウ文集ト同ジホドアリ。 其内曾子一貫章ナド 一巻アリ。
- 斎云々豪傑也、 ラヒニスルコト、 〔割注〕雨森藤五郎、 日荻茂卿、 散々シカリテアリ。 日学術文章天下無双、 対州儒臣。」 問]中江惟命 | 日賢人也、 ノ橘窓茶話ト云モノ、 憾大本不」立トナリト也。 問二仁斎一日君子也、 公方ノコトヲ帝室ノ アシ 日闇
- 春台抄書ノ目録ハ、類分ケニシテ書出シテアリ。 ヌ字ヲバ奇字ニ書出シ、疑シクスマヌコトハ疑事へ書出シテ、是非トモスマス料簡ナリト ソノ末ニ奇字疑事ト云フ二条アリ。 彐 X
- 徂徠春台トモ和ヲ倭ニ伝ル、コト、甚不尤ナル説ナリ。
- 東涯ノ文、 トカクハキトシタル文ナシ。 経史博論モ、 ヒト ツモ面白キコト ナシト云リ。
- 蘐園随筆ニハ可 云 ν議字ナシト、 字士新云へリ。 弁名、 弁道ニハ大ニヲダヤカナラヌ文字ア
- 于鱗モ文ハヤウ ニ出来タリ -覚ユ。 蘇東坡、 白楽天、 王元美ハ筆ニマカ セテ作

タルト覚ユトナリ。

学問 種々 ニカ 国家 人出 諸弟子ヨリ 句モ大切ニナラヒウケテ守ル 器用不器用モア ハ テ 六朝ヨリ リ、 学問出来テ、 処理ヲ云。 内ヨリ出タ コトニカ、 唐ニテヲ 集リテ、 ル 大ニクヅレ 読書スル リ、学問 べ ル人才多シ。三国ノ乱ヲ経テ晋朝ニ至リ大ニ学問変ジ、清談ヲ事トスル 古代ノ 武道軍旅 シ返シタレド シ。 其外師ト 人アマ 学問ノ姿ハアトカタモナク消ウセタリ。 ノ内ヨリ出タル タ ノ 所ハ礼ナリ。三代ノ学問ハ専礼 ル セ モ、元ヘモドラズ。 リ多カラズ。 ンギヲスルヤウナルコトナル -覚ユ。 ナリ弟子ト也、 孔 人才ハ用ニタ、 子 う 時 政事ニアヅカ 学ブ所礼バカリニテ、 ノ学問、詩書二経マデニテ、 宋ニテ ズ。 朱氏出タレドモ元へモドラズ。 ル ノ一事ト覚ユ ソレ 人ハ ベシ。 ユエ古代ノ学問 門地モ尊テ、 西漢東漢ノ人物モ、 _ ノワザ、 ル ナリ。 王謝ナド トハ大 孔門 々

今ノ 宋ハ 帰田 云タキ キ役義ヲコト ク論ジテ、 官へ 又心ニチガヘバ其儘致仕シテ引込ナリ。 学問復古 仕官シテ奉公スル スル 時、 コトヲ云テ用ラレ ハヤスキ処ヲウチカヘシヨク読テ、古書ニ引合見レ 出ル ナリ。 君臣ノ義ト云モノ ハリ去テ ノ学ヲ 其後君臣ノ大義、 六朝 在所 ヤンニ ノ田地モ モ、 門地家筋ヲ尚ブユ 人左遷セラレ、或ハ官ヲヲトサルレドモ耻 ズ。 元ノ在所へモ得引込ズ。 ハ、 ハ別ニ論ゼズ。 シタキコ ナクナル 詩書三礼ヲ埒アケバ事足ル 時宜ニヨ 1 ユヘ へ、代々其家筋 ル ノナラヌ時ニハ、 コトヲ察スベ ナル 東西漢ノ頃ニハ、 在所ニ田地アル故ト見へタリ。 べ グ シ。 "J" 明ハ シ。 其マ 人用ラ バ、 ベシ。博ニ過べ 然ラズ。 閑官ニ居ラル、 仕官シテ奉公ニ出ルモノ、 ソレニテスムベキコトナリ。 、ニ引込テ、 レ 1 - モセズ。 テ政事ニアヅカ 漢ノ時 、カラズ。 先コ ガ如キ、 朱子ナド モ 如ク少諫ヲ ` 論語 ル。 処ヲ ノ如

- 云フベキナリ。 文運治体トモ、 世 日本ノ後世ニ徳川家ヲ称スベシ。 ハ文章上ニハナクテ、下ニサマぐ~ 但シ日本ノ古ハ、文物朝廷ニ盛ナレ ノ学者出来タレバ、文ハ下ニアリト バ文
- 見タキコトナリト也。〔朱書〕 台閣ニ其体ヲ用ルコトニナリタルト覚ユ。 ルニ至リテハ、王莽ノ時尚書ノ古文ヲ用ヒタル如キノ僻事ナルベシ。」 李王ナドガ文ハ上ニ行ハレズ。 ノ文トハ云レ ノ始マデハ ズ。 上 宋ノ時モ上ニ用ル文章、 用 ル 李王ノ文体トテモ上ニ行ワルベキ体ニアラズ。〈蟬廟校本ニ拠ル〉 文章、 一種下ニ行ハ 即天下ニ 明 ノ世ニ 一通用ス。 即天下ニ通用ス。 ル、文出来タリト覚ル ハ台閣ノ文ト地下ノ文トニハニナリ 韓退之出テ古文ヲ称 欧蘇盛ニ行 卜也。 シ 又科挙ノ文 コレヲ甚ス レテ、 タ レ 上ノ
- 野子賤見致命論ヲ作テ、易ノ致命遂志ト云ヲヒキテ、辞命ノコトニ非ザル 聖人ノ教ト云モノ、名目ヲ立テ弟子ドモ固ク守リテ大切ニスル処、大カタハ只今ノ子ド 曾テ覚へズトナリ。 ニ礼ヲ教ルゴト ク、 飯ハクヒコボサヌ物ゾト云ニ同ジカルベシ。 道理ノ精徴ナルコト 由ヲ論、 ゼ IJ モ
- 蘐園随筆ニ難ゼラレタル、 子允王陽明学ヲ講ゼラレタル キ人ナリ。 只科挙ノ時ノ学問ニテ、 孟子不」誠一丈夫哉ト云 ガ、 ソレニテヨク知リタ 珍ラシキコトヲ云出シテ、 コト ル ・アリ。 \exists シ。 陽明 良知ヲ云ハ 徂徠忘ラレ モカツテ外 IJ タル タ カ、 リト ノ学問 ナリ。 ハ ナ

モ評判ナリト也。

- 昔ヨリ一種トカク人ノ心服スル 似タリ。 熊沢ハナ 陸子静 朱子語類ノ中ニ、 力 ハ 何トモナク人ノヨク服スル 孔明ナド 明道ハトカク人ノ 、比論スベケンヤ。 人アリ。 漢 ノ孔明ナド 人ナリ、 心服スル 明道ハイカニモ人ノ服 ト朱子ノ云ハレシコトアリト 人ナリ。 ナリ。 日 伊川ハ 本 ノ熊沢大夫ナド サマ スル ぐ、二言議論ナ 人ト見ヘタ モ コレニ
- シカルベシトロ 評判ナリ。 Ш 房 商家ノ云ブンナレドモ一理屈アルナリト也 ノ云ケ グセニ云タル ル ハ、徂徠先生ノゴトキ学問ヨク ハトナリ。 是ハ朱子流ハフミ アリツラメ ッ メタ ル事ヲ、 ۴ モ、 武士ニハ朱子学ガ宜 第一ニスルユヘノ
- 敷納以 ニハナ 三代聖人ノ道ニ、 レ言明試以 乱ヲ恐レヌユキカタナリ。 シ功シテ、 今日本ノ横目ヲ附ル 少モ仕損ズルカト云気遣ナシニ、 乱タラバ其時治ムベシト見ユルナリ。 ト云フヤウノシカタナシ、 パイヲサセテミルト見へ カク乱ヲ 人ヲ用ルニモ フセ グ道聖・

- 禎云、 ト云へり。 于鱗文 贈序至極面白 シ。 祭文ナド ・二哀情 ハナクテ大ニ面白 力 ラズ。 君修 モ尤ナリ
- 唐ノ人ハ大カタ故郷へ 得帰葬セズ。 京兆ニ葬ルト 云コ ٢, 韓文ノ 墓碑ニ多ク
- 雨伯陽ノ説ニ、 -村煬斎、 藤井懶斎 人品ヨロシキ 申 大ニホメテ書テアリ
- コト、 日本人ハ好言斉整一好言簡潔 至極ノ確論ニナ ルベシ。 侠中 …鮮」有二盛大従容之気象一、 徂徠ノ論ゼラレ
- 南郭 ヲソレラレタル咄モアリ。 水斯立大ニ気ニ入ラズト ・ナリ。 菅麟嶼ハ病身ニテ用ニ立ズ終ラレタ ル ナ Ű, =
- 加藤大弐ト云人、 ニ従テ学問セラレ ハ風俗ノアツキコトナリ。 君修ノ所ニ来テ書物ノコトヲ問ニモ、 庄内ノ理学ヲ首唱、 タリト也。 トカク賢者ヲバ尊信スルコトナミノ 加藤大弐已前ハ、至テ文盲ナル 匹田 其マ 矢柄、 、カキ付テ帰ル 水 野 勘 解 电 コトナリシトナリ。 皆此人ニ学ビテ、 ホドニセラルトナリ。 ナラズ。今以加賀山某 其後徂 今以庄内
- 仁斎ハ、深ク朱氏家ノ書ヲ反覆見テ、 家ノ書ヲ深ク味ハ 注ナドニテー通リノ朱学ヲセラレテ、 ノ外ニキツト経学ノ書著サヌハ、 丈夫ニナリテ後、六経ヲヨミテ、 未定論モ多キ中ニ長逝シタマ レ タルニハアラザルト覚ユルコトモアリ。又一時ニヒラケタル見識ユ 一時ニグワラリト埒明タルト見ユルナリ。 ヘル 少シ謙遜ノ気味アヒアリテノ事カトナリ サテ古書ヲモヒロク見テ、文章ヲ自由ニ書キ、 悟ヲヒラキタルモ ユへ、残リタルコトモ多カルベシ。春台モ古訓外伝 ノト覚ユ。 徂徠ハ不」然。 ソレユへ朱氏
- 明道ノ定性書、経学一生ノ発明ナルベシ。 タレ モ服スル 人ナリ。 今ノ朱学ハ程伊 仏説ナルベシ。 Щ ノ片口ナル、 然レドモ其ノ人ハ至リテ賢人 イヂヲウケツイ タ ル ナル べ
- 韓退之ナドノ、 ナリタル学問ヲシタル故ナルベシ。 カタ左遷セラレテモ、左ノミ見グル 宣ノ流サレテ船 流サレテモドリタガ ノ覆リタル時云レタ シキイキカタナキハ、 ル言、 IJ タル 世説ノ補ニアリ。 ハ、 サシモノ人ノ上ニ見グル フミツメタ イカニモ見事ナリ。 ル所、 シキ ツ コト 力 マへ物ニ 宋人ハ大 也。
- 左手ア モ男児ト 送三秀緯」序、 ユ ルヤウ也トアリ。 此アヤ 云レ ジ。 マリ 失二一左手」ト書シタルコトヲ、 男児ハ アル 又或人ノ評ニ、 カト モトヨリ ナリ。 定リタ スベテ日本 南郭結髪為;男児;ト云句 ル コ 人ニハサ 希汲ノ評判ニ、 也。 バ ナル カリ 心得ラレ 作者ナリ 云和語ヲウケテ作ラ 左手ト云コ ズ。 結髪シタ モ、 力

ウノ誤ハアルベキナリ。

水斯立弱冠後、 隋ノ王通ニ擬シテ、 太平ノ十二策ヲ書タリト ナリ。 肥後候 臣秋子羽 ノ方

同ナル 商君ガ苛刻ナ 分ニ手前ヲヨ ベシ ヒトリデニヒシゲテ、 力 ク ル 法 スル道ヲ行 有無トモニ、 こハ論ズル ニ及バ ヘル故、六国ヲ合セタリ 今川氏、 敵地へ ズ。 ノゴト 然ド ハタラクヲ勇将 -クナル。 ・モ自分 1 ァト見ユ。 国 コ レ 1 . ラ 固 異国ト吾日本ト、 シ、 ク守リテ、 鄰敵 日本ノ弓箭ト モ畏服ス。 強富 弓矢ガタキ 大ニ異 /道ヲ施 戦ワ ズシテヲ つナリ。

タリ。 古ノ学問、 御心ツモリ有リタル 諸子ノ言志、 大テイワレ成シ行フト云ホドノ下 孔門ノ諸賢シルベ ナラメト思ハル キ也。 孔子モ期月已而可ト -ツモリ デ、 タシカニ心アテ、 -仰ラレ タ 、ルモ、 ヲ ル コ タ シ 卜 見 力 工

古学先生行状、東涯ノ作ニテ、キハメテヨク出来タリ。

出ル ホコ 俄ニ自ラ囲ヲヌケントシタル 流ヲカキ出シ 九月廿三日、 シラヘハ ニナリタル 面白カラズトテ、 テ絵ヲ書タリ。 (ニテ、 ル 心ヨリ、大事ノ戒ヲ忘レテ、 近頃周信ガカキクヅシテ、 ` ` サ 第一ニウル 卜也。 タリ。 イ 如辰来訪シ云々、 探幽一番ニ囲ヲヌケテ上手ニナリ。 シ 黄土 ソレユへ牧心斎ト書タル中ノ絵 キシタル 永真ハ末ノ弟ナルユへ、ソ シヲコス如クニカワニテア ノ具ニテシタテタ 物ナリ 故、 探幽、 埒モナキ絵ニナリタ タトへバ官女ノ面ノ 散々 コレ至極ヨキ法ナリ。 主馬、 ノコトニナリタル ル故、 永真、 レ カハリタル絵ニナリテ、後ハ見ラ ホドヲクレ ハ、 ハセタル 主馬ハー 兄弟三人同ジク高 一流ヲ立ヌ時ユヘ、絵法ヲクヅサヌ ル ナイ ハ、最早ワレヲ押ス絵ハ } ・シキ、 ヲ、 テ、何トゾ早 風ヲ立テ、 ナリ。又土佐家ノ絵 絹ニテコシテ、 生エンジニテシタツル 雪舟ヲフ ク一流ヲ立タク、 ト云人 ナキト云 ノ具 レヌヤウ マ ヘテ 目 ヨリ コ

送三井子 文ハナル 君修云、 上ノ字ヲトリ 翁甚賞美セ ク見ルナリ コトナ 叔一序ヲ携 ホド ガラ、 県官ヲ公上ト 次ニ云、 ラレ ヲ進ムル心得 ア カヤウニ書ツケテ、 唯上ト云ヨリカロカ カク許可 ハセ ル テ見テモ ユ タ 可ス 中然 ル ス 心ナル ル ニニテ、 ル 自足心出来テ ル ライ、木二竹ヲツギ ト自足ル ベシト、 大方 ベシ。十月十日芙蕖館ニ至ル終日 是非一家ヲナス ツイ ル 孺人ノ子ヲ賊 心ニナリテー寸 ベキヤ、 服先生云 ニー家ヲナスベシ。 ソレ ナリ ・タル 日本デ云、 レ ニ捨テ、 ベシ。 タル由、 フト云ニナル。 ヤ モ進マズ。 ウナラント 成ホド 其内ニ 公方ノ 中 コ 々 レ 一家ヲナシ 面白 ハ ソレ 凶 『談ズ。 公ノ字ト、 楊惲伝ニ出 支 「変ニア 肥後 ニコトナ 服夫子云シカラズ。 ユ 己下 ^ 水足平之丞 オホ ヒ タ 老師 ウヘ タ ヤス | |テ、 ル セラル ク許 サ 実ニ天才 力 ノ説ナリ。 パニモ宜 、マト云 ヲ、 ベキ 可 セ

遍モ読 学問ハ タル ニテ、 上云 返事ヲ 徠翁没後服子へ 自許シテ少シモ コト合点 下八、 コトヲ云タ セ ント云ヲコシタリ。 説郛ナドヲモ能ク見ラレ ソ コ Ű, トタ ユヘヒタ ヨク ユ イカナルコ 海西ト 書簡ヲコシテ、 クベキ筈ナルニ、 ス、 メ ノ体 ル ロウ内ニ、水足物故セリ。 ─ 書ニ匱シキ世ノ中ヲ思フベ アリテ、予モスデニ蔵セシガ、 マ ヲモ傚ザルモノ也。 ト社中へ ズナリ 云モ広キ 詩 トヤラン合点ユカ ハ タ モ其噂 コトナリ。 徂徠既ニ李白ヲ以テ許サレタレバ 返事モセラレ ル 何トヤラン見ラレ 卜也。 タ ルト覚ユト也。 スルトナリ。 又返ス々々今時ノ学問軽浮ニナリテ、 古人ハ是ヲ喜ビケル サ ソレ ズ。一 シ シト アタリ長門 ユ ・ナリ。 シ。 ト タルヤ、 遍ニテモ 昔春斎ナド (朱書) へ返事ヲモセズシテ事スミタリ。 ク估テ外書ニ換タリ。 其後又書簡ヲコシテ、 ノ諸君子ノ詩大分ア 郛ハ仿間書肆ノ ヲカシキコトナリ。 ハ ガ、 ヤ 説郛ヲ二遍見 、モ ハ 此書 可ナル ハヤコレニテヨキ ノウ コ 夫ヲ三遍モ四 チニモ処々ニ 集綴 ١, タル、 精密ナルコ 関東ヲバ 唯東涯 セジ俗書

ドモ、 文通ト云書、 文人ノ心得ニモ 本少キカ、 明末ニ出来テ陳騤文則ヨリハ、文ノ沙汰ヨホド 写本ノ誤字ダラケナ ナル べ 丰 コト アルユ ル ヲ見セタ 刊行サセ ル故、 タキ 刊行モ得サセ 心ニテ、 - 詳ナリ。 サマ 其後書物 ズト也 1. 屋 三云付 コ 1

徂徠 モ見タ 見識ニ、 ルトナリ 孔子ノ古語ヲヒキテ、 仰ラレ タル ト云コト、 宋ノ 人ノ 説ニモ ア Ĭ, 説

品字箋ハアマリ宜キ字書ニテモナシ。 思テ正字通ニ引タ タ韻会ニテス ヲ正シク引ケリ。 人々皆珍ラシガリテ、云タテホムル也。 品字箋ノ中ニアル モ ノ 也。 字書ノ中 マ セ J_o イヅ り。 、カト覚ユ。 三小 スベテ字書ハ相承テ来ルヲモ レヲヨキトモキツト云ガ 補韻会ホド宜シキ書ハナシ。 又正字通ニハ引書ソマツ也。 後世ノ字ノ字書ニ注ナキ 日本ノ猿楽ノ能ト云コト、 ?タシ。 トニシテ、 博雅広雅モー ムヅカシクスマ ソレ ソレ コ ア ニヌ引書ヲ 物ナルヲ、 ユヘ康熙字典ニ 少シ ノ方ニテモ能ト ヌ ヅ コト ヲモ、 セ テ テマ ア 大カ ル 故

何大復 詩話モ宋 服子弱冠 セ ノ文ハ後世 人ノ話ヨ 残リテヲル クセガ付テ、杜律 徂徠ニ相見セズ。未ダ学問 リハ、元人ノ詩話少シマ 韓柳ニモ非ズ。 ヤウナ ノ中ノ悪キク ル 前漢ノ文ヲ目アテニ書タ ノ相談ヲセヌ中ニ、 シ 也。 セヲハナレヌヤウニ覚ルナリ。 詩モ元人ハ老杜ヲ似セタ レド 杜律ヲヒ モ、 ヤワラカナル文ナリ。 タト好テ見タ 随分除クサレ ル歌行アリト也。

ニテ見ナラ ハ セ、 面白 力 ク訓蒙図 クナル 彙ナドヲ渡シテ、 ヤウニシテ、 タ イ クツ 力 タ 、ナキヤ _ 方ニ絵アリテ、 ウ = サ ス ル 片々ニ文字アル コ 第 コ ナド

ツスル

也。

メ

チシカ 或時咄-千田玄智 華モ学問ヲシナラヘリト也。 人ノタメニ墓碑ヲ作ラル。」 (其本ヲトリテ切サキ 本ヲ書物屋ニカリテ、 バ [(割注) 其碁盤ヲ打クダカレタリ。 字子韜、 火ニク 憲廟ノ時近侍、 殊 ツネバ 玄関ニ見テ居ラレタル所へ戻ラレタリ。 /ベラレ ノ外厳ナル人ナリ。 タ 穉明 戒テ、 ル 卜也。 賜奉禄二百石文殿加禄百石、 ノヲヂユヘ、 浄ルリ 又碁ヲウツナト 子息モ学問アリ、 本、 又ハ咄本ナド 穉明モ此人ニ学ビタ 菛 人ヲ戒 カクシ得ザリ 此人ノ世話ニテ、 ヲ見セラレズ。 授法 ラレ 眼位。 シ 1] /シカバ 碁ヲウ

セテ習ス

典ヲ、 群書備考ト云モノ、 徂徠ハ大ニ信仰セラレタルト也。 春台ノ所ニアリ。 制度ヲアラく 出 セリ。 重宝ノ書ナリ シト。 涌

君修云、 聖学問答上巻性ノ説 ハノミコマズ。 下巻 ハ 面白シト語

子綽云、 徂徠已前 人二、 長崎 ノ僧玄光ガ文章大ニヨシトナリ

ソレユへ訳文筌蹄 人ニ韻字ヲワタシテ、 ズト 人ノ自分ニワ ナリ。 詩ヲ得作ラヌ人ニ作ラスル 又国字ノ書ヲ著シテ教ミチビク類ハア レ ナドヲモ、 ト見識ヲタテ、 詩ヲ作ラス アマリ益ナキコトト覚ラレタリ。 学問スルホドノ器量 ルコトヲ、 ハアシ 子式南郭ニカタリシニ、 ` 0 ソレ シ ` ガ発得シテ作 人ナラデハ、 \vdash 議論ナリ。 春台ノ著書ナド 教マジ 南郭 ル器量ニ 南郭 ノ了簡 ソレ キト云心 アラザ 尤心ニカナ ハ ハ \exists ナリ。 第 レ カラ バ 築 ア ヌ

子式、 コト 子式ハ華音ヲシリタル 華音ノコト · ヲ 問 ノ話ナリ。 [レシニ、 ヲ 徠翁ニ問 ヤ ホドニ、 学問ニ華音ヲス シニ、 詩上手ナ ヤノ マアヒ ルラント ル ハ、 鬼ニ金ボウ ン 人ガ思ント笑ハレタリ。 ント詩ヲウタ ´ ヲ モ タ ^ セ バ タ モツタ ル也ト云レ 子允又華音 イ ガアリ

豊前守殿 松平右京大夫殿ト 礻 和 才 コ IJ ハ 憲廟 献上 ノ石燈籠ヲ、 右京大夫殿

- 是非ヲ 荀文若 ラ司 ツケガタシ、 、馬温公ハ殊ノ外ニホメテ、 ト君修、 ノ説ナリ。 仲流ナリ 思 ^ 如 何 ア ル べ キ、 1 力 ク 此 人ノ
- 宇士新 ヌアリ モ語ノ ´疵ナシ。 (割注) -論ゼリ、 弁名、 宇野三平、 ト君修聞タリト語レリ。 弁道ナド 京都人。」云、 ハ、ヤリハ 蘐園随筆ノ文 又子綽ノ文ニモヲダヤ ナシニ書レタ ハユへ、 ハ大事ニカケラレタ 何レ カナラヌガ モ文字ヲ ア ル ダヤ Ĭ, ユ ^ 力 イナラ 少 シ
- 春台ノ上ラレタル封事ノ稿ハ、元麟少シ窺ヘリト語レリト也。
- テ悪シ. 圃ノ コ カナル カル ヲ孔子ニ問申 ベキニ非ズ如何 コ ヤラ ン心得ラレ セ シヲ、 ٢, 君修論ゼリ。 口ニ散々シカリ玉ヒ、 ズ。是モ周官 其一 ノ職 老農老圃 分ナレ ニト バ、 ソレ \sim 仰ラレ ヲ 知 IJ タ タ レ ル バ コ
- 用字格ナドハ、 君修語レリ。 ヲソシリ玉フ モト第二等ノ人ヲヒキタツル為ニナセルナレ ハ 第一等ノ人ヲ教ン為ノ心得ニテ、 第二等ノ人ヲバ バ 捨ツベキニ非ズ。 ス ツル料簡 ナ 南郭 ル ベシ、 ソ
- 本多越中守殿ハ子亮ノ君ナ (割注) 守殿ナドユカレ 若年寄。」 シト也。 若年ヨリ詩ヨク作リタ Ű, 又近頃郡山 越中殿ニテ詩会、 松平美濃守殿モ加 マフ。 春台ニ幼年ヨリ学ビタ 大久保山城守殿、 レリ 也。 細川 松平宮内少 7 豊前守殿、 ヒ タリ。 輔殿 伊達遠 モ
- 東壁ノ 香州ヲ贈序、 奇崛ニ出来タリト 春台モホメ ラレ タリ、 ŀ 君修語レ
- 書物ニアマリ序ノ多キハ、 メンドウナル、 春台云レタルト 也。
- 春台ノ 校正 ノ批点アリ、 世説ヲミル、 見事ナル ゴフンニテ点ヲ コト 也 ケシ、 墨ニテ点ヲツケ直シ、 書込、
- 一春台手跡ハ完翁ヲ学バレタリトナリ。
- 杜預左伝ノ序体ヲ得タリト、 春台モホメラレ タル コ 也、 君修説ナリ。
- 面白 尤ナリ、 瑯琊 代酔 君修 モ中 、説ナリ。 々 博識ナリ。 東莱博議モア 湖亭渉筆 ハ大ニ出来タリ、 シカラズ。 野客叢書モ見識アリ。 · 君修 、説ナリ。
- 名物六帖、制度通ノコト、殊ノ外ニ春台モホメラレタルト也。

- 白虎通ニモ礼ノコトアリ。ヨキ書ト君修モ云ヘリ。
- ホメ 春台ノ門人ハ、皆漢人ノ経術ニテ用 モ不才モ タツ フ、 ルニアル ソレナリニ、 又子式云、 ベシト云へ 春台ハ 人柄ハ 甚厳ナル り。 見事ニナリタル語レリ。 タ /ツホ 人ユへ、 ドノ 弟子皆ヨクナリ コト ハ 君修云、 ナ ル べ キヤウニ教 ト タチテ人品 カク才ヲ育 コ アト マ ス -ナシキ、 ル レ タ ル 力 人ヲ
- 云~り。 君修云、 べ シ。 春台 予モ是非二十一史ハ ノ方ニ梁書ナド 見タキ ノ抄出 コト ア Ĭ, -ナリト。 シ 力 レ 学者ノミヌデ叶 バ 大カ タ二十 --- 史ヲ ハ ヌ書ナル 春台 モ見ラ バ シ、 レ タ ル ナ
- 中鹿之助祠堂記 ヲ、 南郭作ラレ タ ルヲ、 春台モ大ニホメラレタ ル IJ
- 夷長云、 ル 能キクアリ。 細カニキ ク療治ヲ =, ハ下手 心ニ属スル カク ゴニ水ヲ少シク ジ 医者 外ノクスリノ量 ナリ。 ソノ上療治 マ 医学入門ハア ·ザミテ、 ル ショ シタルト コトニアラジト也。 ハ本草薬ノ効能ヲ能知ラズバ、用ニ立ズト也。神農百草ヲナム ートナル 但シ三十六味クスリハ余リニコ ソ ナド レニ何カ配剤シ合セテ方ガ立タルモノナルベ 入テ、 一味用ユ、 · 覚 ユ。 配当ノ説、 ノシカタナシ。 べ 目ツモリト見エタリ。傷寒論ノ方ニ今アノマ、ニテハ用ガタシト也 シ。 7 又千金方ナド リ正直過タリ。 フハ 梅花無尽蔵ヲモ見タリ。 タハヒモナキコト也。 極テヨシトナリ。 〈 ニシテ食ニソヘズシテクフベ 又アマリニ気ヲ付タル医者ハ、 何 ノ用ニモタ、ヌコトナリト。 · ハ 万病回春ハト 医者ノ下手ノ時ノ トタラヌヤウ也。 又云、薬ノ 泄瀉ヲ予憂ルコトヲ云ヘル アラ療治ナリ。 リアツメ雑駁ナルモ 方ノ シ。 書力。 又今ノ人参一匁ヤ二匁ヲ用 始リハ、 療治下手ナル シ、 古方ニカ、リテ療治ヲ 又云、 トカク後藤 又云、素霊 ト云ヘリ 今ノ妙薬ノ一味 腫気ニハ ノ 故、 ル モ } ハ上手ナリ 云 ハ 虚理ノ ケック 黒大豆 ハ ス 書 ヲ
- ノ序至テヨク出来タ ル 文朱子 ノ傑作ト、 春台モ云レ タル 、トナリ。
- 仁斎ニハ 眼光射 春台云、 ヲヨムヨ ヤ 心人也。 ハ 東涯 心服 ラカ 二十五 外ノコトハ ナル ハ至テ温厚ナル 学問ニテネリツメテ徳ヲナシタル マデ 人ナレドモ、キハメテ英気ナル 徂徠モキハ 田舎ニナンギナル ナキ人ナリシ由、 人ナリ。 メテ人柄 仁斎モシカナリ。 ソダチシ 随分行義ヨキ ハヨキ人ナル タル 人ナリト、 人ト覚ユ。 ユへ、 电 人ナリシ 但仁斎ノ 春台、 声色 語ラレタ 定テ圭角アリタ 南郭、 能子 -ノ 好 ノ明 ナド會テナシ。 ル 子式、 \vdash 也。 ナ ル ル \Box 春台モ深 コ 人ナラメ ヲソロ
- ヌ ラテ伝 云 モ ナリ。 ヲ 魏徴作 ツ ケタ 力 IJ タ 礼記 レド ヲ モ、 本文ニタテ、 絶タ ル 由 困学紀聞ニ見 家語、 荀子、 エタ J. 孟子等 好礼君 子 二ヨ 内 7 ヨリ、 セ

- 四家雋 ナリ、 君修ノ説ナリ。 ノ選アマリニ アラキ カ、 韓 ガ作 碑文ニ至テ面白キ ガヨホド ア Ű, 入 タ 丰 コ
- モ、 本 ノ絵殊ノ外キラ ノ一枚絵ヲ掛物ニシテ、 Ł ナ Ű, コ ノ掛物四五 レ モ日本絵ヨ 幅アリ。 IJ ハマサレリト云レシト也 前 家 ハ サ ン ア 屠
- ノ謝霊運ハ詞、 南郭モ左 云レ シトナリ ト云コト、 将無ノ字ヲノケテ見レバ、 ヨク通ズ ル
- 五雑組 ノ唐本ニ、 切支丹 ノ法ノ コ -少出 タ 和刊 本 刪除出 サ ズト ナ
- 春秋 モ胡伝 胡伝 ノアシキニモ非ジト思ヘル ハ、 畢竟宋ノ時 ノ諫ノ理屈ヲ可┕言為ニツク 説ヲ、 君修ニ告レバ、 レ 君修 ŋ モ尤ナリ 夫ユ へ多ク激論ア 1 見合同ス IJ_。 必 シ
- 南郭 ユへ、 ノ云、 韻ヲフミタルト云レ 祭児恭文モ散文ニテ、 タ ル、 韻ヲフマザリシニ、 ト君修云リ 韓ガ十二郎ヲ祭ル文モ、 韻ヲフミタ
- 杜注弁誤ノ中ニ面白キ説、 メヅラシキコトモアリ、 ト春台モ云リ、 ト君修話
- 物語嗜好ニナラレシ、 フ ホド ラセ ノ大父ハ、 ントテ、 ノ学問ニナリタ 自分ニ素ヨミヨリ読習タ 松平紀伊守殿ニ〔割註〕 マフ。 ト君修語リヌ。 子允ノ幼キ時ニ父常ニ軍書ヲヨマ IJ 後御老中ニナリタマフ。」 也。 紀伊 守殿後ニハ何ニテモ、 セラレシ 幼少ノ時、 故、 書ヲヨ 子允モ古戦 読書ヲ教 ラ見玉 7
- 春台ハ玄関ニ鎗ヲカケ置、 春台葬ノ時ニ鎗持セラレタリ。 ラレシ所風流ナリ。 二鎗モタ セ タ ル例アラバ持セ度由云レシカバ 〔朱書〕 ヤハリ常ノ奉公人ノ武士ノ コ ノ事ニテ春台、 南郭ハ物ズキアリテ、 南郭ノ気象各別ナル 聞合タルニ、 屋敷カマ 如 シ。 浪人皆葬礼ニ鎗持スル由ニテ、 死近ニ至リテモ、 へノ庭ノ景、 コト晰然タリ。 竹樹 浪 ナド 人ノ葬礼 ウヱ
- 尤ナル 春台云、 アタリニオキテ、 度ニテス 曲江ナド ・シテ、 也。 其マ 南郭、 気大切ト云ト、 其上へ尸ヲ寝サセテ、 徠翁ノ云レタ ム 也。 ハ病中ニ夜四 云レテ、 ハリヲバ小袋ニアラヌカヲ入テ 春台ノ 式 手ヲ ソ 、モ行 . 葬モ左ヤウニシ ハトテ、 ネ間へ入テ、 マ レシト ヨリ遺言多クアリ ツマデヅ、詰ラ ハシテソレ ナリ 扨帯ヲ 尸ヲバ 子才直ニモ ヲ抱クヤウニシテ、 度々動カシガタキユへ、 タ 7 レ シトゾ。 ル ハ タ 卜也。 ツメマハシ、 シテク、 ル ト也。 ハ 葬礼ノ ヤ後事ヲ計リ サテアラ糠ヲ大ナル袋ニ入、 Ŋ, 又毎日 外槨 時上下三四百人会葬アリ 大ナル風呂敷ニテ尸ヲツ、 袴ヲキスレ ノ見廻四五十人モアリシトゾ。 Ï 内ニハ炭ニテツメタ タマ 先下ニ肩衣帯、 バ、 ヘト云ケレ 尸 ヲ動ス 又上 ソレ バ コ 、ルト也。 台翁モ ヲ胸ノ ギ下 ミタル 唯 ギ
- 一韓祭十二郎文雋ニ入レタキコト、ト君修モ思ヘリ
- 徂徠ノ棺ノ中、春台ノ棺ノ中、皆木剣ヲ入ラレシト也。

- 居ラル 俸米ヲ 口 郭 五十両 ノ外ニ窮 ハ物ズキアリテ、 サシ上ラレ ズ。 ノ物ヲウヱラレタ 当時ヲ想フ !モー年ニ納メラル 然ドモ産ヲヲサムルコト殊ニ上手ナリシユへ、 セラ シト ル 唐絵ノ掛物ヲカケ、 べシ。 トゾ。黒田豊前守殿ヨリ十口 也。 (朱書) IJ 0 甚風流ナリ。忍海上 ト 也。 ワヅカニ百五拾金ニテ風流ヲ尽シテ、 処士ニアノ如クユタ 書ダナ、ド 入ノ 俸米ヲ下サル後減ズ。 ・モアリ、 カケ物モ カナル 左ノミ困窮セラレ 水バチニ花ヲイレ、 掛ラル クラシナシ。 裕カニ儒ヲ立テ 又辞セラレテ 也。凡講書 ズ。 前カド い舌講 庭ニモ
- 雑兵物語ハ、 用ラレタル人ナリ。 高崎侯松平右京大夫殿 ノ親父因幡守信興作 ノ ヨシ。 右京大夫殿 憲廟 1 詩
- ノニ字、 ル ハ孔穎達ノ疏ニ此書ヤウアリ、 円機活法ノ序ニ、 所以ノ字ヲオキカ ト春台云レ $\hat{\ }$ タル 所以活法為:活法:也ト 、トナリ。 アリ。 如 此
- 春台病中ニハ、 東都処士。」 堤文右衛門 君修ナド 八、 (割註) 大カタ隔日ニ行タリシ 名有節、 字仲文。」 大塩与右衛門 也。 (割註) 名良、 字子
- 南郭ハ博物ナレドモ、博物ヲ外へ出サヌ人ナリ。
- 衰タリ。 夷長云、 江戸 其上ニ困窮甚シキユ ノ風俗女ノクハ イサツ指天ト云ヤウナル ^ 旗本ナドノ風俗言語道断ニナリタルト也 ハス ナル姿、 皆淫楽ニテカ ヤウ _
- ヲシテ、 選ナドニテ学問 南郭モ、春台モ、 テ置度心ナナリ。 メツタニ高ク標スル ヲスルト覚へタル、 弟子ノ吾物ズキノ通ナラデハ、 徠翁ノ料簡ト コト ハ大ニタガヘリ。 ヲヨキト覚へ、不学ナル 苦々敷コト ナルベシ。 気ニ入ラズ。 其中ニモ南郭 アモ ジ社中ト ソレユへ弟子 知ラズ、 蒙求、 リワキ南郭ノ ラ箱 世説、 ノ マネ \sim 入
- 文選章句二帙アリ。 バ カリニテ五 臣注ヲトラズ。 段落ヲシテ其間ニ注ヲアラハシ、 字ノ句豆モ イ レ 音注モ入レ タリ。
- 西京ニヨキユヒ手ア 又ウチ、二三度シテ水ニヒタシ、サテアシキエダヲモギテ、 モト 芸 ワラ筆 -ニアリ。 日 リ始マ レル ヨクワラヲアラヒテ、 サレドモ下手ナリト語レ リシガ今ハナシ。 又唐絵ハウラサイシキ殊ニ念入タルトナリ。 又唐絵ニハワラ筆ヲ用タルヲ見タ 酒ニー 夜ヒタシ、 力 ヨキバ ロク能クウチテ、 カリヲ揃へ 雪舟流 ルコトナシ。 テ 又 ヒ ノ画人長門 ュフ 卜也。 大カ
- コ ハワ ·ザヲヨクナセリ。 言 エモナシ。 徠翁モ兵法律楽ナド ナ セリ。 東涯ニハ ワザナ シ。 春台 兵法 ヲ
- 元麟云、 夜食、 春台 又酒 ハ毎晩酒 三盃 X IJ. ヅ 酒 リハ三盃 飯 い軽ク 定ラ モ IJ タルヲ三バ レ タリ。 煙草 イ常食ナリ。 ハ ヤ ハ ラカ 夜長キ時 ナ ル ガ好ナリ。 Ŧī. ツ時

椒モ甚好レシト云ヘリ。

- 春台 こハ 法帖ヲ ヲ ハナ ŕ モ タレズ。 レ ザリシ、 草 書韻会ヲバ時々詠 ト元麟語レ 1) メテ玩 レ タル ŀ ゾ 又字彙ノ小本アリテ、 平
- 覚彦比丘ニ学テ、 密教真言ノコトヲ聞 タ マ ^ Ŋ 子亮語リヌ。
- 春台手習ノタメトテ、詩経ヲカ 五経大カタ皆書ル べ キツモリナラメ、 レタ ル ガ至極ニ見事ナリ。 ト元麟話也。 サウナル表紙ヲツケ置レ
- 子亮日、 羽織袴ニテ上覧アリ。且ツク 白石ニ仕負、 石ノ意ナリ。 7 ノア セ、 白石ニ見セケレ タリ咎メラレタ 白 煙草盆ヲ引寄一服吸ハレ 石ハ英断ノ人ナリ。 此時韓使へ多葉粉盆銀烟管添出ケル。其座へ白石出ラレケルニ、 何カナト バ、 ルニ、 存ゼシ処ユへ、多葉粉盆ヲ押退、 白石直ニ筆ヲトリ、 土屋殿赤面セラレ 、リ頭巾ヲ召サレシト也。 朝鮮来聘 シト 也。 ノ時ニ、 東野語リ 殿中ニテ老中土屋相摸守殿 試用:此煙管:融:我銅鉄之腸 タルト也。 ケル 那用:此煙管;薫:我錦繍之腸;ト 旧例ハ左ナカリシト 卜 朝鮮 子亮ノ話ナリ 馬場ニテ韓 .人曲馬、 ノ 也。 ート書テ韓使 韓使モ度々 コ 文廟御 レモ白 失ヲ、
- 人ヲホ 白石采覧異言ヲ作ラレ 云モノアリ、 · メテ聖· ト子亮語リヌ 温良モカ タ ル ク ハ ヤ 西洋天主教ヲツタヘニ来リタ 1 云 レ シ トゾ。 白石骨折リテ作ラレ ル 人ニ 対談アリシ故ナリ。 タル 和蘭 陀風土記
- 子亮云、矢崎藤五郎ト モ持タルト也。 ハ ヒ タ } -相見セ Ÿ. ヨキ学者ナリ。 書物モ大分モチタ J. 名 山蔵 ヲ
- 元麟云、春台ハ赤馬石 墨ヲスラレ タリ 視ナラ \sim 朩 IJ タ ル ヲ、 アツラ ^ ヤリテ持 レ タ 'n ソ ニテ五
- 元麟 鳥石 セタ ヲ持参シテ、 ル 時、 春台ノモタ 文徴 ノ弟子ナリ。 コレ 明ニ疑ナシ。 ハ余ガ書タルニテ候ト笑シカバ、 レ タ ル 希逸ガ 文徴明ニ似セテ書キ、 シ カモ能出来タリト広沢極メラレ П [義ヲ視 タ Ű, 石刻ニコシラ コ ソレヨリ広沢ト中不和ニナリタ モ朱ニテ塗抹モア ^ シカバ、 テ、 手ヲ IJ 鳥石ヤガテ其石刻 マワ 書込モアリ。 シテ広沢ニ見 ル トナ
- ハ バノ外ニ、 神 祖 ノ遺令ヲ大事ニナサレ タ ル 君ナリ、 子亮聞伝 ル
- 白石引籠レ |城守殿パ門 力 キ 時 テ後、 人ユ コ 大御 ^` 少モ覚申サ タ 所御代朝鮮来聘ノ時 ノミシカドモ、 ズ。 又著述ノ書火災ニカ カク取合ズ。 コトヲ、 御尋問アリシガトカ ` シキリニセガミテ尋玉へド レ リトテ、 一言モ申 ク云ズ。 ・サレ ・ザリシ 大久保 モ、
- 月 +四 Ħ 芙蕖館ニ至 ル。 南郭云、 諸子 ノ文ノ 異同 ヲ ア ツ メ ル コ ١, 自 分 間 タ

南郭 ᆽ 栄花物語 錯簡 ノミニ 非 ズ。 錯巻ア り。 ソ レ ユ \sim ス 7 ヌト

云ガ

モ

ア

F,

ノニモナ

ル

- 見バ、 古ニテ見ヨキ カ 7 云 \exists 老子 ナシ 力 ル 二、 1 べ ヤウニ見 シ 和訓 ۴ ヲ レ ユ ガ老子 ツ ル 也。 ケ タ 然 ノ意ヲ得タル ル ユへ埒モナキ点ナリ。 ルニ字ノ脱語多 トモ云ガタシ。 シ、 1 中華 点ヲ削 人モ跋ニ云タ 其中ニ王弼注、 去 IJ, 脱誤 ル タラ 何ト 二、 \exists ソ ヤ ク ラン 考テ
- 子ヲ見、 ナリ。 タルヲ、 議 故 日 同 タ 本ニテ 事ニテ 子ニテ游説 華ニテタト 人ニ コ 曾我物語ナドニ色々 人ノ名ナド ハナケレド シテ云伝 タリニシタル \sim ^ -違 タ モ、 卞 -和ガ玉 ソ 古ノ様子シカ ル レ モア ヲ上手ガ書タル コト ノ引コト ノ故事ナド云フラシタ ル 也。 ナリト ナリ。 ソ ア -覚ユト レ故説林ヲ韓 ル、皆談議艸子ヨリ出セ ハ面白 中 -華ニテ ーナリ ク、 モ 非作 ル 戦国ニイ 下手ガ書 日 ij 本ニア 淮南ニ説 タ 口 ル ル ル 談義艸 ハ 見 次ナリシ。 Ш ュ。 ア ニ云フラ 談議 ル 子 1 類
- 世説 コチノ 人事ト云シ ヲス 庭ニハヨキ玉樹 ク案ジテスマ マ スル ハ 則 ハ、 人 ノ 其時代 コ スベ アフハ トニテ、自分ノ 、シト也 ヤ ノ詞ヲ合点セヨ。 シタシ ト 上ハ 云 タ 如何ト云シユへ、 ル 玉 ナ 家 Ű, 1 事ト 其時代ノ 云 \sim 謝安ガ 理屈 バ 身タ グ 人ノ イ ハ 1 ヒ コ ٢, 云 } コ 其言 = ٢, ハ ノ 力 又謝安ガ マ *>*\ ハズ t IJ
- 義ト云俗文ニナ 云 中華ニテ ル 軍ノ ユヘ ナリト コト、 後世 也。 文ニミ ^ ズ。 ソ レ ヲ 詳 = 書 ケ バ 小 力 ` 国志 衍
- 理屈ナ 局 マヅ仲哀 ヅレ ツニ入玉フ。 リテ名山 7 将軍家臣伝 コ モ ル ナ 大日本史ヲ作リ ベシ。 前期ニナキ奇事ニテ、 ブ ヲ ウ タ 蔵ヲ探リ、 ソ ル 神后イワタ帯十四 皆義公 〔頭注〕 ナド、 二 ズ左ア 云モ り。 何分ニ ´ナシテ、 悉ク疑問 応神帝 (蟬痴校本) ル 物ズキナリ。 へ皆ヲシコミテ入タ 京ニモ数人遣シヲキ、 タマフ其物 ベケレドモ、 アノコト、 呂不韋 又応神帝ニカ 誰 秀ヌ ヶ月ニシテ生タ ニモ 入二、 ガ コト 実ニ大疑案ニテ、 忌譚ヲ憚リテ大日 アラ 無理 幡 八 ノミナ ヲ武内 万 ギリ八幡 7 ニ吾子 Ξ フ。 大切 石 Ű, ハ 7 1 曾 ?ノ書ヲ写 言 ヒ ノ子ナルベシト ケ ロガタキ 故ニ予 我兄弟ナド 置タ · シ武 ト崇メ、 ナサ 本史ニ 白石ノ三大疑モ 内宿禰 ン 7 取 ガ フ コ 伊勢カ } 著 ኑ タ セ ハ ヲ ブ三百 ナ セ マ 其蹤跡ヲ -思召 バ フ。 Ű, 也。 ル 孝子伝ト云列 始皇ガ十四 ノ宗庿ニツ 読史諫言ニ 鎌倉 コ サ 齢ナ タ コ テ 7 段ト アラ 1 儒者 フハ ル 事 和 マ ラ第一ト Ń ケ月 ハ 1, 田 ヲ サズ キテノ 伝 ナド 諸方 反シ 三体 コノ タ ヲ

記ハ外記ノシルセル書ニナキコトヲモ、 大甞会即位ナド ニチリウセヌ、火災ニモヤカレテナクナリ、禁中ニハ ルコト イヅカタヨリカ取出シタマヒテ写ヲカレタルヲ、義公カリタマヒテ、ソレヲドダイニシテ 又礼儀類典五百巻、 ルニ、 タマフ由、 セル物ナレドモ、天子ノ直筆ニ同ジト云ホドノ大切ノモノ也。天文ノ乱ノ頃ニヤ、 ナリ。 禁中ニナキコト皆其書ニ出タルユへ、大ニ御賞美アリタル 志ハ義公ノ世ニハ出来ズ。 日本ノ典故ヲバ尽セルモノ也。 ノ儀式、 コレハ元来、 大カタ礼儀類典ニテ考ヘラル 禁中ニ御湯殿日記ト云物アリ、 日記ノ方ニアレバ、 後二出来ル筈、 公方へモ進ゼラレシト也。 ツヾキガタシ。 、 力、 板行モ出ルト云沙汰アリ ソレガ拠ニナルトナリ。 ト南郭語リタマヘリ。 中華ノ起居注ナリ。 然ルヲ尾張源敬公、 卜也。 霊元帝御覧成サ 此ノ御湯殿日 也

世説逸ニ注ヲ入レタルハ宜シカラズ、ト南郭云ヘリ。

デハ礼記ハスマズ、 業ノ文ヲ書クニ、皆朱注宋学ニヨレド ニ非ズト也。 伎ナレド 近来此会初リタル由、三礼図ハ聶存義ガ時ハ、 タリ。サテノ ナリ。大テイハオシテモ知レドモ、先三礼ノ図モヨキモノ也。 又賈公彦疏ナド筆ノ無調法ガ、グヅ~~シタル所ヲ、 コレ ノ方ニ儀礼ノ会アリ。 モ会読ノ節トリ合セテ見ルトナリ。 モ、 林希逸ガ考工記ノ解モアリ。 好古ノク 、朱子ノ学問丈夫千万ナルコト ト南郭 セニテ、 注疏マデカケテ吟味ヲスルト也。 ノ説ナリ。 コレヨリナガラヘテヲラバ、三礼皆スマスベキト思フコト モ、 礼記バカリハ コレモ見合ニスベシト思トナリ。 儀礼ヲヨミクダクト云コトハ、 ト思ハル、也。後世ノ理学家ノ中々及べキ所 サイシキニシタルヲ、後ニハ器物出来タル 鄭玄注ヲ用ユトナリ。 朱子ノ経伝通解ニテカミクダキ コレ 外ニ儀礼図解ト云モノア ハ外ノ方ニナキコト 又明朝ニテ挙 誠ニ竜ヲ屠 古注疏ナラ ニテ、 ル

ツリ合テ、 トカク書ヲ読ムニ、 左伝モスマズ、史記ハ読易キモノ 左伝ナドヲ見テモ、 マヌヤウ也。 代ノユキカタ、 公侯ニスコシオトリタルヤウナリ。 顔師古ノ漢書ノ注ハ甚ヨシ、 風俗理屈アヒ詞ツキヲ、 今ノ時代ノ理屈アヒニテハスマズ。 其時代ノコトヲトクト呑込ネバ ト云トモ、索隠正義ノ説以テノ外アシキユへ、結句本文 ノミコマザレ 儀礼ナドニテ其時 ト南郭ノ説ナリ。 スマズ。 卿大夫ト云モノハ、 バ 、スマズ。 世説ナド ノ礼法サバキヲ知ラネバ 古書モソ 1 スマヌト云モ、 公侯伯子男ト ノ通リナリ。

春台葬礼ノ式

ニテ綿ヲ 楔歯 (割註) 緒ヲ付、 (割註) 白箸ヲ折テ用 扇子、 髪ヲ結、 後ニテ結ブ、」 木剣、 ユ、 鬚ハソラズ、」 印石、」 銘旌 握手巾 (割註) 充耳 (割註) 紅ノ切ニテ四尺余作ル、 裹足巾 (割註) 綿。 飯含 ·帷子、 瞑目帛 (割註) 上帷子、 (割註)

テツメ、 ヲ流ス、」 七星板 少棊布、 覆白布ノ袋カクル、」 (割註) 槨ノフタヲシテ石ヲナラベ、」 同前。」 瓦棺蓋 朝 祖 幅巾 〔割註〕釘ヲ打、 〔割註〕神板ヲ床へ出、 斂衣 (割註) 刀〔割註〕白布ノ袋カクル、」 八幅 同前。」 棺ノ口 ヘハリガネニテトジ、 籾袋〔割註〕大小三十余ホウレイワタ、」 記ヲ其前ニ居ル、」 槨〔割註〕槨ト棺ノ間炭ノ粉ト石灰ニ 〔割註〕手軽小家作ル、〕 鎗〔割註〕同前。」 シツクヰニテチヤン 発引棺〔割註〕外

護喪 田寿安〔割註〕名明、 村孫四郎 赤星大四郎〔割註〕名国香、 〔割註〕名行賢、 稲垣茂左衛門 〔割註〕名正直、字希汲、」 (割註) 字荘敬、」 字子亮、」 字子蘭、」 名長章、 字穉明、」 野佐次郎 松崎才蔵〔割註〕名惟時、 大塩与右衛門〔割註〕名良、字子顕、」 〔割註〕 名俲、 原養沢 〔割註〕名尚賢、 字君則、」 字君修、」 字子才、」 外山元 宮

主賢 赤川瑞仙 大幸伴十郎〔割註〕名方、字義卿、」 吉田一瑞 沢村治右衛門 〔割註〕 名徳守、 字子昭。

司傊 司書 原惣内 堤文右衛門 井田元東〔割註〕名思近、字子遠、〕 (割註) 名永貞、 (割註) 字子允 名有節、 字仲文、」 市野三郎右衛門 横井丹栄 [割註] 名成美、字子休、 匹田喜藤次 (割註) 割註 名光業、 名尚明、」 字子曄、

南郭云、世語ノ注ヲスル時、 写本ニテ写伝へ誤レルナリ。大系図ナドモ真偽マジハリスマズ。 南郭云、 ハ甚読易シ。然バ古書ノ今ニ伝ル物、 世説ノ註ニ列子ヲヒキタルアリ。今ノ列子ノ本ト大ニ同ジカラズ。今ノ列子 日本ノ古書ヲ考ヘシニ、一行ニ脱誤幾ツト云コトヲ知ラズ、 後世ニテ文字ヲ直シタルモ知レズト也。 ソレユへ大抵考オキタリ。 う本

実録ナラバ、

又コマヤカニ吟味ノシカタモ有ル

ベキコトナリ。

十一月廿五日、 ウニシタキコト也、 ケレドモ、 如キー 六経古書ニ仁ト云類ヲバ 書ヲナシ置タラバ 芙蕖館へ暇乞ニ至ル。 ト語ラレタリ。 ヨカルベシト思フ。 一所へアツメテ、 以下南郭 ノ咄ナリ。 人々へ渡シタルニ、其コトナラズ、 礼ノ義ノト云類悉書出シテ、 タト バ弁名ト クヒ違モ 性理字 ア カヤ ĺ ベ

長門侯 南郭云、墨帖モ徂徠ノ頃ナドセワヤカレタレドモ、 印書ナド セワヤカ 云モ ノ大夫毛利宮内ノ方ナドニテシタル法帖ヨク出来タリ。 レタレドモ十分ナラズ。 朩 ルコ トニテ、 昔ハ下手ナリシニ、 大著作ノ士ハ殊ノ外少シトナリ。 近来ハ上手ニナリ、鳥石弟子ナド色々ノ法帖ヲナセリ。 タクサンニテ珍シカラヌホドアリ。 中華ノ如キ法帖ハ出来ズ。 文雅ハ大ニ開ケタルユへ、 サレドモ著述 広沢ナドモ

南郭云、 日本ニテ韓ノ流ノ文ナシ。 田大心ハミコミヲ韓トタテタ ル 也

- 朱子ノ学問、 力 タナク押消サレ サテノ タリト覚ユ、ト 博治精密及モナキコト歴代ニスクナキ、 南郭 ラ説ナリ 大昔ヨリ 朱子ニテ
- ナ リヤウゴ ハ文章拙 ン ユイ モト梵語ヲ漢語ニ直シテ、其マ マ、 少シ役者ノ心、 文ニアル故カ、 、ニ記スユ 見マシ へ文章意アル タル〉 マデノコト也、 ルニ非ズ。 其中 南
- 春秋左伝ノコト、 二立ベキト コト 恵フ モ、 長崎ニテ ハ、 徂徠ノ説書日トア 日色纔臨時 ,口デ通 ズル 仙掌動ナド、 ル ヤウニナラズバ ハ、後人ノ附会ト見ラレタ ワヅカ ハ少ニテ 学問ノ用ニタ、 ハナシナド ル 如何、 ヌ 云 コ コ 覚束ナシ。 俗 語ヲ用 間 ユ。
- カヾ ア ノ絶句解ノ字ヲ添タシテ、ヨクスムヤウニ注ヲセラレタルハ、 ルヤラン、 ノ コトハ何トモ呑込ガタキ、 ト南郭説也。 モト四書ノ 文林貫旨 =
- シテ解 大学的之書ナド セラレタリ、ト南郭語ラレケル。 、、俗語ヲモ入レテ、サラリト 通ズルヤウニ注ヲナシタルヲ、 モトタテニ
- 明人ノ説ニ、 キト云コトナレドモ、 ノ文ノヤウナル文ハ、 バ歴代ノ中二十 文章名家ト云ハ、古今二十 人ト云ハ、殊ノ外ニス 明人ノ中ニ十 詩ノ方マサレ Ĭ, 人卜 ハナシ。 クナキコトナリ。 人ニ過ズト云リ。 ト南郭ノ論ナリ。 空同ナド 韓柳 大著作難キ 一番ニ文ヲ ナド ヲ 唱 モ コ 入タ \sim 知ル 出 ル セ べ モ ル シ。 ユ 也。 彐
- 于鱗ガ文ノ流、中華ニテ書タルタヘテナシ。徐中行ハ于鱗流ヲカキタ 語ノアンバ 鱗ガ文モ、 ベキコト 其外 ノ諸子モ、于鱗流ヲバ得カヽズ。 也、 アマリニ古書ノ字ヲカリタル イナドヲ、ヨク呑コミタル ·南郭説 ナリ。 、モノ也。 処、俳ニ近キ所アリ。 明末ニハ于鱗ヲソシレル文人多シ。 ヨク 気ヲ付見バ、 サレドモ古書ノ 文章ノ為ニ大ニ然 レド モ、 少ヤ 句法字法助 イカニモ于 ラ カ
- クヤ ラカニ書タ タル ヤウナル文ハ ル 物ナリ。 韓柳 東坡ナリ。 ノ外ニハ欧蘇誠 ナジリツメ 一云ツメ 文章 七ナリ、 タル論ハ 允明 南郭 ナ デノ説ナリ。 欧 ナ
- ナリ。 白楽天ノ詩至テ上手ナリ。 長恨歌ヲ傑作 卜 スルモ、フマヘア 一変シテー流ノ詩ヲツクレリ。 ルコトヲ、 古事古語ノ上へアラハサズ作レリ、ト 楽府ナド 事情ヲ云タル処類稀
- ナラハシテヨ ンニ何ト 字ノナキ多シ、 ク通ズルアリ。 云字ヨカラント , 転変セ 声 ソ ヲカリテ字ヲツク カス ソレヲ字ニ直ス時、 テ、 ル アリ、 コト、 声ヲカリテ字ヲウメルナリ。 又声 モ レ ヲ IJ_。 左伝ヨリ出 力 IJ 声 日 ゚ヺ 本ノ ル カリテアテ字ヲカクト同ジ ア ,奴僕ノ タリ。 IJ ソレ 俗語モ古語ヲフマ 詞、 南郭語ラ ユへ俗語 文字ナキ 人ノ詞ニテ云 義 m コトニテ、 学書ニ

問丈夫ナル人、存ノ外絶句 于鱗ガ詩 云カヘタル至極ノ妙境ト見ラル。 メニシテ作リタ アラズ。 ハスグレテ出来テ、唐ノ詩ト見ルナリ。 盛唐ノ詩ノ如クナルナリ。 ハ学問ゼメニシテ作リタテタルモノ ノ論ナリ。 也。 明人ノ詩大カタ右ノ通ナリ。随分巧ニキリアハセ、故事古語ヲヨ ノ下手アリ。 于鱗ガ作ノ中ニテモ不得意ナリ。得意ノ詩ハ左 絶句ハ学問ゼメニシテハ猶々宜シカラズ。 又学問モナキ人ノウカト作リタルニヨキモ 残リハ大カタ唐ト見へズ。 故、タト へバ五首モ作リタ 唐ト見ヘタ ル ソ 二首カ三 レ ヤウニハ ノユヘ学 タ 7

ルナリ。 南郭 ヤウニナリユキ 失アリ、唐人ナドハ不得意ナル体ヲバ會テ作ラズ。 万能ヤト云ヤウニナリテ、 トモトリ 人ハ ノ論ニ、 トモ云へ、 ツイニコ、 、ヅサヌヤウニトスルハ、少下手ノ見識ナリ。 文ナラバ文、 タ ノ境ヲ見破リタル詩人学者ナシ。 カクニ吾得タルコトヲ 心得アル 詩ナラバ 諸体ヲソナヘザレ ベキコトニコソ、 詩、 専門ニヲサメテ吾得手ヲシタキコ ノミナスベキコトナルニ、 バ物タラズト思テ、 ト南郭論ゼラレタリ。 唯得手タル体 コレヲ直破スル見識ハ上等 ○又詩諸体サマぐ 勉強シテ得手ヌト :ノミヲ作 何モカモ アル ij, \vdash ナ 明 中ニ長短得 ル =, セ 人ナドハ コト - テモ作 ン 両 ナ 丰

ナル 唐ニモ段成式ナド博物家ナリ。 人尚多シ。 人多シ。 予ハ極メ手ニナルコト嫌ナリ、 又古書ノコトヲ証拠モナキヲ、推量ニテイロ 宋ニハ猶多シ。元ニモ ト南郭語ラレケリ。 輟耕録ヲ作 \ = ヲシスマシテ、 ル陶宗儀ナド博物家ナ 極メ手ニ ý

南郭云、今ノ学者朱氏ノ書ナド 今学者ノ弊ナリト語ラレケル カモトリ コミタクハへ置タルガヨキ也。 ハ見モセズ、 朱学ノ書ヲモ随分見ルベキ 左ヤウノコトニテハ用ニタ コト ` ナルニ、左ナキハ ズ、 学問 ハ何 モ

南郭云、 鳥石ガ草彙ハ、 草書ニテ字彙ノ体ニ編集セリ。 書末ダ に出来ズ。

子允ノ語リシニ、 和尚 ヲ尊崇 ヨリ縫殿ノ祖母養性院ニ仕へ、 通ヲ 京極縫殿 ス、 メテ頭 ノ家来三田 グヲオ 茂左衛門ガ妻ハ、 口 セヨト 学文ヨクシテ手モカキタリ。 アリシ時、 上儀左衛門ガ女也。 ヨミテ奉リシ歌 養性 院光林寺、 名ヲ

常にゆく道ならはこそ世をうみのあまのとわたる舟もこのまめ

ルクテ浮屠ヲ辞シテ三田氏ニ嫁シケルナリ。

面白シ。 荀悦漢紀甚ヨキト、 굸 詩書古伝ニ入レ度由云レタレドモ、 ルトナリ。 春台モ云レ タルト也。 徠翁モ漢紀ノ中ニ詩書ヲヒキタ 先夫マデハ及ガタシ。 西京已上ニイタスベシ、 所

モ後漢書 ノ注宜シ、 ケ ツ / ク漢書 ノ注ヨリ ヨカ ル べ シ、 ト云レシ ナリ。

酈道元· 注 殊 ノ外ニヨキ物ニテ、 記ナド ヲ 'n ク ル 二 一益アル 也、 春台殊

アリシ、ト君修ノ話ナリ。

- 一易蒙引甚宜シ、ト春台云レタリ、ト君修話ナリ。
- 云へリ。 春台初テ徂徠ニ相見ノ時、 莫ノ字ノ用ヤウヲハヤ難ゼラレタルト也。 徠翁ハ莫ハ無ナリト云レシナリ。 蘐園随筆ノ写本ヲ出シテ見セラル。 サレバ難ズルコト春台ノクセナルベシ、 即無有ノ二字アルニョリ、
- 南郭 云評判、 キヤウナシ、 合点ナカリシ程ノコトナリ。然ドモ南郭師学問ノ丈夫サ、徠翁ノ社中ノ諸君子ヲヒツクベ 皆合点マ ハ徠翁社中ニテハ文育 ナルト云沙汰ニテ、文ヲ作ルニノゾンデハ ナリ。 ト諸君子ノ評論ナリ。 徠翁ノ喪ノ時ニヨリ合レシニ、 イラズト云、 南郭ヲシ返シテ、 礼記ノ正義ニ見ヘシコト イヤー昨日見タルト云レ -アルト タレ 文才アラ モ、 南郭云レ ケル
- 三国志注、 世説ノ注ニ及ズト云へド モ、 甚ヨキ註、 ト君修ノ説ナリ。
- 八佾ノ章是可 」 忍ナリト云春台ノ注、呑込ガタシ、 ト君修ノ説ナリ。
- 宋已来之儒者ノ議論、 時制ト情トヲ呑込ズニ、古人ヲ論ジタルモノナリ、 君修ノ説 ナリ。
- 斉家宝要ハ春台殊ノ外尊崇 クツケタル物ナリ。 東涯ノ点ナルベ ノ書ナリ。諸子ト会アリ シト云リ。 テ読レタルト君修語レ IJ_。 \exists
- 書経旁通、 同通考ヲ作レル学者、 ヨキ学問ナリ、 ト君修語レリ。
- 松平紀伊守殿ノ儒臣松崎祐之、字多助、 未脱稿而没。 タテ真字ニテ、書目ハ日本ノ古書ヲキリアハセテ参考セリ。紀伊守殿ハ京都所司代ノ 公家衆へ段々御頼ニテ、 今奥平大次郎ト云人校正シテ浄書ニカ、ル、 種々ノ古書ヲトリアツメ申サレタルユへ出来タテタルト也。 歴史徴七十巻ヲ作ル。 ト君修語レリ。 裕之ハ号蘭谷、 此書体綱 嵵 ヲ
- 楊時喬周易全書十冊余アルベシ。 ヲモ古ニ復ストタテ、篆文ニテ書タリ。 穉明ノ所蔵ナリ。 明末人ナリ。 至極ノ珍書、 易ニカ、ル歴代ノ説ハ悉収載ス。 尤本義ノ拠トスレド モ、 又余程異同 易ノ本文
- 君修云、春秋ヲヲサメントナラバ、 本ニ三伝ヲ一所ヘヨセタ ルガアリ、 三伝ト胡伝トヲ合テ先異同ヲ見ル ヨキモノ也ト語レリ。 ベシ。 今ノ 大全ノ和
- 春台ノ会業ハ下見一篇、 会読一篇、 又一篇見ラレタルト也。 元麟 ノ話ナリ。
- 徠翁読荀子百張バカリアリ。又葬ノシカタノコトヲ、徠翁ノ礼ヲ折衷シテ書レ タル 一本ア
- ッ、ト元麟語レリ。
- 宝暦三年癸酉東役、是ヨリ已下。
- (長云、 唐本三才図会ノ中ニアル人物ノ面貌ヲ、 張子房ナド 上代 ノ絵ノ後代ニ 1 コ リ、 今日本 証拠ニト ニ伝リタ リテカクヨリ外、 ル甚少シ。 日本ニテシカ 人物モ元明

又云、 ハヨホド 探幽君臣図 大菩薩ト云ヤウニ、 ア レドモ古キ画ナシ。 像ヲ書タル 明ノ民 モ、 ノ尊尚スル 三才図会ヲ証拠ニシタ トカク明人ノ画ニ関羽多シト云。 コト故、トカク関羽ヲ絵像ニ書タルナラメ。 ルト語レリ。 是ハ日本ニテ観音、 又

猗蘭台集二稿五冊、 ナシ、 板ナリ。二稿アラ 詩モ初稿ノ 通ナリ。 初稿七冊ト、 一覧ス ル、 西記トテ平安へ在番ノ道ノ記ナリ。 猗蘭子三冊ト合十五冊ノ本ニシテ一帙ト 其外サノミ面白キ文 シ、 神 戸 侯 ノ蔵

四月七 レガ流 ト覚ユ。 礼ナレド テ妻子ヲ托スベキ約束 ルナリト 文字チガ 侯ノモト 先生云、 豆ク覚ユ。 ニクミ立テ、 旦 尤朱氏流 モ、 周礼儀礼会読スミタリ。 ナリ ヒモ余ホド多シ。 ヨリ借リヨセテ会読シタレ 朱氏一流 芝ノ泉岳寺 大カタヨクスミタリ。 引合セテアフヤウニシタル クミタテノ ノ学問ヲクミタル所、 セリ。 \sim 御代香 ソレ 夏カタ 宋学、 ユヘ 戸、序、 今ハ礼記半分ホド 儀礼図解ヨクシタル ツキ合見テヨホド ハ バ、兼テ進退周旋 先生ノ 芙蕖館 聖人ノ心ニカナフベキニ非ズ、 古今ナキ学問ユへ、百世ノ下ニテバ モト 三至 所 ^ ル、 ヲ 会読セリ。 多門ヲ引請ベキト先生ノ物語ナリ。 先生壮 ソロ 改 ノムヅカシキ韓退之モ、キラヒ モ タ · ノナリ。 シキコト ル 也。 健ナ 儀礼図解 七経孟子 Ű, 又朱子ノ経伝通解 也。 然ド 中西多 ノ朝 モド モ其考証 力 ク礼 門ニ女ヲ嫁 カサレ コマ 本ヲ、 ジ注疏 デモ ニシ 或諸 タ 随 コ IJ

南郭云、 絶句解考証社中ニテ出来テ、 其首ニ題言シタル 、トナリ。

南郭云、古書ヲ多クミ ズ。 コ ` ノ 所、 サテく レ が隙ト 学者ハ誰モ苦ムコトナリトナリ。 リ、著述ニカ ` レバ五三日 モ手間ド テ、 読 書 ノ ハ 力 ユ 力

四月七日、 書ノ 本ア 、 リト 君修此役初テ相見ス。 カタル 刊 ハ三巻出タルヤ、 宇士新論語考ハ雍也マデ出来タ 該博ニハ驚タルト ル由キ コト ナリ ` ケ Ű, 7 デ

君修云、 ,ヨミテ、 力 ル 北魏書ナドハ、 コヒテ休息所アリ。 二 十 一 ·覚タリ。 南 元美ガ謝 北朝 史大抵ヨ 一代々々 其外ハシ 僧ノ大般若ヲ転読 肇制 ーミタリ。 ソレニヒキコミテ読 カラズ ナド ノ史ヲバヨマ コレ 如 ト思ハル キ、 スルヤウニヨミタリ。考へミルニ、古人モ南 ハ 使番ユ 古今ニスグ ズト思ハル。 、ト也。 L ユヘ へ邸ニツメテ居ル =, レ 王元美宛委余篇ナドニ、 タル博識 内ニ在テ精思スル ノ人ハ、 内 広間 タ 7 書 ノカ タ タ マ Ξ ミタ ラニ 北史ヲ ズ、 周 ル

老子是正一巻新刊 、タテ、 寓言ニ出 注 セ Ĭ. 云コ (割註) 首 三平 孟子 デナリ。 ・ -安伊 寛延辛末仲夏朔旦。」 論語ニ古人ヲ称 初テ、 藤長堅序アリ。 孔子已前ニハ 其序 シタ 日東張静撰注甚アラシ。 ナキ マ 1 趣意 \sim ルニ老子ノ名ナシ。 コ ハ、 也 老子 将 軍 ト云人昔ニナキ 号モ古ニナキ 老子ヲ兵 又老子ノ文平 コ コト

ルモノナリト云フ長キ論アリ。 ナリ。三公ト云コト老子ニ見ヘタレドモ、古ニハ三事ト云テ三公ト云ズ。戦国ノ間ニ作レ

ト云コト、 君修云、春台ノ作ラレタル周易反正如何アルベキヤ、トカク朱子本義ノサバキ宜シク覚ル ナリ。又徂徠ノ古言ヲ徴トセラル、コト、 ハ、ナルホド古書ヲヒキテサバカル、コトアレドモ、徂徠ノ如クニー々ニ古ニヒキ合スル 千古独得ノ見ナルベシ。 西漢ヨリ後會テ発明ナキコト也。朱子ノ説ナド

君則云、于子廸〔割註〕名専、 四月十二日晩、君則来テ語ル。 塾ニヲリタル人ユへ、徠翁ノ読諸子ノ書写タリ、太宰徴孺へハチヨトカシタリ、後カシタ 論語考雍也篇マデ書写本、 コト殊ノ外悔ラレタルトナリ。○子綽ハ、子廸ノ学問春台流ナリトホメラル、ナリ。 青竹楼ニテ見タリトナリ。 宇佐美恵介ナリ。 〔割註〕鈴木千蔵。」青木文蔵ニ一見セリト云リ。 出雲侯儒臣。」同人ハ徂徠ノ弟子ニテ、 〔割註〕青竹楼ハ前川庄兵衛ナリ。」 ○宇士新

是ヨリ已下モ南郭老ノ説ナリ。

三才図会ヲ、 其内事長クシテアシキ所ヲバ 農書ニヨリ、 信仰ニカ、 セナドヲシテ、人ヲ欺クコ ヲナス人多シ。 中々慥ナル書ニテハナシ。 ルハ 今時ハ誠ニ天地人三才、 書肆ナド日本 沙汰 ハ泉志ニヨリ、人相ノ処ハ人相ノ書ニヨリテ、 ノ 限ナルコトナリ。 ト多キヲ、ソレヲ田舎料簡ニテ中華ハ何モヨキト心得テ、 /、 チヾ 人ヨリハ少文字アル故、 メテヌキタ アラユ 大カタハ書物屋ノコシラへタリト見ユ。 ル絵図ヲ尽セリト人思フハ、 J. 其仕方散々悪シ。 色々 ノ作リゴトヲコ ツヾリ スベテ中華ニハ杜撰 合セタル物ナリ。 シラヘテ、 ノカギリナ ヒラ 類ヨ

海外ナド書テヲケリ。 華夏ト云、 ド書タル コト 詞 ナリ。 ハ、 ナリ。 中華ト云コト、 ソ 日本ニテモソ レユへ南郭 行説ガ教ナラメト思ハ 天ノ タツル所大単于ト、 日本人ノカロぐ ノ文ニハ、タマ ノ如ク心得ベキ ルトナリ。 シ コト 漢ニオクレル書ニカキタル ニ華ト書タレドモ、大カタハ華トハ書ズ。 ク云ベキコトニ非ズ。 ・ナリ。 大カタハ天ノタツル所、 ソレ ハ、誠ニー見識 日本 大単于ナ -ヲ次ニ

書テんト書テアリ。 今ノ伝通院ノ住持大謙、 中々スマズ。 仮名ノらんナドノ、 ヌ経論ナドアマタアリ。 孝謙天皇時代ノ物 其後南都ノ宝蔵ヨリヌスミ出シタルト覚テ、種々ノ古書数部ウリニ出 んトハネタルハ、已前ニ日本ノ古書ヲセンギスル ソレ モアリト覚ユ ユヘ 其中ニ無ノ字ヲバ易ノ无ノ字ニテ書写シテアリ。 コレヲ吟味セバケツクアシカラントテ買レ ムノ字ノ転ナリト思ハ ール也。 珍シキコト也ト語ラレタリ。 ル、也。其書ハ古代ノ タリ。其中ニ聞モ及バ 人 色々説ヲイ ソレ 書ト見ユル ヲソマツニ **I**タルヲ、 物多

文字イカニモ古テイニテ賞翫スベキナリ。 ヒヨ 海経ニハ宋ノ頃ヨリヤ図 画ハ張僧繇ガ書タルト云コト、何ヤランニアリト覚ユ、文ハ其図ノ ルト覚ユ。 ドモ図ガヲモナ物ナリ。 ハナクナリタリ。 コレ ハ図アレ 淵明ガ詩ニモ、 バ子ド -モラシ 山 海 ノ図ヲヨ コト 丰 ハ -思フ理 きまけり。 屈 T

御即位 外聞ヨ 大カタハ唐ヨ ノ時ハ カラズ覚ル也。 ユ リ日本ノ王ニ冊封 唐装束ヲ用ラル。 上ニ多クアリ。 へ世ニ伝ラレタルカ、又此方ヨリ 京ノ人ハ何ゴト 外国 ノ王ハ諸侯王ノ上ニテ、 水戸 コ ノ装束ヲ贈リタル モ レハイカナル 、義公ノ、 ヨカラン 唐ヲ外夷伝ニ立ラレタ ト思フヤ コ ハ元来中国ヲ外国トアシラフ 故、 トヤラン知ザレドモ、 天子ヨリ少シクダリテ竜ノ文ナド ・ウニ、 ソレヲモチイラル 中華ナ バ 何事モ 、ガ、 以」予懸三度之二、 ベキ 何トヤラン ヨカラント 見識 コ

二百口 御老中酒井雅楽頭殿ナドノ世話ニテ、 惜キコト 見セニユキタル ナ Ŋ ニ書出シテアリ、 ナラズヤ。 スベテ日本ニ唐ヨリ増シタ 呉ノ太伯 畤 百王一姓ヲ中国ニテモ驚タ 公家衆ヨリサツトアリテ刊行ニモナラズト也。 ※ 度 今二其俸米林家ニ残 ノ後ナリトイフ説ヲ載 } 聞 タ ル ト語ラレ 撰レタラバ然ル ル コト、 ルト 丰。 セラ ル ク コ 通鑑 ホドモ レ トアリト ベシ タル ハ綱ヲ立、 アリ。 トテ、 ノ由、 -覚ユ。シ 刊 ソ 諸生ヲアツメテ公儀ヨ 目 行ニナル レ 本朝通 カルニ春斎 ヲ学者ノ知 ^ ハ仮名 ベキ ノ書ヲモ ラ 其時 本朝 テ京 ヌ Ŧ 1) 師 涌

ゼラレ シ歌ニ、 本多伊予守殿致仕シテ、 ウキスノ別業ニ居ラレ ケ ル ニ 招 レ テ、 庭 |池ヲ見 廻リテ

静なる池の心を水鳥のうきすの波のたつとしもなし

音ニテ、字ヲ合セテ一字トス。 方以智ガ通雅、 クトキハ字ヲツクルナリ。 ナドヲ、王 中華ニモア ウニスル、 コト |中華ノ形容字 ル也。 シテ、 ノ入用ニナリタル 説ニ見 モア 是外国音切ノ学ナリ。 俗語 ル 韻鏡ト云モ ノ字ニテモワン ル べ コトナリ。 随分声ニテ通ズ タ シ。 ハ声ニテ云テ、文ニカクトキ ハ猶 レバ 日 本ノ人ノ韻鏡 ノ出来タリ。 以テ其ヤウノ 今ノ 廬充幽婚 韻鏡ハシ 俗ナルコト論ニモ及バヌコトナリ。 ト云字ニテ、 名乗字ヲカヘ タトへバ観世音ト云ガ如シ。三字ナレドモ一字ニテス ル 外国ハ音切ノ学盛ナルユへ、 コト ノ 字音ヲクハシク吟味スル梅誕生ナドガ如 ツタンノ為ニ コト コ ノセンギ、 ナドヲ トニ、温休休温 先書テ置ヤウノコト -多キ ス ・ナリ。 バ ハニ似タ ハ字ヲコシラヘル 誠ニヲカシキコトナリ。 能クセ コ 俗語 シラヘタ ル ノ二字ヲカ コト ンギ 声 モ ・アリ。 ル バ セ ア 物ナリ。 但二字ヲ一字ニスル 中国ノ声音ヲバ 、ナリ。 カリニテ通用シテ、 ル ヘシテ、 コト ソレ 珍ラシキ 犬ノワン =今ハ名乗字ヲカ ユヘア 外国ノ二合三合 ハ 幽婚ニナ ア + ル セマ 1 大家 ・ニテ字 ハ ナド、 トナク デナリ。 ジ ル 上云 キコ ムヤ ヲ

程子ノ学ヲ土木偶トソシルコト、沉詰偶簡ニ載タリト也。

六国 本史モ此通リ 史ノ後慥ナ ノサバキナリ ル記録ナシ。 -聞*タ* 帝紀ハ栄花物語ト三鏡ニヨルヨリ外 ノリト也。 仕 方ナシ。 義公ノ 大 H

日本ニテ延喜、 ノ権ヲ得タル 政 モナケレドモ、 学寮ニテ云ナラハシタ テ、 天暦ノ聖代ト モ 亦此 本 コ 其時ナルホド帝室ノ 時也。 ・ナリ。 詞 故此二代ヲ以テ盛世トスルハ、藤氏ノ私ニ諛フ 俗 云コト、其時 ソ 中 · ニ 少 ル詞アリト覚 ノミナラズ、 聞 \exists 文物ハ盛ナル故ナリ。 ノ文人 クシ 日 ノ云出 タ ユ。源氏物語タギリ 本ノ昔っ ル ト覚ユ。 シタ ル 其事今 コ 独リ文物 ナ ノ大将 ル 天台宗ナド べ ノミナラ シ。 タ 二代 及第 ル称ナリ。 少シ永 ズ、 時 ナ ル

少残リテア ル

中華ニテ仏家ニ宗門ト云コトナシ。 ヤウニナリテ、大カタスタレタルヤウニナリタリ。日本ノ宗門立ルモ、 仏ヲ云、律ニテ禅学ヲモ兼タル也。 人ニ宗旨ヲ書出セヨロ云ヲ、 関帝ヤ 切支丹宗門ノ制禁ヨリ事起リタ 観音ナド書付テ出 宗旨ナケレ ストキク、 宋ノ時代ヨリ禅甚盛ニ行レテ、教ハグヅツキ バ何ニテモ信 ルト覚ユ。長崎奉行文盲ニテ、 ヲカシキコト也ト 成ホド三ツニ分レタレ ズル仏ヲ書出セ -語ラレ ア 二百年前 1, 云付ラル キナイニ来ル唐 モ、 ハナキコ タ :ニテ念 ` ル = \exists

奪ヲ行 ナリ。 日本ニテハ百王一姓、ト 日本 ヲウバヒ玉ヒ、宇治関 コトアリ。 ノ手代ガヲモニナリテ家ヲ持居ルヲ、主人ガヒキウ う古、 学者 フコトナラヌナリ。 藤原氏権ヲホシヒマ、ニセラル、コトヲ、 ノコ トカク藤原氏ノ世ニ宰相ニ人服シタル也。 レニ気 ノ付ヌハ大ニ無念ナルコト也。 白ナゾモ引込レタルナリ。 カク日本ノ外ノ国ヲバ夷狄ト立ベキコトナリ。 レ外国ヨリ日本ノ人実気ナル処ナリ。 サレドモ此事ヲ思フニ、今ノ時 又百王一姓ニ心服シテヲルユヘ、 後三条帝ナド甚怒リ思召シ バ・・ 人服スル ヒテ、 ト云コト大事ノコ 結句家ヲ持トスルニナ コ レ春秋 テ、 ノ意モチ ノ大商家 ト也。 ル

徂徠明: ニセ物 帳ニシテ懐中セラレタルガアリ、 律ヲ解 シテ外へ出シタル也。 セラレ タ ル時、 ソレユヘニセモノハ少部ナリトナリ。 少ヅ、叔達ノコジツケモアリ。 叔達ヒタト御城へ召テ、 律ノコト ソ レ 御 ヲ何者カ [尋アリ コ タ シラヘテ ル

コ

日ニー ナリ 八種画譜ハ至テ俗ナル絵、 ニテハナシ。 山ナド、 雪舟古法眼ハ誠ノ唐流ノ絵ナリ。 画論ハ津逮秘書ノ中ニヨホドアリ。 カラノ人ハ云テ、 評スルニ足ラズ。笠翁画伝モ今日本ニテ云町絵也。 大事ニカケテ絵ヲカクコト也。 席絵ト云コト中華ニナキコトナリ。 ソレヲヨミテ見レバ、 大ニコトナルコト 五日一水、 中 々 ヨキ +

日本人ノ古 ノ筆蹟 ハ、、 晋人ヲニセテ、 ソレヲカナニヒキウツシタ ル 故、 仮名 マ デ モ 見事 ナ

隷ハ成 ニ覚ユル也。 ホド ツ事ト見ユレドモ、 隷ハ篆ヨリウツリ来ル 故、 後世 正 楷 ハ 少 シ ク

于鱗ハ拙書ナ ニシタル弇州ノ手跡、 :セラル ヌ ケズ。 カタ広沢ノ弟子ニテ文徴明ヲマネタリ。 作 ニーテ ル É 心 力 得ラレ ク楷書ハナル ア 云 IJ 八種 又猗蘭侯ノ所ニ王元美ガ手跡アリ。 シカ、 ズ。 画譜ニ 元美兄弟ト ソ ホドヨ アル 頃 ハ モツクリ 王氏 ク書ト覚タリ。 モ 兄弟 随分明末ニ 其後古法帖ヲ見テ書カヘタレ モ ノ 字ヲ墨榻ニセシモ ア ル テノ能書ナリ。 べ イカニモ見事ニハ シ。 王弇州ノ書ヲ美事ナラズ 厳 \exists ノナド 徂 猗蘭侯ニテ見ラレ 徠 ナキ物 ハ ドモ、 渡来ラヌ 真蹟 文徴明 也。 ユ

- 宇治拾遺ハ真ノ書ニアラジ、宇治ノ関白殿ヨリ後ノコトモアリ。
- 高ミクラノ側ニ、 シ時ニ書出シタルトナリ。 江談ナド写本甚埒モナキヲ前カド見タリ。其後羽倉斎宮ガ改タルヲ、 シヤレカウベアリテサハガレ ヌ、法楽公ノコト 大鏡ニ見ヘタリ 借ヨセテ世語ヲ著 也。
- 越絶書ハ子貢ト云トモ心得ガタシ。 古メキタリ。 呉越春秋 い後漢 ノ作ユへ、 但大カタハ前漢 イカニモワカク読ヤスキアリ。 ノ人カ秦人ノ作ナル べ イ カニモ文
- 瑯琊代酔ハ大ニ心得ラレヌ書ナリ。 代酔ト云名モ出サズ。サテ又大カタハ楊升菴ガ丹鉛総録、又ハ外集ナドヲマ 張鼎思ガ料簡ニシテサバキテアリ。 作リソヘタルナラント語ラレ 方以智ガ通雅ニ、 タレカコシラへタルナルベシ。 博大家ノ書ヲヒカズト云コト 代酔ハ ル ワヅカ計リ ナキニ 出シ
- 捜神記、韓魏叢書ニア 華ニハ多キコトナリ。 ルト、 津逮秘書ニアルト ハ大ニ異ナル物ナリ。 コ ヤウナ ル コ 卜 中
- 本ノウチヨリ献上セラル。 六国史、 類聚国史ヨリヌキ出シ ソ ノ艸稿ヲ見テ、 テ、 世語 部類ヲ分テキリタシテヨホド ノ中ニ書出セル モアリトナリ ア 旗
- 唐六典ハ甚不自由ノ書ナリ。 ヲ見玉フトカタラレキ。 近衛関白殿刊行成サレ、 諸侯へ贈物ニ成サレ タル 本ガラ
- 紀人竜門 其浮薄ナル人物ヨセズト語ラレシトナリ。 (割注) 俗称宮瀬三右衛門。」ノコトヲ尋ル 成ホド芙蕖舘 ヘモ来リタ ル 人ナ
- 徂徠学ニテ世間一変スト。 聞アキタル也、 見セマセ 人ソバ ゾ悦ナルラメ。但今ノ時復古ト云コト、 メキニサハ 然ドモ徂徠一生ノ間ハ人半信半疑ヲ、 (グマデ、 軽浮ノ世ノ中 俳諧ニマデ云テ、 ノコトナリ 今 ノ世文物 サテノ ノ開 キタルヲ 復古ニ
- 切支丹宗門ニ宋代ニチョウド似ヨリタルコトハ、魔ト云モノアリト云、 抄出 書ヲ見セラ
- 周南 シラベテヤリテ大坂ニテ彫ル 詩ハ、ハヤザツト校シテヤリタリ。 ナリ。序ヲ書ズバ成マジト語タマヘリ。 四巻アリ。文ヨホドアリ。チカキウチ来 ル べ シ。
- タマジ 春秋繁露ナド古書ナル ハリタラント思ハ ユヘ、 ル、 ホリキリ ナリ。 ア ´リテ、 ヨメヌ所モアルナリ。 墨子ナドモ真贋大カ
- 礼儀類典出来テ、 近衛公ノ女ヲ御モライ成サ マダ桜田 近衛殿ホシガリタマ ニヲハ シ マ ス頃娶ラセタ レ度トアリケルニ、 <u>^</u> F モ、 義公ト 、マフ故、 ハ不通ナリ。 義公怒リテ不通ナリ。 関東 造サ 其 故 ル ハ 「ニテ、

家中ノ若キ士マデ集リテ、 レヲ近衛公トリテ、 ニ下ラセタマヒテ、文廟へ仰ラレ、 京ニ帰ラセタ 書写五百巻出来テ献上ナリ。 マフトナリ。 文廟ヨリ水戸へ命ゼラレ、江戸へ礼儀類典献ゼラレ 水戸ニテハ腹ヲ立タルトナリ。 ソ

延喜式 ハ開元式ニョリテ出来タルナリ。 唐律ハ唐本ニテハナ ク、 写本ニテ伝 タリト

文選篡註 ハ張鳳翼ナリ。 キレイナル本也。今ノダ 1" クサナル本 ハニセ モ ノ也ト ナリ

覚ユ。李本寧ガ集ニ云タルモ慥ナラズ。 ナリ ノコト徂徠 ノ物語マデナリ。 李滄溟ガ文ノ中ニモ見へズ。 大泌山房集弇州文ヲ、 弇州文ノ中ニモ 一ドグラヒヤワラカニ書 其事ナ

リヤ、 上様ト云詞、 文ナラバ、 フコト故、 カタマシナランカト覚ユ。 ニナリタリ。 京都へ云ヤラレタ 合点ユカズト云来ル。 官名ナド 書ニクキコ 上ト公方ノコトヲ云、 平安ニテハ、 ル文書アリ。 ハ古キ名ヲ出シテモヨカル ートナリ。 上代ヨリ天子ヲサス詞 スベテ制度官名叙事ノ体ニドウモ書レヌコト多シ。 憲廟モ聞召、 京都ヨリトカクシテ、 尤広クサス詞ナレド 今ヨリ左様ナルコ ベキニ、 ナリ。 両上様トハ、当今ト 叙事 憲廟 モ、 ト云ヤルナト御意アリテヤメ 書ニクキコト ノ体ナラバ、 御 両 上様御機 実録 ナリ。 院 御所 修餝シタル ノ本意ヲ失 公方ト云 ノ御事ナ 宜

学文ハツミ置テ発明スルガヨシ、 徂徠ノ学問ナド、 ツミ置テ発明セラレ タル ナリ

谷響集ト云物、日本ノ僧ノ書タル物ナリ。 日本帝室ノ衰タルコトヲ書タルモ ノ、二水記ト云モノア 焦氏筆乗ヤ、 ゛ リ ト 徐氏筆精ノ類ナリ。 聞ク、未ダ見ズト語ラレキ。 黄蘗ノ悦山ナ

へ、見テモライタルトナリ。悦山 ハ 不学 ノ人也。 ソレ モ田舎料簡ニテ学ビタルト ナリ。

サバキタル事ノ文字甚悪シキナリ。

三種の神器ノ ルトニ 擬セラレ コ ト色々ニ云ト見へタリ。 タルト覚ユ。 小説 ア中ニ、 先ハ 伝国 コレモ秦ノ ノ璽ノコト が始皇ノ、 ヲ、 和璧璽斬 随分ニ書ツヾ 蛇剣ヲ ケ 代 タ ル 々 ガ T

史記ハ前ニモ云通リ未定ノ書ナリ。 古ナル アラズ。ソレ ガ今ノ代ヨリ見レバ、結句古テニ見ユル コトナ ・ヲ少シ ハ 司馬氏ガ取ツクロヒタルナラント思ハル。 ダ 1 也。 クサニ古キ記録ヲトリア 倉 公₹ ガ医案ナド、 倉公学問アル 今ノ世ヨリ見レ ツメテ、 未ダ ベベキ ソ バ 口 人ニモ ヌ 所

説郛衷ト云モ ノアリ。 説 抜書ナリ。 何 用ニモタ ヌモ ノ也。

リ伝 君子ノ手跡 IJ 徠ハ至テ悪筆ナ 力 ニモ 大カタ 如 心此ウチ 人品ニテ賞翫ス レド ツケテ書テ、 モ 気象ニテア ルト見ヘタリ。 早書ニ大分書写セラレ ノ如ク書出サレタリ。 山谷ナド タ ハ 定家ヲ悪筆ト 手ニモ骨折 処 Ξ

ラレタリ。

- ナリ。 不分ナリナド 外ノ所ニテハ、大カタカ 看他世上人ナド俗語ナリ。 云俗語ハ、 六朝ニモアリ。 ノ ト云詞ニアテ、ヨク聞 自他ノ他ニアラズ。 杜詩ニ多ク俗語ヲツ コノ詩ニテ ユ ルナリ。 カヒ ハ自他 タ J, 今 ノ他ト見テモツウ 千家註先 \exists
- 一博大ト著述ト兼タルハ、元美一人ナルベシトナリ。
- 唐書モ字甚ワル シ。 此度刊行 庄蔵ノ校合ユへ、 \exists 力 ル べ シト云ヒキ。
- 見ルニ、文志ニナキ書甚多シ。 慧林ガー切経音義百巻アリ。其中ニヲビタヾ 然レバ中華ニモ、字書大分亡ビタリト覚ルトナリ。 シク字書ヲ引タリ。 隋唐ノ芸文志ニ引合セテ
- 百川学海ヲ廿歳計リノ時見タリ。 述ナキト語ラレ 郛ナド片ハ 多クシテ、 詩、 決シテ人ニモ見セヌナリ。 事、 其後ハ珍シ シニ読テ、 キ。 ナド 則此書ハ遺契也。 抄出シタルトテ、 類ヲ分タリ。 キ書ヲ見ル度ゴトニ、色々ノコトヲ抄出シ、 歿後二火中セヨト 其後書出シテ置ケバヨカリシニト思フテ、 コ レ ハ手前ノ覚ヘニシタルユヘ、 類分ニシタル抄書十巻バ 力 タク云付テ置 カリ出サル。 ナリ。 唐宋叢書、 人ノ用ニハ曾テタ、 此外ニハ 後悔スル 名、 説郛、 何モ著 コト
- 大東世語ハ、 レヲ又増補シ、取合セテ書タリ。 へ春檻ト書タリ。 アノ方ニテ移春車ナド云ハ、 元来仮名書ヲ見タル時抄出スル 石ダイノ下ニ車ヲツケテヒキア 長押木ナド。 ニ、 ナ ゲ 直ニ訳文ニシテ書出シテ置タル シャハ リ日本 ルクト見へタリ。 ノ詞ナリ。 資朝 ナリ。 ノ春檻台 ソレユ ソ
- 文選ノ李善註モ字ガ悪シ、二板アリシトアリ。
- 玉 ノ 玉器ノ五六品 今ハ普通ニ承知シテ、コノヤウノコトワケ書ノセズトモ百モ承知也。 自由 i タリテ、 コト、 ナ ル モノナリ。 今水晶ト 何事モ驕奢ナル ハモテル ハ少シ違へリ。 今モ出ル ヤウニナリタル世ナリ。」 コ (ナリ。 トハナシ。 水晶ハ 見知ル 此頃ハ玉トイ スルド 人少キ歟ト思 キ色ナリ。 フモ ル 玉ハ今少シウルミテ、 ナリ。 至リテ稀ナルト見へタリ。 予ガゴトキモノサへ、 (朱書) 今ノ世ホド 成ホド
- 論語徴集覧モ来戌年中 人ノタメニモスベ キト ナドニハ刊出来ベキカ、 ノ心ナリ。 出来タラバ書林へ渡シテ世上へ モヒ 口 メ、
- 滄溟詩ニモス エスマジ キコ ト多キナリ。 マヌ詩アリ。 カク七子ナド ノケウガイ、 出合ノ 様 子、 クワ シ ク
- 子孝文 必アノ通 ノ文字、 コラズヨキニテモナキト ナリ。
- ボ物語ナド 盗 刊 ト見へ タリ。 子供ノ玩ブ利蔭ノ絵入テ文字モ ツヾ ケ IJ_° ソ レ 彐 IJ 後

- 日本律ハ山田大助ノ父ノ チヨト本ガラヲ見タルト也 モ アリテ、 有徳院殿 キ献 上アリ。 ソ 時 世話ナド
- 古今 馬氏、 ルナリ。 ノ文人ト云コト、小説ニテ見タ 莊氏、 屈氏皆シハジメノ人ナリ。 ルヤ得思ヒ出 左氏ハ言人、 . サズ。 宋 荘氏 人ノ 語ニ、 ハ言无ナド云評判アリタル 古人ノ 文人 中ニ左
- 塩鉄論漢ノ文ニテ成ホド 易ニ書タ ル物ナリ ١ 也。 \exists シ。 経済 ノ事ユへ、 文ノ書カタモ其用ヲ達スル為ニ、 1 位 平
- 管子ニアル地理ノコト、土味 ノコト、 其時代ニー種 ハ ヤ ij タルコト アリタリ 覚 ル ナ
- 一副墨ハ伯玉ガ自分ノ撰ユへ、先ヅヨキ方ナリト也。
- 講ト云コトナラハスト云心ニテ、 シテ見セ玉へ 人アリテ、 ト云コト 読師ナド IJ_。 ハ 宋 ハ読アゲ ヨリ始レ IJ° ル役人ナリ。 昔六朝アタリノハ、 講釈ト云字ハ、 天台ナドニ法華八講 成ホド六朝ニモアル 今ノ講書 方風 卜 ハ 違フナリ。 ノコリ テ、 抄書中 ノテアル 色 ョリ 也。 々
- 三浦へ十日アマリ遊タリ。 ヨホド -絶句作 レ IJ トテ見セタマ ر ا ا ا ا ا
- 平家物語ハ日本ノ文章ノ中ニテ、 清盛ノ怒ラレタル体ナド、 見ルヤウニ書キタリ。 イ カニモ古文ナルモ 中々及ビガタキ仮名文書ナリトナリ。 ノナリ。 ヨク云トリタ ル モ 譬 バ
- アシカラズ。 当ニカクナリ。 日本ニテ近頃ハ文化ハヤリタル故、唐流ノ画モ少シハ 一代ノ詩ト画ノ上手ヲ掛合タラバ、画人勝ナル 明 ハ言ワレマジ。 サテオキ、 下リテ浙 明ハ画ハアシ、、 戴文進、 元四大家ノ後ノ一人ナルベシ。 派 ノ藍田叔、 呂紀、 林良ノゴトキ官体ハ 委シク 馮湜 ブル ハ画論ニテヲスベキコト也。 イハイカドアル ベク思ハ 文徴明、 ヨロシカ ヤリ出シタレドモ、ト ゛゜ べ キ。 ラヌニモセヨ、 唐 寅 予ナドガ眼ニテハ、 董其昌等、 〔朱書〕 カク明 沈石田ナド 明画アシ イ 一面ヲ目 ヅレモ 明
- 三教一致ト云コト、 立ナリ。仏 モト ユヘ 老子ヨリ出タ 朝ニテモ、 ハ金剛経ナドヲ引 レド 後ニハ殊ノ外制禁ツヨクナリタリ。 明朝ニテー宗云出シテ、是モ又切支丹ノゴト モ、 李伯陽ガ参同契ヨリ一致ト立、儒モ周茂叔ヨリ テリ。 コレモ終ニハ天帝ノ側へ帰ルトタテタ 末世ニハ色々ノコト シ。 其書ヲ見シニ、 シテヒキ合テ建 ル宗旨ナリ。 ハヤリ出 道 スモ ソ
- 甚悪シキ物ナリ。 人カキ 不 残一 ット 覧シタレ シ タ ル 人ノ定メ ۲, モ、 シラブ タ ル ベキヤウモナキ · モ 聞 ^ ズ。 大カタ書物屋 ナ Ű, 唐宋叢書モ カ、 文字

コトナリ。

埒モナキコトナリ。 ノ玄英ト云モ 、疏ヲ作 ル、 道士ト ・モ、 僧 ト モ 츳 唐 ユ ^ 殊勝 ナ ル コ モ ア

経学、 孔安国 漢儒ニタヨラネバ 「ノ註モ、 レド モ、 中 ア 々 ノ通ニテスマスベキトモ思ハ 訓詁ス 一ツモスミガタシ。 マズ。 サテ又サ 書経 ン ハヨメニク レ 埒モナキ註 ズ 卜也。 合点ユク拠少シナラデハ アリ。 六経 ハ 学者ノ 肝 ナ

子共ヲ教ル 其後又ソロ ツスルモ ノ也。 ニ素読サスル時、 **〜覚〜タルト語タマ〜リ。** 我等ナドモ十二三歳ノ アトデサラワル 诗、 親ガ四書ヤ三体詩ヲ教へ コト成ホド 3 ケレ 1, モ、 タルニ透ト忘レ 向 ^ ス ` egネ バ タリ。 タ

春夜宴九岐侯悟賞舘 南郭

柝城門近。 春天花月夜。 方驚密坐深。 侯舘苑牆陰。 此一枚老師クレラレタリ。 相得風流会。 無非悟賞心。 林光侵三秉燭 水響 入 弾 琴一。

東叡王 ナラヌニ、 キハ 御使ニモユキ御供ヲモシタリ。 メテ風雅ニテ、 (割註) 詩人詩ヲ作リタガルトテワラヘリト語ラレキ。 随意自院宮。」ノ諸大夫某、 名モ皆面白キニ、 京ニテハ日華門、 公家衆詩ヲ作ル 別テ懇意ニテ著述モナ 月華門ヲ始メ文字 スベ ヲ知 リ玉 ル *>*\ ノ宜キ所アリ。 ズ。 人ナ 江 Ŋ 戸 京 地名 ^ 古跡 ヒタ ハ 七

南郭ノ 一ツハ満地金銀百尺台ノ詩、 僕平田十太ト云ヘリ、親ノ養ノ為トテ少シ文字ヲシ 一ツハ春眠無客至ノ五絶ナリ IJ 細 工 モ能テ正面打 碑 ヲ ス ル

畢竟宋学ハ 一種ノ学問ナリ。 ソレユ へ我 ハ折理家ト名ヅケタル <u>١</u>

学者ノ料簡ニ出テ、 治メント思ハ、ニガ 書タレバトテ、用ラル 書テヲクベシト思ヒタレドモ、 ヲモ不 ノ学者ハ紙上ノ空談ニテ、 知。 大カタハ出テ経済セバ誤国ノ罪ヲ得ベキモノナリ。 国ヲ治メバカヤウノ 〈 シキコト也ト語ラレキ。 、ト用ラレヌハ 山川ヲアリキタル 又思フニ、 天ナレ **〜ニスベキナド云。コノ方** 左ヤウニ書タレバトテ用ラ コト バ、無益ナリト思テ文ニモ作ラズ。 - モ無ク、 民ノ情合ヲモ ソ レ jユ 理屈ヲ心ニ持テ時 ĺ へ末ノ べ 知ラズシテ、 キニアラズ。又 コト 大カタ今 ・ヲ文ニ 人ヲ

ノ知己ヲ待ツ心ナラデハナラヌコト ヲ名聞ニス 人ハ名ヲム ル。 サボリテ、 サ レノ 南 カマ 郭ニ逢タル、 ヘノ少キコト ナリ 又ハ南郭ニ詩ヲ見セタレ ナリ。 学問ハ古人ヲ目アテニシ、 バ、ホメラレ タ 千載 ルトテ、 ノ後

正名ニ書レ 事ヲ 如何書ベキヤ 時ナラバ、 ヌ時 ハ マギラ 書経 西台侯カ、 力 ノ例ニテ吾后ト書テ、 シ ニシ 守 ル 山侯カ、 コ } ア 何 7 ギラカ レ ヤラ ス ヾ べ 文ヲ捧ラ 丰 力 云リ。 レ タ ア ル ノ方ニテ 間 シ

- 楊升菴外集モ考古ノコトバカリナリ。 舟ナド遠キ証ヲ出セリ。 近ク史記ニ出タル スベテ升菴ハ 、コトヲ、 忘レ メツタニ奇僻ヲ探ルコトスキ タルガヲカシキコト也。 ·ナリ。
- 古三代ノ時ノコ タアル 井田ニナラヌ所、 ベキナリ。 左伝ニ井二 疑フベキコトイクバクト云コト イカホドモアルベシ。 (₹ `) ト云ナリ。 ソレ ハ大カタ井田 ヲ知ラズ。 井田モ残ラズシタ ノナラシノワリ合ノ ル 、シカ ハ ア
- キコトナリト語ラ クシテ、 (割註) 門人フォモ寄集リテ校シタルユヘカ、 荘田平五郎、 、 レキ。 臼杵侯臣。」 ノ校正 アノ楚辞 カク精密ナル学問少ク、 ごノ咄ア ý, 校合甚悪シ ナゲカ イ ソ
- 制度ヲ考ル ハ杜子通典ヨシ。 詳ニ考ルナラバ、 文献通考ヨリ外ハナシト
- アル 顔魯公ノ手跡 (ヲバ、 勁健ナルヲ見テイワル イ マダ識ラデノ空論ナリ。 人ガラノ通リス 、 カ。 ルドキ手ナリ。 送劉大沖序三蒿等ノ行書ニ、 〔朱書〕魯公ノ書、 ムツクリト温敦ノ気 家廟碑、 東方画賛、
- 徂徠ノ書 大分書カケテアレ モ ハヤ刊ニハ先ヅ出スマジキナリ。 ドモ、 シラベカタキ也トナリ。 未定ノ書ニテ書チラシテアリ。 筆 7 メニ
- 徂徠モ仁ト云サバキニハ、 ソレヲカネニスルヲ義ト云、 心ヲ用ラレ ト徂徠ハ サバ タ ル コトナリ。 カレタリ。 義ト云 *>*> 聖人 ノ コ } ヲ Ñ キ玉フ。
- 大ティー キシニ、其事 モノ 公事カ何ヤラン訟 群聚シテ、 タルト也。 、ナリ。 ・ ガ如キニ変ズル事ナラズ。 宋ヨリ已後、 東坡ガ文才モ誠ニ絶倫ナル 少ノ間 判断パ 韓柳欧蘇 ノアル時、片々マケニテ大分銭ヲ出サネバナラヌコト ニコ セズシテ、 レホド ト四家文章ノ手本ニナリタリ。 紙ヲアツメ筆ヲトリテ、 〔朱書〕剽襲偸窃ニ変ジタルコソ。」 ノ銭ガ出来テ、 ユへ、 当世ニ大カタナラズモ 其公事止タルト云コト 物ヲ書テヤリタ 後世少ヅ 大カ テ ハ ĺ タ ヲ 小 ラ、 説 バ、 ハ 力 サ 東坡ガサバ 韓ヲ学ビタ ヘテ 中 -ニテ見 レヲ買 IJ. カケ Ų
- 会業ト云コト中国ニモアリテ、 ナル ホド会業ノ引ト云文ヲ見ル ・ナリ。
- キ戸ニシテ下ハヒキ戸ニシテアリ。 出シ易キヤウニシ 書物外題ニ、 タリ。 内ノ小ワリ残ラズ書ツケ、 ツクエ ノワ キニヨセ木 ノ書ダナアリ。 □コノ処ニモ部ヲワケ書出シ、® 高サ三尺バ カリ、 上ハヒラ ル 時引
- 已上十月十日、 芙蕖館へユキタ ル 時 南 郭 、話ナリ。 猶数十条アリ。 思ヒ 出次第書付 べ
- 故ニ書タ コ 世 ル 語ニ書タリ。 南 郭 ノ玉 コ ŋ̈ レ 中華 トニモアリ テ、 詩ナド ニモ、 梅花透 見

- 古人ノ用 ホド 見卜云、睹卜云、観卜云、視卜云類、 モヨキ用心ナリ、 - 尤ナリ。 タル 和訓ニトリツケバ迷サ 句ヲ其下ニ注シテ、 ト南郭 ラ 玉 字義ヲ知ル 同訓ニテ異義ノ字甚ダ多シ。 ル ` ホド ニ、 ベキ為ニシカケタル、 書ヲ見ル度ニ書出シ コ レライ ・テ置タ 老師ニ咄タレ 口 ハ分ニシテ、 ル ガ、 イカニ バ、成
- +ア デスミタルトナリ。 テ愚痴ナ マリヨキ学者ナシト語ラレキ。 一月二十九日、 但新註ニモヨキ ル所アリ。 東禅寺行香ノモド 大テイ唐ノ初 新註ハ コトアリ。 カナ書ノゴ ステラレヌナリ。 ノ学問、 Ů, 1 芙蕖館ニユ クナ 六朝ヨリモチ込テア ル 由ヲ云タル 孔穎達随分説 キテ謁ス。 =, 南郭云、 南郭云、 タレ ノ通リナリ。 ۲, モ、 ナ 会業礼記郊特牲 ア ル 、マリグ ホド其 スベテ六朝 八通リナ ''J'
- 某ト云詩僧アリ。 中々日本ノ万菴ニ及バヌナリ。 南郭云、晋ノ玄談ノ人詩ノ上手ナシ。 ルトナリ。 其節在家ノ人ノ及ガタキコト コ レ ハ文字モ取マ 又明ニハ詩僧ナシ、明ノ才子ノ出合ニ詩僧見エズ。 ハシヨホドアリ ナリ。宋已来詩僧ナシ。唐ノ九僧ナド名高ケレドモ、 許玄度ナド詩、 タ ラチモナキナリ。 リト -見エテ、 竹窻随筆ナド云モノ著 慧遠ノ詩 ハ 明末ニ 中 面
- 今ノ花山院内府殿 ト賞セラレ タリ 人品 勝 レ タ ル 人也。 文モ 中 々 ヨク書 シ、 東涯 二 ヨ ク似 セラレ タ ル人ナリ
- バナラヌ。 狩野家ハ、 翼之云、于鱗詩ハ古今ノ上手 云タルニテ、 又明ニハ古詩ハナシト覚ユ。七言歌行諸体ヲ兼備タルハ、 絶句ノ体ヲ論ズレバ、唐詩ノ絶句ノ体ニアラズ。古詩ハ悉く古詩ヲ出シテ、二三字改タル マデナレ 明画ヲ学ベリ。 古詩ヲ論ジタ バ、何ホドヨキトテモ自分ノ詩トハ云レズ。 宋ノ僧牧渓ヨリ来ル故、 其法ヲ学トナラバ ハリ私論ヲマヌカレズ。」 唐画ノ中ニテ宋ノ画ヨシ。 ル、ソ ノ党トイヘドモ勦襲ノ弊ヲ揜アタ タルコト ` 狩野家へタヨラネバ法ヲ得ガタシト云ヘリ。 ツヨキ処セント書ケリ。 勿論ナレドモ、七律勝 翼之又云、 明画ハ悪シ。 我ハ狩野家ノ画ヲ学ベリ。 マシテ古詩ニ直シタ 明画ヲ今学ブハ不尤ノコト ハ 南郭先生一人ノミ。 唐画ヲ学ブトテ、 ズ。 レ タリ。 シカルニ南郭先生一人ト 絶句モ面白ケレド ル故、 法ヲシラネ 〔朱書〕 干 ソレ Ŧ
- 由美弥次郎 ハ、筑前 用ヲ承ル。 ジノ人竹! サテ 田 某ノ門人也。 不幸ノ人ナリ、 加賀公ニ召出サレ儒官トナル。其後加賀公度 ト子亮語レ
- 尾公ノ邸ノ前ニアリシ書肆美濃屋平七ト云ケル 申 又古史通ト 名憚リテ史通 色 云写本売ニ出ル仮名書ナリ。 ナド 云五 ア 巻アリ。 藩翰譜、 日本紀ト古事記、 史疑ト 実ノ名ハ史疑ト云ヨ ハ、藩翰譜モ近比 モ、 白石 紀ト 著述ナリ。 ・ヲ引合・ ハ売本出テ、 シ、 日本紀ノ セテ、 (朱書) サ 価 史疑 中 金五円 7 タ ル 金

ジタル漢文ノ ノ遺書残ラズ差出スベキト 数紙アリ。所詮成書ニハアラザリシト見エ、 コトアリ。 セラレタリ。二書トモ今ハ迭セリ。 モ 史徴トテ二部ノ著アルコト、 ソノ頃史疑、 ヲ一冊モテリ。 ノコトニテ、 史徴 ノ稿カトモ見ユルモノ、反古ノウラナドニ書チラシタル コレ史疑ノ残本ナリ。」 反古ノヤウナル 寛政ノ頃翁ノ孫伝蔵トイフモノへ命アリテ、 佐久間洞厳ニヲクル翁ノ手簡 余、日本紀中仲哀崩ナド モノマデ御右筆部屋ニテ見ワケ ノウチニクハ ノ疑事ヲ少々弁 翁

宝暦四年二月十三日、 和歌 ルコト ヲ見タルコトアリ。 くちね只折 、熊沢大夫ノ書ニモ見へタリ。 書ナド大分読タ 人のとひくれは心にかゝる峯のかけはし 折フシ開帳ニテ、元政ノ直筆ノ ルト見へタリ。 君修来訪。 君修云、 子亮京都メグリシテ深草へ 深草ノ元政ハ師徳アリテ、 扶桑隠逸伝ヲ読テ見タルニ、 和歌、カケモ ノニシテアリシヲ見タル 人ニ生タル ユキテ、元政菴室ノアト 外文 如来ノ如ク思 面

黄勉斎 ニテ儀礼会読ノ時借ラレタルト也。又君修云、古人ノ礼家二十一人ノ説ヒト 朱子 ノ編レシ喪祭通解ト云モノ宋板ニテ、 ノ語類ニ見へタルト也。 松平備前守殿ノ方ニアリシヲ、 ツニ集置タル 子廸、 南郭方

ベシ。 裏ノ如クス 日本ニテ国初已来経済ヲ云人、 バナラヌ勢ナリ。 クヤウニシテ、江戸へ人ノ集ルヤウニス 君修云、 コヲ積リテ云 人質ヲカヘシ、大名 リテ書上タ ベジ。 ヲ直スコト故、 、見へテ、ハキトシタルコトモ見エズ。徂徠ノ政談モ、トカク今ノ 然バ 叱リガタシ、 大名ヲ恐レ 大名ヲ国ニカヘスコト、 唯正名ト云バカリデ経済ハ次ナルベシ。 春台ノ経済モ、 ルナラン歟。予云、ト ルツ レタ モリノヤウニ見ユ。武士ト云フコトキライナリ。 大名ニ何ニテモスル業ヲコシラヘテアテガヒタキコ ル タル心ナラメ。又云、 万事手ノ 本ノ経済ニハアラジ。但有徳院殿ノ御サバキ成ナサルベキコト カ。 ノ 国 又徂徠モ大名ヲイヤガリテ、トカク大名ヲ三十万石ヲ大身トスル ノ根本タルコトヲ知ラセザレ 只今ノ通リニテ、 7 ハ 熊沢、 カク政談ノ通リ旅住居ヲ止ントナラバ、 徳川家ノキライ ル身上ニテ、何モスル 白石、 ルコト、 徂徠云、今ノ大名 少官名ナドヲツケ、 徂徠、 徳川家ノ物ズキト見エタ ノヤウニ覚ユ。 熊沢ノ経済ハ 春台四家ナリ。 バ、 コトナケレ 旅住居ト云コト止ムベカ ノ内行不」修不埒ナル 革命ノ 武備ユ トニカクニ江戸ヲ人ノス 官服ヲコシラユル 白石 バ ト也トナリ 悪シキコト 上ニテ少ヅ 時ナラネバ用ガタ ルミタラバ 諸侯ノ参勤ヲ止 ル故、徂徠モソ カク コト 戸ヲ禁 ラズ。 マデ ヲ、 ル

ーナリト

也。

養朴ガキ

メニ宋画ナリトナリ。

白石

ヲ甚不快

三思

朝鮮来聘ノ

時

養朴屛風ヲ書タル

一条院

ノ御前ニテ清少

^納言簾ヲ巻ク

ツヨ

人力、

文廟未ダ

、甲府殿ト申

-セシ時、

掛物

ノ絵ニ賛アリ。

直

左ヤウナ

レ

所ヲ書タ

- コネ合 君修云、 ル見識 奇僻 ノ考ニテ、宋儒ヲソシ ノ学問ハナキ也。 セタルヤウ也。 明 人ノ明末ノ学問 陽明 IJ ハ タルヲ 、心学ニ 大ニ テ朱子ヲ 風 一ツニシタル アリ。 ソ 大抵王陽明、 シ ヤウ也。 Ĭ, 李夢陽ニテ宋文ヲソ 然ドモ 李夢陽、 ハキト宋学ヲウチ破リタ 升 菴、 Ŋ, 楊升菴ガ ノ学問 ヲ
- 君修云、本朝文粋ヲ見レ ラミヤハ テ、 叙事モ書レタルト 叙事ノ体 論ニ及バズ。国初已来モ叙事議論ノ体ハ悉ナシ。 モ備レリ、 ・ハ見レ バ 六朝 仁斎ノ叙事至極 ドモ、 1 四 如何アルベキト 六 ノ体、 ノ下手、 中 マヤ 也。 東涯 ハラカナル書手アリ。 徠翁已来叙事議論ノ体、 モ其通ナリ。 湖亭渉筆ニテ見レ ソ ハキト 文運 ク
- 君修云、 本云 トカク諸子ノ中ニテ、 雖二荘老ノ文二不 文章モスグレ議論モト レ及者遠矣、 況其他乎。 力 ク 云レ ヌ ハ ` 孟子 __ 人ナ ル べ シ
- 君修云、三勇伝ハ板行シタキコトナリ。 其時君修未幼少ニテ其文ヲバ ナク心安キ人内藤君房、 日本 見ザリシト 叙事ヲカ 正言モ板行シタキ ` 也。 レ タ ル殊ノ外ヨキ文ナリ、 コトナ Ű, 又春台 ト春台モ云 悙 レ 人ニテ タ ル 由
- 君修云、武徳編年集成モ近頃ハ 合タルニ知ラズト云へ IJ 樋口弥門方ニ出テアリ ナリ。 経邦礼 典 コ 弥 方
- 君修云、 文ヲスク人ナシ。 賞ヲ見ル 韓退之詩ハ下手ナリ。 = 明 劉基ナド ス ラく 柳文 ハ封建論ノ外左 シ タル文ナリ。 日本ニハ ノミ見識ナ ア ノヤ 丰 ユ ウニ、 ^ 面白 ス 力 ラ ラ ズ 明文奇 タ
- 君修云、 白石ノ采覧異言殊 外ヨキ文ナリ、 ト春台ホ メラレ タ ル } ナ IJ.
- 君修云、 板美仲 -ガ 母 ノ行状ヲ書タル文ヲ見ルニ、トカ ク文ハ 上手ナリト
- 君修云、 ル ト也。 徂徠ノ著書ハ皆ナクテハ叶ハヌ書ナリ。 春台、 東涯 ノ作ニハ、 無用 ア ル
- 君修云、 又憲廟ヲソ 春台ハ シリテ カク今ノ 文廟ヲ ド 江 毛生類 ・ホメラ 戸 , ヲ 革 命卜 ル。 ワ 徠翁 ミテ、 IJ ハ憲廟ヲホ コ 山城ヲ 御免 勝国 メ テ、 ノア ア 文廟ヲ ヒシラヒ オ コ 也。 セ 丰 ル コ ナ Ű, ^ ヌ 但 コ シ
- 間 越前守殿 権ヲ ヲ サ ラレ タリ。 又有徳廟 \exists 内 官 権 盛 ナ

- ナリタリ。 又牧野備後守殿、 中国ノ宦官ノアリサマナリ、 加納殿ノ権ヲキビシク押ラレタリ。 ト君修語レリ 然レドモ次第二内官 権 ツ 彐 ク
- 国初ハ文盲沙汰ノ限リナル ハヤ公儀 家中ニソレヲ書人ナクテ、 へ出 タル モ コ トニテ、水野明卿 ノ 故、 取カヘシテ書改ルコ 系図ツクリヲヤトヒテ書出セリ。 ノ咄シニ、 トモナラズト語レリ。 酒井左衛門尉殿先祖系図ヲ 今見レ バ違モアレ
- 孔子 君ヲバ 世ヨリ見レバ、 正ス伯夷叔斉抔 ノ場ニナラバ、 君修云へリ。 ノ衛ノ タスケシト云コト論語ニ見へタリ。 国ニテ正名ト仰ラレタルコト、 アトノツブレニモカマハズ、自分一身ノリツパヲシテ名ヲ正シクスベキカ 其身ノリツパニテ、アトノ国ノツブル、ト云モノ也。 ノ如ク成サル ベキヤ、 脇カラ其国ノ君ヲヲシノケルモナル コ 伯夷ノ通リナル レハ自分ニヒキウケテ、 べべシ。 伯夷叔斉 御身 然ドモ父子兄弟ノ争 ノ上ナラ ノコトモ、 マ ジキ ズ 今ノ
- 云心アルベシ、 ジン文ハ、 カク李于鱗ガ体 ト君修云ヘリ ヲマネタル 故、 家ヲ立タレドモ、 ツクヱ バ ナレ ガセ ヌ 1
- 稲葉石見守殿ハ ヲ封ジテ、 筺中ニイレ 仁斎ノ秘蔵弟子 ラキテ、 ナリ。 没後二仁斎へモド 堀 田筑前守殿ヲ刺殺サレシ前ニ、 サ タ ルトナリ、 君修語 語孟字義 り。 ァ書写本
- 大坂鐘ノ銘ノコト キナリ、 ト君修云リ。 ハ云ニ及バ ヌ コ トナルベキヲ、 云立テニナリ タル ハ御当家 恥ト云 べ
- 君修云、今ノ学者三代聖人ノ道トログセニ云へド 只周ノ道ヲトラへ物ニシテ論ズルナリ。 周公礼楽ヲ立タマ ハラカニ文物ヲ立ナバ、 ヘル上ニモ、其弊ヲタメラル、心アルベキ歟。 武備ユルミテ乱ヲマネクベシ、 殷ノ人ノ風俗ハ甚ツヨクテ、中々周ニ服セ モ、夏殷二代ハ書物ナケ 心得アル 然ラバ学者ノメ ベキコト也。 レ バ 詳ナラズ。 ツ ヌ故、
- 台云、 本多中務大輔殿 カラント人々思タ 論語苟患失之無」所」不」至ト云フ聖人ノ御詞、 本多殿御老中ニナリタマヘドモ何ノ功モナシ。 (割註) ルニ、 忠良。」 存ノ外ナリ。晋ノ謝安ヲソシル詞ヲ用ベシト、或人云レ ハ世ニ賢人ト ・云レタ 、ル人也。 万世ノカヾミニナルト アナタガ老中ナラバ、 春台ノ方ニテ世説 イカバ 大言セラレタ シシ時、 こく会アリ カリヨ
- 子亮云、井伊家 窓ノナキモ江戸ノ風俗ヲ見習セマジキタメナリ。 ハ江戸 ノ風俗ヲ見習ハ セマジキ為ニ、 諸士ヲ他出サセズ、 外交ヲカタク禁
- 二月二十九日 東禅寺行香 芙蕖館ニ到 ル武侯 ノ□□賜リタリ。
- 閏二月十三日 沈晦 俟命 云マデヲ ブキタ 公白圭碑碣 中 君憂国ト 云ヨリ下筮 段石 朩 ル コ

- 一子允自讃ノ歌ニ、難波へまかりし時妻のもとに申送し
- つゝみても行袖もかな難波江やあしわけ小舟けふのみるめを
- 月の歌に(コレ子允卒去ノ前年ナリ)
- 秋ことにことし計といひく~てまた海原の月を見るかな
- つもりきて老と成ぬる身に しあれはいさよなり の月を見てまし
- 榊原 ル 康 コトアリト 政 碑姫路ニ在リテ、 ・ナリ。 羅 Ш 春台翁見ラレタルニ、 カ、 春斎ノ文集ニアル 康政七功徳於天下、 ベキナリ。 見タキコ 其中殉死ヲヤ 君修語レ IJ. メラ
- 語レリ 鵝湖 / 問答 / 事、 朱子文集ニモ、 朱子語類ニモ見へヌ。 学蔀通弁ノ中ニアリトナリ、
- 猛虎一声山月高 アリト覚ユ、 ト君修語レリ。 『ノ詩ハ、 王荊公好デ吟ゼラル ` 0 詩 ノ作者ハ元紫芝ナリ。 其事代i 酔 ア中
- 仁斎ノ門人中島源造、 ヲ講ズルト也。 名ハ正辰、 モト松平紀伊守殿ノ医者ノ子也。 今大津ニアリテ仁斎学
- アリ、 名聞計: 狄仁傑ナドノコト、 ト君修云へリ。 リニテ真実ノ忠ニアラズ。 子允ハ決定シテ尤ノコトナリ。 陳平 m 周勃、 狄仁傑ガ如キ 早ク諌テ自分ノリツパ コソ、 本ノ忠臣ナラメト云論 ヲシタキ 岦
- 縛シタ 士寧ナドノ文ハ能クモアラズシテ、 シバ チヾ リタ マフト覚ユ。 ミタルクセノツキタルヤウナル文ナリ。 ルヤウナリ。君修屢子式ニ云ク、 徂徠ハ門人ノ才ヲ銘々ノ長ノ通ニセラル、 チヾミタ 南郭春台両人シテ己ガ物ズキヲ立テ、人才ヲ束 ルト覚ユ。 南郭ノカ 譬バシウトメニイヂラレタ 7 ヘヲヨキコ ニ、二君子ハシカラズト也。 ・、シテ、 又自ラ ル孺人
- 産語 ハ春台ノ文ノ中ニテ、 飛キリタル出来ノ文ナリト思ハ ル 君修ノ説ナリ。
- 春駒集ト云狂歌集ニ南郭ノ序アリ。 初稿ヨリ前ノ文ト思ハ ル ト君修語レリ。
- 云ト云方不足ナリ。 君修云へリ。 .リ。詩ハ志ヲ云ト云ニハアハズ。同ジヤウニヨク似タル処ウレシカラズ。!井石見守殿ノ世子山城守殿ヨク詩ヲ作リタマフ。近来諸侯方ノ詩一カマ タトへバ絵ニ書ケル女ヲ見テ、心ヲ動カスガ如シト云評判ニ似タ ソレユ ヘニテヨ 一へ志ヲ ル也 ク 似
- 平安ノ人竜右衛門、 タ ルト也。 芥川采女、 是等ナド平 名 い公美、 荀子ノ序ヲ作レル清絢、 安ノ才子ナルニヤ。 字ハ君玉、 草廬集ヲ作リテ序ヲ君修ニタノミタレド 字君錦、 又篠士明 (割註) 俗名三弥。」又 · モ辞 シ
- 物部連 書物ヲ引出シテ見テモ ノ檄文事実タガ ヒタル ノヲカ ト覚ユト。 ル コト 君修モ日本紀ト引合テ見ル ナシ。 皆ソラ覚ナリ、 ト君修 = 成ホド ノ話也。 ・タガ 禎云、 ヒタリ

ト云へリ。

- 君修云、帆丘安右衛門、美仲ノ俗称ナリ。 文 ト 云ハ李夢陽已上ヲ云ト、 大言セルトナリ。 美仲春台集ヲ譏リテ、 ア レ ハ \Box 取手形ナ
- 君修云、 春台ノ易占要略ハ断易天機ノ筮法ナリ。 如何アル ベキ ヤト云リ。
- ニハ 節義ノコトヲ論ズルニ、 イカニモ今川氏真 カヤ ウノ所ニテ多ク死シテ、 、ノ没落、 禎云、源平ノ時ノ士ハ格別ニ義アリシト段々証ヲ引 北条氏直ノ高野ニ入リ死ナレタル時ナド一人モ殉ナシ。 供スル人アリト覚ユル 卜也。 ク、 君修云、
- 君修云、 春秋 ノ中ニ黄河ノ患ノコト見ヘザルハ如何、 魯 ハ 河遠キ故 力
- り。 礼記ヲ鄭玄、 随書ニアリタルカト覚ユ、 馬融ナドガ取アツメタルト云コト、 ト君修云へリ。 二十一史ノ中イヅレヤランノ経籍志ニア
- オト ト君修ノ友人小説ヨク読 ギ婢子ハ至テ好書ナリ、ト君修ノ評ナリ。五朝 ム人ノ云ヘルトナリ。 小 説 中 咄 ヲヨク染カ シ タ ル モ
- モ子ドモヲ教へ立ツルニハ、 先ヅ平家物語、 太平記ナド · ヲ 読 ス ル コ 卜 可 也ト云 ^
- 君修云、 于鱗擬古 中 = 聞 ヘヌ ハ、 易水歌垓下歌ナド = 似 ス ル コ ١, 埒 モナキ コ ナ ル べ
- バ格別 子無言還去」、易水風寒連袂行、 セラレタリ。 へ出サレタレバ、 義気水清生太軽、 林民部少輔ノ父大学頭信篤、 コト也。 其詩、 詩文ヲ作ルナラバ実ヲアルスガタニ書ベキコト 是レハ如何アルベシト、 憲廟ノ上覧ニ入タルトナリ 四十六人斉伏」刄、 炭唖変レ形追ュ予譲ェ、 赤穂ノ四十六士切腹仰付ラ 秋元但馬守殿云レシ時、 上天猶未」察□忠誠□、 薤歌滴レ涙挽 シ コ 時、 ニテ、 詩ヲ作ル 三田横二、 ノ詩ヲ御老中列座 詩ヲ作リテ、 此通ノ 精誠 コト禁制ナラ コト 岩碎死何 直言 聞壮 ノ 中
- 君修云、日本ニ詩話ナシ、書タキコトナリト云ヘリ。
- 百人一首ノ評判、 ト云レシハ尤ナル 禎存念ヲ云、君修モ云、 ベキトナリ 定家ノ詞ニ、 家隆ハ歌ヨミ、 我ハ歌作
- 春台ハ会読ニ必下見ヲシテ、下見ナキ所ハ会モセラレ ズ ハトナリ。
- 明道ハ誠ノ賢者ナリト覚ユ。 ノ心服格別ノコトナリ、 ト君修ノ説ナリ。 司馬温公、 程伊川、 王荊公ナド、 中々 人ヲ人ト モ思 ハ ズ。 衆
- 大テイ吾職分 是聖人ノ定ハ動カ コ 先王ノ典刑ヲ立カヘル 建議 ス ル サレ モ外 ヌ コト云 ノ 改 事ハ論ゼズ。 ル コ 又改メ 極リテ 宋朝 ヌ 彐 Ź IJ ガ 3 IJ 理 + タ 屈 ナド云沙汰 ル 彐 故ナル バ べ 開祖 シ。 君 ユ

禎云、 祖へモ、 定メテ今ノ世ニモアルコトニテ、 祖ト楚ノ項羽ト会セシトキ、高祖間道ヨリ逃タルコト、其時范増ハ如何シテアリタルヤ気 日本ノ武士ノ風ニテハアハヌコトナリ、 ノ定メタマフコトヲ、改ルノ、改メヌト云論モ起レルニヤト覚ユ、ト君修ノ説ナリ。 ツカヌハ、合点ノユカヌコト也ト。 ハ秘シテ伝ラズ。 晋ノ公子信陵君ノ、朱亥ヲシテ晉鄙ヲ殺サシメテ、其軍兵ヲ吾手ニ入タルコト抔、 内通ノ人アリタルナラン。何トゾ人ノ知ラヌイリワケ有タラントナリ。 正面 バ カリ書ツケヌレバ、 シノビナドヲ用ヒ、 君修云、皆後世ヨリ見レバ其怪シキコト也。 ト君修云、イカニモ其通リナリ。禎又云、 不審ニ見ユ サマゲーシタルコトアレドモ、只其 ル コト -モアリ。 信陵君へモ、 漢ノ高 コレハ

- ナリ。 ノ小序ヲ春台 信ゼラル コ 如 何アル ベキ、 -君修云 ^ IJ. 禎モ無用 ノ物
- 徂徠 伊勢物語ヲ見シニ、 点セラレザリシナリ、 ルガヨシトナリ ハ至テ情 コ カレ ハキ 力 レ 人ナ ト君修カタレ イ IJ. ノコトハ八橋ニテ候トイ ニ涙ヲトシテト 墨水 Ĭ, ノ懐古ヲ子式作リテ、 云モ、 墨水 ・ヘドモ、 1 白 コ 徂徠ソレ 鷗 ナリ 下云 ハ、 ハ覚違ナリトテ、 徂徠云レ ヤ ハ リ都 シ虫、 鳥卜云 タ
- モノ也。 芳賀勝之進ノ碑碣ヲ士寧書レ 南郭ハイカニモホメ過サズ、 -君修語 レ ヨク書ル、コトナリ。韓退之ナドハ誠ノ有リスガタニ書タル シタリ。 勝之進不 人柄ナルヲホメ過タ ル ハ、 諛墓ノ 辞 ナ ル べ シ。
- 南郭幼名ハ幸八ト云ヘリ、 ヲ推スニ、 学問ノ咄ヲシタレ タル処へ徂徠行 徂徠ノ云、 南郭三十歳ノ左右ナリ、ト君修語レリ。 保山 バ、詩ノス タリ。」服部幸八詩ヲ出シテ見セタ 方へ行タレバ、 晩学ナリ。子允ノ方へ撝謙来ラレテ咄ニ、只今徂徠ニ逢タレ 、ミタル (割註) コト及ガタシ。 保山松平美濃守吉保也、 無双ノ才子也ト云ルトナ 少 々評判シタル 致仕 ノ後別業ニ居ラレ ガ、 先頃二三度 Ű, 其年紀
- 同十日、君修暇乞トテ来訪。寛談ス。十三経、 三月四日、芙蕖館ニ暇乞ニ至ル、仲英ト寛談ス。仲英ハ摂州西宮ノ 岡山モ通リケルトナリ。 ナリシトナリ。 杜氏通典求メタルト語レリ 山水海ナドノ詩ニ入ト、 十七史ナド蔵書セシト 歌ニ入トノ景ノコトヲ仲英論ゼラル。 人ナリ。安芸ニユク時 ナリ。 蔵書モ夥シク
- 宅文輔 宝暦五年四月二十九日、 テ心安クシケリ。 ノ友人ナリ。 論語 又十七八年前東都ニユキテ南郭ニモ屢謁シ、 ノ註 原田清蔵 ヲ作リタル由、 (割註) 名直、 序文ヲ禎ニ乞。 字温夫、 京師 会ニモ出ル。 訪来ル、 翼之ニモ別 寛語ス。 三
- 温夫云、 ガテ出来スベキト也。 東涯ノ遺文下清書シテ刊シカ、リシトナリ。 周易経翼通解ハ早彫カ IJ タ J. ヤ
- 紀州ノ伊藤才蔵、 ナリシト也。 侯名ニテ五経ノ解出来タリ。 詩書反正易春秋礼記ナリ。 夥 ク大部
- 温夫名物六帖ノ写本ヲ残ラズ所持ス。 カスベ シト 芸り。 又日本律モ有リ
- 大東世 出処 ヺ、 花山院内府殿ヨリ書出シ タマ ~ リ、 -温夫語 IJ
- 温夫云、 東涯 ノ唐官抄ハ、 近衛公ヨ 御 サ ハ リニテ、 行 マド 也。
- 岡白駒、 儒林伝ヲ作レ 大友皇子ヲ首ト シ、 近年ノ儒者マデニ至ルト ナリ。 賛語

ヲ

フミタルモノナリ。 大東世語ヲコナシタル書ヲ白駒作リシ、 温夫語レ IJ.

- 一文輔、世説觹ヲコナシテ書ヲ作レリトナリ。温夫語レリ。
- 一温夫、秘笈ヲ蔵書スト云ヘリ。
- 温夫云、 宋史ノ司馬温公伝 殊 ノ外面白コ ١, ア ノヤウナ ル 伝 ハ古今見ズト也。
- 温夫云、宇士新論語考雍也篇マデ写蔵スト 又論語考ノ中ニ ハ尤ナルコト モアリトナリ。 ・ナリ。 又開口新語ニテ白駒ヲ見ヲトシタルト也。 明霞稿ハア マリ面白キ文ニ非ズト論アリ。 玉

屋喜右衛門ハヨキ学者ナリ。

- 左伝杜註弁誤 夫云へリ。 サテく 発明多シ。 左伝句解ハ 小部ナレド モ、 左伝ヲト クニ甚ヨキ、
- 一宋人ノ説ニ韓柳トセズ、韓李トシタルモアリ、

温夫語レ

IJ.

温夫云、春台ノ産語ハ珍シクスグレタ ル 文ナリ。 又四書知新日 録ハ奇書ナリ 云 ^ 制

度通モ校合シタルヨキ本アリシト也。

温夫云、今ノ学者ニ経済サセバ 大カタ ハ 用ニタ ッ マジ。 熊沢了 介ノ書 ハ ドウ見テモ、 道 玾

千古ニ勝レタルト覚ユルト也。

- 白石ノ江関筆談ハ 勝レ タ ル筆語ナリ。 其後ノ 筆談 ハ サン ・悪シ、 温夫云へ
- 林周介ハ、江戸ヨリ斥非ノ刊行出テ、 リ分レタルト也。 序ニサンぐ ニ云レタ ル ユへ、 人皆チリ ニナ
- 諸子同事異言、サテく〜題号ヨシ、ト温夫賞セリ
- 温夫云、羅山文集ハサ ン ****ナレド モ、 当時ノ事実ハ碑志ナドニテ見ユ ル ナリ。 菅丞相

伝ナドハ、成ホドヨク書タリト覚ルナリ。

- セズ、 佐藤五郎左衛門直方モ、 ト温夫語レ 大石内蔵助ヲ非トス。 大抵春台ノ 論似ヨ IJ タ り。 春 台 論ニ ハ
- 一肥後熊本ノ学校ハ二ノ丸ニ建ラレシ由、温夫ノ話ナリ。
- 堀正超ハ物故セリ。甥ノ貞介跡ヲツギシトナリ。
- 岡千里ガ小説精言ノ解ハオシスマ シナリト云リ。 又文献通考ノ 小 本ヲ蔵ス、 -温夫語 レリ。
- 経解六百巻ノ中三礼図ヲ勝レタリ え。 外ニハ経解ノ中ニ礼記 ノ補正アリ。 イカニモヨキ
- 書ナリ、ト温夫語レリ。席上腐談ト云モノヲ著セシト語レリ。
- 四教義集解ノ標旨抄ト云物ニテ、 ヨリ見出 タ ル ヤウ也。 出定後語ハ 釈氏ノ大意ヲ知ル、 珍シキ奇書ナリ、 ト服 中行語レ ト 中 行モ評判ナリ。 Ŋ 出定後語 モ大カ タ
- 和本ニ アリ。 邵夢弼ヨリハ 少増 タ ルヤウナリ。 中行 話ニ垂加続集ニ ハ 湯武 ヲ

- ナリ。 浅見重次郎、 佐藤五郎左衛門両 入ハ 闇斎へ神道ヲ止ラレヨト異見セシ故ニ、 勘当セシト
- 一正字通ハ殊ノ外ニ字アヤマル、ト中行ノ語レリ。
- 詩経ノ説約 父ト懇ニテ書物多ク見ラレタ ラ点ハ、 林文之進ノ父ノ点ナリ。 ル、 ト温夫語レリ。 羅山 同姓ナリ。 蔵書多シ。 仁斎モ文之進
- 惕斎ノ筆記モ、 同年九月十九日、 大全ノ中ヲセ 三宅子来談ス云。 ンサクシタル 礼記 ハ随分ニ注 マデナリ。 ノ ヨキモ 1 アル カト - 捜求レ モ見へズ。
- 元献云、 ~ IJ。 何アラン。 明世説ニ点ツケシ人ハ、那波九郎左衛門ト云商富家ナリ。 又那波与蔵ノ学問アラジ、相識ニモアラズ。 左伝ノ新刊 ノ校合如何アラント云 道円 同 姓 立り。
- 元献云、仁斎ノ孟子古義殊ノ外ヨク出来タリ。仁斎孟子一部ニテ何レ 禎ガ見ト符同ス。 ヲモ押タルト 云リ、
- 品字箋ハ頭字カラ引出ス為ニ作レ モ字典ノ中ノコト モ出セリ。 首巻ニテ字ヲ引ヤウノ法ヲ立テアリ、 Ŋ 康熙字典ノ字 ノタラヌ処ヲ集メ タ 元献語レ ル ヤウナリ
- 元献云、 米川儀兵衛ハ殊ノ外ニ古キ人ナリ。 サレドモ著述ハナシ。篤行ノ先生ナリト 語
- 温夫ノ著セル ヲトスコ ・ナリ。 又左伝ノ朱申句解ナルホドヨク覚ユル、ト元献云リ。 禎ガ見ト 席上腐談ハ随筆ナレドモ、 · 同 ジ。 六十二ナリテ、アノヲカシキ咄ヲ、 少シ見識モアリ。 岡白駒開口新語ニテ、 ヨキト セシコト下等ノコ 岡氏ヲ見
- 元献云、 ニアリシ 鵝湖問答ノコ ヲヒソカニ見シトナリ。 イカニモ学蔀通弁ニ出ス、外ノ書ニ見へズトナリ。 杜氏通典モアレ バ価金三十両モストナリ 書影近衛殿
- 通鑑紀事本末 卓吾トミユ。 又広輿記、 地志ニテ人ニヨク ハ甚ヨキ書、 モ集ヲヨミテハ 考閲ニヨキト覚ルナリ。 、トリマワシタルモノナリ、 又左様ニモナシ。 清朝ノ文先コレヨリホ 又閑情寓奇ヲ見レバ、 ト元献云へリ。 風流ナル カ見ル所ナシト コ
- 元献云、史ノ志類ヲ会読ストナリ。 又史記モ未定ノ書ト云コト、 ヲ九原ニ起シタラバ、アノヤウナコトハ気ガツカズト云ルベキト云コト、禎ガ見ト符合ス。 ト云ヘリ 予ガ見ト符合ス。 唐書ノ志モ字甚誤ルト云リ。 又水経モチクく、見タリ。 又通鑑ノ 本甚不自由ナリ 書法発明、
- 井仲 竜 明 和元年岡 Ш ニ来 ル。 仲竜云、 物叔 達 ハ始終程朱学ニテ終ラレ タリ
- 長沢不怨斎没後、 其室ヲ于子廸娶リキ。 松江侯ニ仕 ^ Ĭ, 仲 :竜語 IJ.

- 田 テ世話セラルト テ福島茂左衛門ノ長子ニ嫁ス。 ストナリ。 俊卿ノ長女ハ詩モナリ、 ナリ。福島氏名ヲ子幹ト云リ。 楷書モヨク書キ、才アル 福島氏甚吝ナル人故、 絶句解考証ナドヲモ板行ス。 人ナリ。 其家ニ得ヲラズ、 一目眇スル 仲英方へヒキトリ 电 其室人スリ出 仲英ノ世話 シ
- ナシ、 美仲文集ハ ト仲竜云リ。 大言ノミ云ケレドモ、 帆丘遺稿トテ十巻計モアリ。 南郭ヲバ赤羽先生ト云ケルト也。 美仲増上寺門前広小路ニ家ヲカリ、 美仲没後文集梓行覚束 舌講 シ テア IJ
- 仲竜云、 熊本ノ学校ハ二丸ニアリ、 秋玉山専コレ ヲ主ド ル 1 ナリ。
- 仲竜云、 李滄溟尺牘、 南郭ノ講ヲ聞書ニシタルヲ、 或僧写蔵ス。 カリテカスベシト ナリ。
- 又芰荷園稿ハ服仲英校訂スト語レリ。
- 中 ヲ モソシルトナリ、 村深蔵群書総論ヲ著ス、十巻アリトテ板行モスベキ内長逝。 仲竜語レリ。 春台刊セラレ ル古文孝経
- 物叔達ノ子 語レリ。 某ハ才学アリ。 子貢詩伝ノ字ノ欠ヲ補 Ł 板行スベ シト云中ニ没スト ナリ、 仲
- 称周蔵 明 ノ見セタレバ、二人ハ弁駁甚シ、 ル 和二年乙酉九月十三日、 ヤ タルトナリ。 下云々。 ト云へバ、 国鸞云、 東涯人各有三所見一、 松岡玄達が東涯北村可昌会ノアリタ 赤穂赤松鴻字国鸞来訪。 東涯一人黙シテアリキレバ、 何コトニ批評甚シキヤト云レテ、 俗称大川良平、 、ルトキ、 二人何トテコレヲ論ゼラ 其男名勲、 徠翁ノ天狗ノ説ヲ人 二人色ヲ変ジ興 字大業、
- 国鸞云、三礼義疏、 ベシト云へ り。 康熙帝 勅撰ナリ。 力 ス べ シト ナリ。 李竜眠ガ画 「ノ聖像 掛物 モ、 力
- 注 国鸞 北海 ハ宇士新 ノコト ノ方ニ行テ、 カ。」 ト云人皆アヅ 初テ学問ヲシ カリテアリ。 タ ル ナリ。 今忠蔵大坂ニ在リト 士新艸 稿 ハ皆越後新潟片 也 山忠蔵
- 士新ハ学問 レキ。 奇僻ナルノミナラズ、言行トモニ詭激ナルトナリ。 色々ノ物語ヲ鸞詳ニ語ラ
- 史記ノ倉公伝スマズ、医ノ方ニテモスマズト 火斉湯ハ黄蓮解毒湯ナリト、後世ニ云へドモ、 也。 コ レ タシカナル ハ赤松子医業ヲナシ 証モナキ、 タ -国鸞語 ル 人 ユ へ此論
- 松岡玄達ハ初闇斎門人ナリ。 スマ シタル、 後仁斎、 東涯二十四年ツキテ居ラレタレドモ、 始終朱学ニテ
- 一管子ハ、篠三弥点付タルトナリ、国鸞語レリ
- 介 ハ甚不文ナリ。 赤穂ニ四十六士ノ碑アリ。 其文ヲ平介書タリ。 不成語ナ ル コ トナ

国鸞語レ ij

- 赤穂山· ルト云伝ナリ。太平記ニシルセシニ符合ス。 児島備後三郎高徳ノ墓トテ五輪 国鸞語レリ。 石塔アリ。 三郎 伯父僧ニナリ タ ル ガ 建 タ
- 国鸞語レ ノ風月ト云書肆、 俗語ニヨク通ズ。 イ 口 ハト云婦人ノコトヲ、 小 説 ニ識 刊 滅スト ナ
- 毛奇齢 ト云清人ノ詩文十帙アリ。 大家ト 見へタリ、 -国鸞語
- 故赤穂侯内匠頭殿ノ士大高源吾ガ、母へ貽リ 水足平之進卜秋子羽 家ヘヲクリタル状モ 藪震庵ノ子朱学ナリト。 アリ。 ハ 従弟ナリ。 国鸞語レリ。 又東都ニテ君修、 誰々ハ臆病者ナド、散々書テアリ。 子 羽 ハ五絶ヲ殊ノ外ニ自負ナリシト 子綽ナド タル書ハ感情アルトナリ。 - ニモ、 屡国鸞ハ イヅレモ後世ニ名ヲ残シタ 出会セラレシトナリ。 ・ナリ。 又弓足軽 肥後侯 ノ某ガ商
- 君修云、速ニ約ニカ 又孟荀老荘ノ談理モナルマジ。多ク作ラバ自然ニ趣ヲ生ズベシ。 メテ朝夕諷詠、 其精華ヲ奪ベシ。 ` ル ベジ。 博洽ハ略備 レ り。 文ハ 博大ヲ尚ベ 詩ハ李于鱗ナド シ。 左ナク バ 左氏司馬、

キ心ナリト見ユル、

奉寿 吉備世子尊夫人歌

中松山、 、生ツキテ吉備ナル 岩ナスハ磐梨ノ ハ荷田在満ニ命アリテ詠ゼシ処ナリ。 ーナリ きひなるや岩なす松の根さしこそをほくの年をふるはしるしも が郡ナリ。 Ш ノ名トモ成ケント 且ナスハ如ノ義、 ・アリ。 吉備ハ備前、 ヲホクモ邑久郡アリ。 岩ナスハ如」岩ナリ。 備中、 備後、 吉備ナル 万葉集ニ、 未不」分時 山 二葉ノ松 国名

- 徂徠日、 職人尽ト 物ナルヲ、 云モ 侍鳥帽子ト云モ ノニ、 後ニハ 侍烏帽子 七君子 ノ、 ラキタ ノ冠服ニナリタル "," レ ル ノ時 人 ヨリ出来タル 皆工商、 ルヤト云リ。 ノタグヒ ヤ、 也。 尋問ド 古キ世ニ モ未」詳ト、 ハイ ヤシキ人ノキ 春台云ク、
- 春台云、三絃ノ淫声ヨリ甚キハ ケ玉ヒテ、 ル 云レ コト ナシ。 殊ニヨク弾ジ給フ。 コ ハ鐙ニ附タルヨリモ遥ニヲトリタルコトナリ。 葵ノ葉ハ御服ノ章也。 ナシ。近頃松平讃岐守殿、 然ルヲ鞍ニハ 三絃ノカ 無下ニロ ツクレドモ、 ヒロ ウビニ葵ノ紋ヲ 惜キコト 鐙ニツケ ナリ ッ
- 굸 古ヨリ三公タル (三股引脚半ニテ出タマ 平家物語 〔頭注〕 人ノ甲 小松殿教訓 ·胄ヲキ 天子皇子ト ル タ 段ヲ語ラセテ聞レシニ、 ル コ コトナシ イ 冠服 ^ モ、 事ニ臨テ 是吾邦上世 ルニ及バ ハ 落涙ニ及バ 甲胄ヲ用 ノア ゚゙ リ サ ズ。 ナゲカ ヒタマ 、マ見ツベ レ シ。 シ ٦° キコ シ。 松殿 今ノ県官 シテ三 詞

丁丑十月老呆剳記」

- 春台云、 新朝女真 日本古ノ フ 方ヨリ 辺備、 北海 . 奥羽 殊ニ東北 1 辺ヲ窺ンニ、 ニニ備 ヘタ ル 其備ナキコト然ル ト 見 ヘタ J, ハ西海 べ カラズ ミニ辺備ア 卜云 り。
- 老子 レ老子 云へ ル尤誤 ルヲ、 趣意 レ ノ注解ナリ。 IJ_° り。 荘子ハ段々ニ寓言セリ。 ハ天下ヲ治ム 但荘子ガ儒家ヲソシル処、 ヨツテ其本ヲ推テ孔子ヲ罪ス。 後世老荘ヲ知者少シ。 ルニアリ。 畢竟荘子ノ主意、 荘子ソレ 専仲 或ハ養生トシ、 ヲ 然レ 尼ヲ譏ルニアラズシテ、 説 F ノ べ モ寔ニ仲尼ヲ貶ス 馬蹄怯筐ノ二篇ニ説ツクシ テ事ニ託シテ云 或ハ心法トシ、又仏家 孟荀等ノ仁義ヲ説 ^ ルニ非ズ。 老子 1 タ ハ -双テ視 J. コ ヲ ク
- ワレリ。 春台云、 生之墓ト篆字ニテホリタリ。 実叙ト云。 ノカクゾアリタ 事ア 日本 キコ 7 ^ IJ_。 トニ覚ヘタル 誌ハ土中ニ埋ルモ 記事伝墓誌等ニ、 ハ旋葬ナレバ後ニ ル _ 故ニ随分実叙ナラザレ 時ニ云タル詞ナドニテ、 事実ヲアゲテ云ハ実叙ナルナリ。 十三年目ニ墓碑出来タリ。 ル ト云コト ハ、 虚叙実叙ノ二ツアリ。 大ナル謬ナリ。 埋ムコト、地ヲ動スコトヲ忌ム故シニクキ也。 ノ 也。 知レガタキ故、 裏ニ神戸 華夏ニテ三月ニテ葬ル バ 一条ニテモ其余ノ行状ヲヲシテ知ラル イカホドホメ立テ虚叙シタルトモ、 侯 下 ノ文ヲホリタリ 徠翁ノ誌石ニハ春台著サレタ 実叙ヲ重ズルコト也。 ノ台三重ニシテ上ニ碑在リ。 或ハ其人ノ平 タトへバ忠信恭謹ナド 時 ハ 生ノ嗜好、 也。 其内ニハ 誌ト碣トハ文ノ 又ハ事アル 如何ヤウニモス 碑面 J. 一通リニ云詞 世 シ 事ア 神 人碣 カト 戸侯墓碑 ハ 体裁 -慥二此 徂徠物先 ル、 ベモカ ヲ
- ト云也。 云 加賀国 水戸ニモ端竜 ナド ハ葬地 山トテ葬地 1 山別ニアリ。 Ш̈ 別ニ 士大夫一構ヅ アリシナリ。 地 取ヲ シテ有 シト ナ \mathbb{H} Ш
- 三年 三七 何ゾヤ。 コト ノ喪ヲ行フ セ メテノ 也。 日或ハ五七日ニテ、 ル = 人ア 有司 ア ソ レニツ コトナル ハレ今ニモ喪服ヲヌギテ出仕セヨト コトハ、吾邦ニテ モ 父ヨリ タ 式 キー IJ. ベキ。 朱子 ツ 俗忌三十五 コ 出仕ヲ君ヨリ命ゼラル ノ物語アリ。 大カタソレ ノ学ヲ好テ、 何 ハ甚行ガタキコト ス 日ブリ べ 丰 三河国吉田松平豊後守殿ノ側用 ホド ニテ出 崽 人モ専 ノコト云フ人モナキ デ仕 也。 ノ命アラン ` 春台 理学 モアリ。 近キ世 \exists ,ヲ講ズ。 命ゼラ ソレヲ臣 ハ五十 人吉田 ル。 ハ、 大ニ憂ナゲカ Ė 侯 人東都ニ扈 ナゲクニモ タ ノ俗忌ヲ 中 ル 人二、 人モ辱 |忽自殺 $\dot{=}$ ア ij 禄二百五 サ アマ シ セ ン 力 タ IJ 思 T

其次パ 春台云、 イラザ モ、 日本ノ風俗ニテヤ カヤウ ル笞刑墨刑ナド ノ恥ナリ。 法律 ソレ ノ 刑、 故律 コト紀州ニハ 語日、 何度 コト 民可 マデハ赦ナド云コトア キハ ハリ無骨ナルコト シ ロシメサレタリ。 ヤリタリ。 メアルユへ、法ヲ下々ヨリ察知テ、此次ニカヤウノ 」使」由」之云々。 榊原玄輔ナド ヤウナレドモ、切テ捨ルト云ニテスムコ 然レド IJ 高ヲク、 モ律ヲ今ノ封建ノ世ニ行フコト モ法律家ナリ。 リテーツモ懲ル

キカ

問

カニモ

シカリ。

支配下

ノ者ニ、

俗忌ヲ

ユルサル、

コ

トア

ル

丰

サゾ心

レ

生何ゾツブヤ

丰

タ

ル

コ

ハ

レ

ナ

×。

サレ

F,

モ公ノ用サシツカユ

ル故ニ、

如

レ此命ゼラル

`

云コ

ヒ

有司其人ヲシテ春台ノ意ヲ問シム。春台曰、サテソ

テ進退維谷リテ、

命ヲ

コバムノ恐ア

ル故、

死スレバスムト思ヘル

ナラズヤ。

タ

卜

· · · · 助

ハ

一旦絶セラル

`

トモ、

何ゾ其嗣

有司其後春台

[ノ意ノ

如クニナシ

タリト

・ナリ。

云タリキト語

IJ.

春台聞テ、シカレ

バ

彼人ノ自殺シタル

ハ孝ノ

楽ナド ヅト云 トラカ 春台云、 大名ノマネヲスル キナラス ルコトゾヤ。 ノ類是也。 人慝徳多シ。 イグ ン 方ナ 世事 ギ 굸 ス也。 べ スト べ ハ ノ者ナド誘ヒテ、 ケレド ハコト計 シ。 姫路侯妓女ヲ侍ルニ、 丰 ヲ察訪スルヲ監察ニ命ズ。監察コレ 繁手ナリ。 其中ニ榊原殿ナド コロ 三絃 姫路榊原式部大輔殿、 ウ 古へ礼楽征伐出」自二天子一、 ス ベテ近世諸侯 モ、 ハ博打 タ 〔朱書〕 或ノイヘル IJ ナリ。 ヒノ類モ又然リ。 Ź ハ天下ニ禁制スベキ ŀ コトナリ、 甚任ニアタルモノ、 カク手ノコマ ノ親方ナリ。 諸侯 色々 ハ居ナガラ物ゴト自由ナルニ、好テ遊所へユク ハ ノ慝徳ニ至ルナリ。 ノ行儀不作法ナル 大牢 笙ナド 不幸ト云フベ 丹羽左京大夫殿、 夫ガ サレド カニ、 ノ膳ヲ以テシタ モ管ヲヒトツニシテ、 モノナリ。 当今 イフトコ 心得ニナル 曲 或ハ諸侯ナド、云リ。 モ今ノ世ニハ、猿楽ノ え礼 シ。 ノ ヲ徒目ニ命ズ。 ツバ ハ 楽征伐 スベ 又小禄ヨリ卒然トシテ諸侯ノ 淫風ノミナモトナリ。 口 心親ノ 7 ヲ取モチイラル 7 ベキコトナリ。」 テ遊所ハ町 フコ 有馬中務大輔殿、 ヤカナル ハ博 、臣其 徒目 打 分タヌヤウニフ 礼法ヲ蔑ニス ホド 入ニ 親 今ヤ礼楽征伐芝居ヨリ出 ハ 人処士ナド マ 方 ヤ タ ガ面白シテ、 ヨリ出 ・シ舞ハ、 小 ル ユ 内藤備後守殿ナド ガ故 礼楽ノ箏ナド ヘニ然 自ニ伝テ、 ルト。 コトハ 1 クコ ナ 活計 雅ナ 封 人ノ ヲ嗣タル ・フト。 ルニ近 訴ニテ、 小 コ 也 イ 心ヲ カナ 目 レ 力 ハ

コ ヲ IJ 位 ツ ニテ、 ク 時 サ ヨリ文ヲ自由ニ作 ル ステ置 コ タ 然ル ガヨケ べ カラ レ IJ_。 レ ズ。 天下 十三歳ニテ東都ニ来 云シ - 三無双 知言ナリ 人物ト ナル ル。 春台語ラレ 禎 べ 丰 ガ詩ヲ君 器ニテ、 ケ 修見テ、 モハ ・ナリ。

- 滝弥八ハ、 人ナリト也。 長門 大夫毛利筑後 ノ家臣ナリ。 海西第一 才 -春台称 セラ レ タリ。 謹 厚
- 春台云、水戸義公、 云レケルトナリ 人君ト云ベキ也。 烈公モシ国家創業 備 烈公 ハ藩国中 = ノ時ニアタリタマ 勝 レ タ ル 大豪傑 ハ 人君 \" \ 必礼楽ヲ作リタ 也。 烈公ナド ハ マ 燕昭王巳来 フ ベキニト
- 人ナリ。 軍法不 審書ニ答ラレ タ ル ハ 水 戸 ノ支封大学頭殿 ノ大夫岡田 |彦右| 衛 門 ナリ。
- ナル 板行ニモ出タルユヘ、荻生三十郎ヨリ町奉公へ届テ、 ノ辺、古塚ヲアバキテ、古器ヲ県官へ奉リシト 三十郎ニ命ゼラレ ベシ物語 徠翁 テ、 1 Δ 彼物語ノ中、 ダ書ノ書付テア 光堂ノ一条ヲ書テ奉リタ IJ シ アリシニ、其時光堂ノ故事ヲ聞召サ ヲ、 何 板本ヲウチ破リタリ。 人カナ ル べ シ物語ト名ヲ付 ルトナリ。 先年上州新田 タ IJ_。 シ 又 \exists
- 年集成、 木村弥十郎ハ メ言上セシ処ト符合ストテ、其写ヲ賜リ 州竹生島ノ社ニ、 台ナ 春台語ラレシナリ 、ル書也。 ト申シタル ト云書ヲ著シ、 西御丸御広式御用人也。 春台序ヲ書シナリ。 直政 コト、 加納遠江守殿ヲ以テ献ゼリ、 文書アリシガ、 天正十年ノ頃ヨリナリ。 則春台其序ヲ禎ニ自書シテ贈ラレ 此人国初戦国ノ事跡ヲクハシク吟味セラ シトナリ。 御取寄アリシニ、 此コト木村氏 又編年集成献 神祖一世ノ 天正十年兵部少輔トアリテ、 日記ナリ。 ^ ゼラレ 御尋問 · シ 也。 シトキ御褒美アリ アリ 極々吟味ツマ 井伊直政ヲ兵 シガ、 Ĺ 武徳
- 春台ハ甚算数 日本 ハ 元珪ハ 捷径ニテ、 ノ算書ハ古今算法ヨリヨキハナシ。 実ニ数学ニハ ノ作者ナリ。 ノ理ヲ窮ラレ 実ハ大ナル物 算盤ニテ如何ヤウ 妙ヲ得タル タ IJ. ハ算盤ニテハナラズ。 中華ヨリ来 人卜也。 籌ヲ以テスルコトハ其本ナリ。 ノ コト レ ル書ニ算学統宗、 モ 奥州二本松磯村喜兵衛ハ算盤 ナシックセリ。 算学啓蒙ヨリヨ 是ハ格別 算盤 ガリリテ ノ伎芸ナリ。 丰 ノ名人ナ スルコ ナ
- 平安ノ儒者宇津宮由的、 的吉川氏二仕 ナリト書タリ。 シト ヨツテ中 也。 日本 Щ 氏ノ 人物志ヲ著シテ、 有司、 官ヘコト 其中ニ中 ハリテ板行ヲ絶シ、 川瀬兵衛清秀ヲ、 由 的 ハ 切支丹 別条ナシ。 オチノ人 後由
- 徂徠日、日本ニ節制 軍法ニ曾テナキコトヲ著ケル、 ノ軍法ナシ。 ト春台カタレリ。 皆武 士ノハタラキ コ レニ因テ鈴録ヲ著セリ。 和 流 1
- 天王 祠 神馬 献ゼラル ハ ゲミツヨキ処ナリ。 七備ニシテ甲冑ヲキテ出ル、 彐 ツ テ家 紋ト 毎年六月 ・ナル。 厳重ナ 七日、 古来ヨ ル IJ コ 頭天王ノ祭礼 例 ナリ 其取り ラ月、 シ 野駒ヲ

クラベ ト云べ 出侯ノ公子ナド馬ヲ嗜好テ、 デタダ野ガケニ輪ヲ乗ルニ、馬少シモツカレ 至十匹ニ至ル。是ヲ以テ知ルベシ。 春台云、 ヲト云ヘリ。 ク乗廻リ、 追出ス。 サテ野駒取 ナリシガ、 へ乗ツメテモ馬ツカレ ヨク馬ヲ ハリ大百姓 ガタシ。 シ。 関東ハ馬多シ。 牧士ハ馬ニノリテ入チガエノ 1 追ヨセノ所へ輪ヲ乗詰ル 幕下士トナレリ。 馬ヲ乗ルニ、昔ハ牧士ナド ラレタリ。 牧士ノ馬ハ平生荷馬ニモスル、 ブ類也。 時出テト サレドモ健ナルコトハ 敦盛若年ニテ海へ乗入タルヲ見ルベシ。 其時代ハ関東ノミニ限ラズ。上方ニモ平家ノ一門、一谷ナド ・ルナリ。 ズ、牧士ハ今モ小金ニ在リ、 今モ農民ニ牛耕ナシ。 」ナドモ乗テ見ラレツルニ馬ヲ乗倒セリ。 牧士へマジリテ乗リ玉ヘリ。 小金ノ牧ハ下総ナリ。 昔ノ秩父和田ナドヲ、今ノ大名ノ如ク思ヘル 朝皆々自分ノ家ヨリ二三里モ乗来リ、 右ノ通リナリ。 ノ乗ル様ニテ、 勢子ノ惣廻リヲ 飼料ハ草ナリ。 ズ息モセズ、春台モ見ラレシト 皆馬也。 俸米賜 牧士ヲ預リシ人ハ 三四里四方アリ。 野ガケニノリ 少シ富タル クル 松下専介 (割注) ハ リ帯刀ス。平日ハ農民 ソレユヘヤセテ都下 今時ヨリ見レ ソタル故、 民ハ、馬ノ五匹三匹乃 - 乗廻ス。 牧士左云ツ ワタヌキ某ト云 セ コヲ立テ 関東ヨ 此人紀州家臣 ・ナリ。 大カタ昼刻 が武 次第ニセ ハ誤リ也。 ・ノ馬ト ハ盛ナリ - ニテ皆 ルコト マ 7 ヲ

ナリ。 モ尽サル、コ タ 言也。 是丘ナリト シタル ナラメ 子曰二三子以」我為」隱乎云々、 モナラヌ也。 ハ、是丘所 ハ尽サルル 了簡ニハ不」及コトナリ。 鶴林玉露ニ、 コトアリ。 □以為 □ ム丘也ト云心ナリ。 残スコトア 是ハ聖人ノ行ハ礼ナリ。 Щ 谷ト仏陰ト 此コト面白ク思ヒタレ Ű, 礼ハワ - 此章ノ 聖人ノ教 問答ノコ ·ザナリ。 ハ詩書執礼ナリ。 不言 バ トアリ。 ワザニハ コ ソ、 教 1 羅大経 ハ 今時 残ス ノ モ記 コト ノグ ニモ コ

春台日、 教也。 四教此段、 自慢ナド 宋儒ナラバ コ 忠信文行ナド 也。 畢竟文ア ル 云カ ユ ^ \sim タキナ 君子ナリ。 ル べ 文ナ シ。 ク 文ノ字ヲ先 バ 唯忠信 人也。 ス

行有 トキ熟字ニテ、イ ヲ分ツコト、 内ニアリ 三余力 云 ニクキニテハナキヤ。 テ 古来ヨリ云コトナレド 人。 ノコト也。 則以学」文トア ツ 、ケヤヤ 此 章 徂徠 ルト違ト云、 スキニ随テイフコト、 ハ 孔 ノ発明面白シ。 ノ門教ヲナス上ノ モ、 コ 不審ナリ。 レ ハ一向アテニナラヌコ コ レニ付学而篇ニ、 イクラモアルナリ。 コト也。 学而ニ 〔朱書〕 ハスデニ弟子トアル ートナリ。 弟子入則孝、 文字ノ前後ニテ崇卑 忠信文行ト 雌雄牝牡 ノゴ テ

釣而不 モ陸徳明音釈ニ音剛ト 定テ古来ヨリ誤ナ ノ 字、 、ルベシ。 アリ。 徠翁 字相似テマギラハ 網ノ字 ソレ故網ト改 誤け ý ズトナリ シキ故、 芸り。 春台 陸氏モ明ニ剛ト音シ 云 成 ホド 義 ハ タ 明 ル ナ コト り。 ナレ

モナキ 春台云、莫所ノニ字、 字ニハ不ノ意アル サ ク有リタル 莫ハ無ナリト云ハレ ナリ コ レタガヒ ユへ、 ナリ 徠翁好テ用ラル。 タ、戦フト云心ガアラザルナリ。 也。 タリ。 文選ノ中ニ檄文ニ莫所ノ字アリ。 莫有ハ左伝ノ中二所アリ。 無有ト莫有ト ハ少シ意タガフコ 無有戦心ト書タル 莫有戦心ナド書 徠翁遺文校訂 ナ IJ ハ、 タ 時 ル 卜 根カラ何 ハ、 云ド モ、 莫ノ

IJ_。 寬保二年正月廿二三日 彗ト記セ 旬ニハ見へズ。 然ド モ彗モ孛モ同ジキニヤ、 リ。古ハ 西川 別 忠次郎ハ挽槍ト云、 タザリシト見ユ。 頃 \exists 、彗星見ル、 春秋二百 四十年 入江ハ芒客ト云、 (割注) ノ中ニ孛三度見へ 夜半東 北 ニ見ル。」 彗ニテハ タ ナシ、 二月ニ至テ J. 漢 書劉 孛也 向 ト云人ア ガ伝 薄

天経或問ニ九重天ノコトアリ。 天文ヲ学ブコトヲ禁ズ。 其次七曜天ナリ。 此常静天ニ天主ノイマスト云ベキ為ニ、 日本ニハ モト中華ノ天文ニナキコト 此法ナシ。 設タル ナリ。 第 説ナラン。 常静天、 明律ニハ私ニ 第二宗動天、

也。 正朔 ヲ建カ テ用ラ ノ制ナ セ レ ル為ナ ハ唐虞已来ノ法ニテ、 コ ヲ ラ タリ。殷湯 因循シテハ、万民ヲ安シジ、永久ヲ保ツコトアタハズ。 マ モ、 Ű, 殷湯ノ正 ル コト タトへバ桀ガトキニ至リテハ、 何 政 ズシテハ、 モカ スベテ代ノカハ ヲ不レ用ユ ハ正シ モ 朔ヲ改メ 改替 後代 ク征伐ヲ以テ天下ヲトリタ 譲ヲ以テトリタ ザ 代ノ法ニ因循ス 了簡ニテ云 タマフコト、 ル 先初 リメニハ、 コ = ハ 民ノ耳目ヲ付カヘ ナキ バ、 民皆先代ノコト ル天下ナ 聖人 ル 禹 ノミナ 云 ノ法度ハト コ 力 智慧ニテ神道 ナル ル故、 ・ヲ、 ル 7 べ ヒタ ン為 天下 シ。 コ 先代ノ - ニ率由 ル故、 リ失ヒテ、 前代ノ法ト云 ニ示ス為ナリ。 ナリ。 ヤ 然ドモ右ニ云ゴト /法ヲ改 テ新政 正 ウ 朔ヲ改 カ ナ 礼楽モク ハ 民 IJ グラ肯用 メ 1 ノメニ礼 メ ズ。 耳 モ、 モ、元来聖人 自 地道闢 服 其 ヅレ 色ヲ易 ザ ヲ 2楽制度 7 ク、 タル モ ケ

仁斎云、 伊予松山大高季明ト云人、 タマフ 量ナルヲ感服シテ退シトナリ。 間ニテ農業ノ 今ノ世ニモ金幣ナドニハアルコトナリ、 云コ 但シ民間ニテ内 ヲ用ユル故、 タ ハ子 べ ル夏ノ シ。 笑テ少ノ怒モアラズ。 其外誰モ決スル人ナシ。只東涯ノ弁其文意ヲ得タリ、 ノ定メタ ノ月ヲ正朔トス 武王ハ湯王ヲ手本ニシテ、 我非彼是ナラバ我過改ムベ ・時ヲ云 今マデ夏ノ世ノ ノワ 王公ナド ハ闢丑ユ 時候ヲタガヘマジキ為ニハ、夏正ニ超ルコトナキユヘ、 ケモナキコ マヒタ シ ヤウ タルト見へタリ。春王正月ノ論ハ、朱子ナドモ千歳不決 ノ言語、 ヱ、 、ムキニ ルユへ、 ル法ニテ、 門 適従録ヲ著シテ仁斎ヲ毀ル。 丑ノ月ヲ正朔ト定ムベ 人道ヲ用タル故、寅ヲ以テ正朔ト 人ノ云、 ナラン。 ハ、 又ハ史策ニ書スルニハ、時王ノ正ヲ用ユ 周ノ正月ハ夏ノ十一月ナリ。 コレ享保甲寅八月 ヤハリ殷周 万世不易ナル者也。 又此度ハ天道ヲ用ユベ シ。 先生此書ヲ弁ゼヨ。 衆愚ヲスブ ヲシ出シテハ、時王ノ制ノ正朔ヲ奉ズレドモ、民 彼非ナリ ノ世ニモ夏ノ正ヲ用タ シト ル トテ何ゾ足」弁ト答 ノ術ナリ。 コトナリト也。 右ノ如ク公私 云コト _ 先生モシ不り弁バ 門生此書ヲ携テ仁斎ニ見セ キ節ナリト 少シ論ジタラヌヤウナリ ヲモテムキ ·ス。 ヲタ タ 是ヨ テ、 ニノタガ ^ リト見へ 正朔ヲ リハ地 ノ玉ヒ ヤハリ私言ニハ聞 バ ^ ル シカバ、 殷湯ニ正 コ コ ヒアルコトハ、 ノ論也ト ト云ニ及バ 道ヲ トニハ皆コ タル 力 タリ。 予弁レ之云 門人モ大 ナラン。 タ 用 朔ヲ改メ 夏ノ正 ユ 7 ベキ ナ

然ドモ又誤モ多カリシ。 井仲竜云、 ニ見タレ サシク見へタリ。 ヲ知リヌト語レリ。 太白月ニ入コト、 信家之兵法二、 或問ノ虚説タルコト明ナリト云リ。 右ノ老師云、天経或問ハ精書ニテ、天学ノ書ニハ古人ノ未発ノ事多シ。 金水ノ二星ノ天太陰天ヨリ上ナリト云説、右ノ通リ太白ヲ月ノ下 于」時明 天学ノ業ヲウケタル老師両度見タリト云リ。 称新蔵、 和七年庚寅六月ナリ。 井純卿ノ 先夜マサシク見タルニテ、 従父ナリ 此老師ノ姓大場氏、 此頃月 名景則、 老師ア ?魄ノ所ニ

語ラレシト 地理字義等ヲシイテ穿鑿スレ 囲 雀楼筆記ニ、 |維享ニ如何聞 ユ ・ナリ。 、禹貢ハ 旬 タル 段トスミテモ、 ヨメ 卜問 ヤ シニ、 スキ物ナレドモ、 バ 解シ難シ。 大略ニテ云バ、 大旨ノ所、 是モ左伝ヲアテニ云タ 此理ヲ知ラズ気ヅカヌ人多シト云 初学ノ人ニテハ上スベリニナ 直叙ノ書ユへ、 一通リヨ ル コト ナル リメ易シ。 ル べ コ 左伝 シカ ヺ シ

国鸞云、 3ニテー Ŧ タ ガ 通リ ヒ難 易全クト サ シ。 ス ۷ サレ モ二爻四爻変ハ 筮書ナレ サ レ F, F, モ モ正当ノ義ナル 一体ニテ合点ユカ ۴ モ、 夫子十 朱子推量 ・翼ニ就」此寓 べ シヤ ノ説ニテ未定、 ズ。 イブ 筮法モ本文バ カシ。 し教タ 考変占. J. 春台易占ニテ カリ 欧 七条外ハ 陽伊藤氏十翼非聖作 ヨミテス 左氏国 六爻皆不変 マ ズ、 語ニテ 朱子啓

何玄易訂話ニ掛ザルノ説朱子ト異ナリ、甚尤ナレドモ大義ニアヅカラズ。何分全体スマザ 考ベキコトナリ。 シ。按ルニ、三爻変ハ国語ニアリ。 ル章句注釈ニモアヤマリアルベシ。精気諸家皆分□精気□為□二、鄙見ニハ対□遊魂□ノ精気 ベシ。 五爻変、 ノ気ト云コトナルベシ如何 春台ハ甲王相ヲトリ用ラレ 六爻変、 只四バ コレニテスムベシ。二爻変四爻変モ古法アルベキナリ。 カリ取用、 シト見ユ。断易天機等甚鄙俗言用シガ 三四変ハ朱子ノ説無」謂ト タシ。 別説ナ

奥州伊達郡高子村熊阪宇右衛門云、 其コト国造本記ニアリト云コト、 シト云リ。 高子邑伊達郡ニ属スレドモ、古ハ伊達郡、岩瀬郡、信夫郡ヲ合テ信夫国ト云、 ノ瓦、土中ニ埋リシヲホリ出シテ贈レリ。誠ニ石ノ如ク、硯ニ用ルニ古雅ナルモ 園中泉石ノ間ニ植ル宜シトナリ。 和名抄ニアリト、伊達郡モ古信夫ナド云テ、 〔割注〕 名邦、 禎二此ノシノブヲ根ホリニシテ贈レリ。 字子彦。」 シ ノブ / ヲ屋後 国府モアリ。 Ш 詩中ニ用べ 治問ニ取 ノ也。

今韻会、 春台云、字彙ハ洪武正 注〕京師寺住持ナリ。」モ韻学ハ全ク春台ノ教ニヨラレタルナリ。 ヲ注スルニハ、字彙ニテハヨカラズ。玉篇ノ陸徳明、 ハ色々ノ人マジ 増補韻会ナドハ古韻ナリ。 ハリ、 音古ノ韻ニ非ズ故也。古ノ韻 韻ニ拠テ韻 ノ数少シ大マカナリ。 玉篇モ古シ。 皆日本ノ古ノ音ニ合ナリ。 ハ然ラズ。 韻会ニテ音注ヲスベシト也。 今 ノ華音ニ合ナリ。 ソレユへ陸徳明伝釈文、 小篠轡竜語レリ ソレ 故ハ今ノ華音 文雄 ユヘ古書

伊勢松坂本居宣長、 ト異ナルノ論アリ。日本記ハ全ク漢字ニ潤色シタル故、古事記ヲ第一ト 古事記伝十五巻ヲ著ス。此中首ノ巻ヲ閲ルニ、聖人ノ道、 スルナリ。 吾日 渞

尾張□祖ノ祠官吉見左京大夫、源姓、名ハ幸和、 携来テ見セラレタリ。 ノ司ニ任ズ。 IJ_。 契沖ヲ前ニ置テ書ノ講ヲ聞ケリ。 契沖ニ見へ門 又吉見氏増益弁ト鈔俗解一冊行方。 代々寺社奉行ト同ジク司ルトナリ。 人タランコトヲ請フ。 契沖モ大ニ悦テ著述ノ書ヲユヅリタル 契沖辞スレドモ固ク請フ。 ト部兼俱ノ詐偽姦計等ヲ具ニ論断 正四位下ニ叙ス。尾州殊其余封地ノ神職 此人歌ノ古キヲ好テ、 自ラ側 八十八歳ノ時大坂 、トナリ。 ノ見台ヲト ス。

神祇破偽顕真問答一巻、 兼俱ノ姦詐ヲ弁ゼリ。 白川殿ノ学頭臼井帯刀源雅 小篠生見セラレキ。 胤ノ著述ナリ。 此書モト部家ノ偽妄ヲ

ス タマヒシ時 諱空心、 義公嘉下其善解 本姓下川氏、 大東ノ典籍ニ博覧也。 祖父元宜、 ∴古言 :善釈 槹古歌 レド モ固辞シテ不」就、 殊ニ万葉集ヲヨク治ム。 加藤清正ニ仕 乃餽三白銀千 於 ^ り。 」是乎、 父ノ諱元全ト云ヘリ。 西山 両絹三十匹 記」以献」之。 万葉集纂注

濫五巻、河社二巻、 等ニ及ベリ。 行年六十二ニテ歿ス。 勝地吐懷篇各二巻、 持トナリ、後退隠シテ大坂ノ東郊円珠庵ニ住ス。著述ノ書漫吟集二十巻、厚顔抄、改観抄、 則贍三貧乏一、 ヲ吟味シテ、 又五部書説弁ヲ著シ、 一銭尺帛ヲモ見ニ随ヘズトナリ。 国字ノ訓詁ニカ、リ、 代匠記二十巻、 勢語臆断四巻、 五井純碑銘ヲ作レリ。又シツタンヲ学テ、 総釈二巻、 源注拾遺、 宝基本紀、 万葉ノカナニカ、リ、 古今余材抄十巻、 大和姫 名所補翼各八巻、 元禄十四年ニ没ス。 世記等ノ詐妄ヲ論ゼリ 古キ書ヲヨミテ日 韻学ヨリ字音ノ合ザル 沖為」人寬厚謙恭愛」人、 類字名所集七巻、 晚年摂州妙法寺 本紀古事記 和字正 コ

羽倉斎宮ハ京師愛宕山 沖悦デ吾二十年ノ学ナリトテ、著述ノ書ヲ羽倉ニユヅル。羽倉男子ナシ。甥ノ藤之進在満 セシ家系古キ人ナリ。羽倉三家ノ中ノ一人ナリ。 ヲ養子ト ・ヲシ (一本云) ル 、ス。」 ス。斎宮ノ女一人アリ、 信濃守二家ノ祖ヲ生ミタル人也ト云。」 在満ノ男藤蔵御風ト云へリ。 松陰正親町日記ハ大納言ノ女ニテ、 ノ人ナリ。 蒼生ト云リ。 此山ノ祠官ニハアラズ。古へヨリ三家アリテ、 (割注) (割注) 契沖ノモトニ至ル。 今京都ノ処士、 憲廟ニ仕へ後柳沢ニ賜 此女松陰日記ヲ著ス、 和歌ヲ講ス。」 契沖病褥ニ謁見ス。 ~ リ、 柳沢家ノコ 轡竜語 此女今 Щ

岡部衛士幼名三四ト云、 モト冷泉家ノ門人ナリ。 リシガ、諸侯ノ家臣僕隷ナドニ俯伏スルコトヲキラヒテ、 人シテ百人一首古説ヲ作ル。真淵モ六七年前ニ没ス。 後斎宮ニ学ベリ。 遠州伊場郡岡部邑ノ人ナリ。 加茂真淵ト 浜松 · 六 ハ 養父ト順ナラズシテ彼家ヲ去 衛士ノコト ノ本陣梅谷市右衛門 ナ Ű, 在満ト 、養子ト -真淵二 ル

大坂懐徳堂 ニテ長堀辺ニ住居スト也。 庵ノ書也ト云。中井忠蔵誠之ノ教授処ナリ。官ヨリ此地拝領セシト也。 名積善、 諸生ヲ教授ス。 ハ、梶木町淀屋橋筋東へ入ル北側ニアリ、 善太字ハ子慶、 岡士 (変換不能) 号竹山、 語レリ。 善太ノ弟名積徳、 懐徳書院ト云額ア 俗称徳治、 Ű, 今忠蔵ノ男善太、 コ コ レ ハ三宅碩 別宅

三宅碩庵ノ学問 声仁斎ニ似タリ。 象山 俗間ニヌヱ学問ト云ヘリ。 ノアタリヲカケマハル、 其言ニ云ク。 ト香川太仲ノ語リケルナリ 頭 朱子、 尾 ク

縵宮清商ノ五調ヲ取出シテ、是ヲ琴ノ五調ト 琴学大意抄ニ五調ヲ説 鈴木修敬日、 調ニモ配当シテ、 イテ、 ユ レ 諸調 徂徠先生ハ楽律ノ説卓見多シ。然レドモ信用シ難キコトモマタ少カラズ。 ユ サカンニ其説ヲ主張セラレタリ。 一調 ル カレシヲ見ルニ、 ハ 或 7 琴書ニモ、 コ 羽ヲ トニ正調ナレ メナド ミナ外調 稗編並 シテ、 ۲, <u>.</u> ک モ、 日本古代ノ五調ニアテ、又吾邦楽家ノ五 部ニ載タリ。 力 縵角緊羽縵宮清商ノ諸調 コレ大ナル牽強杜撰甚シキコト 宮礼楽疏ナドニ載タル、 ヘタル 調ニテ、 其角羽宮商 即 正宮調 正宮縵角緊羽 別 調ナリ。 律ヲ変 其

シヲキ、 鸞聞 カラ 調ニナラベテ、正 ヒス タ ザ ユ ル 宮音ニ ルト語 ル 故、 ^, 八逆六ノ法 絃名ヲ以テ命ジタ ル ユヘナリ。 均主ヲハナレワキヨリ ハ 是ヲ宮音 ヨリツヒ IJ. アラズ。 調ノ五調トス ヲ以 Ŧi. スル 下云。 テ、 調 此 ハ楽ノ大本ナリ。 ル アハ ヤ ト モ ウ シ 云コ 力 セ ナル牽強杜撰甚多シ。 ベカラザル ゛ニテ、 ルニ或商或角ヨリヲコシツヒスル時 カゾ ント ŀ ハ 均主ノ セラレ ナキコトナリ。 ^ 強ヒテ配当セリ。 コ 大本ヲアヤ シカド ト分明ナリ。又吾邦 律名ヲ称スルニハアラズ。 モ、 是全ク・ タトへ マリテハ其余ハ云フニタラズ、 常法ニテ均主ヨ 先ヅイヅレ バ宮音 宮商角徴 ノ楽家 · 八、 羽 故二此 宮ヨリ IJ Ŧī. ノ調 ノ五調ニア 即 力 吉 の事 チ是商音 律 諸 モ フ ニク 主 ヲ テン アア正 コ 角音 シテ ヲ 宮

青キ石 西ハ二十里余モアリト、 モ讃岐モ知行高 州吉田 ○土佐 陵アリ。 ノ碑アリ。 太平記ニ見へ ノ畑ハ土州 郷垣原邑ニ、 今二地ヒタト動 文字数殊 /\ 同ジケレド 、タリ。」 土御門 東ニテ阿州ニ近シ、 備中子位庄邑竜昌院ハ、 ノ外多シ。然ドモ消テ不」可」読トアリ。 (ドウ) 殊ノ外ニ嶮岨ナ 帝 モ、 ノ御陵アリ。 问 スト也。 州 ノ土地 土佐 、ルヨシ、 崇徳帝怒ラセタマフト云伝フ、 外ニ土手ヲツキ廻ハ ノ広サ 讃州 ア南ノ 讃州 ハ讃州ニ三倍ナリ 海辺ハ八九十里ホド 人ナリシ ハ 南北ニテ広キ所五六里、 力 シ、 又讃州白峯ニ、 バ 中ニ石窟見 語レ ナ 度々聞 リト 云。 ユ ル 阳

京都ニテ借屋 防守殿判断シテ、 シ マ ルラメ、 カバ、 `=` ジ シタ ノ云、 クト云ケル ル ソ 借屋カリタ 其通ナラバ レハ時宜ニヨルコトナリ。 防守殿判断ヲカ カリノ人金ヲヒロヒタ 其家主其事ニ奔走シキ。 、ヲ聞テ、 家主ワカチ取ベキヤウナシトナリ。 ル 今 人悪事ヲ仕出タル時、 父ノモトニ行テシカぐ~ /判断可 ヘラレシト也。 ルヲ、 予知ラズト答ラル。 然レ 家主ワレニモ分得サセ 予所司代タリシ時 バ 其家主 ヨキコトモ家主アヅ ノコトアリ。 家主聞テ、 ハ少シモ事ニアヅカラザ シイテ問 ハ 不 父伊 如何 ヨトテ訴ニ及ブ。 御計 賀君ナラバ 力 ハレシカバ、 必借屋カ ル ベキコト ヒアラン IJ 力 ル クハ 其時 ヤト 板倉 也ト云 ノ 人事 ア 周

五山 京ヨ 出迎タ ヨリ 長老、 戸 ノマ \exists セ 遊 ラ ル 一人出迎 輪番ニテ カナヒナリ。 ル。 下サ 長老バカリ送リテ対馬ニ至リ、 シ 長老ハ六十歳ニナ ル 一人ヅ 書簡往復 山 関東へ 又書記一人朝鮮ニ行テ居ル也。 テ 、三年カワリニ対馬ニツムル ハ長老バカリ二人行 ル コ 二能 バ 室町 対馬在番免サ ハ 此聘事ニアヅカリ タ ノ 時 ル 時 力 + ハ リ 戻リハ大坂迄二人附添ナリ。 シ 朝 三使来聘ノ時、 ニ、 タ 鮮 ル 府中ニ屋敷 古例 タル Ш ヲ 長老へ ナリシ 江 西 ル ノ話ナ 長老ツキ添テ又 ハ、 アリテ 故、 ナリ。 世禄百 住居ス ΪĬ 家モ此

癸未ノ リテカヘルトキ、 スハマタ誰ナカランモ知ラヌ身ニ友アル今日ノ日コソヲシケレ 朝鮮ノ使僉司仲挙玄甲申来聘ノコトニテ対州ニ来リ、大夫多田主計ト用談ヲ 主計詩ヲ送ケレ バ、挙玄詩ハフルメカシト、 タ ハフレテ 和歌ヲヨミタリ、

リテ云ケルト也 物語リ播州室津 ノ惣年寄吉田彦太夫ト云ル者ニ、対馬人ノ語リケルト、 彦太夫牛窓ニ来

本阿弥 タケ高 打出テ見レ レテ面白シ、 ノ歌ニ、朝日サス高根ノ深雪空ハ リト、 光悦 光悦申ス バト云タケタカキハ、吉光ノキタヒナリト云、 田子浦ニ打出テ見レ 近衛鷹山 ハ吉光スグレタリト論ズレド ハ、朝日サスノ歌ノ面白キハ、正宗ノ刀ノタケタル所ナリ。 公 ノモ トニ昵近ス。 レテ立モオモハヌ富士ノ川霧、 バ白妙ノト、赤人ノ歌ハ如何、 公曰、 モ、 公用ヒ玉 吉光ト正宗ノ刀 大二尤ナリト心服シタマヒシト ハ ズ。 公、 程へテ光悦申ス 比 ト云ハ ベミル 面白クハナケレドモ 如何、 = 正宗大ニマ 田子浦 ハ ハ 、 スグ

安永八年七月、 依テ筆談シテ問ヒシニ、 及難カリシトナリ。 文庫ニユキ、 還俗ス。」大夫野中伝右衛門〔割注〕諱良継、 〔割注〕三省ト号。」 (割注) 土州ノ 国人モ大ニ服セシトナリ。 伝右衛門禄一万石、故アリテ此ノ家除スト也。 号一斎。」ト云へリ。 土州甲ノ浦新乗寺ノ住持タリシガ、 事アリシ後ハ、 闇斎博覧ニテ、 コ 吸江寺ニ〔割注〕此寺モ湘南住職アリシ。」 湘南土州 又京師ニモ至ル。 レ 土藩儒官戸部助五郎、 山城ノ禁裏ヲ他所ニウツスコト也ト云ヘリ。」 伊予ノ某侯 英発ヲ世 ノ国主忠義朝臣ノ弟也。」 ナドス、 先 王 山崎闇斎小児ノ時比叡山ニ在リショシ、 闇斎此頃絶蔵主ト云リ。 ノ道ヲ尊ビ、 ノ人モ称シケルトナリ。 一斎諸侯ニ客事シ、後稲葉石見守殿ノ招ニテ彼家ニ侍講シ、 メテ還俗シ、 帰路岡 へ仕フトナリ。 名良照、 山ニ過リ、 聖人ノ道ヲ尊ビ、土州家中へモ経学ヲス 還俗ノ志アリシカバ、 山崎嘉右衛門敬義ト改名シテ、 号兼山。」ナド従学シ、 ノ弟子トセラル。 字厚山、 (一本云) 予ガ弊舎ニ来ル。予故有リテ相 土州ノ法令ハ皆伝右衛門 時仲良継闇斎三人同志ニシテ研窮 此頃谷時仲、 ツカレシガ、 号木斎、 谷三助遷都 土州ニモ湘南同行シテ来 花園ノ中 伝右衛門、 君命ヲ以テ勢州豊宮崎 割注 時仲 勤学甚出精シ、 ノ議アリシコト -大通院 ノ子谷三助〔割 ガ定置シトナ 京師ニ至ルト 小倉弥右衛門 モト一向宗 ノ住持湘 見セズ。 メ、 セシ

辺ハ 土州ニテ鯨ヲ取シ 窪津ニテ鯨ヲ 東西 コト ノ所 取リシトナリ。 スタヲ代 ヲ問フニ、 ル 々 皆紀ノ熊野ナドニテ取リシト同ジキコトナリ。 土州ニテハ東ノ海辺、 々ニ司リシトナリ。 ミツ、 椎名、 崎 浜、 浮津、 鯨方 西 ノ海 有

具足祝 ノコ - ヲ問ニ、 正月十三日ナリ。 此時大夫万石以上三人ハ采邑住居セ シガ、

以後ニ出シ家 東西百里、 知ヨリ西四十里。 一万石 年賀ニ出 んせシ家ハ、地方ニテ知行ス。 タリ。 宿毛ノ二所ハ全ク城廓ナリ。 シタマ サカ 郷土モ家老ノ組ニ属セラレ 府 南北三十里、 郷土八百騎アリ。 と、 ワ シ直ニ十三日マデ在府ストナリ。 八、 ノ領主ナリ。 国士モ残リナク甲冑ニテ大手ノ門ニテ勢揃アリテ、市中ヲ軍勢残ラズ武者 蔵米ニテ四 第三工藤外記、 又十五里、二十里ナル所モアリト 高知ヨリ八里、第二山内源蔵、 各新闢 ツ成ヲ下サル 家ニョリテ六ツ物成ヨリ、 アキハ城廓ニハ非ズ。 禄三千石、 シトナリ。 田地三十 トナリ。 アキ 三人ノ大夫土居取ト -石ヅ、 コレモ十一 ノ領主ナリ。 ヲ 賜 正月十一日ハ乗初アリ。土佐侯 禄八千石、 日ハ ・ナリ。 ル。 九ツ成ニモ至ル 武者押 コ 高知ヨリ東十里。 国士 レ長曽我部 -称ス。 宿毛ノ デ 禄、 列ニ加 第一 人アリ。 寛永中 氏 領主ナ 深尾因 ノ家人ノ子 但シサ Ű, 寛永 ·以前 中 \exists

紀貫之土佐守ニ任 土佐日記ニアリシ地名今ニ存スト也。 ゼラレテ アリシ地、 国府邑トテアリ。 今其屋敷アトニ石ズへ シ

注セラ 問ニ、 リシカバ 、送ラレ 南 十二九ハ符合ス。 海ニ臨メル国ユ レシニモ、 詳ニ知ラズ。戸 シト也。 コト *>*> 聞へズ。 少シヅヽ 往古呂宋船 ^, 、部氏近年漂着セシ琉球人ニ会テ、 南島志ニハ少々ヅ、ノ違ナリ。 宝永中ニ琉球人漂着ス。 異国船ノ来リシニ守禦 ノ違アリト覚ユト也 ノ漂着アリ。 近年モ紅毛船 宝暦中ニモ又琉球 ノ備 ナ 徠翁ノ Ű, ノヤウ 中 山伝信録ヲ以テ彼国 南海 ノナル船来り 琉球 ハ至テ荒 人漂着 1 聘事記ニ、 シ 海 ス。 ガ、 ュ 早 時 -速 カ 国 コ \exists ヲ 1) ヲ

ノヲ著ス。 数ハ可 戸部氏 シ男ナリ。」 人天学ニ精シキ人ナリシカバ、天学ノ書ノコトヲ筆談セシ 次郎即細川生ノ師ナリ。 ル 余国 コトナリ。 」取トア ノ門人細 議ハアラメ 算暦 凡五十巻未業ヲ卒へズ。 人南海 ナリ。 ル 川半蔵、 併天経或問 如ク、 ´ナリ。 層談、 取ルニタラズ。 コレ 西洋ニ及タル所四十二国中ニナキ 授時改旋暦書等ヲ著シ、 ハ東都ノ天文生渋川氏ニ学ブトナリ。 名 ○土州ニテ暦学ヲ始テセシハ、 武次郎傍通暦、 頼直、字方卿、 ノ附録天学名目抄等ニシルセシ如ク、 天経或問 今四十巻ハ出来セシ 五緯暦、 号丘陵、 ハスベテ天学ノ大理ヲ解キシ書ナリシカ 又起元演段ト 天元算法等ヲ著ス。 戸部氏ト同行シテ予ガ弊舎ニ来 谷丹三郎 コト = ・ナリ。 西洋ノ暦数ハ聖人ノ道ニ背 谷氏ノ門人ニ川谷貞 云参書ヲ著 紅毛ノ道ハ不可」取、 〔割注〕新芦面命ヲカキ 彐 又私習暦書ト云 ツテ Z, 西洋流ヲ学テ 六ト云 バ ル

叔卿云、 和 通暦 師天文算術ニ精シキ 古暦便覧、 ナリ。 中 其外著述多シ。 根丈右衛門元珪 丈右衛門子ヲ安之丞ト云リ。 ハ 曽我部式部、 門 人三千· 往古 3 申 珍シ 其子新七ト云。 西村 人ト 西

工夫セシ器経天義ト云フモ モトニアリトナリ。 一人アリ。 此女天文算術ニ逹セシトナリ。 ノアリ。天運ノ理ヲ試ミルモノナリ。 新七ノ子某今京師ノ銀座ノ役人ナリ。 此器其余ノ著述此孫女 元珪

叔卿ノ師ナリ 叔卿云、写天儀ト名ヲ付 天文ヲ知ザル人モ用ラル、トナリ。 以テ時剋ヲ知 赤道時刻ナド 詳ニ知レガタシトナリ。 黄道赤道モ天ノマ、ニ備レリ。 其時剋ニ見ルニハ、 リ南北モ時刻ヲ知ルナリ。 大納言殿好セ給ヒシカバ献ゼシトナリ。又写天儀記四巻ヲ著ス。 横四尺、 幅二尺二寸 シ片岡氏、 ノ筋 ルナリ。其星ニ別ノ習モナシ。二三星ヲ知リテ後、其星ヲ目当ニ測リタル故 ヘアタリケルヲ、二十四気ニヨツ アリ。 工夫ノ日晷四品アリ。 叔卿工夫セシ日晷二品アリ。 ! シ器、 其製ハ何ノコトモナク、 コレ 京師遊学中ニ工夫シ、 ハ図ヲ著シテ大儀ヲミセシムベシトナリ。 其中一ツ昼夜トモ用ル日晷アリ。 テ、 天ヲ逆ニシタル物ニテ、 一ヶ所日影ノ通シケル所アリテ、 一品ハ磁石ヲ用ズシテ、 東西南北時剋等分リケルト ツ ハ 土佐侯ニ献ジ、 写天儀大キサハ高七尺見 今 其中ニ北極モ 其日晷ニ依 図ナケレバ 夜ハ星ヲ ツ ・ナリ。 ハ 黄道

叔卿云、 製法ヲ替ヘテ同方 故 又工夫ヲ加 近年腰間ニ帯テ里数ヲ ヘシ人アリテ、 器ヲ作リ、 知ル器パ、 行程儀ト名ヲ付オキヌトナリ。 余ホド宜シ 理 方 クナリタレドモ全備セズ。 ハ 彐 ケレ ۲, モ、 アマリ通シテ用ニ立タズ。 叔卿京師遊学ノ節

文会雑記 大尾

備藩 湯元禎之祥 識

男明善子誠 輯

故ナリ。 治道ニ志アラン人ハ、 フニ、 大東 糶ト言伝ヘタ 保三年丙戌ニ始レ 大父ノ遺筐中ニ、 禎別ニ考アリ。 事見エ 其 時 往古物価ノ賤キ事ヲ知 日光 神祖ヲ郊祀シ給フ ノ料ナリ。 今ヲ以テ見レバ、三百貫目ノ銀ニアラザレバ造ラル タリ。 山 IJ_。 人言シハ、因幡ニテ米三苞ヲ銀二十銭目ニ糶シキ、 ノ神輿ト 又其時· 又室町日記ヲ閲スルニ、 詳ニ其事ヲシル 神輿ヲ造ラ リ。今ヲ去ル事百年ナリ。 時 木綿 価 ノ貴賎ヲ知ラズバ、 烈公ノ時、 疋一 ル レ ノ神輿ト只ニツ、 ベシ。 タ ノル時ノ セリ。 銭目六分シタル 神祖の廟ヲ造ラレシハ正保元年ノ事ナリ。 台廟ノ 禎ガ四世ノ祖、 目録アリ。 天文年中 又烈公ヲ因幡ヨリ備前ニ封ジ玉フハ寛永年 、賜ナリ。 其世 是ヨリ美ナ || ノ有サ 神輿及旌旗、 ヨシ見へタリ。 ノ事ナルニ、 其時、 神祖 マ ル ラ神輿 知レ ベカラズ ハ 神祖廟ヲ経営セ ナシト 備前ニテハ二十五 米壱石ヲ六銭目三分ニ売 戈矛 難 是瑣細 力 ハ善尽シ美尽 **毅親ト** ト人言 世二 ル べ シ。 ノ事ナレ ハ云ナリ。 ر ا س ヲ合 米価 ル総管タル 郊 セ セ 一銭目ニ テ銀拾 祀 因テ想 IJ モ ハ 正 中

烈公宗廟ヲ建サセ給フノ後、 ノ記ニ見へタリ。其記甚悶シテ人ニ出サズ、 平安ノ伶人来リテ舞楽ス。 \vdash 人ノ語リキ。 此事ク ハ シ ク 森 Ш 助 左衛門輯 ス ル

或人ノ言シハ、今江戸ニ元三大師 「角大師井手のかはずのひぼ し哉、」 ノ画像ヲオシ 滑稽ノ中ニ少雅ナル意アリ タルニテ思ヒ出セリ。 芭蕉 ル

中華ニテ、 モ超過セリ。 本ニテ文才 ジ薬師院 禎諸所ノ榜ヲ見ルニ、 古へ文才アリシ曹大家 ノ榜ハ、 婦女赤染衛門、 宝鏡寺 如」斯美観ヲ見ズ。 紫式部、 ノ内親王ノ書也。 班婕妤ナド、 清少納言等枚挙ス 今ハ婦女ノ才古ニ及バ 医王閣ノ三大字ナリ。 左ノミ多カラズ、 べ カラズ。 但筆法ニ巧ナルヲ聞ズ。 賢明 ズト思ヒシニ、 筆法ノ雄偉目ヲ驚セ 人 ハ 多シ。 古ニ H

禎、俳諧ヲコ ノマズ。 サ レ 1, モ芭蕉ガ句ヲ聞シ。陸奥国ニテ源廷尉ノ古跡ヲ尋、 高館ニテ、

「夏草や兵ども の夢のあと」 ト言ヒシ ハ、 感慨ハ少シ有ヤウナリ。

青地三之丞ハ、 左中 父ナ -将義貞 藤兵衛ガ母 人 ラヅカ 今ノ藤兵衛ノ父ニテ、 ヲ三寸 力 ノ党ニ擬シ給ヘリ。 タリ シニ、 バ 力 IJ 吾児イ シニ 拵 烈公ノ 今 カデカ射術ヲ学ビ得ベキ。 常ニ懐ニシテ人ニ語ル時モ、 射隊ナリ。 藤兵衛 こそ甚射、 烈公ノ ジン巧ナリ。 射隊二十 父ニハ 又三之丞 人ア 手ヲ袖 志劣 J. 二入テ夫 ハ 烈公常ニ 百発百 ル者ナ

者カクゾ有べキ゜ ヲ把リテ、 終食ノ 間 モ ワ Ź レ ザリシト言シヲ聞タル 予ニカタリ 羊。 ス

或会ニ日蓮親鸞ノ物語アリシ 蓮、親鸞ヲ譏ル事 シカモ少モ屈撓セズ、死刑ニ処セラレテモ懼ル、色ナシ。豪傑ノ士ナラズヤ。 ノ道ヲ信ジテ守死善道モノ、 ハイカニゾヤ、彼二人ノ初メ法ヲ説タル時、独立シテ海内ヲ対頭トセリ、 時、 恐クハ彼二人ニ及ガタカル 予謂、 今ノ世ノ学者ノ儒者ノ片端ヲ窺テ、 ベシ。 仏法ヲ悪ミ日

昔モカ 行厨ヲ喫シ給フ。 シノ家ニ幕ト幕クシヲ預ケ置セ玉ヒテ、 ルコトニコソ。 烈公ノ遊覧ノ所アリ。 今カノ所蒿莱数丈間ニ牛馬ヲ放カハズ、里民コレヲ敬セリ。 中原 パ旭川 至リ給へバ幕ヲウチ、毛氈ヲ蒿菜ノ上ニシキテ、 ノ側ニアリ。 夏日避暑ニ至リ か給フ 召伯甘棠ノ ナヌ

小森可. 洋宮ニアリ。 愷悌君子民之父母 給ヒテ七十年ニ及ベリ。 ノウツシ給へル書、 ハ青蓮院尊純親王 石刻ヲ屛風ニシテ置セ給ヒシニ、其中三字欠タリシヲ補書シタ イヅ 字子徳、 レカ公ノ御真跡ニヤト、 ト云ル八字、 ノ弟子トナラセ玉ヒキ。 大ナル長櫃二棹アリテ、毎夏ニ虫干スルトテ詳ニカタリキ。 御壮年 俗称友之進。」篤実ノ士ナリ。 楷正雄偉ニシテ、 ノ頃ハ書ノ刊本尠リシユへ、且甚書法ヲ好マ 後ニ法帖ヲ見テ摹セ玉 尋求レドモ弁識セラレ 殆中華 ノ人モ及ベカラズ。 贄御 ノ臣ニテ典籍ヲ司 フ。 ズ。 予ガ先人ニ賜ヒシ、 7 又王陽明ノ客 ヒシ セ給ヒテ、 ヨシ、

後水尾帝ノ御譲位ハ、関東ヨリ取計ヒタルニヤ、 二首ノ御製ヲ書セ給 殊ニ逆鱗アリテ、 御譲位 時 御 フス 7

蘆原やしけらはしけれ天か下とても道ある世にあらはこそ

の中は上に目かつき横にはふ蘆間の にの あさましの世

烈公ノ時、 家鶩ノカタチニ似 ベキニト言タリキ。 マノアタリ見タル ル事ヨク能 ガ幼時、 ノ爰居ナリ 爰居ナルベ 大島 ハズ、 野村先生ノ ノ海上ニ浮ミ来リシヲ、 終ニツレ来リシヲ、 タル物ニテ、 シ。 いセリ 後ニ詩経名物弁解ヲ見ルニ、鵞ノ条下ニ、 岩田翁 カタリ給ヒ 其時知礼ノ君子ナカリセバ、魯ノ東門ニ楽ヲ以テ饗ス ノカタラレシナリ。 色ハ薄鼠イロニテ、胸ニ大ナル嚢アリ、 シ。 野殿邑ノ沼ニ放サレキ。 今既ニ三十年ニ及べ 山中某鳥銃ニテ風キリノ 是ヲ世ニハ大ナンカモメト ヷ 昔年備前岡山 一丈七尺アマリモア 猶耳ニア 羽ヲ打切シ 魚鼈ヲ食タ 言メ カバ ニ出タリ。 ル ノ事アル ルヲ、 ´ラン、 飛翔ス 予因

堤 ト言 烏山ニ遊覧ス。 烏山 北ヨリ流 山 麓即平家物語ニ見へ Ш ニ長堤アリ テ屈 タ 曲 ル セリ。 篠ガ瀬 平家物語ニ見へ マ

ケル ヲ見レ ニモアラズ、 憶孤忠募」兵地、 カニヤラン。 ル = 福輪寺ハ今ナシ。 べ バ、 即死刑ニ処セラ シ。 板倉川 峡東:[長河]風雨散、 盛衰記ニ見ヘタル岩井 岩イシ 秦山 サレド ノ西ニテ討 ヨリ 충 悲歌弾」剣涙沾 ノ訛ナリト 烈公 左右 モ道程二里ニ過ズ。 西ニ続キタ 元ノゴト ノ時、 ハ深田ト言へリ。 レタル - 覚ユ、 体稅 塚ヲ発キテ棺ノ ノ山ニ弩ヲ設ケタ ル ト見へ クニ埋サセタ 山ナリ。 停二殺気一薜蘿深、 帰路乗輿七律一 タ 事散ジテ後瀬尾ガヨシミノ レバ、 頂ニ六ノ塚アリ。 今モ如何ニモ深ゲナリ。 中ヨリ多クノ朱砂ヲト マフト云ナリ。 板倉川ノ西ナランニ ル 章ヲ 断崖白日戈鋋色、 ト見ヘタ 賦 ス。 土人相伝 ル 石碑 崢嶸烏嶽 烏山 鳥山ニハ左ノ モ 千載青-ハ備中 ナシ。 IJ ヘテ第二ノ Į, 、出ス。是ヲ売者 が前ナ 登臨、 モ、 ノ国 但平家物語 Ш 烈士心 神地香 山ニ埋 ミ大山

詐為ア 為ニ嘲ヲ解ニ似タ 源頼朝女ヲ梶原景茂ニ賜リシ時、 ガ艶書ツク 「ガ家ノ会ト云事、 ハ太平記ニ載タ ト景茂ガヨメルヨシ沙石集ニ見ヘタ ル ベカラズ。 ル 事ハ、 IJ ル 然ラバ頼政ニ賜タ 実録ニアラ 頓 高 阿法師 師直ガ平家ヲ語ラセ 、草庵集ノ中ニモアリ ゲルベ 五月雨ニ沼 シ。 ルト言事 J. 師 タ 沙石集パ、 直ヲ憎ミテサ ル ノ岩カキ水コエテイ 事イ ハ附会ノ説ナルカ、 1 力 · 覚ユ。 梶原景時ガ季子ノ著セ 1 覚束ナ 7 然ラバ رِّ ت ッレ 太平記 又師 平家物語ニモ載ズ。 附会セシ アヤ 直 = ノセタ ニヤ、 歌 シ書ナレ 入ナリ。 兼好 ル

近江 ァ 悟 尾 三似 山 サラバ鳧ノ字ヲ訛 、湖ヲ鳰ノ海ト和 ニモ ノ名ニモ鳧ト言事 IJ_。 タ IJ. 用 湖ノ瀬多ノ所 レド 東ノ方彦根 モ、 ナル 歌ニヨ 朩 見へ べ ノ方ハ鳥ノ腹ニ似 ノ海ト言事、 ハ鳥ノ頭ニ似タリ。 シ。 メリ。 タ 近年近江国 Į, 鳰ト云字字彙ニモ 詩 三入タル ノ図ヲ刊行セル タリ。 志賀ヨリ北ハ鳥ノ脊ニ似タ ア見ズ。 昔 見へズ。 ノ人ハヨク形容シタ 鳧湖ナド ヲ見テ、 カイ ツ 初テニ ブリ 言 Ű, ル ノ事ナリ べ ホ 丰 Ξ 北 カ、 コ ノ海ト言 ソ。 方 ナ

冝牧 ハ美濃・ 予母ノ モ詳ニ語 コノ時予鍾情之戚ニ遭フ。又詩モテ送ル 人ニテ、 事 コ ラ談ズ 喪ニアフ、 ハ尾藩ニ近キヲ以テ、 ,詩冬筑 芦鹿ノ大慧寺ノ僧ナリ。 飛錫翩々 性行晈潔、 送文ニ及バズ。 サ 7 へ達シ 釈門中興トモ言ベキ人ナリ。 時々名護屋ニモ至リ、 事ヲキ ケ 其後再西遊 ル 天花忽映 寛保元年ニ吾藩大隣寺ニ遊べ っつ。 ナリ。 霧嶋嶽 コ **全九州** こス。 丙寅 ト能ハズ。 延享乙丑ノ春、 ニ登リシ 飛 春東帰 蘭皐木実聞ニモ相 究 千日懐之因デ、 メテオアル僧ニ ス 君自 ル [足神通 是ハ 吾藩ヲ発シテ - テ来リ IJ. Ä 乙丑ノ夏絶 去テ国 向 大山 ニ帰

駅ニア 宮ス テ送返 レ後世 質ナキ者ノ学ブ 九区 牧マ 詳ニ其勝址ヲ談ズ ル処ヲ ベシト テカ 米ニテ大夫有馬監物 令ノ 城百· 冝牧養痾ニテシバラク大藩ニ留滞ス。 司 雲飛隠見神霊窟。 ニモ遊タリ。 リシ事ヲ知リタ ナ 馬 ツク 士 手 タリキ。 テ ル 班 タ高良山ニ登レリ。 べ \exists ノ詩ア ハニ百乃至五 こ似タ 嶋二遊 攻上リ シ。 -所ニ及べ 密ナ リ タリ 力 サ 文ヲ学ブ者 固ヲ学ブ事カタ ル処士国本半助 力 中峯雲尽玉宮孤、 スタリキ。 鹿 組言 風 ハ 格式劣 Ű, ルコト 斉二七十余城 児島ニハ 丰。 タ = レ 是玉依姫、 又肥後 ゙リト IJ. ハ F. シ ン ニヤト 方ナシ。 り。 ナ 又太宰府ノ古跡ヲモ見、 べ ル シ 其ト 彼僧 六百ア ·驚歎 丰 時 月出玲瓏竜女珠。 ル 人サ ナ タ ル 其中、 Ű, ・軌範ナ 城ナクテ館ナリ。 ヤ、 ノ熊本ノ城郭 ノ事伝聞サマバー レ コ ヤ - 美談ス 丰 ト ガナ スベ テ、 シ、 ウ 七律モ雄大ナリ ハ殆慷慨ノ節士ニ似タリ。 別業ヲ観ル ハ罕ナリ。 、古跡ニテ、 国字 士 古 - ヲ聞テ、 後漢書ヲ学テ可ナ コ 1 Ĺ IJ 仰君征戦功成後、 彼二家 中 ノト語タ 和泉口 IJ シ。 人今ニ伝テ、 キク、 聞 レ セ ノ記セ 魯ノ 華ノ ル 事、 ユト ハ ル関ヶ原合戦図ヲモ見、 又牧日向ニアリテ名高キ古月和尚ニ相見シケリ。 武内宿禰ノ 又筑 薩州ハ 潮 殆臥遊ノ 世ノ末サマゾ歎カシ ジ壮大、 地ヲ過シニ、 ハ ・ナリ。 トナリ。 ル 州ニタ 譬 絶壁烟花皆翠彩。 鵜羽葺不合尊ヲ斎キ祭レル 高岡、 ル記ヲ取出シテ見セタ サ } 屢訪来リテ西遊稿ヲ示ス。 ノ久留米 諸士大夫ノ多キ事、 ニ伝 羊。 マ 也。 ^ 池田家ノ士ハ 菅公ノ祠ニ謁ス。 バ 大ニ 予 ý, 尾藩名護屋 牧 、祠ナリ。 謂、 シ 世諺二言、 皆農兵ナリ。 レド 1 .興探:「禹穴」上:「会稽」ノ昔語リ思ヒ出 其時ニ希世 海 ブシ、 、語シ也。 \exists マタ玄海上人ニ文ヲ学ブ事 増 外三韓 鹿児島 孔子 ニテ ヒ 入易クシテ モ、 レ 美濃 ツキ、 Ŋ, 多クハ ノ廟ニ華 岡野三左衛門ト 日二玉垂宮 入三版図 又岐阜 密門楼閣半虚無。 今ワ ノ士ハ キ。 イカニシテ、 イリ豆ニ花 ノ人ナ ノ及ベキニアラズ。 不 ノ珍宝王右丞 艱難 夫ユ 城、 」啻十二東秦ト言へケレ 偽妄ノ 扨牧、 各五言律アリ、 尾藩ニ三倍セリ 7 ル ・タ六朝 一へ外城 ア読タ グッブサ イ 此 大藩 ル 山ニモ度々遊タ がテリ。 四所 ユ ハ 高良ハ筑 日向国 、説ナリ。 詣 ヱ 其中赤馬関懐古 ラ士ハ、 ユ ノサキタ 七絶アリ。 ニナメ 重キ武器ヲカ 関ヶ原ニモ至リテ、 ル 仕トテ、 ハ士千 IJ ル イフ人ニ遭タリキ。 ノ浮靡ニモアラズ、 ガ 越王 事、 半。 ナド [ニテ宇土 画山 律詩 ヲ 清正 薩州 テ、 人アリ。 ト語 実ニ其 日 勾 珍ラシキ物語 問、 ル 水ヲ 也。 山ナリ。 言対 作 阜ニテ軍功ア 践 少シ 本人ノ伊勢参 IJ 高嶽岧嶢鎮二 南 上 ノ雄 ヘモ レ シニ、 君子 京ニ至 見 1, 人イ ラレ 句 山 周 何ゾソノ タ 7 ク鹿児島 ル トテ、 ゲカ ナリ。 「ノ霊窟 其余 タ 長 タ モ、 ッ。 ル 久留 西国 7 日 ハク ル コ 出 其 ナ IJ タ 丰 ツ

旭 桂 Ш ゼ ラ 東 涯 テ ,後遊覧ノ 花畠 地ナリ 言所 古 得月 別業ナリ。 台 名ヅ ク 宮内君 力 た。 公 予ガ外 割 詿 大父ノ 諱 反 故 烈公伯 中 = 父。 月

時改 台ノ記 マリテ、 アリ。 今ハ 士ノ居所ト ノ文ト見 エタ ・ナリ。 Ű, 宮内君 門弟ノ ハ城中 携来リテ見セツ ニモ楼ヲ築キ玉 ル 也。 ラ。 方二町許ニ過ズ。 今 ノ月見

烈公ト相見アリ。 熊沢次郎、 才 ニ禄ヲ求ル ノヒサキ 士ナル 国ヲ ガ、 父ヲ八 志アル若モ イ 志ニアラズ 故アリテ十五 'n, ル 時、 郎 1 ワレ ノナ 茶ヲ持テ 支 ト言タリキ、 八郎 Ű, アタ ノ時出奔シテ、 出タリ。 懇ニセサセ給 ^ タル 猪太夫ガ子ナリ。 無礼ノ一言ナレドモ、 折紙ヲ引サキテ、 松浦侯熟視アリテ、烈公ニカレ 烈公ニ事フ。 へト宣ヒタルトナリ。猪太夫和歌 猪太夫ハ 其後松浦侯大邸 此折紙ヲ他国 夫ハ年若ク 初名ヲ権 シテ短慮 ニ持行テ、 ハ吾モ ニ至ラセ 十言 七 、故ナリ。 夫ヲ便 コ 卜 ピナ、 松浦

湖水 さす棹に氷くたけて行船の浪に跡ある志賀のからさき

の 中は思へ はやすきうきね哉まくら流る」 淀のかはふ ね

し江にねふる鷗のこゝろをも しらて千鳥の立さわくら

モ 彐 猪太夫ノ 執法ニテ、 クヨミタリ。 詠歌ナリ。 玉 政ヲ只一人ニテ擅ニシキ、 応兵記、 砕玉話等数部 マ ノ書ヲ著ス。 タ方気モアリ、 砕玉話ハ今刊行 中院通茂公門 セ 人ニテ和 IJ° 次郎 大 ヲ

岩田翁 足長ヲゾカ 予モトヨリ \sim ハ ダテ ア 話ニ、 ナル 記憶セズ。 セ 禁裡ニアル手長足長 オンソフジニハ、 ルト言こ、 遥ノ後ニ清少納言ガ枕草紙ニテ見出セリ。 7 タ禁秘抄ニモ有べ アラウミノカタ、 ノメ絵ト ハ イ シ 力 考べ 1 ナル物ゾヤ キタル物ド シ。 山 海経ニ見 清凉殿 モ 岩田翁 ノ怖 1 \sim 口 ウ タ シゲナ ノ シ 言 ル 図 トラノ ハ ナ レ 手長 隅 ベシ

ヲ、 チモイ 先妣嘗、 モ ソランジ 文学ニ 例ナラズ御格子マ IJ 巻アゲタレ 少納言ヨ、 上タ 清少納言ノ 有 、ナラザ 志ス事ヲ悦 セ ヌ ナ べ コ 力 力 バ 笑ハ ウロ 枕草 間 ヤ モ ル悲カナ。 ピノ人ニ 対 ウ ヰラセテ、 ホウノ ・思フニ、 レ 紙二見ヘタ セタ タ 1] 7 ハ ·マフ。 ヒ サル 又世 ○又枕草 雪 キ。 タ ィ Ű, ベキナメ スビ · ノ 中 近頃枕草紙ヲ見ル 事力 今ハ皆サ カナラン、 コ ソ、 先妣 ツニ火オ タリ給ヒ 禎 Δ ル 中 IJ ツ ト仰ラ Ė 教誨猶耳ニアリ。 事 白 力 コ シ イ ハ テ、 、嗜好ナ 白キ 清ウ フ、 シ シテ物カ フ 今 Ŋ ニ其事出 レケレバ、 シキミ道ノ 見へ ナル 力 士君子 歌 タ ナド タリ 物書ウ タ IJ \exists ア タ ニーサ ナド 其容ハ邈然ト ミカウシ J. 丰 筆ナド 其余史漢晋書古詩 文雅ナキ事 クガ ツ へウタ 雪イ 丰 シテア サ ア 料ニ、 タ ゲ ツ \sim ・シテ逝タ , サ 力 ラナ 1 7 七 リサ ク セ セ バ モ白 テ、 フ 日 ヒ ゲ コ ブ 丰 ミス ラフ ア清 ソ テ、 マ 彐

大藩 ナリ。 東川 ニモ記 尤然ルベシ。 極メテ相応セリ。 子業言へリ。 カヾ入ルベキニヤ、 ハ ヒ ヨリ佳名ナリ。 ヨリ千日 川向ノ花畠ハ得月台モトヨリノ名ナリ。平井ノ祠ハ崋山トモアレ モトヨリノ旭川ト名ツク、 ヌ。 セリ。 サクラ 綱浜 コレ行旅 玉葛山 鉄御門 事、 ノ御門 南門然ルベシ。 ノ酒ノ故事モアレ ハモト 鹿喰島ハ草島ナド、言テ、詩ニ入レバ可ナランカ、琴浦、白石ノ 虫明ハ風景ハ勝 常山 東山ハモト !ハ如何シ ハ花門ナド然ルベシ。 ハ古キモノニハ見へズ。 ・ヨリ宜 ノ人ヲ送別ノ所ナリ。 ハモトヨリ吾大藩ノノゾミニテ、 石山御門 シ、 ル 、スベキ。 ヨリ然ルベシ。魯ニモ孔子東山ニノボリタマヒシ事アリ。 バ ハタ山 詩ニ入テモ然ルベキ事也。二本松ハ双松駅ト言ベキ、 レタルニ名雅ナラヌハ口オシキ。 面白シ。 ハ石門ニシテ然ルベシ。 牛窓ハ牛渚然ル ハ秦山然ルベシ。 目安ノ御橋ハ諌橋尤相応スベキカ。 唐琴泊和歌ニ入レテハ雅ナレドモ、 別レノ茶屋ハイカ、詩ニ入べキ、吉備中山 サレドモ佳名ナリ。 ベシ。 文ニモ詩ニモ入レテ雅正ナリ。 金 山 平井山ハ 論語ノ魯ノ門名タル事見へ ノ一本松 月見ノ御櫓 バ尤宜シカ ハ 孤松嶺 烈公儀冢 岡 山 ハ 詩ニハイ 1 望月楼 小山ト名 ル シ ハ春秋 テ べ シ 可

誤ナル ナリ。 言ニ及バズ。 点発ノ事、 大将ノ将ハ去声ナリ。紛ラハシキユへ南郭老師ノ宮詞ニ仄声ニ用タ ノ大潮ガ華音自負ニテ、 ŋ 平声ナリト云説アレドモ、 べ シ。 文学者第一 老師スラシカリ、 詩近体ニ声ノ誤用アルモ、 ノ要務ナレド 広陵散ヲ平韻ニフミタルハ却テ笑フベシ。 況ヤ吾儕ヲヤ。 実ハ仄声ナルユへ、王元美ガ絶句ノ第三句ニ用タ ・モ、 点発ノセンギ少キ故ナルベ コ ノ事知ル人尠シ。点発ニ依テ文義ワ 中華人ノ /詩ニハ 将軍ノ将キハメ 将軍 シ。 、マヘル 広陵散 ノ将ハ平声 ハ、 カ テ平声ニ用 ノ散 ル ゙ナリ J. ハ仄声 筆ノ

讃岐国 或ハ五丈六丈ノ滑ラカナル所ニモ、 《イ 弥谷》 谷ニハ満谷悉 数百人ノ石エヲ以テ、三十年ノ力ヲツクサズ シニ少モタガハ 云人ノアルヲ、 見タリシ事ヲ語ラレキ。 ハ恠シキ事 、料用費ハカ ズ。 怪シキ事ニ思ヒシニ、 コソ多カレ ルベ 翁キハメテ勘弁アル人ナリシガ、石工ニ委シクカタリテ計ラレシニ、 カラズ。 満谷悉仏像ヲホ 土人ハ弘法大師 イカナル 少シ許 近頃岩田翁ニ問シニ、 人ノナシ ・リタリ。 ンバ 石ニモ彫ラヌ ノ彫ト言ナル。 ナルベカラズト。 タル事ニヤ、 数十仭 ハ ナシ。 ノ巌ニ 翁ウキタル事云人ニアラズ。 翁モ此谷ヲ覧ラレキ。 更ニ心得ラレ モ、 且数十仭ノ巌アジロヲ 仏像数万ニ及ブ 尺二尺 ヌトテ、 、石ニモ、 人ノ言

春竣役、 東都 ョリ 力 (割註) ル 時、 伊豆 禄 四千三百 国土肥ニ立寄タリ。 石 世々 大番頭。」 小 田 土肥実平ガ末裔ナリ。 原 Ξ IJ 南 行テ、 根府 丙寅 Ш

田舎ニテ、 所ヲ踰 平ガ末モ有ベケレ ノ道、真田与一ト文蔵ト 幕引カ ル ノミナリ。 レ バ 其人ナド セ火タキテ敵 早川尻ニ至 ドモ分明ナラズ。 7 ・ノ名ヲバ ・ナツル ル、 ガ古墳アリ。 酒宴ヲシタルヲ、忍ビテ帰レ コレ即源平盛衰記ニ見へタ 土肥杉山ヲモ見ラレ ハヤ忘レ 器物モ文書モ伝へ タル程ノ所タ 扨土肥ノ村 キ。 里ニ ル 皆分内甚狭キ事也 タル事一ツ ル、 \exists シ、 ハ ル事見エタル是所ナリト也。 頼朝夜中ニ舟ニテ汀ニツキ 同姓ノ人ナシ。然レ サラバ 、モナシ。 村里ノ ト語ラレ 只寺ニ実平 人ノ中ニハ モ 向二 タ

日本ノ 人ヲ殺 事ナリ キユ ナレ リキ。 ヘナル バ ルニ至ル。 リ 出 刑法、 重衡ナドモ打首 スニモナド礼法 テ、 石田治部三成、 ベシ。 シ、 此二人主君豊臣氏ヲ弑セ 古 二世ニテ敢ナク亡ラレ 打首ニセラレ 悪源太義平ヲ殺セシ 既ニ神祖、 にノナカ シシ 小西行長ナド、 カタ也。 三成ヲ縛セラレテ後、 シ 事、 ル べキ。 如何ナル事ニヤ心得ガタシ。 東鑑 モ、 豊臣秀吉ノ暴戻ナル、 タル ルニモアラズ。皆千乗ノ人君ゾカシ。 今イフ 六条河原ニテ殺サレシモ打首ノ例ナリ。 ノ中ニ、 コト 打首 実ニ理リニコソ。 切腹ノ事見エズト言人アリ。 相見ノ ノ仕方ナリ。 時、 嗣秀次ノ妾ヲ殺シテ畜生塚 平時ノ御アシラヒト聞ユ。 サ 国初佐命ノ臣、 レド モ切手難波次郎 白昼ニ縛シテ 皆文学ナ 仇敵ノ人 日可 ナ

ヲ考ルニ、 丹沢氏、 取出 事ヲ 聞ズ、 其真贋ヲ定ムル事能ハズ。 セ 全文ヲウツシ得タ ルニヤ覚束ナシ。 右軍 大ニ不審キ事ナリ。 瘞鶴銘ノ事タシカナル事ナシ、 書タル 瘞鶴銘ノ新刊本ヲ見セラル。 ル 五雑組ノ中ニ定テア 人ナシ。 然レド 又其書法宋人ニ似タ 欧陽永叔五十字ヲ得テ自負セルト言事 モ華陽ノ真逸撰ト 何ヤラン小説ニテ見タルニモ、此 ル べ シ。 予謂、 Į, 他日考べキ事ナリ。 心得ラレ 口ニアリ、晋時ニカヤウ **適美ハ言ニ及バ** ズト言タリキ。 ズ、 アリ。 銘ハ 予 書法ニ 水中ニア ノ号アル 後全文ヲ 後日巵言

日本 IJ 大ニ違へ ノ古ハ 東漢カ晋ノ 郡県、 秦始皇ヨ バ モ西 学者 漢 コ ハ封建、 心ヲ付ベ 口 丸腰 已後丸腰ニシタ ヨリナ 中華、 キ事 ハ見エズ。 ベシ。 也。 古 ハ封建、 中 他日考べシ。 ル 君子皆劒ヲ帯ラレタ 華 ト云レ 古 後世郡県タル事言ニ及バズ。 タ 三代 秦始皇ノ時 君子皆劒ヲ帯タ ル 事 漢書中 事ハ、 所々見エ 是ニ因テ 二史記ニ見エ ータリ 制度

タル 天子 云レ レテ落サセ給ハ 幡ヲ落サセタマ 天子 御像 毛 リタ 物語実録 事詳ナラズ。 タ ヲ IJ. 詳ニ モ見へ ノ事ヲ云テ、 ル ホド 重盛詐偽 ハ シ タリ。 ナリ ル 紫色ナ フ 時、 シテ、 ン為 マシテ鎧 ウソ 卜 其次ニ三公タ 大ニ心得ラレ ノ言ヲ吐ベ ハ ナリ。 山木判官ガマ ル ハ 1 ト見へ アル 力 \sim ノ武 1 巻物三 0 オドシモ伝ル マジケレド カラ コ タ 将タチノ像ヲ画ケリ。 ル人ハ、 ル ズ。 レ 軸キ ハ謡ヒモ Ź. イラセシ黄糸ノ鎧ヲメ ハ 何ニヨ 平家物語二、平重盛 又平史モ実録ナリ。 モ、 ハ 皆天津児屋根 メテ重宝ナリトテ、 ベキヤウナシ。 ノニ作リタル レ 丸デ真事ト ル 神功皇后 絵ノ体百年許モ前 ノ御末裔ナリ。 ハシガタシ ナリ。 只太平記ノ ノ父相国ヲ諫ラレ スト言事見 三公スデニ甲冑 ノ外、 今ノ 或人見セラレ 赤穂一条ヲ忠信蔵 中二、 天子ノ甲冑 ヘタ 鎧 ヲ ル 丰 南朝 セ シニ、 1 ハ ヹ゙ ル事 覚 ノ天子八 シ ユ。 ナシ ワガ 士ニ紛 タ マ

信州諏訪ノ湖ヲ鵝湖 けそむる氷を かにい 今 ノ詩人用 ル事、 何 むらわくる諏訪 ニ本ヅケル 力、 夫木集 の水海 和

| 行法師 \exists メ IJ 7 、夕顕昭 ガ歌 ノ、

61

とふらん

あし

記 ラニョ り居て歩行わたり ル 歟。 マタ箱根 するす ノ湖ヲ蘆湖ト言べ はの海を出わつら シ。 近来詩-ふは 人用タ 鴨のうき舟 ルヲ未ダ 見 ズ。 長明 ガ

今よりは思ひ乱 れ し蘆の海の深き思を神に にまかせ

 \exists メリ。 文ニ入ラレヌ多キゾ歎カシキ

但弇州ガ歌行、 ラバ二君ノ 江陵集鎌倉懐古七律十首、 モ一番鎗深働シ ニ王李集中所 田原ニ攻入タ 但シ万 力 ノ不 七律 和尚サキニ鎌倉ニ遊ト聞 ベ レ及ヲ 太白ガ七絶ニ擬スル難ナシ。 ル タ モ是ニ比スベ 知レ 卜 ハ、万庵ノフル 日 ル事ナド、 確論ト ル ナリ。 、故事ヲア 刊 キカ。 ス シニクキ事ナル 本ニ逸ス。 べ 他人才ヲ自負セ シ。 7 謙信ハ敗軍セ と也。 ユ。 ヤウ 予謂ニ、 然ラバ イ ニキリマ 信玄ノ カナル事ニヤ、 コ ベキヤ。 老師 一番鎗ト バ必擬作ス レ万庵ノ詩 小田原ニ攻入タル ラレタリ。 ハ ノ七首、 ス 事、 予又謂、 ・ハ覚ユ。 ベキニ、 南郭老師 南郭先生ノ外一 老杜諸将九首 長ズ 信玄ハ敗軍セラレ 万庵ハ吾邦ノ江文通ナリ。 是ヲタトフ ル所ナリ。 予又謂 ハ謙信ヲ学テナリ。 鎌倉懐古ヲ、 人而已 懐古ハ 天縦ノ 上ニオ ル ズ。 = 事、 万庵得 謙信 クベ 子式

定家卿

拙筆ナ

モ、

和書和歌

字、

幾部ト

言事ヲ知ラズ書レ

タ

ル

ト見へ

タリ。

筆ナ

Ű,

シ

力

ルニ世ニ珍宝ト

ス

ル

事

和歌

ヲ

以

テ

が故ナル

べ

シ。

南郭先生

夫故ニ自ラコナレテヨク見ユ っ。 ガ タ 後雀部氏 力 ル、 ベケ ゲニ理ニコ ノモト ドモ、 - ニ蔵ム。 ソ。 海大師 詳ニ増鏡ニ見エタリ。 ۲, 佐理ノ書法寔ニ吾東邦ノ第一タルベシ。 ノ風信帖等ヲ視テハ、 尤然ルベキ説ナリ。 (朱書 ۲, 禎ガ先君子、佐理大弐ノ書ヲ蔵メタ -ウモイ 三蹟ノウチ、 ワ レヌ玅所ア イヅレ 三島 明神ノメデタ ルナリ。 優劣

操見ツベ 多シ。 ガ執政 貢禹ガ 明石ヨリ ヘズシテ側ナル笙ヲ引ヨセテ吹 如キ 有サ 説二拠 シテ国 楽ノ説ハ 介 越レ シ。 少カ マ、 経済 曹源君公 [ヲ恣ニス モ タ 今備前ニテ見ルベキ事ノ歎カシサニ、 ル レ 最確論トスベシ。 又長計遠慮腐儒ノ及ブ所ニアラズ。 べ ル ハ ル シ。 ナル ト見ユ、 老子ニ本ヅケル事多シ。全ク地中ヨリ掘出ス事ヲ忌メリ。 了介ハ婦人好女ノゴ ヲ諫ラレ ベシ。 ルヲナゲキ、 石川翁其書ヲ見ラレ 春台先生ハ金ヲホリ出スベ タル書一通、 v 古河ニ幽閉 タ 数十条ノ品目ヲ ハト也。 今ニ下濃弥五左衛門ノ家ニアリ。 ノ後、 古河ニ在テモ、 ク見エシ、 タルトテ語ラレキ。 人来リテ学術又ハ世事ヲ談ズレ 数十年已前ニ言レ 斯ハ申スト記サレタ アゲ置レ シト、 ト老人 タリ。 少シモ憂患ノ色ナシ、 経済録ニ見ユ。 1 語き。 治道 其中ニ武田四郎ノ天目 タル事的 Ű, ヲ知レル人、 此書ハ大カタ 中ス 了介 是ハ前漢 津田左源太 君子ノ バ、 ル

月ヲ、 九月十三夜月ヲ賞スル ソノ 頃 寛平法皇賞シ玉フト 千載集ニ ヨリノ事ナルベシ。 イト ハナヤカニ指出タルト見エタ ハ、十三夜 -有卜也。 源氏夕霧ノ巻ニ、タギリノ 徒然草ニ見エタル ノ月ノ和歌アリ。 菅丞相宰府ニテ九月十三夜ノ月ヲ見ル J. ハ誤ナリ。 六代集ニ 大将小野ヨリ帰リタマフ 中 ハ十三夜ノ和歌 右記ニ、 保延元年九月十三夜 詩ア ナシト季吟ノ説 Ĭ, 九月十 然レ バ

江陵集ニ、 シ。 擬唐荊川七律アリ。 力 レ ハ題岳武穆 ノ廟ナ ル ヲ岳将ト ・シタリ。 烏石山 レ ル

岳武穆廟 唐順之

画壁閃 ::旌旗 野陰々暮鳥悲。 想像勤王転戦 惟有西湖原 時。 黄屋未、帰南駕狩。 春来猶自発言南枝 金牌已罷北征師。 平蕪漠々前

ニカ 伊勢物語ニ見エタ 向 ラレ 物語ニ見エ \mathbb{H} 赤キ 御 タルト 逢人ニ今ハ中々所セ ・ナン。 タル ル コ シ ウ 疑フ 又隅田 海 ッ 大河ノ上ニ浮ビタランニハ少クモミエツベ べ ノ山へノ蔦ノ クモ 津ナド 川ニテ詠 ・アラズ。 ク引ナ 二ヨ 細道ハ、 タ ツム駒ヤウ ミタリ。 ル 都鳥ハ鷗ナリト云説ア 今ノ駅路 サラバ鷗ノ ッツノ ĺЦ 1 越、」 ハ 説 タ コ ガ シ ~ IJ. Ų ノ歌ニテ、 力 シ。 ル べ 清水谷実業卿関 シ。 昔ヨリ歌ニ、 ル べ 天子 白鷗 シ。 逆鱗 ハ

図 ヲ 観 ル事ヲ好 ム。 吉野厳島 义 ハ 貝 (原益軒) 詳ニ シ ル シ オ ケリ。 松島 *>*\ 洞 岩 図 ア

メテ縝密ナリ。 刊 覚エ 杜注 ズ。 左氏 康熙帝 好尚ノ異ナル ハ 宋本ヲ翻刻シタ 遺昭ヲヨメ 也。 バ 清朝 ル 誠ニ開国 ナリ。 ノ刊本、 夫ユ ブ 又キ 人君非 ハメテ丁寧ニシ 大ナ Ű, 明 末 タ 刊 ル

モ少シ ル人ト 用ニ立 ·聞 ユ。 云 王 領 鬼コ 思 w べ 人ハ多ク節慨 タリシト云ニヤ。 朩 尤 末ソ シ。 一ヌ事 モ云事ヲ知ラ モ ハ ナ ナリ 首ヲ見ル ル レ ユ Ш レ レド 猛将ナレ 中 1, = タリ。 カシキ、」 御尋 秀吉、 ナド モ、 納言具行、 モ、 1 云古歌 信玄 人ナ ズ、 山城天皇ノ勅ナレ ドモ 敵ニトリ 信長 事ナド、 幽斎 古 \vdash 国字 Ű, 歌 ノ武 詠 元亨ノ乱ニ殺サ 詩ハ ノ田 デリテア 人 メ 徒然草ニ、 囲 将 ナ ル。 和歌サ ノ治世 皆文学ノ 辺城ヲ Ű, 其時ニテハ タチ風雅ナ マ レテ ホド 伊 レ 達家ト 辞世 バ、 へ得知ラヌ 明渡サレシ タ 短モ IJ. ナク鎌倉ノ亡タル、 資朝為兼大納言トラハ オ 丰 詩人ト ル 、ル事也。 ノ 文ヲ タナ ` 黒塚其頃伊達家ノ 国疆 シ 歌 時、 タ ハ ク逃タ ヲ、 ル シラヌ武 面白 モ云ベ ハ ノ 露ノ身ノ 論ア 証 1 近来戦国 田子漢 カニゾヤ、 ナ シ。 リト リシ シ。 ナ 、草葉ニカ 今ノ ý, 地下ニサゾ悦 時、 モ云ガタ 柴田勝家ナド ハ玩物喪志ト云ベシ 川幽斎ハ勿論歌 封 諸将ニモ、 王クヶ 陸奥 地ニテ、 如 タ 祖 クニ、 ル 、ル シ、 ノアダチガ 時 ハ 御学問 ノ アザケ 武家ト 安達ガ 文ヲ 一言、 ル ハ ハ、 ラメ テ 人ナリ。 信 知ラヌ *>*\ ア ハ ミツア 英雄 覚 上云 風流 } レド IJ 原 タ 工 モ テ 武 黒 1 ル

モ長坂; 亡サ 或会ニ武 ヌ 知 ラ ヲ ノ 及べ IJ 力 田 ズ 云如 延ラ .勝 ヤ セリ 丰 頼 火器ヲ ゥ ーニアラ 田 太夫ニ ク 故ニ ナル 愚ナ ツク 評判 マ 彐 亡ン 士ガ 将 ア ツル ル Ź。 ル _ P モ 事 人ニアラズ、 IJ 大臣既 トス 長篠ニテ数千 集リ 文学ナキユ ヲ \sim ハ ナラ タ 余 ゼ ル テ ツ 謂 ^ト書タ 玉 ル ラ ル ズ、是姦臣 罪名 ノ前ヲシ 故 \exists 祖 Ŋ ッ ^ 力 礼儀 ヨ過ギ モ長篠ニテ柵 丰 翌 ク云リ ノ火器 ル 姦臣 ハ、 ノト ル ハ マ 事是ヨ 千載 君ヲタ 追放 亡ビ ノオ IJ タ 的 マ ソ チ タ 士ア ーナリ 木ヲ前ニ IJ 確論 テニ ガ ル ア 口 タ $\dot{\Xi}$ シ 日 IJ ナリ。 ツキテ テ 云事 IJ 丰 丰 ハ 事見ツ 彐 見 力 有 ハ シテ軍 ナ ル べ 聖 事 シ。 誤 才 IJ 善太夫是 人マタオコリタ べ コ タ レ ナ ル 高坂 シ。 1, IJ ヲ ソ ユ ル テ何 ナ ナゲ ハ勇ナリ。 モ、 高 サ **愛臣長坂** 歴史ノ治乱 姦臣 勇ト 坂ガ ヲ ハ レ 力 某 力 タ 諸侯 ハ ル セ、ラ 跡 ラ 7 マ フ レド

言シニ、善太夫昨日ヨリノ新職ナルユヘニコソ、 ノ中ニ姦臣ホド恐シキモノナシ。 烈公大二賞セサセ玉ヒキ。斯ル人モ有ベケレドモ、 古ノ君子明哲保 斯ハ申セト争論シテ、 レ身トイフコトハリナリ。 用ラレネバ 土芥ニ等シキ事也。 終ニ其人罪ニ決

東都火災ノ時、 テ見レバ、 客舎ニ火炎熾ナリ。 侯 二神三四郎焼死シタル ノ愛スル所ノ物、 黒煙燃上ル。未ダ床ノ上ニ右ノ書アリ、 浅草、 ノ内匠頭ドノ、邸モ焼タリ。 コノ時、 居間ノ床ノ上ニアリ、 ハ此時 ノ事ナリ。 三四郎ガ尸 惜キ事也ト宣フヲ聞テ、 野村先生モ侯ノ供シテ十町 取テ懐ニシテ出 ノ側ヲ 通リテ外ニ出 ル 時、 取テ返シテ邸 モ出出 ル時、 ラレ 中 シ

其事ヲ知レ ゼリ。 あまのたくそれにはあらぬ藻塩草なとかけむりとたちのほ 鬢髪モコゲテノガレ出ラレ ル人ナキユ ヘコ、 こ記ス。 タリ。 蒐ル際ニテノ詠歌、 タレヤ けん ヤ及べキ。 今

シキヤ。 物ト云 貯ベシト思ヒシニ、一金ノ蓄モナクテ空ク打過ヌ。今ヲ去ル事十余年、 今本阿弥家 ヒ出スゾカシ。コ ル劒皆疵モノ ノ道ニト ナ ハ笑フベキ事ナリ。 「ベシ。 論ハタテノ ル事独得ノ見ゾカシ。是ニヨリテ日本近来 又徠翁古言ニテ六経ヲサバカレ、 リテ思過レ半。 然レドモ大ニ疵アリ。 也。 武州公ヨリ臼井重太夫ニ賜タル高田ノヲサ盛ノ脇指、 突レヌ事ト覚ユ。答問書ニ、 ピヲ定ル 事ニハ濁富モウラヤマシト云ニ、 オレル疵ヨリ外嫌フベキ事ニアラズ。去ニヨリテ古人戦国ニ用 上手ノ古劒ハ十二八九ハキズアリ。 ニハ尤ナリ。 故アリテ此短刀他人ノ手ニ渡リ売物ニナリタ 其時代, 今日用ニ立ル心ナラバ、 人材ハ疵物ニアリト云レタリ。 軍記ヲ見ルニ、 ノ言ニテオスベシト言レシハ、 田子漢棖也慾ト笑ハレテシゾオカ 今ノナマクラ物ニハ疵ナシ。 剣ヲ白壁 実録虚録掌ヲサ 千載一 劒ヲ見ルタ 一ノゴト フリ ル時、予 /ビニ思 ノキ ス ガ

白石 シヲ、去年求出シテ写タリキ。 タ ル太刀ナルヨシ、紀藩ノ ナルニヤ ニナリタル ノ宝物ヲ図シテ出サシメラル。 軍器考ニ、 鳥頸 聞 ュ。 ジス太刀 水戸義公ノ典籍ヲ求メ給ヒシコトハ度々聞ヌ。 士宇治田平左衛門忠郷 ノ事アリ、 珍ラシキ事ナリ。 新宮ニ鳥頸ノ 未詳ナラズ サレバ応仁ノ乱ニ、 其命ヲ承テ即摹得タリ。 ト 太刀アリ。 也。 県官ヨリ紀藩ニ命ゼラレ 是ハ天子行幸ノ時、 玉宝ノ典籍ハチリ 日本史ハイカナル 其図甚秘シタ ヨセラ テ、

力 /県官、 延享ニ 宣ヒ バ、 シ 譲位 カドモ、 カケヌ事ノミ多シ。 後ヲ 中々 バ 如何 禎ガ愚才ニテ シ ルスベキヤ、 南郭先生ハ ハ 思ヒモ寄ヌ事ナリ 大坂陣 太上皇トモサスガニ書レ ノ事ヲ、 左伝 部 ノ字数ニテ 七

生ハ右 成タル 又仁斎 剛覚ナ ヲ其時 デ読書シ、 ハ見へ ノ頃 ソラザリシ エ 本ニテ髭ソリ レタリ。 ズ。 ウ 負ニハ ノ講ヲ聞シ榎宗節ガ云シ ノ手ニ筆ヲ把、左ノ手ニ書ヲトリテ一 ノ事言伝アリテ記録ナキ事多シ。 反 ヨリニヤ。 人ヲ云タ 源平盛衰記ニモ、 戒名 ス 又男子 或 レバ奢ト反 ノ中 事 ア 唯聖人ノ道ヲ天地 ハ鳥ナキ夜明テ驚テ寝ラレ 初 ル 勿論ナリ。 ヌ事 韻鏡ニテ名ヲ反スル ナリ。 振 メト ノ歯染ル事ハ、 ハ 動 何 ジグカシ、 ゾカシ。 ス、 モ言べ レ 北条氏 宜シカラヌ事也 又サ 頃ヨリニヤ、 キ。 口 自然 ハ、 珍ラシキ事也。 ラ カ 白 鳥羽院 人ゴ クシテ髭黒シト云フ事、 コロ ヤ ト見ラレ 丰 不」覚感発シテ落涙ニ及キト、 事、 トニ然ル \exists 華人 シユ リト 今昔物語ナドニテ見ル 寛永二始ルト斥非ニノ コ ト云事ヲ伝レ 生ヲ終ラレ 、ノ如ク筆 口 $\hat{\ }$ 沙石集ニ、 モ云、 タ ナリト ニハ ル 人 毎モ朝寝セラレ 1 ハ、 アラズ。 死後ニ戒 又松永弾正ニ始 宋儒 也。 7 月代ノ バ シ メ 平氏ノ 日本ニ周礼ニ ナル ŀ · 同 ジ 其頃ヨリ 今ノ 名ヲ コ アト 時 ソ云ナレ。カナラズ鶏鳴 シ 人ノ中ニア 事 ツ **>** セラレ ナレバ ト塾ニ有シ人ノ 日本 ク 同ニ戒名付 ル 名下不」虚、 云事ア 初 ル 中々髭ソリ トモ云、 事、 ルニヤ。 マ ニハ タレドモ、 孔門 少キ。 古 Ű, アタリ残 正シキ こ、天子 ۲, ル事 ゲ 日 ノ意味 モ、 、ニモ 語リキ。 東涯先 本ニハ 頃 ゚゙マ デ 卜 ハ 7 タ ハ Ш.

近年 、キ為ニ ・マデ覚タ 本ヲ正キ実録ナリト ト云フ シル モノ数十巻アリ。 ルガ多カリキ。 スナリ。 -思へ 老人ハ多ク舞ヲ 甲 ル時勢ノミ 陽軍鑑ニ議論理屈ヲ云タルハ、 今此舞諸国ニ絶タル ッ マ ベキナリ。 ハ セテ見タル カ如何。 カヤウノ事瑣 ヒト多シ。 吾藩 皆舞 ノ桶屋町 細 本ヲ証 ナ ノ 才 1 モ、 ケ セリ。 時 ユ フ ヺ 其時 男 知 ハ

保元 先生 大藩典刑 \exists \exists キ所ニアラズ。 IJ 遺文ヲ日月ヲ青天ニカケタル 学古今ニ独 民部ヲ始テ剛 リ数百年 見出 ナ フ。 (睪攴) モ 是ハ 徠翁ヲ朱子 烈公 国ナ 歩セ レ 戦国ニテ、 ル 其執 正 シ 漢 ハ、 ベキニアラズ、 ノ賢者皆斥逐セ バ、 拗 彐 典刑ヲ悉ヤブリステタ IJ 元禄年中津田 三比 思 ハ王荊公ニコへ委任ス。 後絶世 先王ノ遺 日本古 ハ ル。 ス 知名 ル 大東中華ヲ去ル事三千里、 ラ文雅 ヤウニシタ 沢ノ今残 ラレ、 人物ト言ベキニヤ。 又育才ノ 君子皆其門 氏 モウセ、 (割註) 殆国危ニ至レ ハ、 レ ル也。 ル 子 ル事モ有べ 事、 又神宗ノ 真ノ倭奴トナリタ 二出 心 孔門 左源太。」 了介 イカナ 服 セザ タ 彐 剰 J. IJ_。 1] キニ、 ナ 王荊公ニ任ジ玉 後、 ル ニ始レ 事ナリ。 雅楽軍旅 渺漫 ゲカ 今ノ 予其時ニ 人力及べ 誠二 タ 有司皆津 IJ_。 ル ル シ ・モ実ニ 聘唐 キ、 東海 復古 及テ 中二 人カ マデ 丰 中 中 田 フ テ、 田 華 礼 $\dot{=}$ サ ラ上 \exists 氏 ハ 先王ノ メラ 士二生 生 IJ ガ雄才 ヲ得 ル モ レ = モ レ出 コ ニ近 ズ。 遺 企 テ

此所註 疑ア 所」不」信ナリ。 ヨク割符アフ事ナレド 子小人ハ位ニテ云トサ クナリテ定タリ ル 云 ル老子 ナシ、 ベキナリト。 註セラレヌ故也。 ノ言サル事ニコソ。 、ト聞ヌ。 然トイヘドモ徠翁ノ論ノ中ニモ、 兎角経学ハ孔子復生レタマハズンバ、 モ、 ハギ、 然レバ其議論ノ未尽事アルベシ。 子游ガ小人学」道則易」使ト云リ。論語徴ニモ、古訓外伝ニモ、 小人ハ道ヲ不レ学、 然レ バ是ヨリ後文学ニ精キ人アラバ、又徠翁ノ説ニモ所々 只コレニヨラシメテ置ト云事也。 イカニモ覚束ナキ事ナキニアラズ。 公事ハヒヌ事ナル 夫ヲトリテ徠翁ヲ譏ル事 べ シ。 多言数 君

野村先生、 ニト思ハレテ遺憾也。 和歌ヲバ取ラズ其文ヲ学ベリ。予近日雲洞上人ノ徒然草ヲ読テ驚嘆シキ。 シガタシ、 ノ日ナランニハ、 和歌ニ、 諱尚房、 夫ヨリ後上手ト云ル、人少シ、近頃ノ木下長嘯氏一人ノミト、 是ヲス、 俗称権六郎、 先生ハ支封内匠頭ド メタランニハ、 号一枝軒、 必見識大ニ変化シテ、 ノノ家ニ仕リ、 和字ノ文章美麗ナリ。 後辞」俸致仕。 源氏物語ヲ擬セラル 常ニ云、 モシ先生 市中ニカク 因」之挙白集ノ 源氏物語 ラ ベキ 在世

さはかしき市の隣りのかくれ家はならぬ瓢の風はいとはよ

傾日高 :|於許由 | 一等。

先妣遺篋ノ中ニ、 ヲトリテ帰リタマ アタリニナン、 カノ卿、 京極中納言小倉 ヘル也。 其時ノ事ヲシ 山家ノ松ヲ詠ゼラレ ノ山 狂ノ ルセルニ、 が軒端ノ 松 山荘 包アリ。 ノ古キ磧 是野村氏遊覧ノ ハ 今ニ二尊院常寂光寺 É 枝葉

113

忍はれん物とはなしに小倉やま軒はの松そなれて久しき

続古今集ニ載ラレタリ。 今其松ナホ二葉ノ一本アリ。 キル事勿 レ、 ウ ´ツ事勿 く 謡ヒケ

ン民ノコ、ロモサルコト、覚エテ、今此松ノ老木ノ陰云々

あふくそよなれて久しき言の葉もちりうせぬ松の陰尋ね来て

是ヨ リ以下モ野村氏 プカ和歌、 予記憶セルヲ少バカリシルス。 他日其集ニ因テ精選 ス べ シ。

年のくれた述懐のこぃろを、

最上川うきていつまて稲舟ののほらぬ瀬にもくるゝとしなみ

述懐の歌に、

稲舟のいなとこたへん最上川わかのほり瀬のみちはありとも

身をうれひて侍りしに、

最上川のほると見しそいな舟の又くたるへきはしめなりけり

郡吏の 承り に さり 頃述懐し て最上川 の歌読たり

最上川くたしもはてす稲舟のまたのほる瀬そ身にはくるしき

郡吏を去りし日、 此つかさに成て度々最上川原によせて述懐し侍りし事を思

最上川のほりえぬ瀬を時の間にまたくたし行波の稲舟

ひ出て、

旅にまかりけるに、かける草紙ともに奥書をくはへ侍るとて、

たか為におもはれん身と筆の海にかゝるもくつは書あつめけん

同じ日としさね六ツばかりにて送りけるに、 (割註) としさねは、

り _ _

せきとむる涙もたへす送り来ていとけなき手をわかつ思ひに

あまた度江戸へ下り侍りしときのふじの歌に、

ふりせすよかそへあけては見し度もはたち計りの雪のふしのな

楠廷尉の討死の跡に石碑立られしにまかりて、

湊川かろき命のことはりはきへてものこる水のうたかた

俊真五ツの年梅の歌読侍りしを、 何某字の詩作りて送られし返し、

色香そふためしもあれな一花に咲しも梅の年を重ねて

或人のもとへ同じ梅の歌見せにつかはし侍るとて、

それとたによも聞わかし難波津の手習ふ道もしらぬ言の葉

豊公の名香を下し給ひて、「かやりたくすゝみともなれい ふせさの立そふ賤か軒

の煙に、」と侍し返しに、〔割註〕豊公は黒田豊前守殿。」

ろむる煙も高し山を負ふ蚊遣にはあらぬ空にかほりて

伊勢にて暁に神拝し奉りて、

やはらくる光をあふけ空に猶高間の原のありあけのつき

哀傷

われもまたさこそきへなん鳥部山きのふのけふりけふの白雪

関路早春

空にまたうすきかすみの関の戸もあくれは春の名にそ立らん

谷ふかみふるすなからに鶯の氷るなみたもときをしるらし

名所鶯

高円やいくよの春をふる宮のむかしわすれぬうくひすの声

関花

関の戸も花を光に明初て鳥の音かほるあふさかのやま

野外遊糸

長閑しな有かなきかにかけろふの小野の名しるく遊ふ糸ゆふ

湖帰雁 一日百首中

浦遠くかへる波をや故郷に思ふ堅田の雁はゆくらん

春浜月

空も今霞むも春の海へとやおほろ月夜の住よしの浜

待聞郭公

有明の山ほとゝきす待出てきかすはこれもあたしよのこゑ

古川夜霧

橋落葉

住田川立そふ波の夕きりに日もくれぬとや舟急らし

絶す吹山のあらしにこよひもや木の葉かたしく宇治の橋姫

豊明節会

鵲もねくらやさむき霜まよふ木すへの月の白き光に

待空恋

をみ衣袖をそかへすから玉の遠きひかりを世々に残して

月まつといひしかこともいたつらに来ぬ夜しらる,有明のかけ

人よ今にこりの河をあらふとて水のこゝろもすめるしらなみ

かくはかりのこる其世の半にも絶せぬ道やなして置けん

あらをそも恵やひろく国民にあまりてよもの鳥もしるらん(マン)

眺望

海はすこし遠きそなたに行舟の見ゆるもさひし須磨の浦なみ

羈中川

鳥の名の都ゆかしきすみ田川遠くも来ぬる旅におもへは

吹風もしつけき田子の浦なみにはるは霞の立ぬ日そなき

雪眺望

立花の小しまもけさは埋れてゆきをのせたる宇治の柴舟

行秋草中

旅人のうち野の真萩行すりにひるのにしきの袖や見すらん

深夜帰雁

行雁に吾もあはれむこゝろかと霞める月にさよ深き声

郡吏に侍しに、 享保五年久しくあめふりて、 民の憂に侍りしかば、 玉井宮にて祈

申せしに、

祈るより雨ともふれるわたつみのくむ玉の井の雲行のそら

斯て神威もあるやうにて、 三日の後に雨ふり侍ける。 あらぬ名によりて郡吏をし

りし六月祓に、

川波のにこれる世をもひとりわか清き御祓をなかす麻の葉

御祓してほさはや波のぬれ衣をきるといふ世になかす麻の葉

六月二日弟の身まかりしに

あはれ世の有のすさひのことの葉もいま思ふ身につらき別路

同じ夜なきがらの側に打臥て、

と、め置く今宵はかりと空蟬の残れるからそあはれかなしき

同じころに、

わすれすよさるはうとしといひ来しに誰か偽にのこる俤

何くれと思ひ出れは其声の耳に残るもつらきわかれぬ

いける日にうときこゝろのまゝならて今更しほる袖もはつかし

二七日に当りて、

うき思ひわする、草は

11

つの日かなみたの袖のひまについまん

七日ひぬなみたのいろの二入にいつかわくへき袂ともなり

星へ 詣て、

尋ても袖ぬらせとや草のはら消しなこりのつゆふかき陰

亡弟百ヶ日、

過にけり日数も鴫の百羽書また暁のゆめさめぬ間に

マデ、 同十四年正月十七日下世。 ニ娶ラズ、弟亡テ後常ニ云フ、 元禎日、先生喪弟ハ享保十三年ナリ。 先生是ヲ賜ル事篤実ナリ。 禎ガ先君子後事ヲ経紀シテ、 吾弟ヲミル事先妣ヲ育スト思ヘリ。 小俸三口ワヅカニ養ニタル、 先生友愛極至、且弟氏甚不慧ナリ。 禎ヲシテ其事ヲ司ラシム。 隠逸ノ志夙昔ヨリアリシ故 今喪失ストテ涙下リキ。 衣食ノ事ニ至ル

サキ ケ ナリタ ル花ニヌ ル ネ フ ラ ヌ夢ニク レ シ ヤ ン イ

7

秋ニ伝 父ナドー ノ下 テ藤野駅ニ至 景モ悪カラズ、 リテ石洞ニ至 寔ニ非常ノ ゴ トク IJ 曲 右 丰 ア バ 方ニ烈公 市 ス。 門ニ至 即置 詳ニ [シテ登 左衛門。 IJ 四 云 っ。 ル 寺二古文書モナシ。 ニトド ヷ。 渡 ア 五人モ有べ 7 浴 ナ 戊辰三月十九 べ べ シ。 /リサマ、 、キ者ナ 酒シ 屋モ 孫平年六十六、 セ 人ナリ 力 ル ス ル 石 津田左源太永忠ガ岩石ヲ火ニテ焼テ渠ヲ 事十 ハ 所少 ノ御 ル。 ル。 ズ。 ル 即孫平、 和気ノ テ 洞 テ ア 道 X コ ナ 寺ア IJ 類ヒナキ美観ナリ。 Ű, 和気 マ シア ニ至ル道甚嶮ナレ ト思 八度、 IJ 前 シ。 バ 朝炊ヲモ遅ク 熊沢大夫ノ タ メヤカニト ハ 鹵簿 後悔甚シ。 ニ木柵 Ĭ, ニス 入リ 前 ワ Ŋ 九尺 ノワタ ル 1" 即其家ニ至 H ハ タ 和気海道 花 熊沢大夫伯継孫 三番所 タ 谷 ル 敦隴ニ 其 寺 IJ 即筆ヲ取 間半余、 知 バ テ、 モ ル サテ新 ミ行、 人数ノ ハ即吉井 時ノ茶屋 IJ 力 リヲ越テ、 人々皆云、 ア ご出出 ラ 前 血脈 タ IJ, X 有 IJ モ テ シ 砂 Ī, IJ 謁 サ タ ノ 其真中ニ 幅六尺· 鎖 J_° 居 デ招テ テ更ニ予ガ行 カタ テ絶句 邑 セ 左 慙ベカラズ。 セ 7 石洞 礼服 石洞 バ、 ス。 箱根 ヲ過テ和意谷ニ至 ル ブカ谷 ЭÙ モ屈 ア ン 明 人力 左右ニ桜 即平家物語ニ見エタ 雨 Ű, ナ デ 川 和気穴観音ニイタ ガ ベ ハ 予メ 丰 ル廿日 売物ノ 拝 余 モ ヲシテ後門ニ入ル。 入タ ヨリ見下セバ、 曲 為 Ш 中ニ観音大士ノ像 /ノ及ブ 上ニテ、 ヨシテ登 烈公寒中 Ш 所 首ヲ石穴ニ 中 ヲ隔テ守墓 我旧 Щ ゲ 沈吟苦思シテ作 石洞 万石 IJ 厨僕從ノ 裏ニ大ナル酒蔵アリ、 ハ 大ニ シ ン事ヲ惜ム。 3 如 ,花多ク 茅屋ナ カラズ、 ブ セヲ出 相識ニテアラズ、 ル。 ベキ事ニアラズト、 備藩二ツノ 通セ ニニモ 雨 フミ石ヲ八 平 ル。 桜木六株 テ 出 題 ル。 行事二里 浴屋マ 和気 潔白 ナ ア 久シ テ 家ア シ、 え。 ル ル Щ 孫平雨ヲ 渓水 進 ル 既 IJ ル、 所 門 強テ謝シ去ツテ又新 絶壁十 茅屋ニ孫平アリ、 男女壱人、 ワ ア ナリ。 ク ル 雨 芳野景 石乳流 デ悉 倉光ヲ瀬尾太郎 大川 IJ コ \exists タリ アリ、 \exists べ 町 水 シヲ、 帯流 IJ キヲ、 ガ間 割 イ ヲ ハ 守墓 第三ツ 挙国慨: ツイテ行 使ヲ走ラセテ ナリ。 テ、 倇 シ 註 富有類 高 モ 並 べ モ タ ス。 瞬目 孫四 出テ白 力 丰 有ラ 人ヨ 山 出 丰 ベ 中 日 クア 晩 事二 気 t タ 本道。 夫ヲ ベヒ希ナル 力 至リ IJ. Щ 人ア ク ス 石 ン = \exists 1 ウナ 其工夫 、寺ニ納 们ニテ ガ計リ IJ \exists 町 ル コ IJ 知 ル 左リ 門ニ入 流 邑ヲ モ べ 至 テ、 分 ヲ 中 所 ス セ モ 朩 ル ゙ヺ IJ 邑 テ

力

又按ズ ○又平家物語 Ш ル ル 造 カ。 ニ、 国清公 ○又按ズ ラ按 ズ ル 碑制、 南 Ξ, ル = 都 IJ テ険甚 太平記ニ 野ニテ 七 大寺 兀 法ニ 所 ハ ヲ ヨリ給 建ラ 熊山 亦熊 倉光ガ事見へズ。 Ш 事ヲ言テ、 \sim ル 僧 ル \exists ト覚ユ。 ツ 開基ナ \exists テ 麓ハ 三石トア 唐 山 ニア 少嶮 也 制 近 頃 云 寒酸 リ。 壇 上 \mathbb{H} アン平 野 ナ ル ナリ 言事 故 Ш シ ナ \exists ク異ナリ ツ ル 盛衰記 云リ、 テ、 べ シ。

謁ス。敷土山ノ事ヲ尚詳ニ聞ク、郭隴ノ外門ヨリ八町ノ坂ノ間ノミ石三千七百余アリトイ リ取計ヒタル故、 タマフ。良照翁主〔割註〕神祖ノ御女。」ハ京都妙心寺中良照院ニ葬レリ。是ハ因幡侯ヨ 田家法華尚ビシカバ、寺ハナクナリシ。寛文年中ニ再興セラレタリト云へリ。高山ナルユ へ寒甚シク早ク損スルト云ヘリ。○又土肥典膳ガ問ニ、大義夫人ハ中川氏ノ所ニテ長逝シ 国清公ト合葬ナシ。但シ此事詳ニハ記スベカラズ。同廿五日公族造酒ニ